

令和2年度

(2020年度)

中学校編

アザビダバ

Build Back Better



(御船町恐竜博物館)

上益城はびと

熊本県上益城教育事務所



## 「みどりかわ」の活用について

新型コロナウイルス感染症による長期臨時休業をはじめ様々な対応により、大きな影響を受けた令和2年度となりました。各町教育委員会の教育長先生をはじめ、各小・中学校の校長先生を中心とし、様々な課題に対して迅速かつ的確にご対応いただき、心から感謝申し上げます。

そのような中であって、今年度は、新しい学習指導要領が小学校で完全実施となりました。また、中学校では、来年度からの完全実施に向けた準備が進められています。上益城教育事務所では、「学校にとって役に立つ教育事務所でありたい」という思いから、各事業等の見直しを進めて参りました。「みどりかわ」の作成に当たっても、この数年、「学校にとってすぐに役立つこと」をテーマに作成して参りました。

令和2年度（2020年度）「みどりかわ」のテーマは、「熊本の学び推進プラン実施のための参考資料」としました。熊本の学び推進プランは、新学習指導要領の趣旨を教室に届ける試みです。令和3年度（2021年度）から学習構想案を含め、すべての小・中学校で実施をお願いしているところです。すでに今年度から、管内の各地域や学校において、できる内容に取り組んでいたたり、スタートアップ研修等で理解を深めていただいたりしています。

令和2年度（2020年度）「みどりかわ」が、熊本の学び推進プランを実践する際に、先生方の手元があり、授業改善の推進において活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、「みどりかわ」の作成に当たり、貴重な情報を提供していただきました各町教育委員会の教育長先生、そして、該当小・中学校の校長先生方に厚く御礼申し上げます。

## 〈目次〉

◆ 「みどりかわ」の活用について	P 1
「熊本の学び」推進プラン実施のための参考資料【中学校編】	
1 スタートアップ研修会資料	P 3～ 21
2 教科等における「見方・考え方」	P 22～ 36
国語科 P22 社会科 P23 算数科 P24 数学科 P25 理科 P26	
生活科 P27 音楽科 P28 美術科 P29 技術 P30 家庭 P31	
保健体育科 P32 外国語科 P33 道徳科 P34	
総合的な学習の時間 P35 特別活動 P36	
3 学習構想案作成のポイント	P 37～ 53
本時 P37 国語科 P38 社会科 P39 算数・数学科 P40	
理科 P42 生活科 P42 音楽科 P43 美術科 P44 技術 P45	
家庭 P46 保健体育科 P47 小学校外国語科 P48	
中学校外国語科 P49 道徳科 P50 総合的な学習の時間 P52	
特別活動 P53	
4 学習評価のポイント	P 54～ 79
国語科 P54 社会科 P56 数学科 P58 理科 P60	
音楽科 P64 美術科 P66 技術 P66 家庭 P68	
保健体育科 P70 外国語科 P72 道徳科 P74	
総合的な学習の時間 P76 特別活動 P78	
5 学習構想案(例)ー中学校編ー	P 80～131
国語科 P80 社会科 P84 数学科 P88 理科 P92	
音楽科 P96 美術科 P100 技術 P104 家庭 P108	
保健体育科 P113 外国語科 P118 道徳科 P123	
総合的な学習の時間 P128 特別活動 P132	
6 上益城教育事務所作成 学習構想案	P136～159
小学校国語科 P136 中学校社会科 P140 小学校算数科 P144	
中学校理科 P148 小学校外国語科 P152 小学校体育科 P156	
7 上益城管内の取組【学習習慣形成の取組】	P160～162
(1) 管内の学習習慣形成の現状 P160	
(2) 木山中学校区の取組 P161 (3)蘇陽中学校区の取組 P162	
8 教育諸計画等の作成に関するチェックリスト	P163

# ＝熊本の学び推進プラン＝

～熊本の未来の創り手となる子供たちの学び～



熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

## 学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力 人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

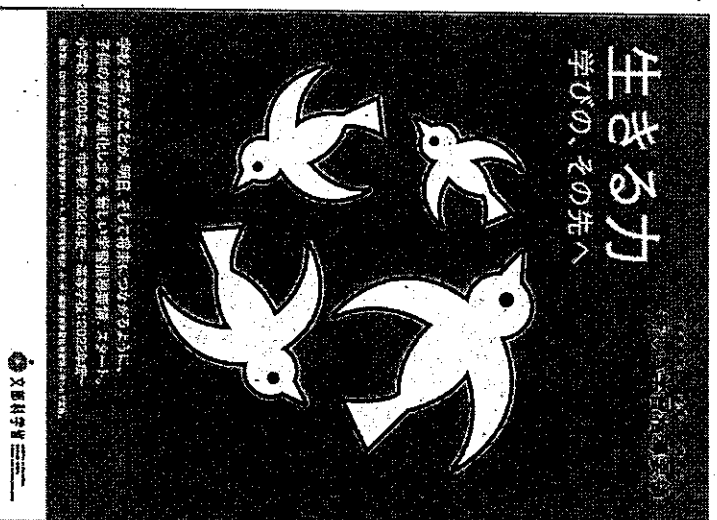
社会に開かれた教育課程

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）  
の観点からの学習過程の改善



学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、  
子供の学びが進化します。新しい学習指導要領、スタート。

## 二新学習指導要領改訂の基本方針二

- 社会に開かれた教育課程を重視
- 育成を目指す資質・能力の明確化

・何のために学ぶのかという各教科等を学ぶ意義を共有

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた  
授業改善の推進

- ・これまでの授業改善の取組の蓄積を生かす
- ・主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点で授業改善を進める
- ・単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学びを実現させる
- ・深い学びの鍵として、「見方・考え方」を働かせる

- 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

- ・教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質を向上させる

## ＝熊本の学び推進プランとは＝

- 本県の課題をどう克服していくか…
- 本県の取組を継承し発展する形で示された提言  
その提言の実現に向けたプラン…
- プランは、新学習指導要領の趣旨を教室に届ける試み…
- 子供たちを中心に、学校だけでなく家庭・地域・  
行政の5者が同じ側に立ち…

『熊本の学び推進プラン』まえがきより

## ＝熊本の学び推進プラン＝

熊本のすべての子供たちが  
未来の創り手となるためには、  
どのような力が必要だと思いますか？

## ＝熊本の学び推進プラン＝

熊本のすべての子供たちが

を身に付けること

を目指します。

## ＝熊本の学び推進プラン＝

熊本のすべての子供たちが

「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に  
学び続ける力」を身に付けること

を目指します。



## ＝熊本の学び推進プラン＝

熊本のすべての子供たちが

「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けた子供の姿とは、

どのような姿でしょうか？

### 【理念】と期待する学び【3つの提言】

#### 【理念】

～熊本のすべての子供たちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指します～

### 熊本の未来の創り手となる子供たちに期待する学び(提言)

#### 【提言1】

ふるさと熊本に根ざし、豊かな郷土の創造と自己の向上を目指し、  
能動的に学び続ける熊本の子供

#### 【提言2】

問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、  
学びを深める熊本の子供

#### 【提言3】

自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、  
自ら学ぶ熊本の子供

# 身に付けてほしい【カ】 目指す【姿】のために、 どのような取組が必要か？

- 「熊本の学び推進プラン」では…
- 学校では、学年では、先生方一人一人は…
- 子供たちは、家庭は、地域は、行政は…

## 【熊本の学び推進プランの概要】

### 第1章 「総説」

第2章 「教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進」

第3章 「子供が問いを発し、課題に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進」

第4章 「子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立」

第5章 「家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進」

第6章 「熊本の学び推進プラン」の実施

## 【第1章のポイント①】

# 「四つの基本方針」に基づく一体的な取組

### 【四つの基本方針】

## 1 教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進

⇒ 第2章(教育課程編成の手順、学校経営方針の共有の仕方等)

## 2 問いを発し、課題に主体的に向かい、学びを深める授業改善の推進

⇒ 第3章(学習者の視点に立った授業の在り方等)

## 3 子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立

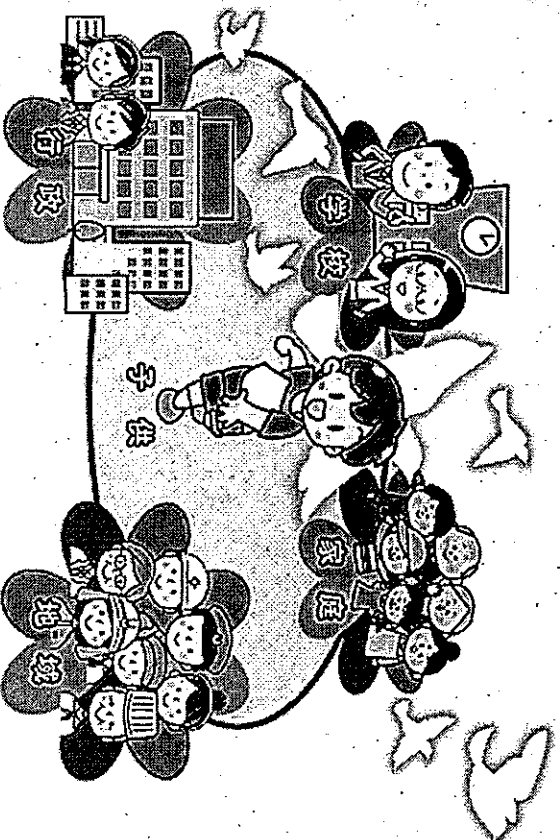
⇒ 第4章(県学力・学習状況調査の活用等)

## 4 家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進

⇒ 第5章(家庭と連携した家庭学習の在り方等)

## 【第1章のポイント②】

# 五者が連携・協働した取組



熊本の学びでは、子供を中心に、学校、家庭、地域に行政を含めた「五者」で連携した取組を大切にします。

## 【第2章のポイント①】

熊本の子供たちに、これからの社会を創り、  
未来を豊かに生きていくための力を！

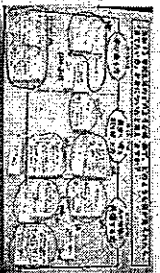
～教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進～

【重点1】すべての教職員が連携・協働し目指す子供たちの姿を思い描きましょう

育成を目指す資質・能力の設定を！

管理職だけでなく、全教職員が一つになつて学校教育目標や育てたい力について話し合い、学校のグランドデザインを作成することが大切です。

### 【教職員間の共有例】



※学校教育目標や育てたい力  
についてのワークショップ。

### 目標や計画作成の手順

○調査(R) 学校、子供、地域等の実態把握及び分析



○計画(P) 学校教育目標等の策定及び教育課程の編成



- ①五者で共有できる明確な学校教育目標を設定
- ②重点的に育成を目指す資質・能力を設定
- ③学校のグランドデザインを作成
- ④教科等横断的な視点で教育課程を編成

○共有(S)

○実行(D) 目標達成に向けた教育課程の共有、実施

## 【第2章のポイント②】

【重点2】目指す子供の姿を五者で共有しましょう

分かりやすい表現で共有を！

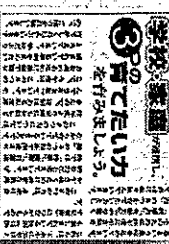
学校が目指す教育や資質・能力を示したグランドデザイン等を通して、家庭、地域、行政そして子供たちと共有することで、連携・協働することが大切です。

【児童生徒との共有例】



※生徒集会での発表。

【保護者・地域との共有例】



※通信を使っての発信。

【重点3】教育活動を定期的に振り返り、更なる充実につなげましょう

改善・充実を図り好循環へ！

学校評価の観点に教育課程に関する項目を位置付けたり、定期的に実施したりすることで、改善を見通し教育活動の充実につなげていきましょう。

### 学校評価の流れ

○評価(C) 実態に応じた学校評価

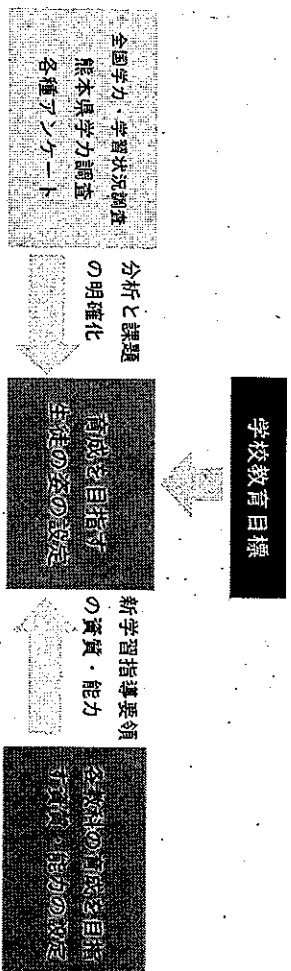


○共有(S)  
○改善(A)

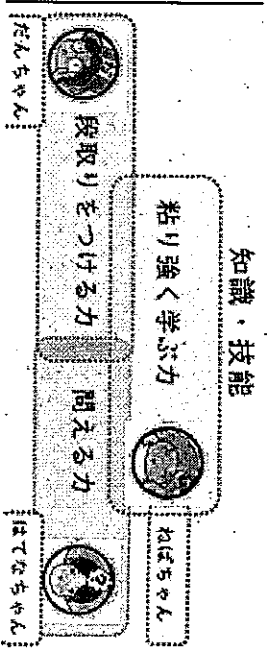
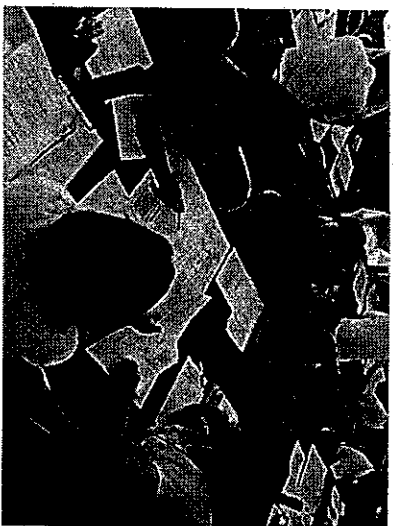
結果の共有(公表)・次への改善  
①学校評価の結果の共有(S)  
②次に向けての改善(A)



○調査(R) 改善に向けた調査、改善された計画  
○計画へ(P)



水俣市立水俣第一小学校 校内研修より



【第3章のポイント①】

熊本の子供たちを、「学びの主体」として育てるために！

～子供が問いを発生し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

【重点1】子供の『わくわく』が連続し、『分かった』『できた』『もっとやってみよう』が生まれる授業を目指しましょう

「熊本の学び」における授業づくりのポイント！

- ◆ポイント (1) 子供の『わくわく』(知的好奇心や興味・関心等)が連続し、『学びを生かそう』とする姿が生まれる  
単元デザインの仕事をお願いします
- ◆ポイント (2) 子供の『なぜ』『おそらく』(疑問や予想等)が生まれる導入の工夫をしましょう
- ◆ポイント (3) 子供の『やってみよう』『なるほど』『きっと』(挑戦や納得等)が生まれる展開の工夫をしましょう
- ◆ポイント (4) 子供の『分かった』『できた』『もっとやってみよう』(奥感や達成感、更なる意欲等)が生まれる  
終末の工夫をしましょう
- ◆学びの深まりのために  
主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用を図りましょう

## 熊本の子どもたちを「学びの主体」として育てるために！

～子供が問いを差し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

### 【重点1】 熊本の学びへ！

熊本の学びで育んだ子どもたちは、7年後の学びの場から導き出さるであろう学び、子どもたちが学びの主体として、自ら学びを深め、自ら学びの場から導き出さるであろう学びを求め、自ら学びを深め、自ら学びの場から導き出す。

### 「熊本の学び」における授業づくりのポイント

**ポイント1** 子供の問いを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進



子供の問いを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

子供の問いを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

**ポイント2** 子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進



子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

**ポイント3** 子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進



子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

**ポイント4** 子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進



子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

**ポイント5** 子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進



子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

子供の学びを深め、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進

※100%の達成率を目指すのではなく、80%～90%の達成率を目指す。

単元デザイン

導入では

展開では

終末では

効果的な活用を

「熊本の学び推進プラン」リリース

## 【第3章のポイント②】

【重点2】 「単元のゴールの姿」に向けて、「単元・題材のまとめり」で授業を構想しましょう

単元のまとめりで授業を構想する「学習構想案」へ！

「熊本の授業づくりの理念」の下、「確かな指導観に基づき、『子供たちの学びの側』から学習を構想する」

～すべての子供たち一人一人の「学び」は、教師の「指導する（教える）」授業を子供たちの学びの側から「構想する」学習として捉え直す中で、見えてくる～

※ 「熊本の授業づくりの理念」  
教師が基礎的な知識及び技能を徹底して身に付けさせ、子供自らが、課題解決に向けて能動的に学ぶこと

### 【大切にしていきたい3項目】

- ① 単元終了時の子供の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）
- ② 単元を通じた学習課題（単元の中心的な学習課題）
- ③ 単元で働かせる見方・考え方

県教育委員会では、これまでの一般的な「学習指導案」の項目・内容に、**【大切にしていきたい3項目】**を加えたものを「学習構想案」と称し、今後、県内において推進していきます。

# 【第3章のポイント③】

どう変わるのか！

- 項目・内容に関して「大切にしていきたい3項目」を追記していること。
- 表記の順序に関して、単元構想の中心となる大切な項目を「1 単元構想」としてまとめ、最初に明記していること。（「1単元構想」と「4本時の学習」で略案）

これまでの一般的な「学習指導案」	本推進プランで示す「学習構想案」
1 単元名	1 単元構想
2 単元について (1) 単元概 (2) 系統概 (3) 児童（生徒）の実態 (4) 指導上の留意事項	○単元名 ○単元目標 ○単元の評価規準 ○単元終了時の子供の姿（単元のゴールの姿・期待される姿） ○単元を通じた学習課題（単元の中心的な学習課題） ○本単元で働かせる見方・考え方 ○本単元での評価計画
3 単元の目標	2 単元における系統及び児童（生徒）の実態 ○学習指導要領における該当箇所 ○教材・題材の価値系統 ○本単元における児童（生徒）の実態
4 単元の評価規準	3 指導に当たっての留意点
5 指導計画及び評価計画	4 本時の学習 (1) 目標 (2) 展開
6 本時の学習 (1) 目標 (2) 展開	

※令和2年度→移行期間 準備が整った学校から実践を！

# 【第3章のポイント④】

具体的な例（単元構想の一部）

単元の目標	※単元・題材における目標を観点ごとに設定します。 ①..... ②..... ③.....		
	※国立教育政策研究所から示された例を参照して設定します。 年間指導計画等も参照してください。		
単元の 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	※学習指導要領に示されている目標（三つの柱で整理）を基に、「内容のまとめり」ことの評価規準が設定されます。そこから、単元・題材の評価規準を設定します。学習指導要領解説を基に、観点ごとに、具体的に評価規準を設定しましょう。（国立教育政策研究所から示されている例を参照してください。）		
単元終了時の子供の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
※単元で学んだ後の子供の姿を具体的に設定します。学んだことを次の学習や実生活で生かそうとする姿をイメージして設定します。 ※文末は「～している子供」等で表すことが考えられます。 ※各学校で重点的に育成を目指す資・能力と関連付けて設定することも考えられます。			
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
※ゴールの姿の実現を図るために、単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題など)を設定します。問いかけや呼びかけになるように表記します。		※学習指導要領解説に示されている、「見方・考え方」を基に設定します。	

## 【第3章のポイント⑤】

【重点3】自分なりの問いを立て、探り、新たな問いへとつながる「探究的な学び」を展開しましょう

### 「総合的な学習の時間」の充実を！

あなたの学校では「総合的な学習の時間」はどんな時間になっていますか？

例えば、

●先生、明日の「総合的な学習の時間」は何をしようか？



文化祭の展示物を店る時間がないから、来週の「総合的な学習の時間」をしよう！



先生、今日の「総合的な学習の時間」は、何をしますか？

あなたの学校で「総合的な学習の時間」に関して、どんな声が聞こえてきたら、総合的な学習の時間が充実している証拠です。



【職員室で】

来週の「総合的な学習の時間」では、～について子供たちが集めた情報を整理・分析する時間をとりましょう。



【各教室で】

前回集めた情報を、同じ内容で仲間分けして整理してみましょう。

熊本の地域のおさ（宝）を生かした「探究的な学び」へ！

## 【第3章のポイント⑤】

【重点3】自分なりの問いを立て、探り、新たな問いへとつながる「探究的な学び」を展開しましょう

### 「総合的な学習の時間」の充実を！

Q1 総合的な学習の時間の目標はどうやって決めたらいいの？

各学校が定める総合的な学習の時間における目標は、学校教育目標の実現につながるものとなっていることや、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力が示されていることが重要です。

Q2 総合的な学習の時間の内容はどのようにして決めたらいいの？

内容については、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2つを定めます。  
目標を実現するにふさわしい探究課題とは、探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したものです。例えば、「身近な自然環境とそこで起きている環境問題」、「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」、「実社会で働く人々の姿と自己の将来」など、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特徴に応じた課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定することが大切です。

また探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力とは、各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体的に示すことが重要です。



## 【第3章のポイント⑥】

【重点4】安心と信頼にあふれ、高め合う学級をつくりましょう

### 学級経営の充実を！

■「熊本の教職員像～『認め、ほめ、励まし、伸ばす』くまもとの教職員～」の教育行動指標や「子供の居場所づくり推進ツール」を基に、学級経営における「熊本の教師の心がけ10か条」を示しています。

■この10か条を参考に、自分自身の学級経営を見つめ直し、安心と信頼にあふれた高め合う学級づくりを進めましょう。

### 熊本の教師の心がけ10か条

視点1 児童生徒同士のつながり

- ① まずはオーブンマインド
- ② みんながらって、みんないい
- ③ 授業は全員参加・全員活躍
- ④ ハードワークはチャレンジ

視点2 教職員と児童生徒のつながり

- ⑤ 子供の「よさ」を見付ける
- ⑥ 自ら示す「よさ」をモデルに
- ⑦ 評価はタイムムに

視点3 組織体としての教職員同士のつながり

- ⑧ 学校は組織体
- ⑨ 風通しのよい職場

視点4 学校と家庭、地域・関係機関のつながり

- ⑩ 保護者・地域は子育てのパートナー

## 【第4章のポイント】

### 自らの学びを知り、次の学びに向かう熊本の子供たちに！

～子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立～

【重点1】子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザインにつなげましょう

### 学校総体で効果的な活用を！

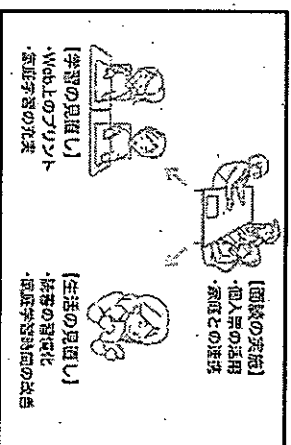
- 質問紙調査の充実
  - ・ 学習状況の学習習慣や生活習慣との相関
- 提供資料の充実
  - ・ 「どのように学ぶとよいか」まで指導することが可能



【重点2】子供たちが自らの学びをデザインできるようにしましょう

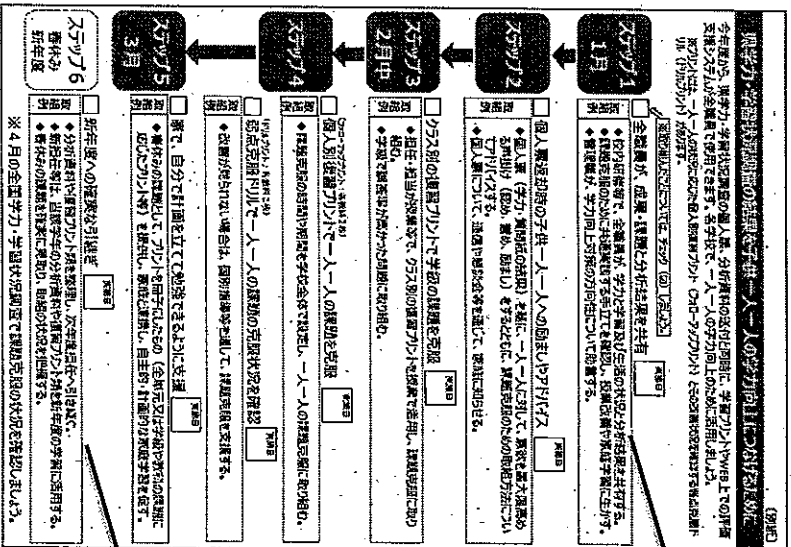
### 一人一人の学びに応じた活用を！

- 個人票の充実
    - ・ 教科別の結果が一览できる
    - ・ 学習のアドバイスが表示される
    - ・ 学習習慣や生活習慣からの課題が分かる
- 等
- ※教育相談や家庭との連携に活用を！



# 【第4章のポイント】

自らの学びを知り、次の学びに向かう熊本の子供たちに！  
～子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立～



※取組の振り返りについては、次の(2)を参照

全職員が、成果・課題と分析結果を共有

取組例

- ◆校内研修等で、全職員が、学力と学習及び生活の状況と分析結果を共有する。
- ◆課題克服のために共に実践する手立てを確認し、授業改善や家庭学習に生かす。
- ◆管理職が、学力向上対策の方向性について助言する。

例えば、県学力・学習状況調査を生かして

取組例

◆分析資料や復習プリント類を整理し、次年度担任へ引き継ぐ。

◆新任等は、当該学年の分析資料や復習プリント類を新年度の学習に活用する。

◆養休などの課題を確実に見取り、取組の状況把握する。

# 【第5章のポイント】

自らの計画を立てて、自ら学ぶ熊本の子供たちに！  
～家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進～

## 【重点1】学習習慣形成の素地となる環境づくりをしましょう

生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するために！

**夢・志・可能性に挑戦！**

小学校(0～5歳)

- 読書(読み聞かせ)に親しむ
- 外で楽しく遊ぶ
- 家族の一員として手伝いする
- 早起・早起き・朝ごはん
- 地域行事へ参加する
- 動物・植物を育てる

中学校(6～12歳)

- メディアをコントロールする
- 自分の体力や健康に関心をもって運動に挑戦する
- 地域に貢献する
- 自他の命を大切にす

小学校(13～15歳)

## 【重点2】家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習を目指しましょう

自ら計画を立てて学習できる子供を育成するために！

- 家庭学習のポイントやチェックリスト(例)の活用
- ・子供編、学校編、家庭編を作成

特色ある  
実践例も掲載

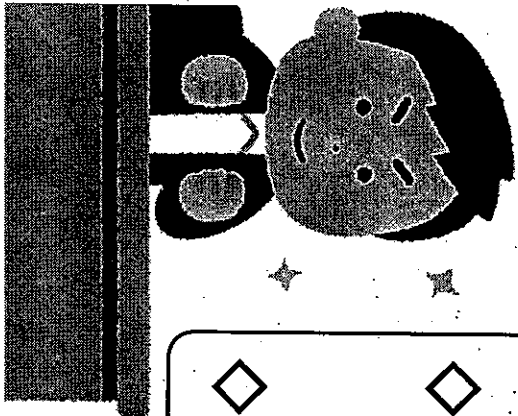
3

熊本の子どもを、「学びの主体」として育てるために！  
～子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

## 授業改善 演習の目的

- ◇改善のポイントの確認  
→演習、学習構想案作成のポイント
- ◇改善することで得られる効果の理解  
→演習、研修のまとめ・振り返り
- ◇各学校で、推進する意欲の向上

※研修の最後に振り返ります。



3

熊本の子どもを、「学びの主体」として育てるために！  
～子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

「熊本の学び」では、どのような授業づくりを目指すのですか？

なぜ、「熊本の学び」の授業づくりでは、「子供たちの学びの側」から考えるのですか？

「熊本の学び」における授業のポイントは何ですか？

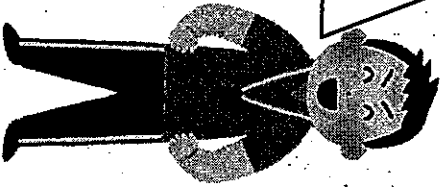
学習構想案では具体的にどのようなことを書けばいいのですか？

# 授業改善演習 演習題

放課後、経験年数の浅い先生から、学習構想案に関して次の質問を受けました。


先輩教師であるあなたは、その質問に対してアドバイスをします。次の条件に合わせてアドバイスの内容を作成しましょう。

【条件1】答えと納得できる(根拠のある)理由を書く。 「それはね、…だからだよ。」  
【条件2】具体例を入れる。 「例えばね…」

- 
- ①「子供の学びの側から学習を構想する」と、子供たちにどんないいところがありますか？
  - ②単元など内容や時間のまとまりで授業を構想すると、授業はどう変わりますか？
  - ③「単元終了時の子供の姿」や「期待される学びの姿」は、なぜ必要なのですか？
  - ④「本単元で働かせる見方・考え方」によって、子供たちの学びはどう変わりますか？

## 授業改善演習 ワーク

【条件1】答えと納得できる(根拠のある)理由を書く。 「それはね、…だからだよ。」  
【条件2】具体例を入れる。 「例えばね…」

- 
- ①「子供の学びの側から学習を構想する」と、子供たちにどんないいところがありますか？
  - ②単元など内容や時間のまとまりで授業を構想すると、授業はどう変わりますか？
  - ③「単元終了時の子供の姿」や「期待される学びの姿」は、なぜ必要なのですか？
  - ④「本単元で働かせる見方・考え方」によって、子供たちの学びはどう変わりますか？

自分の考え

グループの考え

「熊本の学び」の授業づくりで大切にしたい3項目

- 単元終了時の子供の姿
- 単元を通じた学習課題
- 本単元で働かせる見方・考え方

### 新学習指導要領から

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善のためには、単元など内容や時間のまとまりを見通して授業を構想すること

### 「熊本の学び推進プラン」から

子供たちが「学びの主人公」となる  
(提言)期待される学びの姿

### これまでの授業場面での振り返りから

学習をいくら工夫しても「活動あって学びなし」に陥ってはいけな  
いそうならないために、「見方・考え方が必要  
授業者が、単元を通して、子供たちが「見方・考え方」をどのよう  
に働かせるかを考えることが重要

これらを1ページ目以示すことで、学習を構想した  
姿が分かるようにしたい

学習指導要領改訂に向けて

○単元の目標及び評価規準の設定

国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

- (1) 「知識・技能及び技能」及び(2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～である。」として示す。
- (3) 「学びに向かう力、人間性」の目標については、いずれの単元においても当該単元の目標である「言葉がもつよさを、いや考えを伝え合おうとする。」の部分を示す。

単元の評価規準は、次のように設定します。

「知識・技能」は、「知識及び技能」の指導事項の一部を用いて示すこともある。指導事項の一部を「(領域名)において。」と示し、文末を用いて示すこともある。

「主体的に学習に取り組む態度」は、①粘り強さ②自らの学習の意図 ③他の2観点において重点とする内容④当該単元の具体的な学習活動⑤⑥から⑧の内容を全て含め、単元(や教材)の目標や学習内容等★(期待を述べた)学習態度(領域名)で示す。

○子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか

○見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

○子供たちと共有できる表現ですか

○単元のゴールの姿に迫るものですか

作品の魅力を推薦カードにまとめるという課題に取り組みを通して、「海のもの」の作品の魅力を発掘していくことを狙って、書き表した例案を示しています。

①～⑧を元に、学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。

⑨～⑫のように、言語活動を設定しています。

熊本の子どもを、「学びの主体」として育てる

子供たちに求められる資力・能力を確実に育てるためには、「主体的・対話的で深い学び」の観点による授業改善を進めていくことが重要です。そのために、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構築します。

小学校第6学年 国語科 学習帳

単元	単元目標	評価規準
1	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	① 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。
2	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	② 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。
3	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	③ 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。

単元	単元目標	評価規準
1	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	① 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。
2	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	② 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。
3	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	③ 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となつていきますか
- 「学びに向かう力、人間性」が育まれている(ふよふよとしている)子供(児童・生徒)がいますか
- 子供たちと共有できる表現になつていきますか

実生活(この場合は読書生活)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ①「～するときに」に、実生活の場面を示しています。
- ②「～するときに」に、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ③「～するときに」に、実生活の場面などどのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています(この場合は、「日簿で読書感想文が書ける」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント」

- 単元を通して学習課題を解決するための見方・考え方がなつていきますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通して学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方を思いついていくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ①「～に」に、教科等の特質に依つた見方に関する内容を示しています。
- ②(※国語科の場合)は、言葉への「働き」を示しています。
- ③「～するときに」に、本単元の学習内容、目標や評価規準に依つた考え方を示しています。
- ④(※国語科の場合)は、言葉への「働き」を示しています。

4 本時の学習

- (1) 目標 推薦カードにまとめるために、本一の様子の推字について習い、海の主を救いたい気持ちから、海のものたちを大切にすることに変わった本一の心構えの移り変わりを踏むことができる。
- (2) 展開

Q&A

Q 「熊本の授業」は引き続き推進するの？」

A これまでの「熊本の授業」の実践で、整理されたきたよき成果を継承し、「熊本の授業」の理念として大切に引き継ぎます。

Q 「めあてや学習課題は必ず書かなければならないか。」

A 子供たちが主体的に学習に取り組めるようにすることや、めあてや学習課題を何のために設定するかを校内研究などで協議し、学校の美観に依り工夫、改善を重ねるようお願いします。

Q 「新たに「期間」などの項目を追加してもよいか。」

A 本形式はあくまで推奨モデルです。大切にしたい項目以外で、校内研究などで協議され、必要であれば追加されたいと思います。

Q 「まため・振り返りは必ず毎時単位で書ける人ですか。」

A 必ず毎時単位で書けるものではなく、必要に応じて位置付けるようにします。

単元	単元目標	評価規準
1	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	① 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。
2	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	② 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。
3	「海のもの」の魅力を推薦カードにまとめることができる。	③ 推薦カードの構成が適切で、魅力的な文章が書かれている。

★「熊本の学び」における授業づくりのポイントからのチェック

- 子供供の「やってみよう」になるほど「きつ」と「生まれる」展開の工夫はありますか
- 子供供の「分かった」「できた」「もつと」や「やってみよう」が生まれる終末の工夫はありますか
- 「期待される学びの姿」には、本時の中心となる学習活動で学びの深まりを想定し、具体的に設定されていますか

★「これまでも大切にされてきた授業づくりのポイント」からのチェック

- 「めあてや学習課題」は、評価する場面を適切に設定されていますか
- 「まため・振り返り」の場が設定された場合「めあて」や「学習課題」に「対応した」となつていきますか
- 何をどのようにふりかえるのか、ねらいをもつた振り返りとなつていきますか

### 3

熊本の子供を、「学びの主体」として育てるために！  
～子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

「熊本の学び」では、どのような授業づくりを目指すのですか？

推進プランP26

なぜ、「熊本の学び」の授業づくりでは、「子供たちの学びの側」から考えるのですか？

推進プランP3 提言2

「熊本の学び」における授業のポイントは何ですか？

推進プランP26、27

学習構想案では具体的にどのようなことを書けばいいのですか？

推進プランP45～50、別資料：作成のポイント

## 授業改善演習の目的

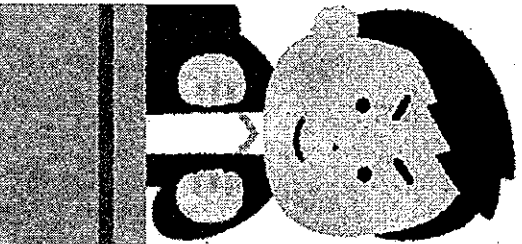
### 振り返り

◇改善のポイントは？

◇改善することによって得られる効果は？

◇各学校で、推進する意欲の向上

学校に戻ったら、まず何から始めますか？



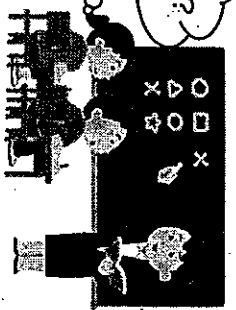
言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童(生徒)が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

例えば、小学校4年の教材「ごんぎつね」の登場人物の気持ちを考える学習では…

教材の冒頭で、登場人物の「ごんぎつね」について、「ごん」は「ひとりぼっちの小ぎつねで、(中略)あなをほって住んでいました」や「いたずらばかりすること」が描写されています。そのうえで…

教員が見方・考え方を意識しないと…

どこから考えるのかな？  
どうしたらいいの…



子供たちは、様々な見方・考え方で文章を読み、自分なりの考えで気持ちを想像していた。

例えば、「しやがんで」の言葉に着目し、「ごん」の気持ちを考えている子供は…

子供の問い:「しやがんで」に着目すると、どのような「ごん」の気持ちが考えられるかな…

ごんは、ひとりぼっちだからなあ。  
さびしかったから、しやがんでいいのかな？  
主に登場人物の「状況(設定)」に着目して

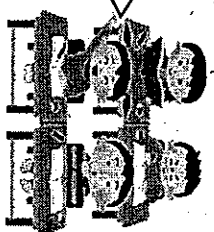


「しやがんでいる」という言葉から、なんだか落ち込んでいる感じがするな。  
「すわっている」と「しやがんでいる」ではどう違うんだろう？  
主に言葉の「使い分け」に着目して

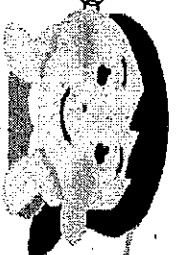
「ごん」の気持ち(さびしさ・不安・外に出たいなど)に迫っていく子供の学びの姿

例えば、授業の終末の「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

子供が「見方・考え方を働かせる」と…  
本文を根拠に気持ちを考える  
本文の「しやがんで」から、「ごん」は、〇〇のような気持ちになつていると思います。なぜなら…  
めあてや学習課題、発問、指示などにより、子供たちが言葉に意識的に着目して、「ごん」の気持ちを考える姿を目指す。



ごんは、村にいたずらしによく出かけていたから、この場面では、早くいたずらしたいなあ…と考えていたのかな？  
主に「文脈(展開)」に即して



○「ごん」の行動・場面の様子(文脈)・人物の状況から、気持ち(や人物像)が分かったぞ。  
○ほかの言葉から、気持ちを考えられないかな？

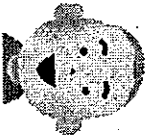
子供たちは、言葉による見方・考え方をより意識して働かせるようになる。



例えば、小学校3年「はたらく人とわたしたちのくらし」では...

**なぜ、熊本のスイカは、日本一なのだろう？  
農家の人たちの工夫や努力を調べて、熊本  
サライズを探すくまモンに教えてあげよう。**

同じ事象に対してでも、子供たちは様々な見方・考え方を働かせることができます。



このスイカは、どの地域で作っているのかな。ビニールハウスの中で育てているから寒い地域なのかな。  
(空間的)

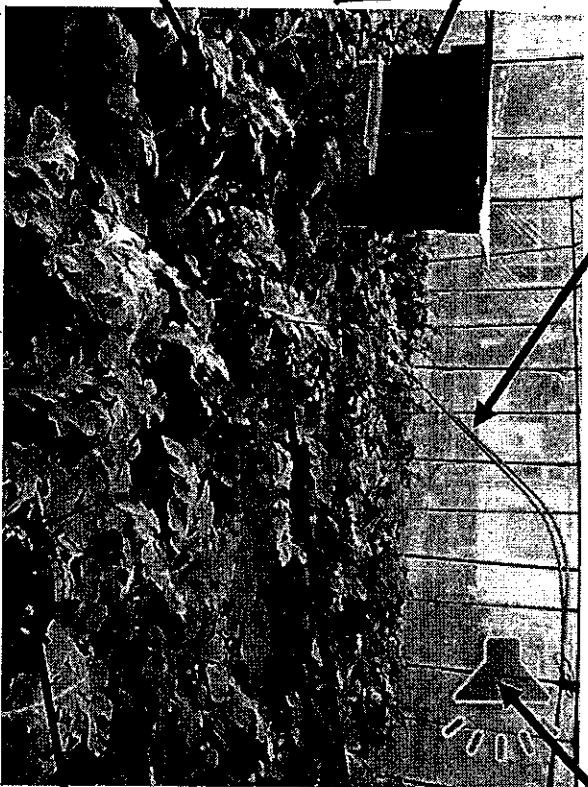


ハチが飛び音だつたけど、農家の人はビニールハウスの中に入って怖くないのかな。  
(相互関係)

この黒い箱は何かな。スイカづくり  
にどんな関係があるのかな。  
(相互関係)



葉も大きくて、よく育っているけど、スイカづくりを始めた時期は、いつかな。  
(時間的)



このスイカは、小ぶりだけど、どこどんな人たちが食べるのかな。  
(空間的・相互関係)



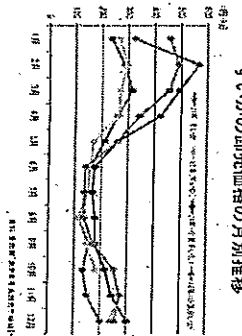
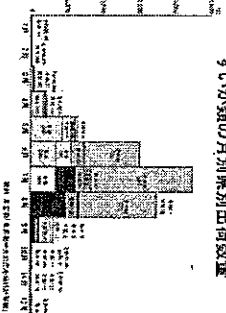
社会的事象の見方・考え方(小学校)

社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

※参考【中学校】  
・社会的事象を、一夜空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること(地理的分野)  
・社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を員が営家などで関連付けること(歴史的分野)  
・社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること(公民的分野)

「問い」が見方・考え方を働かせる方向を方向付ける

空間的	時間的	相互関係
分布、地域、範囲 (位置や空間的な広がり)	起源、変化、継承 (時期や時間の経過)	工夫、関わり、協力 (事象や人々の相互関係)
どのような場所にあるかな どのように広がっているかな など	なぜ始まったのか どのように変わってきたのか など	どのようなつながりがあるかな なぜこのような協力が必要かな など



上の写真とともに、すいかの月別・県別出荷量や卸売価格の月別推移などの資料と関連付けて提示すると、更に見方・考え方が働きます。



事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

例えば、小学校6年「資料の調べ方」では…

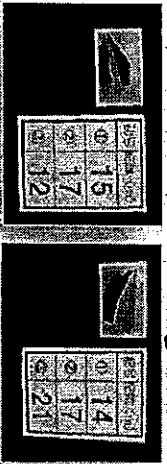
どちらかを選んで、紙飛行機大会をします。



どちらの紙飛行機が長い距離を飛ぶか考えよう。

投げてみないと分からないな。

21m飛んでいる青の方が飛びそう。



どちらの紙飛行機が飛ぶのかな。〇〇

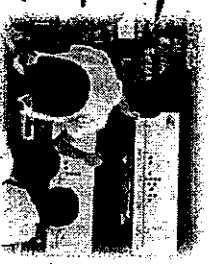
子供が「見方・考え方」を働かせると…

資料の特徴や傾向に着目して、どちらの紙飛行機が飛ぶといえるか考えよう。

最長記録で比べると…。

平均で比べてみよう。

散らばり具合はどうか。



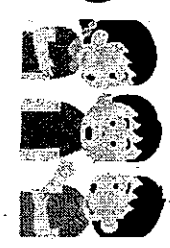
児童は、何に着目して、どのように考えるのかを意識しながら、問題解決に取り組んでいく。

例えば、最大値、最小値、平均値、ちらばり具合等に着目した子供は…

児童の問い：資料の特徴を調べてみると、どちらの紙飛行機が飛ぶといえるだろう…

最長記録で比べると、青が26mで赤が22mだから、青が飛びそうだな。でも、最短記録では、青は5mで、赤が11mだから、赤が飛びのかな？ (最大値、最小値に着目して比べる)

ちらばり具合を調べてみると、赤は平均の近くに集まっているけど、青はバラバラで、範囲が広いな。(散らばり具合に着目して比べる)



赤の紙飛行機の結果

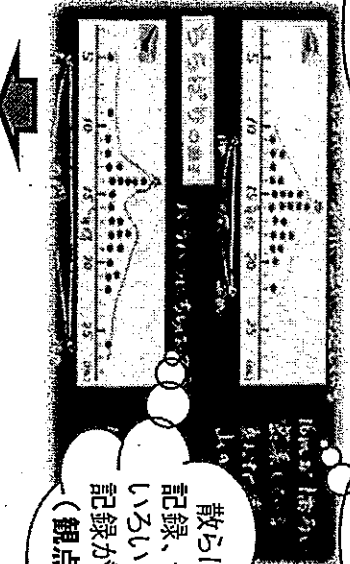
15	16	18	16	13
17	11	15	19	16
12	15	16	22	18
16	14	20	14	15
19	18	12	17	15

平均で比べると、どちらも同じだ。(既習事項(平均値)で比べる)

一番多く集まっている記録で比べると赤の方が飛びそうだ。(最頻値に着目して比べる)

青の紙飛行機の結果

14	12	18	22	13
17	17	14	9	19
21	14	26	15	20
13	19	11	21	5
13	14	17	18	16



散らばり具合や最長・最短記録、一番多い記録など、いろいろ考えてみて、記録が安定した赤を選ぼう。(観点を整理する)

データの特徴や傾向(最大値、最小値、最頻値、平均値、ちらばり具合等)に着目し、見いだした特徴や傾向を基に、自分が選ぶ紙飛行機を判断していく児童の学びの姿

例えば、振り返りの場面で、自分の学びを振り返ってみると

「平均」だけでなく、最長記録や散らばり具合などで比べることで、資料の特徴や傾向が分かり、どちらの紙飛行機が飛ぶといえるか、自分で決めることができたぞ。他の資料についても調べてみたいな。

児童は、数学的な見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること

前時の問題

例えば、中学校2年「連立方程式」では…

本時の問題

$$\begin{cases} 3x + y = 5 \\ x + y = 1 \end{cases}$$

昨日習った問題だから、できるぞ。



$$\begin{cases} 3x + 2y = 4 & \textcircled{1} \\ 4x + 3y = 1 & \textcircled{2} \end{cases}$$

今日の連立方程式は、昨日の問題と少し違うぞ。

連立方程式の解き方を考えよう。

①+②をしても、  
①-②をしても、  
文字が消去できないな。

どちらの文字も消去できないから、  
解けないな。



$$\begin{cases} x + 2y = 4 \dots \textcircled{1} \\ 4x + 3y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

文字の係数に着目して、等式の性質を利用して連立方程式の解き方を考えよう。

昨日の式は、どちらかの文字の係数が同じだったから、すぐに解けたのか。

どちらかの文字の係数を同じにすれば、解けそうだな。

生徒たちは、何に着目して、どのように考えるのかを意識しながら、問題解決に取り組んでいく。

前時の問題と比較する

$$\begin{cases} 3x + y = 5 \dots \textcircled{1} \\ x + y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

例えば、文字の係数に着目し、等式の性質や加減法を利用してしようとした生徒は…

生徒たちの問い：どちらかの文字を消去できないとき、どうやって解けばいいのだろう…

昨日は、どちらかの文字の係数が同じだったから、その文字を消去すれば解けたんだ。じゃあ、係数を同じにすれば、解けそうだね。

(前時の問題と比較する)

$$\begin{cases} 3x + y = 5 \dots \textcircled{1} \\ x + y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

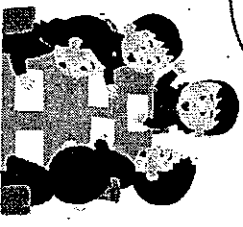
前時との比較

$$\begin{cases} x + 2y = 4 \dots \textcircled{1} \\ 4x + 3y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

次の問題は、①を2倍、②を3倍すれば、xが消去できるね。どちらかの文字を消去するには、消去したい文字の係数に着目して、公倍数を見つけなければよさそうだね。

(前の問題と比較して考える)

$$\begin{cases} 3x - 4y = -15 \dots \textcircled{1} \\ 2x + 3y = 7 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$



今日の問題は、①を4倍すれば、xが消去できて、yだけの一次方程式になるね。  
(係数に着目する)  
(一次方程式に帰着して考える)

文字の係数に着目し、等式の性質を利用しながら既習の解き方と関連付けて考え、自力解決していく生徒の学びの姿

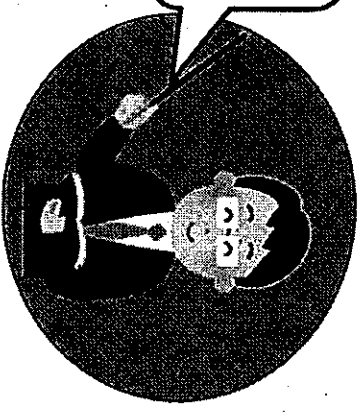
例えば、振り返りの場面で、自分の学びを振り返ってみると

文字の係数に着目し、今までの解き方と関連付けて考えると、いろんな問題が解決できるね。文字の係数が小数や分数になっても、同じような考えで解けるんじゃないかな。

生徒たちは、**数学的な見方・考え方をより意識して働かせるようになる。**

生活の中でいろいろなものを燃やすことがありますね。先日のキャンプで、すぐに、まきの火が消えてしまったのはどうしてでしょう。

●同じ事物・現象に対しても、子供たちは、さまざまな見方・考え方を働かせていることが分かります。



口から送る空気の量が少なかったからだよ。  
(量的・関係付け)

まきが湿っていたからじゃないのかな。乾いている方が...。  
(質的・比較する)

山の上は、火がつきにくいんだよ。山頂ではお米がすぐに炊けなかったし...、空気も薄いって聞いたよ。  
(空間的・多面的に考える)

まきとまきのすき間がなくて、酸素が届かないのかな。(実体的・関係付ける)

花火で使うロケットに火をつけるとき、手をそえてつけたけど、それがなかったからだよ。(原因・関係付ける)

息は、うちわであおぐ空気と違うから...。  
(質的・比較する)

燃えやすいまきがあると聞いたことがあるよ。木の種類で違いがあるんだよ。  
(多様性・比較する)

●それぞれの子供たちがどのような見方・考え方を働かせているのか、教師側が見取れるようになることが大切です。  
学習課題の設定や、課題解決をしていく探究の過程にも影響してきます。

まきが燃え続けるためにはどうしたらよいでしょうか。

※解決可能なもの、解決すべき課題への焦点化既習事項や生活経験による根拠ある予想を取り上げる

それでは、○さんと○○さんの発言を基にして、空気中の酸素の量の割合が燃えることにどのように関係するのか、考えていきましょう。



【理科の見方・考え方】

【見方】様々な事象等を捉える各教科ならではの視点

＜それぞれの領域における特徴的な視点＞

・エネルギー 主として量的・関係的な視点  
・生命 主として多様性と共通性の視点  
※以外にも原因と結果、部分と全体、定性と定量など

・粒子 主として質的・実体的な視点  
・地球 主として空間的・空間的な視点

【考え方】例えば、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること

小学校理科での【考え方】

- ・第3学年 比較する
- ・第4学年 関係付ける
- ・第5学年 条件を制御する
- ・第6学年 多面的に考える

※この「考え方」は、物事などのように考えていくのかということであり、質質・能力としての思考力や態度とは異なる。

(量的・関係的、条件を制御する)

身近な人々、社会及び自然を自分との関りで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする



例えば、内容(2)家庭と生活の自分ができ家庭での仕事の実践発表会の場面では

教員が「見方・考え方を意識しないと…」

友達に家で頑張ったことを教えてもらい  
ましよう。

上手に発表しているな。

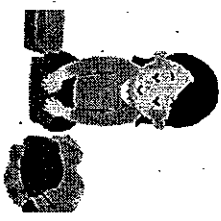
家で頑張ったんだな



子供が「見方・考え方を働かせると…」

「100名」になるためのコツは  
どんなところだろう。」

しわを伸ばしながら  
たんんでいるな。  
自分が頑張ったこと  
をやってみせると  
わかりやすいな。



子供たちは、何に着目して、何を考えるのかを  
意識せず、聞いて、見て、考えていた。

子供たちは、何に着目して、何を考えるのかを  
意識して、発表を聞く(見る)ことができる。

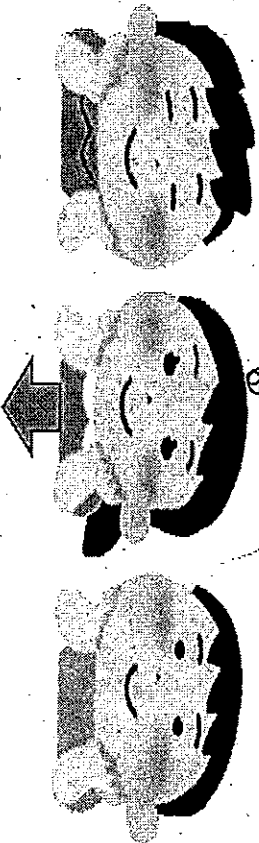
身近な生活に関わる見方・考え方とは…

子供たちの問い:「○○がうまくできるようになるためのコツはなんだろう。」

「しわを伸ばしながらたんんでいるな。  
ほかにもコツがあるかな。コツを聞いて  
みようかな。」  
(コツを発見することに着目して)

「ただむ順番がわかったぞ。ぼくのたのみ方  
と違うな。どちらがきれいなためのかな。」  
(コツを発見し、自分と比べている。)

「服のはしっこをそろえてたんんでいるな。  
私もやってみよう。家でも役に立ちたい  
な。他に、コツはないかな。」  
(自分との関わりを考えている)



友達の発表から「○○のコツ」だけでなく  
自分との関わりを考える子供の学びの姿

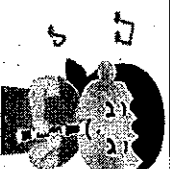
例えば、「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

コツについて発見したことだけでなく、「自分もうまくやりたい。」「挑戦してみたい。」「家庭でも  
役に立ちたい。」等の意見が出てくる。

子供たちは、身近な生活に関わる見方・考え方をより意識して生かせるようになる。

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその動きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化(【中】生活や社会、伝統や文化)などに関連付けること

例えば、小学校4年の題材  
「曲のどくちようをどらえて演奏しよう」  
(「A表現」器楽)では...

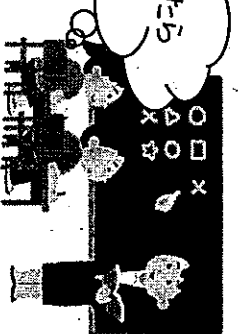


「エーデルワイス」の曲の特徴を捉え  
表現を工夫してリコーダーを演奏する。

教員が「見方・考え方」を意識しないと...

表現を工夫して演奏しよう

どのよう  
に工夫したら  
いいのかな...

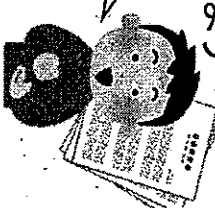


子供たちは、それぞれの見方・考え方で曲の特徴を捉え、漠然と表現を工夫していた。

子供が「見方・考え方」を働かせると...

「エーデルワイス」の特徴を捉えて、  
リコーダーの表現を工夫しよう

3段目のはじめは、リズム  
が変わって、はずんだ感じに  
なるな...



子供たちは、音楽を形づくっている要素に着目し、それらの動きが生み出すよさや面白さ、美しさを捉え、どのよう  
に工夫したいかについて思いや意図をもつ。

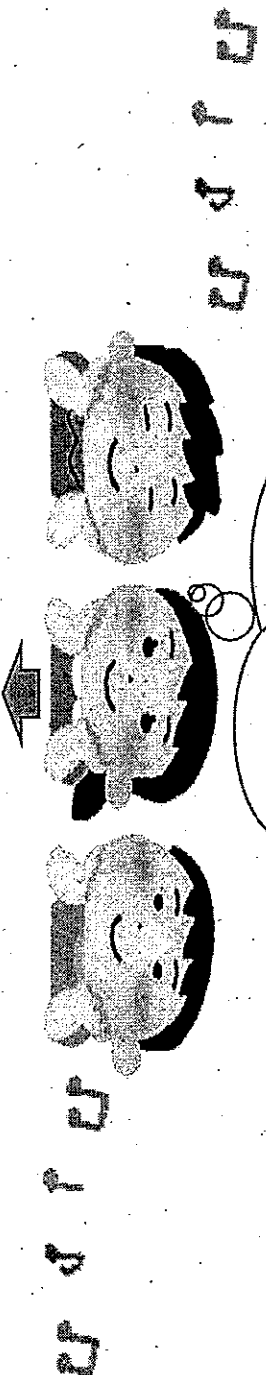
どのような音楽的な見方・考え方をしているのか...

子供たちの問い:「エーデルワイス」の特徴を表すにはどのように工夫して  
リコーダーを演奏するといいいかな...

4小節で上がって下がる旋律が繰り返  
しているから、4小節のまとまりを大事に  
して、音と音をつなげるように吹こう。  
(主に「旋律」に着目して)

2段目と4段目は旋律が同じだけど、4  
段目は終わりに向かうから、「ずっときれ  
いに吹いてほしいな」という思いを込めて  
優しい音色で吹きたいな。  
(主に「反復」「音色」に着目して)

3段目で(リズムが変わって)はずんだ  
感じに変わるから、2段目までと吹き方を  
変えて、音を短く切ってはつきりと吹きた  
いな。(主に「変化」「リズム」に着目して)



音楽を形づくっている要素とその働きに着目して楽曲を捉え、  
表現したい思いや意図をもつ子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の表現の工夫を振り返ることで

音楽を形づくっている要素とその働きで音楽を捉えて工夫すると、「エーデルワイス」の曲想に合う  
演奏をすることができた。他の曲でも、同じように工夫して演奏したいな。

子供たちは、音楽的な見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、【小】形や色などの)造形的な視点で捉え、【小】自分のイメージをもちながら)【中】自分としての)意味や価値をつくりだすこと

例えば、中学校2年生の題材「情報をわかりやすく伝えよう(ピクトグラムをつくらう)」では...

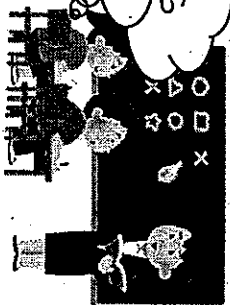


伝えようとする情報を文字に代わって視覚的な図で表現する。

教師が「見方・考え方」を意識しないと...

伝えたい内容を多くの人にわかりやすく伝えることを考えて構想しよう

どのように工夫したらいいのかな...



子供たちは、これまでの経験を基に、それぞれの見方・考え方で、図を考え、配色していた。

子供が「見方・考え方」を働かせると...

図籍や年齢を問わず、伝えたい内容が一目でわかり、形や色彩が見る側にとどのようなイメージや効果をもたらすかを考えて表現しよう。

実際の形よりも単純化した形にした方が伝わるかも... さわやかな配色にすれば、より印象深く効果的に見る人に伝わるかも...



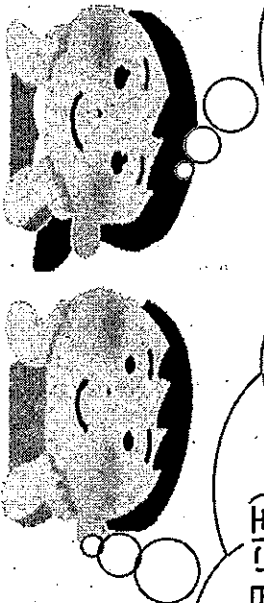
子供たちは、伝える相手や内容、設置場所、社会との関わりなどから工夫して考える。

どのような美術的な見方・考え方をしているのか...

子供たちの問い: 伝えたい内容を一目で印象深く伝えるには、形や色彩をどのように表現するといひかな...

実際の形よりも単純化した形にした方が伝わると思う。角をまるくした方がやさしいイメージになりそうだ。(主に「形」に着目して)

さわやかな配色にすれば、やさしい印象に伝わるだろう。色の面積も、見る人の印象に大きく影響しそうだなあ。設置する場所、情報に合う色はどんな色がいひかな。(主に「色彩」に着目して)



見る人にただ単に伝えるだけでなく、見る人が抱く印象や感情などの心の動きを考えながら、発想や構想を繰り返していく子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

見る側の視点で図案を発想することで、より印象深く伝わるような図案ができたぞ。実際に、街のどこかで使ってほしい! そのためには、どうしたらいいのかな。先生に相談しよう! 他の図案も考えてみたいな。

子供たちは、美術的な見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること

例えば、「A材料と加工の技術」  
技術による問題の解消では...

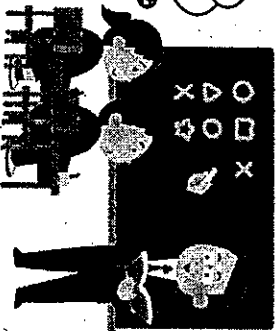


製作品を作り上げることや  
道具等の使い方の習得が  
重要視されました。

教師が「見方・考え方」を意識しないと...

問題を発見し、課題を設定し、  
ものづくりで解決しよう

上手に作れるかな？  
何を作るのかな？



子供が「見方・考え方」を意識すると...

問題を発見し、課題を設定し、機能性、生産  
効率、安全性、環境への負荷、経済性等に着  
目してものづくりで解決しよう。

経済面と環境面を両立させたいな...

子供たちは、様々な視点から多面的に課題の解決  
法を考え最適解を見いだそうとする。



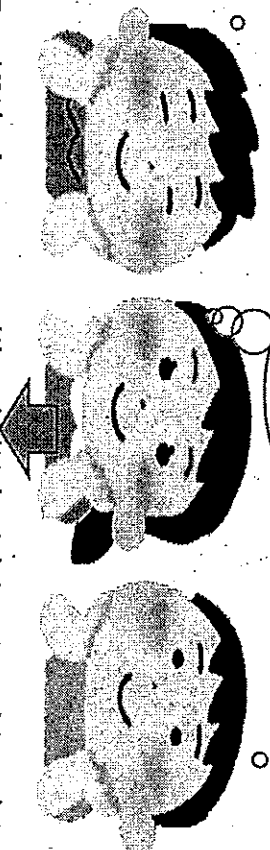
どのような技術の見方・考え方をしているのか...

子供たちの問い:どんな点に気を付けながら、解決策を考えたいけば  
最もよい課題の解決法になるだろう。

とても丈夫で使いやすいものを作りたいけれ  
ど、材料費はできるだけ安くできないかな。  
【社会からの要求(機能性)と経済性  
の比較】

ずっと使い続けるものを作りたいけれど、  
もし捨てる時には、簡単に捨てたいな。  
そのために、気を付けることは何だろう。  
【社会からの要求(丈夫さ)と環境負荷  
との比較】

見た目が格好いいものを作りたいけれど、あ  
まり時間が無いから、作りやすさも重要だな。  
どうすれば、作りやすくなるだろう。  
【社会からの要求(デザインと作業性)  
の比較】



課題の解決法について様々な視点や側面からものづくりを捉え、  
自分の考えに沿った最適な解決法を計画することができる子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場で、他の生徒の考えに触れ、自分の考えや設計・製作品を振り返ることで  
そうか！そんな解決法(視点)もあったんだな。真似してみたいな。  
今度、他の問題も「ものづくり」で解決してみよう。

子供たちは、技術の見方・考え方をより意識して働かせるようになる。



家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること



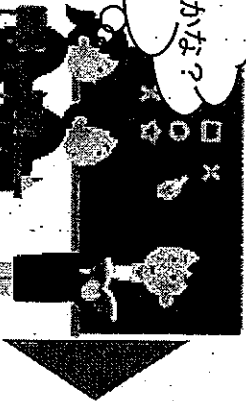
例えば、「地域の食文化と和食の調理」では...



教員が「見方・考え方」を意識しないと...

地域の食材を生かして和食の調理をしよう

調理実習ができるのかな？  
何を作るのかな...

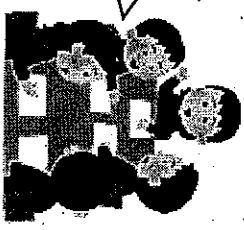


子供たちは、「調理をする」ということだけを考えていた。

子供が「見方・考え方」を働かせると...

地域の食材や食文化の特徴を踏まえ、和食作りを工夫しよう

地域の食材を生かすために、  
農家の方に話を聞いてみたい  
です。



子供たちは、食材を調理しておいしく食べることでなく、地域でとれた食材を利用することの意味を考えようとする。

どのような生活の営みに係る見方・考え方をしているのか...

子供たちの問い：地域の食材を生かすとはどういうことだろう。

地域の食材は生産者と消費者の距離が近いから、より新鮮なものが食べられるし、生産過程も確かめられるね。環境への負荷も少ないよね。地域の食材を買うことで、地域の生産者の方々に応援することになるんだ。

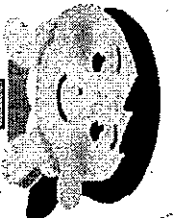
(「健康・快適・安全」、  
「持続可能な社会の構築」の視点)

家族や近所の高齢者の方に地域のおすすめ  
の食材について聞いてみたよ。今度は郷  
土料理の作り方を教えてもらおう。

(「協力・協働」の視点)

自分の住んでいる地域や日本の各地でその  
地域の食文化があることがわかったよ。私たち  
の食生活に生かしていきたいね。

(「生活文化の継承・創造」の視点)



「和食の調理」(調理技術や栄養価)だけでなく、  
食事には文化を伝える役割があることを理解し、  
持続可能な食生活を目指して課題解決に向かう子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

地域で生産される食材には、私の知らないものもあつたな。

地域の方々の取組や私たちの工夫をいかして、地域の食文化を受け継いでいきたいな。

子供たちは、生活の営みに係る見方・考え方をより意識して働かせるようになる。

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること

(例) 第1学年及び第2学年  
球技 ゴール型 サッカー

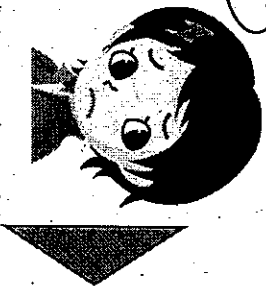


ゴール前の攻防を練習や  
ゲームで取り組む中で...

教員が見方・考え方を意識しないと...

ボールが来てもどうしたら  
いいか分からない...

どこに動いたらいい  
のか分からない...



子供たちは、漠然とボールが来たらボール操作をするといった意識で活動していた。

子供が「見方・考え方」を働かせると...

例: ゴール前での攻め方について、パスをもらってシュートをするためには、ボールを持たない時にどう動いたらいいか、仲間と考えながら2人対1人で練習しよう。  
守備者の後ろに走り込んだらよさそう。これまでは止まって待っていることが多かったな。



子供たちは、自分の課題に気付いて解決に向け、仲間と協力して活動したり、学んだことを次に生かしたりしながら自分に合った多様な関わり方をして活動する。

例えば「球技 ゴール型 サッカー」ではどのような見方・考え方をしていけばいいのか。

運動の楽しさや喜びを感じる

・負けたけどいっぱい汗をかいたし、チームで協力できたから楽しかった。  
・ねらったところにパスができたし、攻め方も分かったから嬉しかった。

「する」

・ボールを持たない時に空いたスペースや守備者を意識して動くことができた。  
・話し合う中で、自分たちのつまずきに気付いて練習することができた。  
・ゲームでは、作戦を生かして友達と協力できた。  
・よいところを友だちに伝えられたからよかった。

見方

関連して高まる体力を知る

・授業を重ねる中で、スピードや敏捷性、それに全身持久力がついてきたようだ。  
・ボールタッチも柔らかくなってきたから巧緻性も高まってきたな。

「見る」

・〇〇君は、顔を上げて空いたところを探している。僕も真似しよう。  
・ちゃんと動きができていないか、タフレットで確認しよう。  
・練習したことが生かされているか、ゲームをお互いにチェックしよう。  
・今度からサッカーの番組を見てみよう。

考え方

「支える」

・みんなができるようにアババイスしたり、動き方を教えたりすることができた。  
・〇〇君が審判をするなら、僕は得点係をするね。  
・△△君もできるように、～して練習しよう。  
・□□さんは相手チームだけでなく、素晴らしいプレーだったね。

「知る」

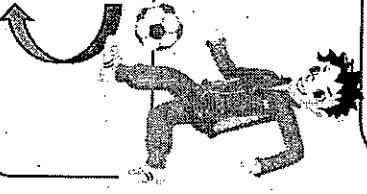
・空いたスペースに走りこんだらフリーでシュートが打てることが分かった。  
・守備者がいないところを見つけて走りこめばいいことが分かった。  
・ゴール前での攻防の仕方が分かった。  
・自分たちに合ったルールや練習の工夫の仕方が分かった。

運動の楽しさに触れ、体力向上とのつながりに着目しながら  
自己の適性に応じて、「する」「みる」「支える」「知る」といった  
運動やスポーツとの多様な関わり方について考える子供の学びの姿

休みの日や休み時間に、みんながサッカーをして遊ぼうかな。他の球技もしてみようかな。  
リーグの試合をテレビで見よう。地元である大会も見に行ってみようかな。



生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現



「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」  
(中学校学習指導要領より)

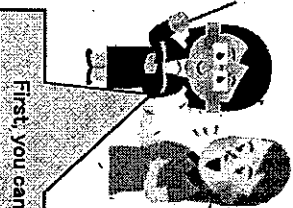
◎例えば、熊本について紹介する場面では・・・

「話すこと 〔発表〕」

子供が「見方・考え方」を働かせると・・・

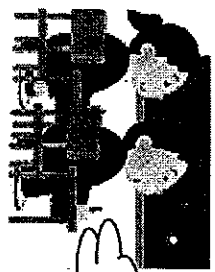
熊本の紹介は次のようにします。  
I'm going to tell you about Kumamoto.  
Kumamoto is famous for ~  
It's ~  
I like it very much.  
I hope you'll like it, too.

～に、何を入れようかな。



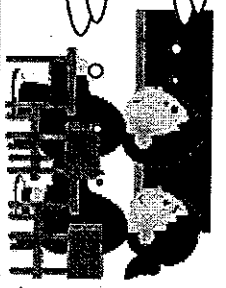
First, you can ask some questions.

Today, let's tell Ms. Green about Kumamoto.  
I've just come to Kumamoto, so I don't know very much about it.  
Please tell me what Kumamoto is famous for.



覚えられるかな・・・

グリーン先生の趣味は何かな。  
「学校紹介」の経験が生かせそう。



◎例えば、熊本について紹介する場面では、どのような「見方・考え方」をしているのか・・・

子供たちの問い：どうやってたら相手にわかりやすく興味をもって聞いてもらえるか？

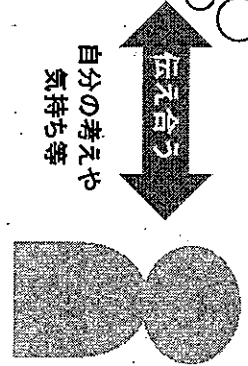
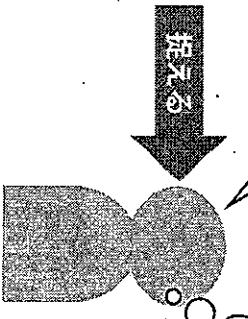
～特定の話題について～

ここで働く「見方・考え方①」

目的・場面・状況に応じて  
・伝えたい「内容」※  
・伝えるための「英語表現」

ここで働く「見方・考え方②」

外国語  
言語の背景にある文化



自分の考えや気持ち等  
※情報を整理し、考えを形成、再構築  
活動前にトピックや目的を示しますが、英語でどう表現すればよいかは示しません。  
まずは取り組ませ、その後英語でどのように表現するかを考えさせます。気付きの体験を多く積ませましょう。

【自分自身の考えや思いを主体的に表現できるようになるために大切なこと】

- ① 教員が自身の思いを英語で表現すること  
→ 感情豊かに英語で話し、そのことについて子供とやり取りしましょう。
- ② 内容を大切にすること  
→ 子供が表現した内容を受け止め、共感したり驚いたり、一緒に笑ったりしましょう。

「見方・考え方を働かせる」授業改善の視点

- ① 場面や状況を工夫し、文脈の中で外国語を捉えさせる。
- ② 相手の状況を踏まえ、伝えたい「内容」とそれを伝えるための「英語表現」の双方を考えさせる。

道徳科における「見方・考え方」は、道徳科の目標に示された学習活動「様々な事象を、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方について考えること（※括弧内は中学校）」のことです。この学習活動全体が「深い学び」の鍵となります。道徳科における「見方・考え方」を働かせる」とは、教師にしてみれば、そのような学習過程を大切にた指導の工夫をすることであり、子供にしてみれば、そのような学習活動を行うということになります。

道徳教育

道徳科における「見方・考え方」を働かせている状況

道徳的諸価値の理解を基に...

道徳的価値の理解に当たっては、3つの理解を深めることが大切です。  
 ○人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること（価値理解）  
 ○道徳的価値は大切であってもなかなか実現することできない人間の弱さなども理解すること（人間理解）  
 ○道徳的価値を表現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということ（他者理解）等

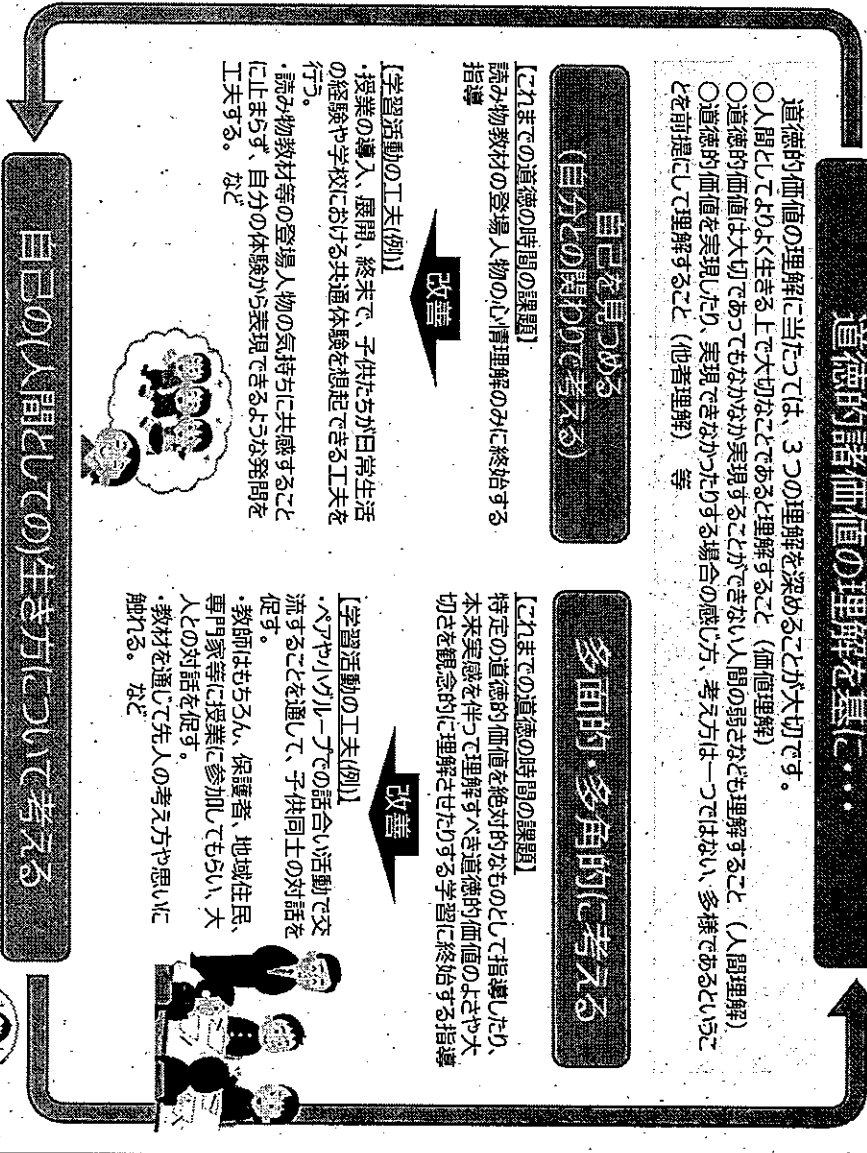
自己を見つめる  
（自分との関わりで考える）

【これまでの道徳の時間の課題】  
 読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導



多面的・多角的に考える

【これまでの道徳の時間の課題】  
 特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを概念的に理解させたばかりの学習に終始する指導



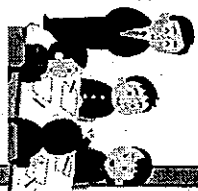
【学習活動の工夫(例)】

・授業の導入、展開、終末で、子供たちが日常生活の経験や学校における共通体験を想起できる工夫を行う。  
 ・読み物教材等の登場人物の気持ちに共感すること止まらず、自分の体験から表現できるような発問を工夫する。 など



【学習活動の工夫(例)】

・ペアやグループでの話し合い活動で交流することを通して、子供同士の対話を促す。  
 ・教師はもちろん、保護者、地域住民、専門家等に授業に参加してもらい、大人との対話を促す。  
 ・教材を通じて先人の考え方や思いに触れる。 など



補充 深化 統合

補充 深化 統合

自己の人間としての生き方について考える

【学習活動の工夫(例)】  
 ・授業の中で、子供がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもたることができるような時間と場を確保する。  
 ・学習過程や成果などの記録を集積し、学習状況を自ら把握し振り返ることができるように工夫する。 など



よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

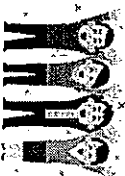
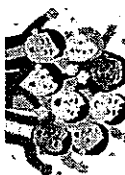
目的

※道徳性とは、人間としてよりよい生き方を目指して行われる道徳的な行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすもの

【道徳性を構成する諸様相】

- ・道徳的判断力 …… それぞれの場面で善悪を判断する能力
- ・道徳的心情 …… 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
- ・道徳的実践意欲 …… 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き
- ・道徳的態度 …… 道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

※ 道徳的諸様相には、特に序列や段階はなく、一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することでできるような内面的寛容を意味します。



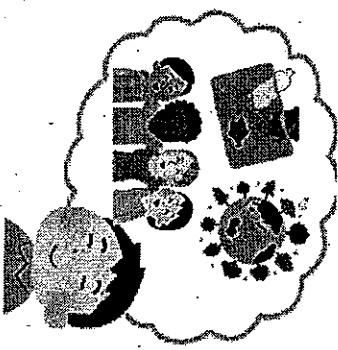
探究的な見方・考え方の2つの要素

- 各教科等における見方・考え方

例えば、

- ・言葉による見方・考え方を働かせること  
(対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること)
- ・数学的な見方・考え方を働かせること  
(対象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること)
- ・理科の見方・考え方を働かせること  
(自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係など科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること)

※ 教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が、総合的に活用されたり、繰り返し活用されたりすることが考えられる。



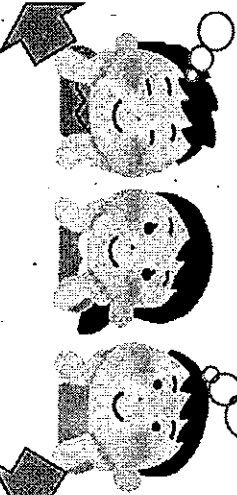
- 総合的な学習の時間に固有な見方・考え方

- ・特定の教科の視点だけでは捉えきれない広範な対象を、多様な角度から俯瞰して捉える。
- ・実社会・実生活の中の課題の探究を通して、自己の生き方を問い続ける。

例えば、環境問題に関する学習場面において、  
どのような探究的な見方・考え方ができるだろうか・・・

「酸性」は、ものを溶かしていたから、  
森林にも影響があるのではないかな。  
(理科の見方・考え方を働かせて)

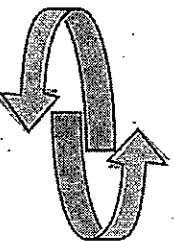
人々が排出する車の排気ガスや工場からの  
煙が増えたから、枯らしているのではないかな。  
(社会の見方・考え方を働かせて)



人が住んでいないような所も、森林  
が減少しているのだろうか。酸性雨の  
原因は、どんなことが考えられるかな。  
(総合的な学習の時間に固有な見方・  
考え方を働かせて)

物事を俯瞰して捉えたり、  
自己の生き方を問い続け  
たりする子供の学びの姿

各教科等の特質に応じた見方・考  
え方を総合的な学習の時間で総合  
的・統合的に活用



教科等の学習と、横断的・総合的な学習との往還

総合的な学習の時間において各教科の  
見方・考え方を使うことで、各教科等  
の見方・考え方が成長し、各教科等の  
「深い学び」を実現

子供たちが、探究的な見方・考え方を働かせながら、横断的・総合的な学習  
に取り組むことで、よりよ<課題を解決し、自己の生き方を考えていくための  
の資質・能力を育成することにつながる。

## 特別活動

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるとは

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」とは...

- ◇ 特別活動の特質が、学級・学校生活における課題を見いだし、解決に向けて取り組む実践的な活動であるということ
- ◇ 特別活動と各教科等とが往還的な関係にあり、各教科等における「見方・考え方」を働かせて各教科等で学んだことを実際の生活において総合的に活用して実践すること

を踏まえたもの

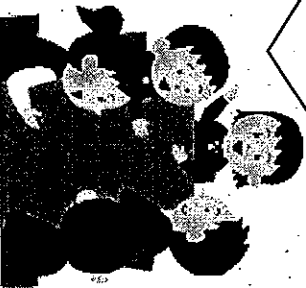
「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということとは...

- ◇ 子供たちが各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること

例えば、学級活動(1)に沿って、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることについて考えてみると...

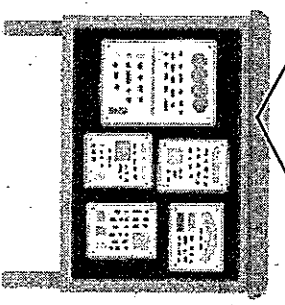
### 必要感のある議題の選定

◇ 提案者の思いや願いをしっかりと踏まえ、学級生活の充実や向上のために、計画委員会において、「話し合う必要性が高いものか」「学級全員で話し合うべき内容であり、学級全員で協力して解決できるものか」「自分たちで解決できない問題か」などの視点で整理し、望ましい議題を選定したり、決定したりする



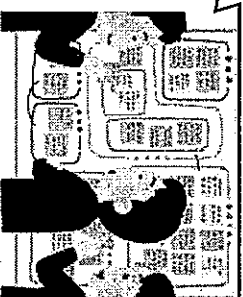
### 自分の考えを持たせる手立て

◇ 事前に「議題」「提案理由」「話し合うこと」「決まっていること」などを学級会コーナーに掲示して話し合いの全体的なイメージをもたせ、学級全員で共通理解を図ることができるようになるとともに、一人一人が議題について学級会ノートに自分の考えを書くようにする



### 意見の可視化・操作化・構造化

◇ よりよい合意形成のために、短冊を活用して意見を分類・整理したり、短冊の色を変えて意見の内容を捉えやすくしたりする



このような実践を積み重ねること...



集団や社会をよりよく形成する人間を育むことにつながる

# 学習構想案作成のポイント（本時）

## Q&A

Q 「めあて」と「学習課題」とは何か。

A 「めあて」は、目標やねらいを子供たちと共有できるように示すものです。「学習課題」は、目標の達成に向けて子供たちが解決する課題として示すものです。（※推進プランP30参照）教科によっては、「めあて」の中に「〇〇は必要なのかについて考えよう」のように、課題を含めた設定も見受けられます。

Q めあてと学習課題は必ず両方書かなければならないか。

A 必ず両方書かなければならないというわけではありません。大切なのは、子供たちが、目的意識や意欲を持って主体的に学習に取り組めるようにすることです。そのためには、板書等で明示することは一つの手立てとなります。

「めあて」や「学習課題」の名称についても教科等の特質に応じて「ねらい」「活動目標」「Today's Goal」などにされても構いません。

何のために設定するのかを校内研究などで協議し、校内で共通理解のうえ、児童生徒の実態に応じて工夫・改善を重ねていきましょう。

Q 新たに「発問」などの項目を追加してもよいか。

A 本様式はあくまで推奨モデルです。大切にしたい3項目以外で、校内研究などで議論され、必要であれば追加されて構いません。

Q まとめ・振り返りは必ず毎時間位置付けるべきか。

A 必ず毎時間位置付けるものではなく、必要に応じて位置付けるようにします。

## 4. 本時の学習

(1)目標 推薦カードにまとめるために、太一の様子描写について着目し、瀬の主を殺したい気持ちから、海のいのちを大切にすることに変わった太一の心情の移り変わりを読むことができる。

## (2)展開

過程	時間	学習活動 (学習活動の名称)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ。 ①表現の工夫の意図など、これまでの作者の書きぶりを振り返る。 ◇これまでで色彩描写により登場人物の様子が詳しく表すことができたか。	○単元のゴールを確かめ、単元計画からめあてを設定する。
		【めあて】太一の様子を表した描写から、太一の心情の移り変わりを読もう。	【問い】書き出しを手立てで
展開	30分	②どうして、ここだけに太一の表情が書かれているのだろう。	○山場の場面の太一の描写について、挿絵を基にどのような表情なのかを問う。
		【学習課題】 太一の表情の変化によって、太一の心情はどのように移り変わったのだろう。	【見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け】 ○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉の理解について、近隣の児童同士で確認する。
展開	30分	2 課題の解決に向けて活動する。 ①自身の考えをもつ。 ◇表情が「泣きそう」から「えがお」に変わっているから、最後は心情が変わっているようだ。 ②他者との対話により、考えをまとめる。 ◇「ふっと」という言葉から、自然に生み出された感じがする。だから、きっと太一は、ここで「海の命」を守ることに本当に気付くことができたと思う。 ◇「作った」ということは、ぎっさの「ふっと」とは違って、自分でしたということを表していると思う。	【課題解決に向けた見通しを持つ手立て】 ○「泣きそう」「ふっとほほえみ」「えがおを作った」の言葉を取り出し、それぞれにどのような心情が表されているかについて自分の考えを書くようにし、移り変わりを捉えやすくする。
		【期待される学びの姿】 太一の表情の描写に着目し、表情の変化に沿って、海のいのちを大切にしようとする移り変わる心情を想像している。	【具体的評価規準】 思① ○太一自身の描写から、太一の心情の移り変わりを捉えている。 (方法：ノート・発言)
終末	10分	3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。	○めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。
		【まとめ】太一の心情は、瀬の主を殺し、父の敵を討ちたい気持ちから、(瀬の主の姿を見て)海のいのちを大切にしようとする気持ちに変わった。	【到達していない児童の手立て】 ○場面最初と最後の心情の違いを確かめ、場面の途中でどのような心情になったのかを個別に問い、考えを確かめていく。
終末	10分	◇全編の作者の描いた書きぶりを振り返り、作者が考えをもつ工夫していることがよく分かった。物語の表現の工夫についても着目して、ほかの作品も読んでみたい。	○本時の学びの成果や課題となる疑問、課題の改善方法等を共有する。 ○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的にを行う。

## ★「熊本の学び」における授業づくりのポイントからのチェック

子供の「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫はありますか

子供の「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫はありますか

子供の「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫はありますか

【期待される学びの姿】には、本時の中心となる学習活動で学びの深まりを想定し、具体的に設定されていますか

## ★これまでも大切にされてきた授業づくりのポイントからのチェック

「本時の目標」「めあて」「具体の評価規準」の整合性は図られていますか

### 小学校国語の例

目標→心情の移り変わりを読むこと  
めあて→心情の移り変わりを読もう  
学習課題→どのように移り変わったのか  
具体の評価規準→心情の移り変わりを捉えているまとめ→「敵を討ちたいから、いのちを大切にしよう」に変わった」  
振り返り→心情の移り変わりを読むための学習活動を振り返る

めあてや学習課題は、子供たちの主体的に学習に向かう姿を引き出すものとなっていますか

「具体の評価規準」は、評価する場面を適切に設定されていますか

※「まとめ」「振り返り」の場が設定された場合

「めあて」や「学習課題」に対応した「まとめ」となっていますか

何をどのようにふりかえるのか、ねらいをもった「振り返り」となっていますか

○単元の目標及び評価規準の設定

国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

- (1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該学年の目標である「言葉がもつよさを～思いや考えを伝え合おうとする。」の部分を示す。

- 単元の評価規準は、次のように設定します。
- ◆「知識・技能」は、「知識及び技能」の指導事項の文末を「～している」とする。指導事項の一部を用いて示すこともある。
  - ◆「思考・判断・表現」は、「思考力、判断力、表現力等」の指導事項の冒頭に指導する領域を「(領域名)において、」と示し、文末を「～している」とする。指導事項の一部を用いて示すこともある。
  - ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、<①粘り強さ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容④当該単元の具体的な言語活動>の①から④の内容を全て含め、単元(や題材)の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫して示す。

★「単元を通じた学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

作品の魅力を推薦カードにまとめるという課題に取り組むことを通して、「海のいのち」の作品の魅力を見つけていくことを狙って、書き表した例

- ①「～を」に、学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。
- ②「～しよう」に、言語活動を設定しています。  
※学習指導要領解説の言語活動例の活用も考えらえる。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第6学年 国語科 学習構想案

1 単元構想

単元名	作品の魅力を推薦カードに書いて伝えよう「海のいのち」(発行所「教育書局」) 2009年6月		
単元の目標	(1) 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。 (2) 文章を読んでも理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 ②比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(イ) ②「読むこと」において、文章を読んでも理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(オ)	①進んで登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、学習の見通しをもって、考えたことを推薦カードにまとめようとしている。

単元終了時の児童の姿

⑦ 物語を読むときに表現の工夫など、言葉に着目して場面の様子や心情の変化を読み、作品の魅力を伝えようとする児童

単元を通じた学習課題  
 ① 「海のいのち」の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合おう。  
 ② 登場人物の行動や心情、情景描写などの言葉に着目して、心情を考えることを通して言葉への自覚を高めること。

指導計画と評価計画(100時間取扱い、本時7/10)

単元	時間	学習活動	評価の観点等
一	20	○ 作品の魅力を推薦カードに書く体験を通して、推薦する言語活動を行うために必要な学習について見通しをもつ。 ○ 単元の学習計画を立て、物語の構成や内容を確かめる。	【意①】(ワークシート) 【意②】(ノート)
二	60	○ 父の人物像から、太一の心情を読み。 ○ 与吉じいさんの人物像から太一の心情を読み。 ○ 母の会話から太一の心情を読み。 ○ ケエの描写から太一の心情を読み。 ○ 太一の表情の描写から太一の心情の移り変わりについて読み。(本時) ○ あと語り場面の効果について読み。	★【知①】(ノート) ○ 地の文にある色彩表現、会話文にある比喩などの表現の工夫に気付いている。 ★【知②】(ノート) ○ 登場人物の行動や情景を描写した語句の工夫や変化について理解している。 ★【意①】(ワークシート・発言) ○ 太一自身やほかの登場人物の描写などから、人物相互の関係や太一の心情を捉えている。 【意②】(ノート・発言)
三	20	○ 作品の魅力を伝える推薦カードを書き、相手の求めに応じた推薦カードを紹介し合う。 ○ 単元で身に付けた力を振り返る。	★【意①】(ワークシート) ○ 読んで理解したことを基に、自分の考えを推薦カードにまとめている。 ★【意②】(ノート) ○ 描写を基に、登場人物の関係や心情についての自分の考えを、進んで推薦カードにまとめようとしている。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は読書生活)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦「～するときに」に、実生活の場面を示しています。
- ①「～を読む」に、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ②「伝えようとする」に、実生活の場面でのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています(この場合は、「日常で読書談話ができる」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通じた学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通じた学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑦「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。  
(※国語の場合は、言葉への着目)
- ①「～する」に当たる文言に、どのように考えるのか(この場合は、心情を考えることを通して)に関する内容を示しています。  
(※国語の場合は、言葉への自覚を高めること)



○単元の目標及び評価規準の設定

社会科の場合、学習指導要領における「内容のまとまり」を「単元」と置き換えることが可能です。そのため、学習指導要領及び学習指導要領解説等における「内容のまとまり＝単元」の記載事項を踏まえて、「単元の目標」を設定し、「評価規準」を作成することができます。

単元の目標は、このように3つの柱で示して設定します。ただし、単元の目標は、箇条書きにせず、一文で示されることもあります。  
 解説には、内容のまとまりごとに単元の目標が示されているので、しっかり読み込みましょう。  
 「知識及び技能」：下線部①  
 「思考力、判断力、表現力等」：下線部②  
 「学びに向かう力、人間性等」：下線部③

単元の評価規準は、次のように設定します。  
 ※(A)を「内容のまとまり」における学習の対象に置き換えて作成する。  
 ◆「知識」は、「2内容」の「知識」に関わる事項に示された(A)の記述を当てはめ、それを児童生徒が「～を理解している」とする。  
 「技能」は、「2内容」の「技能」に関わる事項に示された(A)の記述を当てはめ、それを児童生徒が「～調べたりして、まとめている」とする。  
 ◆「思考・判断・表現」は、「2内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項に示された(A)の記述を当てはめ、それを児童生徒が「～着目して、～を捉え、～考え、～表現している」とする。  
 ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「2内容」の「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項に示されていないことから、学年目標や観点の趣旨を基に評価規準を設定する。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第3学年 社会 学習構想案  
 1. 単元構想

単元名	「はたらく人とわたしたちの暮らし」		
単元の目標	(1) スーパーマーケットやコンビニエンスストアの仕事について、販売の仕方や他地域との関わり、他地域や外国との関わりなどを調べ、販売に携わる人々は、消費者の願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して販売していることを理解することができる。(ア) (2) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を探え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することができる。(イ) (3) 主体的に学習課題を追究し、販売しようとする態度を養う。(ウ)		
単元の評価規準	①販売の仕事は、消費者の多様な願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりについて、見学・調査したり、地図などの資料を調べたりして、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。 ②販売の仕事と消費者の願いを関連付けて販売の仕事に見られる工夫を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直ししたりして、学習課題を追究し、主体的に問題解決しようとしている。 ②地域の人々の販売の仕事と、自分たちの生活との関わりについて考えようとしている。

単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)  
 販売に関わる仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるように工夫して行われていることを理解し、買い物をするときなど地域の消費者の一人として社会を見ようとする態度(ア)

単元を通した学習課題  
 地域のお店ではたらく人の仕事の様子や工夫を調べ、仕事とわたしたちの生活とのつながりを考えよう。  
 本単元で働かせる見方・考え方  
 販売の仕事に携わる人々と消費者との相互関係に着目して、販売の工夫について比較・分類したり、地域の人々の生活と関連付けたりすること(イ)

単元	時間	学習活動	評価の観点等 ★は知識・技能・判断力・表現力等の観点、☆は思考力・判断力・表現力等の観点
課題発見	3	○家庭の買い物調べの結果から買い物の様子について話し合い、単元の学習課題を立てる。 ○買い物の経験や店内のイラストから、スーパーマーケットではどんな販売の工夫が見られるかを予想し、スーパーマーケット見学の計画を立てる。	【思-①】(方法:発音・ワークシート) ★【思-①】(方法:発音・ワークシート) ○学習課題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持つようとしている。
課題追究・課題解決	8	○発表、働く人、商販の工夫の3つの視点に分かれ、スーパーマーケットを見学、調査したり、店員やお客様にインタビューしたりして、販売の工夫等について調べる。 ○それぞれのグループで、見学、調査したことやインタビューしたことをまとめ、発表する。 ○スーパーマーケットについて、販売に携わっている人々の仕事の様子を探え、それらの仕事に見られる工夫をまとめる。	【知-①】(方法:観察・ワークシート) ★【知-②】(方法:発音・ワークシート) ○調べたことを、適切な写真や資料を使って、相手に伝わりやすいようにまとめている。 【思-②】(方法:発音・ワークシート)
新たな観視	2	○コンビニエンスストアにおける販売の工夫について考える。【本時】 ○コンビニエンスストアの店員にインタビューすることを通して、実際に取り組まれている販売の仕方などの工夫について話し合う。	★【思-②】(方法:発音・ワークシート) ○買い物の経験やスーパーマーケット、資料などを参考にしながら、コンビニエンスストアを利用しやすい理由について考えている。 ★【思-②】(方法:発音・ワークシート) ○コンビニエンスストアにおける販売の工夫について、販路事項や生活経験を話し、意欲的に質問したり発表したりして、コンビニエンスストアにおける販売の工夫を考え、自分の言葉で表現しようとしている。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有したい場合、できる表現になっていますか

小学校の社会科は、社会のしくみを「多角的」に考察することが必要。  
 「生産者」と「販売者」の工夫を追究する際も、社会で生きる「消費者」の立場で社会的現象を捉え、自らの日常生活の中にどのように生かしていくかを想定して設定した例

- ②「～を理解し」に、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ④「見ようとする」に、実生活の場面でのどのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています。(この場合は、「消費者として社会を見ようとする」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

※ 単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ②「～に着目して」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
- ④「～すること」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。

★「単元を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

※ 身近な地域にあるお店で働く人の仕事の様子や工夫を追究するとともに、販売に携わる人たちの仕事と自分たちの生活とのつながりを考えられるように設定した例

○単元の目標及び評価規準の設定

算数科・数学科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

- (1)「知識及び技能」の目標については、基本的に学年目標の該当単元に関する部分の文末を「～できる」「～を身に付ける」と示す。
- (2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に学年目標の該当単元に関する部分の文末を「～できる。」と示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該学年の目標である「数学的活動の楽しさや～とする態度を養う」の部分を示す。  
※単元の「内容のまとまり」を踏まえた記述も可

単元の評価規準は、次のように設定します。

- ◆「知識・技能」は、単元の「内容のまとまり」〔知識及び技能〕の文末を「～している」「～できる」とする。「内容のまとまり」の説明部分等を加えて示すこともある。
- ◆「思考・判断・表現」は、単元の「内容のまとまり」〔思考力、判断力、表現力等〕の文末を「～している」「～できる」とする。「内容のまとまり」の説明部分等を加えて示すこともある。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、＜①粘り強さ、②自らの学習の調整、③他の2観点において重点とする内容、④当該単元の具体的な数学的活動＞の①から④の内容を含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫して示す。

※算数科の場合、「内容のまとまり」をそのまま単元とするには適さない場合があることに注意する。

★「単元の中心学的学習課題」のポイント

- 「単元終了時の生徒の姿」に迫るような具体的な課題(問題)になっていますか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- ※「単元を通した学習課題」として示す場合は、子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題になっていますか

2種類の食材を使って副菜を作るとき、条件に合うような食材を連立方程式を用いて的確に求めていくことをねらって、書き表した例

- ※「単元の中心学的学習課題」を設定する場合は、教科書や県学力・学習状況調査問題等を参考に設定する。
- ※「単元を通した学習課題」を設定する場合は、単元全体に関わる学習活動(課題)を設定する。(小学校構想案を参照)

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第2学年 数学科 学習構想案

1 単元構想

単元名	「連立方程式」(流行音楽「教科書」p.00~00)
単元の目標	(1) 連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。 (3) 連立二元一次方程式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①二元一次方程式とその解の意味を理解している。 ②連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。 ③簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 ④加減法や代入法による解き方を理解している。 ⑤本単元の数の数量やその関係に着目し、連立二元一次方程式をつくること	①二元一次方程式と関連づけて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ②連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。	①連立二元一次方程式の必要性と意味を考えようとしている。 ②連立二元一次方程式について学習したことを生活やその後の学習に生かそうとしている。 ③連立二元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。

⑦ 単元(年)別の生徒の姿  
全単元の中で最も得意な数(変数)が何あるとき、変数の値に注目して数量の関係を探し、連立方程式を導き出して活用し、数量を求めようとしている生徒

単元の中心学的学習課題	本単元で働かせる見方・考え方
2種類の食材を使って、副菜50gでカルシウムを112mgとるには、どの食材を選べばよいか。	見方・考え方の観点に着目し、数量の関係を探し、連立方程式を導き出して活用し、数量を求めようとしている生徒

単元	時間	学習活動	評価の観点等
一	1	○求めたい数量が二つある問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、連立方程式の必要性を実感する。	【意①】(ノート分析・行動観察)
二	1	○二元一次方程式・連立方程式とその解の意味を知る。	【知①②】(ワークシート分析)
三	3	○文字の係数の絶対値が等しい二つの式を比べて、一つの文字を消去する方法を考える。 ○文字の係数の絶対値が等しくない場合の連立方程式を解く。 ○具体的な問題で、一方の式を他方の式に代入し、文字を消去する方法を考える。	【意①】(ノート分析・行動観察) ○等式の性質を利用して、加減法を用いて連立方程式を解く過程を式に表し、説明することができる。 【知③④】(ノート分析)
四	3	○( )を含む連立方程式、係数に小数や分数を含む連立方程式を解く。 ○お金の形をした連立方程式を解く。また、係数に文字をふくむ連立方程式に解を代入し、その文字の値を求める。 ○連立方程式とその解き方を確認する。	【知⑤】(ノート分析・小テスト) 【知⑥】(ノート分析・小テスト) ★【知①②③④】(ノート分析・小テスト) ○基本的な学習内容を身に付けている。

★「単元終了時の生徒の姿」のポイント

- 目標や評価規準等を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有したい場合、共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は生活場面や数学の問題)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦「～があるとき」に、生活場面や数学の問題場面を示しています。
- ⑧「しようとしている」に、本単元の目標や評価規準を要約している言葉、生活場面や数学の問題でどのように活用したり、考えたりしようとしているかを示しています(この場合は、「求めたい数量を連立方程式を用いて求めようとする」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント

- 単元の中心学的学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元の中心学的学習課題(単元を通した学習課題)を踏まえて、どのような視点で物事を捉え(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑦「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。  
(※算数・数学の場合は、数量や図形及びそれらの関係などに着目。単元内容に応じて記述。)
- ⑧「～考える」「～検討する」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。  
(※算数・数学の場合は、論理的・統一的・発展的に考えること)

※単元時数が少ない場合は、1時間ごとの見方・考え方を記述してもよい。

○単元の目標及び評価規準の設定

※小理の例になります。「内容のまとめり」の捉えが小理と中理では異なるため

小学校理科の場合、学習指導要領における「内容のまとめり」を「単元」と置き換えることが可能です。そのため、学習指導要領及び学習指導要領解説等における「内容のまとめり=単元」の記載事項を踏まえて、「単元の目標」を設定し、「評価規準」を作成することができます。

小学校理科の場合、単元の目標を、次のように設定します。単元の目標は3つの柱で示すことも可能ですが、解説に単元のねらいが示されているのでそれを用いて示します。

- 「知識及び技能」：下線部㉑
- 「思考力、判断力、表現力等」：下線部㉒
- 「学びに向かう力、人間性等」：下線部㉓

単元の評価規準は、次のように設定します。※(A)を「内容のまとめり」における学習の対象に置き換えて作成する。

例：(A)植物の体のつくりと働き  
※下線部は、学年によって表現が異なる場合があります。下線部例参照

◆「知識」は、「内容のまとめり」の知識に関する内容である(A)、(イ)などの文末を「～を理解している」とする。

◆「技能」は、「(A)」について、(省略)記録している」とする。

◆「思考・判断・表現」は、学年で主に育成を目指す問題解決の力を踏まえ、「(A)」について、(省略)表現するなどして問題解決している」とする。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「(A)」についての事物・現象に(省略)、(省略)問題解決しようとしている」「(A)」について学んだことを学習や生活に生かそうとしている」とする。

★「単元を通じた学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

植物が生きていくために必要なものが、体のつくりと働きとどのように関わっているのか課題解決していく中で生命の神秘や植物の存在意義について気付かせること狙って、書き表した例

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第6学年 理科 学習構想案  
1 単元構想

単元名	「植物の養分と水の通り道」		
単元の目標	植物の体のつくりと体内の水などの行方や葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、植物の体のつくりと働きについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により適切な考えをつくりだし力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。	①植物の体のつくりと働きについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を案出し、表現するなどして問題解決している。	①植物の体のつくりと働きについての事物・現象に進入し、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。
	②根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されることを理解している。	②植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などを行い、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より適切な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	②植物の体のつくりと働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
③植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程で得られた結果を適切に記録している。			
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
④植物の体のつくりと働きを理解し、生命の神秘を感じることも、生物としての関わりや植物の存在意義について考え、環境の保全などに生かそうとする児童			
単元を通じた学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
植物が生きていくために必要なものは、植物の体のつくりや働きとどのように関わっているのだろうか。		植物の体のつくりと体内の水などの行方や葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べ、植物の体のつくりと働きを捉えること。	
指導計画と評価計画（1:0時間取扱い、本時7/130）			
通観	時間	学習活動	評価の観点等
1	1	○日当たりのよい場所の植物や日かげの植物のようすを観察する。 ○学校の高い樹木（イチョウなど）のようすやしおれた植物に水を与えたときのようすなどを観察する。 ○観察したことから各自が気づいたことや問題を言い出す。	【意01】（記述分析）
	2	○各自が見出した問題を基に、学級共通の問題を設定する。 なほ植物は日光が当たると、よく成長するのだろうか。	★【意01】（記述分析） ○日光と葉にできるでんぷんの関係を予想や仮説を基に、条件を比較する等の解決の方法を案出し、表現している。
	4	○日光によって、養分（でんぷん）ができるかどうかを調べる方法を考える。 ○日光と葉にできる養分（でんぷん）の関係を調べる。 ○日光を当てた葉と当てない葉の浸いを結果から比較し、結論を導き出す。	★【知02】（行動観察・観察分析） ○日光と葉にできるでんぷんの関係について、得られた結果を適切に記録している。 ★【知01】（記述分析） ○植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 【意01】（行動観察・発言分析）

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿と なっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有したい場合、共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は環境への保全)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ①「～を考え」に、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ②「生かそうとする」に、実生活の場面でのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています(この場合は、「環境の保全などに生かそうとする」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通じた学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通じた学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ②「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。(理科の場合は、自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの視点で捉える)
- ④「～する」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。(理科の場合は、比較したり、関係付けたりする方法を用いて考える)

○単元の目標及び評価規準の設定

生活科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。

生活科の各内容には、一文の中に「児童が直接関わる学習対象や実際に行われる活動等」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「知識及び技能の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の四つが構造的に組み込まれている。具体的な学習対象や活動を入れて、3つの資質・能力につなげて作成する。一文で示す場合もある。

単元の評価規準は、次のように設定します。

学習指導要領解説生活編において示された各内容の資質・能力に関する記述等を参考に具体的な学習対象や活動を入れる。

◆「知識・技能」は、文末表現を「分かっている」「気付いている」などとする。気付きなどの知識の基礎や生活上必要な習慣、技能を記述する。

◆「思考・判断・表現」は、「～考えている」「～している」などとする。具体的な学習活動において期待する思考と児童の姿を記述する。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「～しようとしている」などとする。①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信、に関して具体的に表したものの、児童の姿を記述する。

★「単元を通した学習課題」のポイント

□子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか

□見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

□子供たちと共有できる表現ですか

□単元のゴールの姿に迫るものですか

家庭の中で、自分ができることについて考え取り組んでいくことを通して、自分の役割に気付き積極的に役割を果たしていくことを狙って、書き表した例

①「どんなことだろう」という問いかけにして単元のゴールの実現を図る。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第1学年生活科 学習構想案

1 単元構想

単元名	「ひろがれ えがお」		
単元の目標	○家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる。 ○家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができる。 ○家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家庭での生活は、互いに支え合っていることが分かり、家庭での自分の役割に気付いている。	家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家庭での家族のことやそのよき、自分でできることなどについて考えている。	家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとしている。

② 単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿、期待される姿）  
 家庭生活をよりよくするために取り組んだことを生かして、家族の笑顔が増えるように自分ができること続けたり、挑戦したりしようとする子供

単元を通した課題（単元の中心的な課題）	本単元で働かせる見方・考え方
家族のみんなが笑顔で生活できるように、自分ができること① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	家庭生活において、それぞれ果たしている仕事、役割があること、それらと自分との関わりで気付き、互いに支え合っていること、自分も家庭を構成している大切な一人であることがわかる。

指導計画と評価計画（10時間取扱い、木時 7/10）		学習活動	具体的評価規準
一	3	○家族を笑顔にするために、自分ができることについて考える。 ○家庭での生活を振り返り、家族がしていること、自分がしていることについて調べる。 ○家庭生活で、家族や自分がしていることについて絵や文で表現する。 ○家庭生活の中で、自分ができることや家族が喜んでくれるようなことについて考える。	[知] フォト・発言 ○家庭生活では、それぞれ果たしている仕事や役割があることが分かっている。 [思] ワークシート・発言 ○家族のことや自分がしていることについて表現している。 [知] フォト・発言 ○自分ができることや自分の役割に気付いている。
二	4	○自分ができることや挑戦したいことを、友達同士で教え合う。 ○自分でできることや挑戦したいことを決めて、計画を立てる。（家庭で実行）	★ [思] ワークシート ○家庭生活における役割を考え、自分ができることや挑戦したいことを計画している。 ★ [主] 発言・活動 ○家族を笑顔にするために、うまくできるように計画をし、練習をしたり、コツを聞いたりしている。
三	3	○家で取り組んだ自分でできることや挑戦したことを発表する準備をする。 ○家で取り組んだことや挑戦したことを実演や絵、文等で表現し友達に伝える。 ○これからも続けていくための計画をする。	★ [知] ワークシート ○家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気付いている。 ★ [思] ワークシート・交流 ○家庭で取り組んだことを振り返りながら、友達と交流している。 ★ [主] ワークシート ○自分でできることを続けることや生活リズムや健康についても気を付けて生活しようとしている。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか  
 (文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦ 単元で取り組みながら学んだこと(思いや願いを実現する過程)を示しています。
- ⑧ 単元を通して考えていく課題につながる言葉を示しています。
- ⑨ 「続けたり挑戦したりしようとする」に実生活の場面でのどのように生かしていくかを示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント」

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑩ 家庭生活において自分がどのように関わっているのか、身近な生活に関わる見方を示しています。  
 (※生活科の場合は、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉えること)
- ⑪ 家庭における大切な一人であり、自分ができることはどんなことか等の考え方を示している。  
 (※生活科の場合は、自分自身や自分の生活について考えていくこと)

○題材の目標及び評価規準の設定

音楽科の場合、題材の目標を、次のように設定します。

- (1)の「知識及び技能」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～について理解するとともに～身に付ける」として示す。
- (2)「思考・判断力、表現力等」の目標については、指導事項の内容に応じて、それぞれの具体的内容に置き換え、文末を「～する」として示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、当該学年の目標(3)を参考に、必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて示す。

題材の評価規準は、次のように設定します。

- ◆「知識・技能」は、「知識及び技能」の指導事項の文末を「～している」とする。
- ◆「思考・判断・表現」は、「評価の観点の趣旨」を踏まえ、児童生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択し、「音楽を形づくっている要素を覚し、」と示し、文末を「～している」とする。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「評価の観点の趣旨」をそのまま設定する。文頭部分には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童生徒に興味・関心をもたせたい事柄を示す。

★「題材を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが題材を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 題材のゴールの姿に迫るものですか

歌唱共通教材の表現の工夫に取り組むことを通して、我が国で長く歌われている歌曲のよさに触れ、魅力を味わうことをねらって、書き表した例

- ④「～の」に、学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。
- ⑤「～しよう」に、学習活動を設定しています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、題材を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、題材を構想しましょう。

中学校第3学年 音楽科 学習構想案

1 題材構想

題材を	歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう (教材:「荒城の月」「早春賦」)		
題材の目標	(1)「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 <知識及び技能>A(1)イ(ア)・ウ(ア) (2)「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知見し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 <思考力、判断力、表現力等>A(1)ア (3)「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。 <学びに向かう力、人間性等>		
題材の評価規準	知識・技能 ①「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 ②創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	思考・判断・表現 ①「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知見し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。	主体的に学習に取り組む態度 ①「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

題材終了時の生徒の姿(題材のゴールの姿・期待される姿)  
 ④これから出会う日本の曲についても魅力を味わい、工夫して表現しようとする生徒。

題材を通した学習課題  
 ④我が国で長く歌われている歌曲の魅力を味わおう。  
 本題材で働かせる見方・考え方  
 音楽に対する感性を高め、歌詞、リズム、速度、旋律、強弱等とそれらの働きとの視点で捉え、自己のイメージや感情などと関連付けること。

指導計画と評価計画(4時間取扱い ※本時3/4)

時間	学習活動	評価の観点等 (★は記載し、④は評価の観点で「具体的評価規準」)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「荒城の月」、「早春賦」の歌詞を音読したり、歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などを学習シートに記入する。</li> <li>○二つの曲を歌い比べながら、それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートに書く。</li> </ul>	【態④】ワークシートの記述・観察
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「荒城の月」を歌ったり、CDを聴いたりして、リズム(拍子)、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱を知見し・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。</li> <li>○「荒城の月」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて歌う。</li> </ul>	【態④】ワークシートの記述・観察 【思④】ワークシートの記述・発言
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。</li> <li>○「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム(拍子)、速度、旋律、強弱を知見・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。</li> </ul>	★【知④】ワークシートの記述 ○ 曲の雰囲気や感情、味わいなどが、どのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを察している。 ★【思④】ワークシートの記述・発言 ○ 感じ取った曲想や音楽の構造、歌詞の内容などに触れながら、どのように歌いたいかについて、自分なりの思いや意図を書いている。

★「題材終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

今後の学習や実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦ 今後の学習や実生活の場面を示しています。
- ①本題材の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ②「～しようとする」に、実生活の場面でのように生かしたり、活動したりしようとしているかを示しています。

★「本題材で働かせる見方・考え方」のポイント

- 題材を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

題材を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑦教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。  
(※音楽の場合は、音楽を形づくっている要素とその働きへの着目)
- ⑧教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。  
(※音楽の場合は、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること)

○題材の目標及び評価規準の設定

美術科の場合、題材の目標を、次のように設定します。

- (1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～(する)」として示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性」の目標については、いずれの題材においても当該学年の目標である「～美術の創造活動の喜びを味わい、～」の部分を示す。」

題材の評価規準は次のように設定します。

- ◆「知識及び技能」は、「知識及び技能」の「知識」は、共通事項の内容を示している。文末を「～理解している」として示す。「技能」は「A表現」(2)の内容を示している。文末を、「～表している」として示す。
- ◆「思考、判断、表現」は「思考力、判断力、表現力等」は、「A表現」(1)及び「B鑑賞」の内容を示している。文末を、「～している」として示す。指導事項の一部を用いて示すこともある。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、<①粘り強い取組 ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容 ④当該題材の具体的な言語活動>の①～④の内容を全て含め、題材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫して示す。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、題材を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、題材を構想しましょう。

中学校第3学年 美術科 学習構想案

1. 題材構想		
題材名	魅力が伝わるパッケージ ～地元商店街の包装紙をつくろう～ (「日本文教出版 美術2・3下」P.32～33)	
題材の目標	(1) 包装や配色及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。 意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。 (2) 商品を受け取る人の気持ちのイメージなどから主題を生み出し、形や色彩などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。 構成や装飾の調和のとれた表現された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、自身のイメージが多くの人に伝わるように、魅力的な包装や配色などを考えることなどを基に表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとする。	
題材の評価規準	知識・技能	①形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果などを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 ②材料や用具、表現方法の特性などから、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。
	思考・判断・表現	①構成や装飾の目的や条件などを基に使用する者の立場、社会との関わり、模倣やユーモアなどから主題を生み出し、包装紙やパッケージの構成と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 ②目的や機能との調和のとれた表現された美しさなどを感じ取り作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。
	主体的に学習に取り組む態度	①美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、形や色彩などが感情にもたらす効果や、模倣と美しさとの調和などを総合的に考え、表現の意図と創造的な工夫などに取り組もうとしている。 ②美術の創造活動の喜びを味わい、包み込む包装紙の調和のとれた表現された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める態度の学習活動に取り組もうとしている。

★「題材終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿と なっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか。

実生活(この場合は表現活動)の場面で学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦「～するときに」に、実生活の場面を示しています。
- ⑧本題材の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ⑨「表現しようとする」に実生活の場面でのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています。(この場合は「日常の表現活動の中で自分の表現方法を追求できる」ことを想定)。

★「本題材で働かせる見方・考え方」のポイント

- 題材を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか。

題材を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考して(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑩「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。  
(※美術の場合は、造形的な視点)
- ⑪「～する」にあたる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。  
(※美術の場合は、自分としての意味や価値をつくりだすこと)

★「題材を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが題材を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 題材のゴールの姿に迫るものですか

地元商店街のオリジナル包装紙をつくるという課題に取り組むことを通して、商品を受け取る人の気持ちをイメージすることをねらって、書き表した例

- ⑫「～を」に学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。
- ⑬「～しよう」に表現内容を設定しています。

⑫ 題材終了時の生徒の姿(題材のゴールの姿・期待される姿)  
自分(者)したいことに合わせて形や配色等の表現の調和を練ると共に、商品を受け取る人の感情にもたらす効果などをイメージし、自分の表現方法を追求して表現しようとする生徒

⑬ 題材を通した課題(題材の中心的な課題) ⑭ 本題材で働かせる見方・考え方  
商品を受け取る人の気持ちをイメージしながら、地元商店街のオリジナル包装紙をつくる。  
造形的な視点で捉える感性や創造力を働かせ、商品を受け取る人の気持ちをイメージしながら、自分(者)が深く考えたいことを表現する表現方法を追求する生徒

指導計画と評価計画(8時間取扱い、本時 2/8)		
過程	時間	学習活動(問いを設定しても可)
鑑賞	1	○包装紙の参考作品を鑑賞する活動を通して、作者の心情や意図、表現の工夫に気付く、対話を通してそのよさを味わう。
発想構想	2	○商店街で販売されている商品を知り、主題を基に、形や色彩などが感情にもたらす効果や美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。
知識技能	4	○決めたデザインを基に、意図に応じて表現方法を創意工夫し、見通しをもって創造的に表す。
鑑賞	1	○でき上がった生徒作品を鑑賞し、それぞれがデザインした作品についての見方や感じ方を深める。

- 評価の観点等  
★は記述に際し評価の場面で「主体的な表現」
- ★【知①】(観察)【観①】(観察)  
○造形的な視点をもち、参考作品の工夫点に気付く、作者の心情について感じ取っている。
  - ★【思①】(ワークシート・観察)  
○形や色彩の効果を生かして、構成や装飾を考え、企画書に表現している。
  - ★【知②】(作品・ワークシート・観察)  
○イメージした色調で、リズムを考えた配置で下書きをしている。  
○背景と同系色を使い、繰り返し、色による強弱を加えるなど、工夫して着色している。
  - ★【思②】(ワークシート・発言)  
★【思③】(観察)  
○造形的なよきや工夫点について掘り下げながら鑑賞し、友達の商品のイメージを味わっている。

○題材の目標及び評価規準の設定

技術・家庭科(技術分野)の場合、題材の目標を、次のように設定します。

- (1)の「知識及び技能」の目標については、基本的に各内容A～Dの指導事項アの文末を「～について理解する。」「～できる。」として示す。
- (2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に各内容A～Dの指導事項イの文末を「考える。」として示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」は基本的に学習指導要領解説に例示されている文章(A(1)ではP27, 6行目～)やP60「技術分野 資質・能力系統表」を参考に「～の態度を育成する。」として示す。

題材の評価規準は、学習指導要領解説P60「技術分野 資質・能力系統表」等を参考にしながら具体的に作成する。

◆「知識・技能」は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を分野の観点の趣旨に基づき、「～について(を)理解している」、「～ができる技能を身に付けている」として作成する。

◆「思考・判断・表現」は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項イについて、その文末を分野の観点の趣旨及び学習過程における各項目の位置付けに基づき「～について考えている」として作成する。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は基本的には、分野の観点の趣旨に基づき、当該項目の指導事項ア、イに示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～しようとしている」として作成する。

また、この観点の評価規準は、一連の学習過程で育成される資質・能力の関連に配慮し整理することが大切である。例えば、各内容における(1)で身に付ける「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力は、各内容における(2)及び内容の「D情報の技術」の(3)の「技術による題の解決」の学習に生かされるものであることから、各内容の(1)では「主体的に技術について考え、理解しようとする態度」について評価することが考えられる。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、題材を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、題材を構想しましょう。

中学校第3学年 技術・家庭科（技術分野）学習構想案

1 題材構想

題材名	D情報の技術「プログラムを用いた栽培管理システムを作ろう」		
題材の目標	(1)計画・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 (2)前題材で実施した栽培活動から問題を見いだして課題を設定し、その解決のために計画・制御システムを構想して具体化し、最適なプログラムの制作やデバッグ、結果の評価、改善及び修正について考える。 (3)、自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度や、自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度を育成する。		
題材の評価規準	①生活や社会で利用されている基礎的なプログラミングの知識と栽培の管理作業との関わりについて理解している。 ②安全で最適なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。	①栽培に関わる問題を見いだして、必要な機能をもつコンテンツのプログラムや計画・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、具体的な解決策を構想しようとしている。 ②作成したプログラム等を評価・改善して課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよいシステムになるように改善しようとし続けようとする力を身に付けている。	①よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。 ②自身の課題解決について振り返ったり、改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。
題材終了時の児童の姿（単元のゴールの姿、期待される姿）	生活の中から問題を見だし、自ら課題を設定し、課題解決に向けたプログラムを設計・作成し、完成したプログラムを応用なものにしようとし、改善し続けようとする姿		
題材を通した学習課題（単元の中心の学習課題）	①よりよい管理作業をおこなうために、最適なプログラムを作成しよう。	②本題材で働かせる見方・考え方 管理作業を自動化する際に、社会からの要求、安全性、経済性等に配慮しながら、プログラムを作成し、最適化する。	
題材を通した学習課題の観点等	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度		

★「題材を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが題材を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 題材のゴールの姿に迫るものですか

統合的な問題を解決するため、「B生物育成の技術」で見いだした問題から課題を設定し、「D情報の技術」(3)において解決することを想定して書き表した例

- ①学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。
- ②必然的に見方・考え方を働かせるような、表現をすることも考えられます。

★「題材終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

今後の実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦実生活の場面を示しています。
- ①本題材の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ⑦実生活の場面でのどのように活動したり、考えたりしようとしているが示しています。

★「本題材で働かせる見方・考え方のポイント

- 題材を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

題材を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ②教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。
- ③教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。

○題材の目標及び評価規準の設定

家庭分野の場合、題材の目標を次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標は、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標は、(1)(2)を踏まえて、「生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。」と示す。

単元の評価規準は、次のように設定します。

◆「知識・技能」は、基本的には、「知識及び技能」の指導事項の文末を、「～について理解している」、「～について理解していると、適切にできる」とする。

※「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」とする。

◆「思考・判断・表現」は、「思考力、判断力、表現力等」に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価する。①家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見だして課題を設定している」、②課題解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について(実践に向けた計画を)考え、工夫している」、③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」、④計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを論理的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している」とする。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、①粘り強さ(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)、②自らの学習の調整(その中で自らの学習を調整しようとする側面)、③実践しようとする態度、を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている(③)」とする。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第1学年 技術・家庭科(家庭分野) 学習構想案

1 題材構想

題材名	家族・家庭や地域との関わり		
題材の目標	(1) 家族の互いの立場や役割、家族関係をよりよくできること、家庭生活と地域との相互の関わり、高齢者など地域の人々と協働する必要があること、介護など高齢者との関わり方について理解する。 (2) 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。 ②家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。	①家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
題材終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
①家族・家庭や地域との関わりにおいて、家族の互いの立場や役割、②家庭生活と地域との相互の関わり、③高齢者など地域の人々との協働に関する知識や、課題を解決する力を身に付け、④家族や地域の人々との関わり方を工夫し創造しようとする生徒			
題材を通した学習課題 ・よりよい生活のために、家族や地域の人々と、どのように関わるとよいのだろうか。		本題材で働かせる見方・考え方 「協力・協働」の視点から、課題を解決する力や、家族や地域の人々との関わり方を工夫し創造しようとする。	

★「題材を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが題材を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 題材のゴールの姿に迫るものですか

家族や地域の人々とどのように関わるとよいかという課題に取り組むことを通して、よりよい関わり方を見付けていくことをねらって書き表した例

①「～のために」に、題材のゴールのイメージを示しています。

★「題材終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は家族・家庭や地域との関わり)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦「～において」に、実生活の場面を示しています。
- ⑧「家族や地域の人々との関わり方」に、本題材の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ⑨「工夫し創造しようとする」に、実生活の場面でどのように実践しようとしているかを示しています。

★「本題材で働かせる見方・考え方」のポイント

- 題材を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

題材を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて、思考していくかを想定して、書き表した例

⑩「～の視点」に、教科等の特質に応じた見方・考え方に関する内容を示しています。  
(※家庭分野の場合、ここでは「協力・協働」の視点)



○単元の目標及び評価規準の設定

保健体育科〔体育分野〕の場合、単元の目標を、次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標とも、基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。

単元の評価規準は、次のように設定します。

◆体育分野の「知識・技能」は、知識と技能に分けて示す。「知識」は〔知識及び技能〕の例示の文末を「～について言ったり書き出したたりしている。」「～について学習した具体例を挙げている。」とする。「技能」は例示の文末を「～ができる。」とする。

◆保健分野の「知識・技能」は、例示の表現を「～について言ったり、書き出したたりしているとともに、～ができる。」と示す。

◆「思考・判断・表現」は、〔思考力、判断力、表現力等〕の例示の文末を「～している」とする。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生については〔学びに向かう力・人間性〕の例示を「～しようとする。」として示す。健康・安全については「～している。」として示す。

※各観点とも、上記を基本とするが、授業の場面に応じて、さらに具体化したものにすることもある。

★「単元を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか
- 「知識及び技能」など一部が重視されることなく3つの資質・能力をバランスよく学習できる表現ですか

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第1学年 球技 ゴール型 サッカー 学習構想案  
1 単元構想

単元名	球技 ゴール型 サッカー		
単元の目標	(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。		
単元の評価規準	【知識】 ① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したたりしている。 ② 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 【技能】 ① ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ② 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	【思考・判断・表現】 ① 提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③ 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 ① 練習の補助をしたり仲間を助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ② 健康・安全に留意している。
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	仲間と協力して学習する中で、サッカー（球技）に関する理解を深め、ゴール前での攻防を展開して楽しさや喜びを味わい、日常生活でも球技をはじめスポーツで多様な関わり方をする生徒		
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しもう。		
	本単元で働かせる見方・考え方 ① サッカー（球技）の勝敗を競う楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目し、② ボールを操作しながらゴール前での攻防をするポイントや仲間の出来映えを見たり、仲間を助言したりして支えたり、サッカーの特性や名称、ポイント等を知る、といった多様な関わり方と関連付けること。		

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦ 休み時間や休日の遊びやテレビ視聴など日常生活とまとめて、実生活の場面を示しています。
- ⑧ 3つの資質・能力及び生徒の適正等を踏まえるとさまざまに考えられることから多様な関わり方としてまとめて示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、単元の評価規準から見方・考え方を書き表した例

- ⑨ 単元の学習全体を通した見方を示します。考え方は、多様な関わり方として、
- ① 主に「技能」から「する」、
- ② 「思考・判断」の視点から「みる」、
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」から「支える」
- ④ 「知識」から「知る」内容を示します。

○単元の目標及び評価規準の設定

外国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

(1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

(3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても外国語科の目標である「他者に配慮しながら～しようとする。」の部分を示す。

単元の評価規準は、五つの領域別目標ごとに、次のように設定します。

◆「知識・技能」のうち、「知識」は、「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。「技能」は、「【事柄・話題】について【言語材料】などを用いて～する技能を身に付けている」が基本的な形となる。

◆「思考・判断・表現」は、「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について～している」が基本的な形となる。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について～しようとしている。」が基本的な形となる。  
※本単元において、目標に向けて指導を行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない領域について明記する。

★「単元を通した学習課題」のポイント

□子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか

□見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

□子供たちと共有できる表現ですか

□単元のゴールの姿に迫るものですか

将来の夢に近づくためのオリジナルの時間割を伝え合うという課題に取り組むことを通して、他者によりよく伝えられるようになることをねらって、書き表した例

- ㊦「～ために」に、言語活動の目的を示しています。
- ㊧「～しよう」に、学習内容や指導事項を示しています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第5学年 外国語科 学習構想案

1 単元構想

単元名	「What do you have on Monday?」(発行者名「教科書名」,○○～○○)		
単元の目標	(1)教科や時間割について聞いたり言ったりすることができる。また、活字体の小文字を識別し、読むことができる。[知識及び技能] (2)相手に自分のことをよく知ってもらうために、相手に伝わる工夫をしながら時間割や学びたい教科について伝え合うことができる。[思考力、判断力、表現力等] (3)相手に伝わる工夫をしながら、時間割や学びたい教科について伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	「聞くこと」(ウ) 【知識】 教科の言い方や、What subjects do you like? What do you have on ~? その答え方について理解している。 【技能】 好きな教科や時間割など、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	「聞くこと」(ウ) 相手のことをよく知るために、時間割や学びたい教科などについて、その概要を捉えている。	「聞くこと」(ウ) 相手のことをよく知るために、時間割や学びたい教科などについて、その概要を捉えようとしている。
	「話すこと〔やり取り〕」(イ) 【知識】 教科の言い方や、What subjects do you like? What do you have on ~? その答え方について理解している。 【技能】 好きな教科や時間割などについて、What subjects do you like? What do you have on ~? 等を用いて考えや気持ちなどを伝え合うために必要な技能を身に付けている。	「話すこと〔やり取り〕」(イ) 自分のことをよく知ってもらうために、相手のことをよく知ったりするために、自分の考えたオリジナルの時間割や学びたい教科などについて伝え合っている。	「話すこと〔やり取り〕」(イ) 自分のことをよく知ってもらうために、相手のことをよく知ったりするために、自分の考えたオリジナルの時間割や学びたい教科などについて伝え合おうとしている。
	「読むこと」 ※本単元における「読むこと」については、目標に向けて指導は行いが、本単元内で記録に残す評価は行わない。		

㊦ 単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)

相手のことを知るために、時間割や好きな教科などについて、必要な語句や表現を使って、伝える相手に応じて工夫をしながら伝え合っている児童

㊦ 単元を通した学習課題

お互いのことをよく知るために、相手の夢に近づくためのオリジナルの時間割や学びたい教科などについて伝え合う。

㊦ 本単元で働かせる見方・考え方

相手の好きなことを聞きながら、伝えたり尋ねたりする内容や表現を工夫すること。

㊦ 指導計画と評価計画(7時間取組、本時7/7)

週	時間	学習活動	評価の観点等 (本時評価に該当する評価の場及び具体的評価規準)
一	1	○単元のゴールを確認する。 ○世界の学校生活の様子を知り、自分たちとの共通点や相違点について考える。 ○教科や曜日の言い方について知り、言ったり聞いたりする。 ○時間割や曜日について尋ねたり答えたりする言い方を知る。	「聞くこと」(ウ) 【知】(ワークシート、行動観察)
二	2	○活字体の小文字を識別して読み、アルファベットの発音や書き方を確認し、読み取ったり書いたりする。	「話すこと〔やり取り〕」(イ) 【知】(行動観察)

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

□目標や評価規準を要約し、具体的なコミュニケーションの目的や場面、状況に応じた望ましい子供の姿となっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童)」)

□子供たちと共有できる表現になっていますか

実際に他者とコミュニケーションを図る場面で学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ㊦「相手のことを知るために」に、コミュニケーションの目的を示しています。
- ㊧「～について」に、コミュニケーションの事柄・話題を示しています。
- ㊨「～しながら伝え合っている」に、実際のコミュニケーションの場面でどのように活動したり考えたりしているかを示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

□単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか  
□見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ㊦「～を踏まえて」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。(※外国語の場合は、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えること)
- ㊧「～すること」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。(※外国語の場合は、コミュニケーションの目的・場面、状況等に応じて、考えなどを形成、再構築すること)

○単元の目標及び評価規準の設定

外国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

- (1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても外国語科の目標である聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら～しようとする。」の部分を示す。

単元の評価規準は、五つの領域別目標ごとに次のように設定します。

- ◆「知識・技能」のうち、「知識」は、「【言語材料】の特徴や決まりに関する事項を理解している。」が基本的な形となる。「技能」は、「【言語材料】などを活用して、【事柄・話題】について～して。」が基本的な形となる。
- ◆「思考・判断・表現」は、「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について～している」が基本的な形となる。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について～しようとしている。」が基本的な形となる。

★「単元を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

夏休みの予定について伝え合うという課題に取り組むことを通して、他者によりよく伝えられるようになることをねらって、書き表した例。

⑤「～ために」に、言語活動の目的を示しています。  
⑥「～しよう」に、学習内容や指導事項を示しています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

中学校第2学年 外国語科 学習構想案  
1 単元構想

単元名	Unit 2 A Trip to the U.K. (New Horizon 2 P.18～)		
単元の目標	(1) be going to+動詞, show+A+B, call+ A+B などを用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。【知識及び技能】 (2) 週末や夏休みの予定などをALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、伝え合うことができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 相手に配慮しながら、英語を用いて週末や夏休みの予定などについて伝え合うとする。「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	「話すこと〔やり取り〕」(f) ・be going to+動詞, show+A+B, call+A+B を用いた文の構造を理解している。 ・週末や夏休みの予定などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、be going to+動詞, show+A+B, call+A+B などの簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	「話すこと〔やり取り〕」(f) ・ALTに自分の予定を伝えるために、週末や夏休みの予定などを、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	「話すこと〔やり取り〕」(f) ・ALTに自分の予定を伝えるために、週末や夏休みの予定などを、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

⑦ 単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿、期待される姿)

お互いのことをよく知るために、週末や夏休みの予定などについて、相手に配慮しながら、予定や事実、自分の考えなどを整理し伝えたり、相手からの質問に答えたりして伝え合っている生徒。⑦

⑧ 単元を通した学習課題 (単元の中心となる学習課題)	⑨ 本単元で働かせる見方・考え方
「日本の中学生の夏休み」をよく知ってもらうために、ALTの先生と「夏休みの予定」について伝え合う。⑧	ALTの背景にある文化や、興味・関心に配慮しながら、夏休みの予定などについて、内容や表現を工夫すること。⑨

指導計画と評価計画 (10時間版) 本時 8/10

単元	時	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ※1:知識・技能・表現の観点 ※2:主体的に学習に取り組む態度
-	1	○単元の目標を理解し、自己目標を設定する。 ○主人公の予定を読み取り、説明する。 ○週末や夏休みの予定を伝え合い、相手か	【知】【思】 (ワークシート・行動観察)

★「単元終了時の生徒の姿」のポイント

- 目標や評価規準を要約し、具体的なコミュニケーションの目的や場面、状況に応じた望ましい生徒の姿となっていますか (文末は「～している(しようとしている)子供(生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実際に他者とコミュニケーションを図る場面で学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ⑦「お互いのことをよく知るために」に、コミュニケーションの目的を示しています。
- ⑧「～について」に、コミュニケーションの事柄・話題を示しています。
- ⑨「～伝え合っている生徒」に、実際のコミュニケーションの場面でどのように活動したり考えたりしているかを示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ⑨「～に配慮しながら」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。(※外国語の場合は、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えること)
- ⑩「～すること」に当たる文言に、教科等の特質に応じた考え方に関する内容を示しています。(※外国語の場合は、コミュニケーションの目的・場面、状況等に応じて、考えなどを形成、再構築すること)

○主題名、ねらい、評価の視点の設定

【主題名、ねらい】

道徳科では、①ねらいや指導内容についての教師のとらえ方、②それに関連する子供のこれまでの学習状況や実態と教師の願い、③使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法等をもとに、主題を設定していきます。

※次頁以降の「2 主題設定の理由」に示しています。

※「ねらい」…道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものの。

※「主題」…指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。

※「主題名」…ねらいと教材で構成した主題を、授業の内容が概観できるように端的に表したものの。

【評価の視点】

次の2つの視点から子供たち一人一人の学習の状況を評価します。

視点1 一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか。

視点2 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

★「主題に迫る学習課題」のポイント

- 子供たちが興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 目指す児童の姿に迫るものですか

道徳科の場合は、1単位時間で1つの内容項目を取り扱うことが一般的ですので、ここに示す「学習課題」は本時の「学習課題」とリンクさせています。

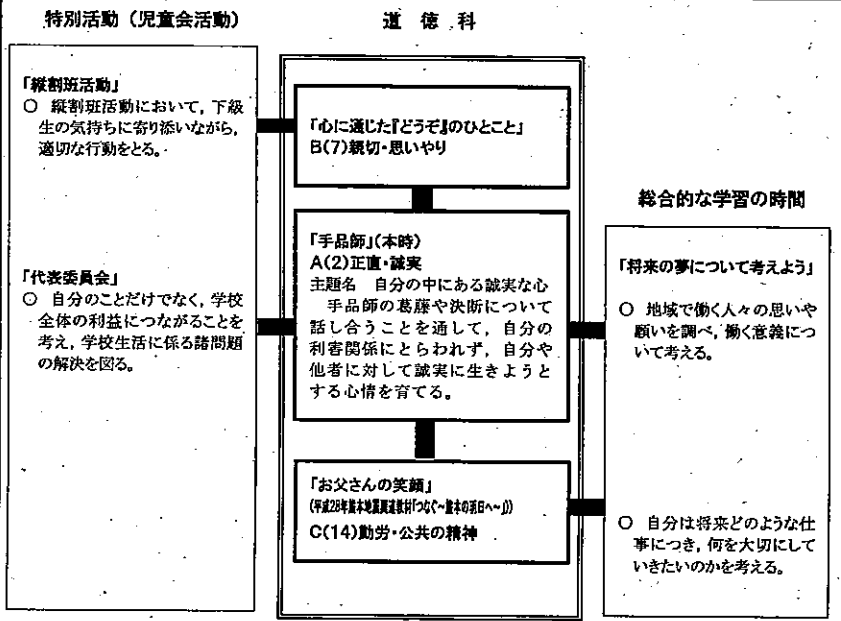
子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、どのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、学習構想を立てましょう。

小学校第6学年 道徳科 学習構想案

1 学習構想

主題名	自分の中にある誠実な心 (内容項目A(2)正直, 誠実)	
ねらいと教材	(1)ねらい	手品師の葛藤や決断について話し合うことを通して、自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする心情を育てる。
	(2)教材名	手品師 出典:「〇〇(〇〇社)」
評価の視点	評価の視点1	問題に直面した際の言動やその判断の根拠について、誠実さという点から多面的・多角的に考えようとしている。
	評価の視点2	自分の中にある誠実さについて振り返り、これまでの自身の言動と重ね合わせながら考えようとしている。

目指す児童の姿	
自分の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする児童	
主題に迫る学習課題(本時)	本主題で働かせる見方・考え方
判断に迷ったとき、どんな心をもって、選ぶよいか。	誠実さについて多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながら、自己の生き方についての考えを深めていくこと。
内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導	



★「目指す児童の姿」のポイント

- ねらいや評価の視点を踏まえた子供の姿となっていますか。(文末は「～しようとしている子供」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践しようとしている子供の姿を示します。

★「本時で働かせる見方・考え方」のポイント

- 学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

道徳科の見方・考え方は、道徳科の目標に示されている「様々な事象を、道徳的価値の理解を基に自己との関わりで(広い視野から)多面的・多角的に捉え、自己の(人間としての)生き方について考えること」です。ここでは、本時のねらいに合わせて記述します。

★「内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導」作成のポイント

【関連的・発展的な指導】  
内容項目相互の関連性、発展性を考慮して指導の順序を工夫することで、子供たちの実態に応じた適切な指導を行うことができます。

【各教科等、体験活動等との関連的指導】  
道徳科は、各教科等、体験活動等との関連的指導や複数時間の関連を図った指導等を意図的・計画的に行うことで、指導の効果を高めることができます。

※道徳教育の全体計画別業(各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの等)を参考としながら、道徳科の授業を単発とせず、いかに他の内容項目や教育活動との関連を図ることができるか、その構想の工夫が求められます。

# 学習構想案作成のポイント (本時)

## 導入の工夫

導入は、主題に対する子供の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階です。

### 【具体的な導入の例】

- ①本時の主題に関わる問題意識をもたせる。
- ②教材の内容に興味や関心をもたせる。

## 展開の工夫

展開は、ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、子供たち一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階です。

### 【具体的な展開の例】

発問を中心にする...

- ①教材に描かれている道徳的価値に対する子供たち一人一人の感じ方や考え方を生かす発問を行う。
  - ②物事を多面的・多角的に考えたり、子供が自分との関わりで道徳的価値を理解したりする発問を行う。
- ※教師の指導の意図(目の前の子供の実態を踏まえ、どのようなことを考え、気づいてほしいのか)を明確にした学習活動が重要!

## 終末の工夫

終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

### 【具体的な終末の例】

- ①学習を通して考えたことや新たに学んだことを確かめる。
- ②学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。

## 4 本時の学習

### (1)ねらい

手品師の葛藤や決断について話し合うことを通して、自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする心情を育てる。

### (2)展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 本時の学習課題を知る。 ①二者択一の場面を与え、児童に考えさせる。 「運動会の仕事」と「委員会活動の仕事」と重なったとき、どんな理由で一方を選び、関係する友達や担当の先生に説明しますか。  【学習課題】判断に迷ったとき、どんな心をもって、選ぶとよいのか。	【「問い」を生み出す手立て案】 ○打算的な考え、他者を優先した考え、自身の信念等を基にした考えなど、様々な視点から選んだ理由を出させることで、自身の経験に基づく様々な判断規程を想起させ、本時の学習課題につなげる。
		②教材「手品師」の概要を把握する。 ◇「手品師」という仕事は、人を笑顔にする夢のある仕事だなぁ。 ◇「手品師」は、何に迷ったのだろう。	○学習課題の提示後に、教材「手品師」と出会わせ、「手品師」という職業や登場人物の葛藤場面について簡単に紹介することで、教材の中に描かれている問題に気付かせ、中心発問につなげていきたい。
展開	30分	2. 教材を読み、道徳的価値について考える。 ①手品師は、友人からの誘いを聞いて、どのようなことを考えたか。  【男の子】 ↔ 【大劇場】 ◇男の子を元氣付けない。 ◇男の子と約束したから。 ◇誘ってくれた友人が悪い。 ◇大劇場の舞台に立ち、夢をかなえたい。	(欄に応じた支援) ○男の子との約束を守るだけでなく、絶え間ない努力によって夢を叶えることにも誠実さがあることを踏まえて発問を行う。 ○自分や友達の考えの立ち位置が視覚的に分かるように、スケール図にネームプレートを貼るようにする。
		②どちらにも共通する大切な心とは何だろう。 ◇人を幸せにしたいと思う心 ◇人が喜ぶ姿をみたいと思う心 3. 自分自身を振り返る。 ① 手品師のような心が自分の心の中にもあるか、考えよう。 ◇ これまでよく考えずに友達に合わせて行動することが多かったけど、判断に迷ったときは、どちらがより人を大事にしたことなのかを、しっかり考えていきたい。 ◇ 手品師は、男の子との約束を守ったことで、チャンスを逃してしまったかもしれないけれど、自分で後悔をしない生き方をしていたと思う。自分も周りの人の気持ちや思いをしっかりと考えながら、後悔しない選択をしていきたい。	○多面的・多角的に考えられるように、児童の発言内容を受けて次の発問を行う。 【男の子】を選んだ児童に対して ・男の子との約束より大劇場のステージに立つことを選ぶことはいけないことか。 ・自分の夢をかなえようとするのは、いけないことか。 ・自分を犠牲にする必要があるのか。 【大劇場】を選んだ児童に対して ・男の子との約束を、自分の夢のために破ってよいのか。 ・男の子を悲しませてよいのか。 ○どちらを選んだにしても、児童自身の真面目さや真心(他者を思う心)が共通点としてあることに気付かせていきたい。
終末	10分	② どちらにも共通する大切な心とは何だろう。 ◇人を幸せにしたいと思う心 ◇人が喜ぶ姿をみたいと思う心 3. 自分自身を振り返る。 ① 手品師のような心が自分の心の中にもあるか、考えよう。 ◇ これまでよく考えずに友達に合わせて行動することが多かったけど、判断に迷ったときは、どちらがより人を大事にしたことなのかを、しっかり考えていきたい。 ◇ 手品師は、男の子との約束を守ったことで、チャンスを逃してしまったかもしれないけれど、自分で後悔をしない生き方をしていたと思う。自分も周りの人の気持ちや思いをしっかりと考えながら、後悔しない選択をしていきたい。	○委員会活動や学校行事等で働いている児童の姿をスライドで見せ、自分の心の中にある誠実さ(学校全体、友達、先生、低学年の児童、地域の人、家族等を大切にしたい心)を想起できるようにする。

【評価の視点1】問題に直面した際の言動やその判断の根拠について、誠実さという点から多面的・多角的に考えようとしている。(方法:発言・ワークシート)

【評価の視点2】自分の中にある誠実さについて振り返り、これまでの自身の言動と重ね合わせながら、考えようとしている。(方法:ワークシート)

## 「ねらい」について

内容項目を手掛かりとしながら、育てようとする道徳性(人間としてよりよく生きようとする人格的特性)を構成する諸様相(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度)の中で、焦点を当てるべきことを表記します。  
※道徳性の諸様相については、どれか一つを扱うと限られているわけではなく、複数をねらいとして扱っています。

## 「評価の視点」について

授業の「ねらい」は、子供たち一人一人の道徳性(道徳的判断力・心情・実践意欲・態度)を育てることですが、**道徳科の授業では、その道徳性がどれだけ育ったかを評価するのではなく、子供たち一人一人の学習状況を評価します。**  
※道徳科は人格そのものに働きかけていることから、他教科等の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」という観点別の評価が馴染まないため、「観点」とせず「視点」という言葉を用います。

【評価の視点1】一面的な見方から多面的・多角的な見方への発展しているか。

【評価の視点2】道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

教師は、授業のねらいとする道徳的価値に関する道徳性を育てるために、学習指導過程や指導方法を工夫しながら、主体的・対話的で深い学びを構想します。そのような指導の工夫を行うことにより、表出した子供の学びの姿を評価する(一人一人の学習状況を見取り、成長の様子を受け止め、認め、励ます)こととなります。

認め・励ます評価を実施することで、子供たち一人一人の道徳性を着実に育てていきましょう!

○単元の目標及び評価規準の設定

総合的な学習の時間の場合、単元の目標を、次のように設定します。

「内容のまとまり」をもとに、単元全体を見通して、総括的に目標を示すとともに、以下の4つの要素を構造的に配列した例

ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動

イ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「知識・技能」

ウ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」

エ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

単元の評価規準は、「内容のまとまりごとの評価規準」を参考に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての子供の姿を想定し、下記の項目に関して設定することが考えられます。

◆「知識・技能」は、「① 概念的な知識の獲得」、「② いつでも、滑らかに、安定して、素早く発揮することが可能な技能の獲得」、「③ 探究的な学習のよさの理解」。

◆「思考・判断・表現」は、「① 課題の設定」、「② 情報の収集」、「③ 整理・分析」、「④ まとめ・表現」の課程で育成される資質・能力を子供の姿として示す。

◆「主体的に学習に取り組む態度」は、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視。「① 自己理解・他者理解」、「② 主体性・協働性」、「③ 将来展望・社会参画」等。

★「単元を通じた学習課題」のポイント

□子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか

□見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか

□子供たちと共有できる表現ですか

□単元のゴールの姿に迫るものですか

職業について調べ、自分の未来について語ろうという課題に取り組むことを通して、これからの自己の生き方や生活に生かすことを狙って、書き表した例

- ①「～について調べ」に、探究的な学習活動に関する言葉を示しています。
- ②「～について語ろう」に、総合的な学習の時間で目指す態度を示しています。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第6学年 総合的な学習の時間 学習構想案

1 単元構想

単元名	職業について調べ、〇〇で育った自分の未来について語ろう。		
単元の目標	職業体験や職業について調べる活動を通して、 (1) 様々な職業のよさやそこで働く人々の思いに気付き、 (2) 自己の将来の夢やそのために今しなければならぬことについて考えるとともに、 (3) 学んだことをこれからの自己の生き方や生活に生かそうとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 社会には、様々な職業があり、それぞれに特徴や良さ、そこで働く人々の思いがあることを理解している。 ② 自分の夢や希望を実現するためには、その特徴に合わせて努力しなければならないことを理解している。 ③ 職業体験をしたり、職業について調べたりして収集した情報の関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。	① 自己の将来や夢について、理想との隔たりから課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ② 希望する職業や地元の職業に関する情報を、手段を選択して収集している。 ③ 収集した情報から、将来の夢の実現に向けて必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④ 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	① 職業について調べる体験を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ② 課題解決の状況を振り返り、自己の将来の夢の実現のために今しなければならぬこと等、課題の解決に向けてあきらめずに取り組もうとしている。

② 単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）  
様々な職業のよさやそこで働く人々の思いに気付き、自己の将来の夢や、そのために今しなければならぬことについて考え、これからの自己の生き方や生活に生かそうとする児童

① 単元を通じた学習課題  
職業について調べ、自分の未来について語ろう。

② 本単元で働かせる見方・考え方  
職業について多様な角度から捉え、将来の夢の実現のために、自分なりに努力しなければならないことについて考え、自己の生き方を問うこと。

単元	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に添った評価の場面で（具体的評価規準）
一次	8	○ 将来の夢や希望について考え、知っている職業を出し合い、単元のゴールを共有する。 ○ 他に、どのような職業があるだろうかという課題意識を持たせ、インターネットを利用して様々な職業を調べる。 ○ 調べた中から興味のある職業の一つ取り上げ、仕事内容、必要な資格や能力等について、具体的に調べる。 ○ 調べた情報を個人で活用紙にまとめ、発表の準備を行う。	【知①】（ワークシート） 【思②】（ワークシート）
		○ 個人で調べた職業の内容について、ポスターセッションを通して互いに発表を聞き合う。また、職業体験に来ていただいた方のインタビューを見て、職業選択の視点について考える。【本時】 ○ 自分の周りの大人の人がどのように今の職業を決めたのかインタビューする計画を立てる。	★【知③】（まとめ・行動観察） ○ 職業体験をしたり、職業について調べたりして収集した情報の関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。 ★【態①】（ワークシート・発表・行動観察） ○ 職業について調べる体験を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。

★総合的な学習の時間の特徴から、学校教育目標や全体計画を、資料として添付することが想定されます。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか  
(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ②「～に気付き」に、本単元の探究的な学習を通して身に付けた知識等を示しています。
- ①「～について考え」に、学習を踏まえ、実社会や実生活においても探究的な学習を展開することを示しています。
- ③「～に生かそうとする」に、自己の生き方を考えるという第1の目標に迫る姿を示しています。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通じた学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通じた学習課題を踏まえて、各教科等における見方・考え方を総合的に活用する見方・考え方  
・総合的な学習の時間に固有な見方・考え方（広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉えること、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けること）

を想定して、書き表した例

- ②「～から捉え」に、探究的な見方・考え方に関する内容を示しています。  
(※総合的な学習の時間の本単元の場合は、多様な角度から俯瞰して捉えること。)
- ③「～を問うこと」に、探究的な見方・考え方に関する内容を示しています。  
(※総合的な学習の時間の本単元の場合は、課題の追求を通して、自己の生き方を問い続けること。)

○内容のまとめりごとの目標及び単元(各議題及び各題材の一連の活動)の評価規準の設定

※各「議題」及び各「題材」における事前及び事後の活動を含めた「一連の活動」をここでは「単元」としています。

【参考】「議題」及び「題材」について  
 学級活動(1)の学習過程において、問題の発見・確認とは、学級や学校での生活をよりよくするため、児童が共通して取り組むべき課題を見いだすことを意味する。その課題の例としては、全員で協力して楽しく豊かな学級や学校生活にするために、取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決したいことなどが考えられる。ここで見いだされた課題を基に、児童によって提案されたことについて、教師の適切な指導の下に学級活動(1)で取り上げる内容を「議題」と称す。  
 学級活動(2)、(3)においては、(2)は現在の生活上の課題、(3)は現在及び将来を見通した生活や学習に関する課題という違いがあるが、問題の発見・確認、解決方法等の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りという基本的な学習過程は同じである。なお、教師がこれらの活動で取り上げたいことをあらかじめ年間指導計画に即して設定したものを「題材」と称す。(小学校学習指導要領解説特別活動編p.44-p.45)

例えば、「内容のまとめり」の一つである「学級活動(1)」の場合、目標を次のように設定します。「学級活動の目標」及び学習指導要領解説で例示した「学級活動(1)において育成を目指す資質・能力」を確認し、自校として育成を目指す資質・能力(内容のまとめりごと)を設定し、「目標」とします。

単元(各議題及び各題材の一連の活動)の評価規準は、上記「自校として育成を目指す資質・能力(内容のまとめりごと)」を踏まえ、単元(この場合は議題「2年〇組オリンピックをしよう」の一連の活動)ごとに評価規準を考えます。次のように設定します。

- ◆「知識・技能」は、話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉える。  
 ・目標の文末を「～を理解している」「～を身に付けている」とする。
- ◆「思考・判断・表現」は、話し合いや実践活動における習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉える。  
 ・「表現」には、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉える。  
 ・目標の文末を「～している」とする。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉える。  
 ・各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組む、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返り」という表現を用いる。  
 ・目標の文末を「～しようとしている」とする。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第2学年 特別活動 学習構想案  
 1 単元構想

単元名	議題「2年〇組オリンピックをしよう」		
内容のまとめりの目標	○学級や学校の生活上の諸問題を話し合ったり解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 ○学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 ○生活上の諸問題の解決や、協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①みんなで学級生活をよりよくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、「2年〇組オリンピック」の準備や活動を仲よく助け合って実践している。	②学級生活をよりよくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、「2年〇組オリンピック」の準備や活動を仲よく助け合って実践している。	③学級生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返りながら、自己の考えをもち、役割を専断して「2年〇組オリンピック」の準備や活動に取り組もうとしている。

単元終了時の児童の姿(題材のゴールの姿・期待される姿)  
 自分の役割を考え、学級会の話し合いで決まったこととともに、みんなで協力し、進んで活動に取り組むことができる児童。

単元を通じた課題: 本単元を働かせる見方・考え方  
 よりよいクラスを目指して、あきらめずに振り返り、みんなと協力し合える「2年〇組オリンピック」に取り組もう。  
 よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする。

指導計画と評価計画(事前の活動及び学級会、事後の活動)			
日時	形態	学習活動	評価の観点等
〇月〇日 学級会	計画委員会	○ 議題箱を開けて、議題を決定する。(提案された議題)「なかよしコンテストをしよう」「2年〇組オリンピックをしよう」「あいさつ大会をしよう」	本単元を働かせる見方・考え方 【知〇】(授業カード・観察)
〇月〇日 振り返りの会	学級会	○ 議題を決定する。	★【知〇】(観察) ○ 学級生活をよりよくするために、進んで課題を専断したり、見通しをもったりしている。
〇月〇日 学級会	計画委員会	○ 活動計画と学級会ノートを作成する。(提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること(条件等)の確認)	★【知〇】(活動計画・観察) ○ 計画委員会の役割や、話し合いの進め方の仕方等を理解している。
〇月〇日 学級活動	学級会	○ 学級会ノートに自分の考えを記入する。	【思〇】(学級会ノート)
〇月〇日	計画	○ 全員の学級会ノートを読み、意見を整理する。	【知〇】(観察)

★「単元を通じた課題」のポイント

- 何のために、どのような活動に取り組むのかわかる表現になっていますか
- 本単元の中心となる活動名が入った表現になっていますか
- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

・本単元の終末に行う「2年〇組オリンピック」で、学習したことを生かそうとする姿を想定して書き表した例・子供の姿を思い描く際、目標の三つの柱のうち特に、「学びに向かう力、人間性等」を参考にすることができます。特別活動の第1の目標(総括目標)の(3)「学びに向かう力、人間性等」にあたる部分には、特別活動において重視する三つの視点がすべて含まれているからです。  
 ※第1の目標(3)  
 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点を意識した見方・考え方になっていますか
- 「単元を通じた課題」を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

・特別活動で育成したい資質・能力の重要な三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」は、相互に関わり合っていて明確に区別されるものではありません。  
 ・特別活動の特質に応じた見方・考え方は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」として示されています。  
 ・「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、子供たちが自己及び集団の生活や社会に目を向け課題を見いだしたり、各教科等の「見方・考え方」を総合的に働かせながら、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に結び付けて解決方法等について話し合ったりすることです。

学級活動(1)は、学級における集団の生活上の課題を解決するために学級会で話し合い、集団として「合意形成」を図って協力して実践する自発的・自治的な活動です。一方、学級活動(2)(3)は、自己の生活上の課題を解決するために、話し合いを生かして、具体的な解決方法などを子供たち一人一人が「意思決定」して実践する活動です。こうした違いを踏まえて、「単元を通じた課題」を設定します。

【「単元を通じた課題」の例】  
 ・「合唱コンクールに向けて学級としての団結力を高め、自主的、自律的に役割を意識して活動に取り組もう。」  
 ・「『なりたい3年生』に向けて、職場体験活動での学びをもとに学校生活で今できることを考え、実践していこう。」

【国語科における改訂のポイント】

1 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（以下、『解説』という。）について

- (1) 目標の構成の改善（『解説』p.6,7,11～14）  
 育成を目指す資質・能力の明確化を図るため、各教科等で「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で教科の目標を再整理した。  
 国語科が「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成する教科であることを規定した。

(2) 内容の構成の改善（『解説』p.7,8,17）

三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、これまでの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容を、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に構成し直した。

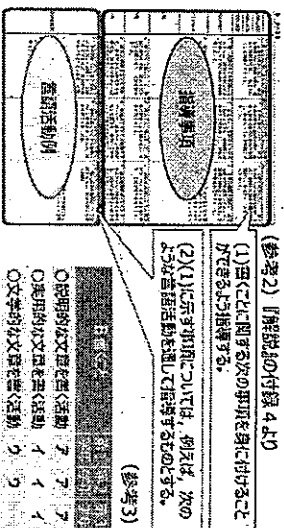
(3) 学習の系統性の重視（『解説』p.9）

指導事項と言語活動例について、小・中学校を通じて、重点を置くべき指導内容を明確にし、系統化を図った。このことを踏まえ、『解説』では、各指導事項の説明の冒頭に、太枠の当該学年の内容とともに、その前後の学年の内容が確認できるようにしている（参考1）。

(4) 授業改善のための言語活動の創意工夫

【思考力、判断力、表現力等】の各領域において、どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示すという関係を明確にした（参考2）。また、各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から、従前、示していた言語活動例を、言語活動の種類ごとにまとめた形で示している（参考3）。

領域	第1学年	第2学年	第3学年
知識及び技能	国語の基礎的な知識及び技能を身に付けること。	国語の基礎的な知識及び技能を身に付けること。	国語の基礎的な知識及び技能を身に付けること。
思考力、判断力、表現力等	国語の基礎的な思考力、判断力、表現力を身に付けること。	国語の基礎的な思考力、判断力、表現力を身に付けること。	国語の基礎的な思考力、判断力、表現力を身に付けること。
学びに向かう力、人間性等	国語の基礎的な学びに向かう力、人間性を身に付けること。	国語の基礎的な学びに向かう力、人間性を身に付けること。	国語の基礎的な学びに向かう力、人間性を身に付けること。



2 「言葉による見方・考え方」について（※中学校学習指導要領解説 国語編からの抜粋）

(1) 国語科の学習対象

国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。

(2) 言葉による見方・考え方を働かせるとは

言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。この「対象と言葉、言葉と言葉との関係、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したり」するとは、言葉で表される語や文章を、意味や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現したりすること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味することを示したものである。

(3) 授業改善を進めるに当たって

このこと（※上記(2)のこと）は、語や文章を理解したり表現したりする際に必要となるものであるため、これまでも国語科の授業実践の中で、生徒が言葉に着目して学習に取り組むことにより「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」が身に付くよう、授業改善の創意工夫が図られてきたところである。

国語科において授業改善を進めるに当たっては、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」といった指導事項に示す資質・能力を育成するため、これまでも国語科の授業実践の中で取り組まれてきたように、生徒が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待される。

【国語科における学習評価のポイント】

1 国語科における評価の観点について

三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も従前の5観点から3観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」に整理して示している。「主体的に学習に取り組む態度」では、「①粘り強さ」「②自らの学習の調整」の双方を適切に評価できるような評価規準を作成することが重要である。



## 2 年間指導計画表の作成について

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校国語】(以下、『参考資料』と  
いう。)のp.49に「年間指導計画表」の例(参考4)を示している。

学年		第1学期		第2学期		第3学期	
単元	指導事項	単元	指導事項	単元	指導事項	単元	指導事項
1	国語	1	1	1	1	1	1
		2	2	2	2	2	2
2	国語	1	1	1	1	1	1
		2	2	2	2	2	2
3	国語	1	1	1	1	1	1
		2	2	2	2	2	2

(参考4)

指導事項の○印は、当該単元で指導及び評価する内容を表し、◎印は、重点的に指導及び評価する内容を表している。国語科において一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多い。

いつ、何の教材を扱うかだけでなく、いつ、どのような資質・能力(指導事項)を育成するのかを意図的・計画的に考えることが極めて重要であり、このことを明確にした「年間指導計画表」を作成しておくことが大切である。

## 3 単元の目標と言語活動の設定について(『参考資料』p.31, 38参照)

### STEP1 単元で取り上げる指導事項の確認

年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認する。

### STEP2 単元の目標と言語活動の設定

(1) 「知識及び技能」及び(2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。

例：(1) 「知識及び技能」の【中学校第2学年指導事項(2) 情報の扱い方に関する事項イ】  
「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと」の文末を「理解し使うことができる。」にする。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該学年の目標である「言葉がもつ価値(中略) 思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。従前に引き続き、言語活動を通して指導事項に示した内容を指導することが大切である。

※単元名の例：「走れメロス」を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう(『参考資料』p.59参照)

### STEP3 単元の評価規程の設定

○「知識・技能」の評価規程の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]の指導事項の文末を「～している」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

○「思考・判断・表現」の評価規程の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力、判断力、表現力等]の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「～している」として作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価

以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に依りて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、( )内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。

- ①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)
- ②自らの学習の調整(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)
- ③他の2観点(知識・技能、「思考・判断・表現」)において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

### STEP4 単元の指導と評価の計画の決定

各単元の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規程に基づいて評価するかを決定する。

### STEP5

評価の実際と手立ての想定

それぞれの評価規程について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)の例、「努力を要する」状況(C)への手立てを想定する。

今回の国語科における評価規程の考え方においては、実際の学習活動を踏まえて「Bと判断する状況」の例を具体的に想定することが極めて重要である。  
「Cと判断する状況への手立て」の例を想定することは、現行と同様である。

# 社会

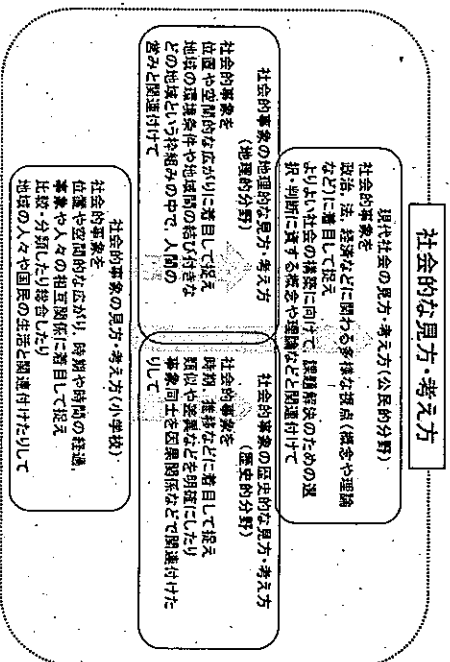
## 社会科における改訂のポイント

### 1. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

社会科において三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が「課題を追究したり解決したりする活動」の一層の充実が求められます。「課題を追究したり解決したりする活動」とは、「単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習」などを指しており、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象から学習課題を見いだし、課題解決の見通しをもって他者と協同的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切です。

### 2. 「社会的な見方・考え方」について

中学校社会科における「社会的な見方・考え方」は、地理的分野における、「社会的事象の地理的な見方・考え方」、歴史的分野における「社会的事象の歴史的な見方・考え方」、公民的分野における「現代社会の見方・考え方」を総称しての呼称であり、各分野の特質に応じて右の図のように整理されています。



「社会的事象の地理的な見方・考え方」は、「社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて」、 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」は、「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりして」、 「現代社会の見方・考え方」は、「社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて」働かせるものとして示されています。

## 社会科における学習評価のポイント

### 1. 社会科における評価の観点について

- 三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のよう  
に3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
社会的事象への関心・意欲・態度
社会的な思考・判断・表現
観察・資料活用技能
社会的事象についての知識・理解



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

## 2 評価の観点及びその趣旨

「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際は、まず、学習指導要領に示された教科及び分野の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解することが大切です。その上で、「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認し、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

【改善等通知 別紙 4 社会 (1) 評価の観点及びその趣旨<中学校 社会>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、 <u>国家及び社会の担い手として</u> 、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

### 3 単元における各観点の評価規準作成の留意事項

中学校社会科学科においては、原則として学習指導要領上の中項目である「内容のまとまりごと」に作成した評価規準を基に、各分野の項目構成の特色を踏まえた上で、「単元の評価規準」を作成することになります。ただし、「内容のまとまり」の一部を単元としたり、「内容のまとまり」を超えて単元としたりすることも考えられ、各学校で指導計画や評価計画を作成する際に工夫することが求められます。

#### ① 「知識・技能」について

(知識) 社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められます。

(技能) 「中学校学習指導要領解説社会編」の中で、身に付けるべき技能の例を整理されています。これらのことを踏まえて、単元の目標及び、その評価規準においても、細かな事象を羅列してその習得のみを求めることのないよう留意することが必要です。

#### ② 「思考・判断・表現」について

各単元において、それぞれの「見方・考え方」を視野に、具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定することが重要です。単元を見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが可能となります。

#### ③ 「主体的に学習に取り組む態度」について

従前の学習指導要領から一貫して重視されてきた、課題の発見、解決のための「思考力、判断力、表現力等」の育成とも相まって、現実の社会的事象を扱うことのできる社会科学ならではの「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要です。この教科の特性を踏まえつつ、この観点については、単元を越えて評価規準を設定するなど、ある程度長い区切りの中で評価することも考えられます。

## 数学科における改訂のポイント

### 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

<主体的な学び> 問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりすること。  
 <対話的な学び> 事象を数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりすることなど。  
 <深い学び> 数学に関わる事象や、日常生活や社会に関わる事象について、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付けてそれらを統合し、思考、態度が変容すること。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではありません。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したこと振り返ったりして自身の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められます。

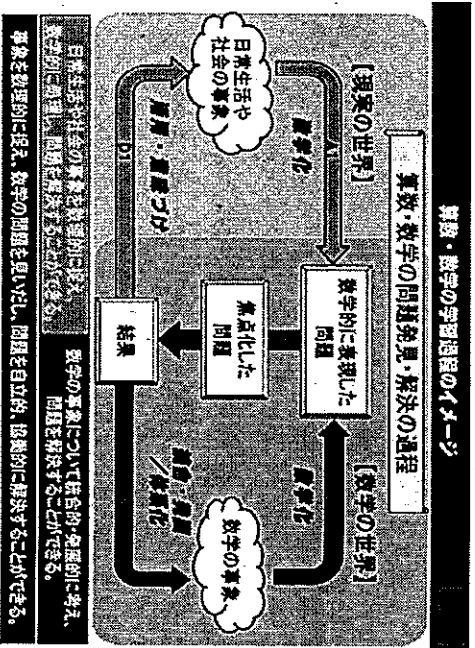
### 2 「数学的な見方・考え方」について

数学科における「数学的な見方・考え方」については「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること」と捉えられています。なお、発展的に考えるとは、数学を既成のものともみたり、固定的で確定的なものともみたりせず、新たな概念、原理・法則などを創造しようとするようになります。統合的に考えるとは、既習のものと新しく生み出したものを包括的に捉えるように意味を規定したり、処理の仕方をまとめた見方・考え方になります。

「数学的な見方・考え方」は、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事の特徴や本質を捉える視点や、思考の進め方や方向性を意味し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の全てに対して働かせるものです。

### 3 「数学的活動」について

数学的活動における問題発見・解決の過程は、答申で示された右図に示すように、『日常生活や社会の事象を数学的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する、という問題解決の過程』と『数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する過程』の、二つの過程が相互に関わり合っており展開します。



## 数学科における学習評価のポイント

### 1 数学科における評価の観点について

三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点	
数学への関心・意欲・態度	
数学的な見方や考え方	
数学的な技能	
数量や図形などについての知識・理解	

【新】

評価の観点	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

## 2 「知識・技能」の評価

「知識・技能」の評価は、数学科における学習の過程を通じた個別の知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。

＜評価の工夫（例）＞

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスを配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。（生徒に文章により説明させる、式やグラフで表現させる、等）

## 3 「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」の評価は、数学科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。

＜評価の工夫（例）＞

- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

## 4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に取り組む態度」の評価は、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価することではなく、数学科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨に照らして、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするため、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学習うとしているかという意志的な側面を評価することが重要です。

＜評価の工夫（例）＞

- ノートやレポート等における記述。（解決する上で困ったこと、うまくいったことなどを表裏させることも考えられる。）
- 授業中の発言。
- 教師による行動観察。（計算がうまくいかないと、どうしたら解けるかよりよく考えようとしているなど。）
- 生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる。

※ 「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。

## 5 単元の評価規準作成のポイント

○学習指導要領に示された「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認し、「内容のまとめり」ごとの評価規準を作成します。各内容のまとめりの「ア」が「知識及び技能」に関する内容、「イ」が「思考力、判断力、表現力」に関する内容です。

「知識・技能」のポイント

当該「内容のまとめり」で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」で示された内容をもとに、その文末を「～している」「～することができる」などとして作成。

「思考・判断・表現」のポイント

当該「内容のまとめり」で育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力」で示された内容をもとに、その文末を「～することができる」などとして作成。

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

当該学年の「主体的に学習に取り組む態度」の観点の趣旨をもとに、当該「内容のまとめり」で育成を目指す「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～している」として作成。

単元の評価規準作成に当たっては、単元の目標と「内容のまとめり」ごとの評価規準」を基に、単元の評価規準を作成します。その際、学習指導要領の内容における【用語・記号】、【内容の取り扱い】の各事項も含めて設定します。また、「内容のまとめり」ごとの評価規準」の中には、そのまま位置付けることができるものもありますが、単元計画における学習指導の進め方との関係で、「内容のまとめり」ごとの評価規準」の1つを2つ以上に分割して設定することや、学習指導で取り上げる問題や教材等に即して評価規準を設定することも考えられます。その際、該当する中学校学習指導要領解説（数学編）の記述も参考にして設定することが大切です。

# 理科

## 理科における改訂のポイント

### 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要になってきます。

その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方：考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの、科学的に探究する学習活動の充実を図ることになります。

＜主体的な学び＞  
 ・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題や仮説の設定をしたり、観察、実験の計画を立案したりする学習となっているか  
 ・観察、実験の結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりしているか  
 ・得られた知識及び技能を基に、次の課題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を把握したりしているか  
 ＜対話的な学び＞  
 ・課題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察などの場面では、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習となっているか  
 ＜深い学び＞  
 ・「理科の見方・考え方」を働かせながら探究の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになって、より科学的な概念を形成することに向かっているか  
 ・様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向けた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける課題の発見や解決の場面で働かせているか

### 2 「理科の見方・考え方」について

「理科の見方・考え方」については、「自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること」と整理することができます。

#### (1) 「見方」について

それぞれの領域における特徴的な視点として整理することができます。ただし、これらの特徴的な視点はそれぞれ領域固有のものではなく、その強弱はあるものの、他の領域においても用いられる視点であることや、これら以外にも、理科だけでなく様々な場面で用いられる原因と結果をはじめとして、部分と全体、定性と定量などといった視点もあつたことに留意する必要があります。

見方	領域			
	エネルギー	粒子	生命	地球
	自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を主として量的・量体的な視点で捉える	自然の事物・現象を主として共通性・多様性の視点で捉える	自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える
	原因と結果、部分と全体、定性と定量 など			

また、探究の過程において、これらの視点を必要に応じて組み合わせて用いることも大切です。

#### (2) 「考え方」について

生徒が探究の過程を通じた学習活動の中で用いる、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えることとして整理することができます。

この「考え方」は、物事をどのように考えていくのかということであり、資質・能力としての思考力や態度とは異なることに留意が必要です。

## 理科における学習評価のポイント

### 1 理科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
自然事象への関心・意欲・態度
科学的な思考・表現
観察・実験の技能
自然事象についての知識・理解



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

観点別学習状況の評価を行うに当たっては、学習指導要領の目標の規定を踏まえ、評価の観点の趣旨を参考に、単元の指導のねらい、教材、学習活動等に応じて適切な単元の評価規準を設定することが大切となります。

- 【参考】改善等通知 別紙4 理科(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨】<第1分野>の例  
※理科の学習指導要領の目標の規定を踏まえ、観点別学習状況調査の評価の対象とするものについて整理したものです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物質やエネルギーに関する事 物・現象についての基本的な概 念や原理・法則などを理解して いるとともに、科学的に探究す るために必要な観察、実験など に関する基本操作や記録など の基本的な技能を身に付けて いる。	物質やエネルギーに関する事 物・現象から問題を見いだし、 見通しをもつて観察、実験など を行い、得られた結果を分析し て解釈し、表現するなど、科学 的に探究している。	物質やエネルギーに関する事 物・現象に進んで関わり、見通 しをもったり振り返ったりす るなど、科学的に探究しようと している。

### 2 「知識・技能」の評価

自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているか、観察、実験の基本操作を習得することともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用仕方などを身に付けているかどうかを把握して評価します。

- 【状況の把握例】(知識) 発言や記述の内容、ペーパーテストなど、ペーパーテストなど  
(技能) 行動観察や記述の内容、ペーパーテストなど

#### 知識及び技能

- 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解
- 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能

### 3 「思考・判断・表現」の評価

自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもつて観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを把握して評価します。

- 【状況の把握例】 発言や記述の内容、ペーパーテストなど

#### 思考力 判断力 表現力等

- (各学年で重点を置く活動)  
1年:自然の事物・現象に進んで関わり、それらの中から問題を見いだす  
2年:解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する  
3年:探究の過程を振り返る など  
3年間通じて科学的に探究する力を育成する

### 4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもつたり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしてしているかを把握して評価します。

- 【状況の把握例】: 発言や記述の内容、行動の観察など

#### 学びに向かう力、人間性等

- 自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度
- 科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができるような態度

※ 「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができるところと、②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

## 中学校 音楽

### 音楽科における改訂のポイント

#### 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る際には、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したリ音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ることが重要です。

- (1) 題材など内容や時間のまとまりの中で、以下の視点で授業改善を進めること
- ア 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
  - イ 対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
  - ウ 学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか
- (2) 題材のまとまりを見通した学習を行うに当たって
- ア 基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、生徒の主体性を引き出すなどの指導の工夫を重ねながら、確実な習得を図ることが必要。

#### 2 「音楽的な見方・考え方」について

##### 「音楽的な見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働き viewpoint で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けれること

※音楽科における学びの深まりの鍵となるものです。

※学習過程や学習活動において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、場面設定や発問など効果的な指導の手立てを工夫することが重要です。

#### 3 音楽科の特質に応じた言語活動の充実

他者と協働しながら、音楽表現を生み出したリ音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていく学習の充実を図る観点から、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすることが重要です。

※自らの考えを他者と交流したり、互いの気付きを共有し、感じ取ったことなどに共感したりしながら学びを深めること → 音楽科の学習の重要な特質

### 音楽科における学習評価のポイント

#### 1 音楽科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点を整理して示されています。

【旧】

評価の観点
音楽への関心・意欲・態度
音楽表現の創意工夫
音楽表現の技能
鑑賞の能力



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度



## 2 「知識・技能」の評価

「知識」では、曲想と音楽の構造などとの関わり（及び音楽の多様性）について理解しているかどうかを評価します。

「技能」では、表したい（創意工夫を生かした）音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている（歌唱、器楽、創作で表している）状態を評価します。

※知識と技能を個別に評価したり、一体的に評価したりするケースが想定されます。

〈評価方法例〉 領域：「A 表現」（歌唱分野）

「知識」：楽譜に書き込まれた言葉や記号などから、「早春賦」の雰囲気や表情、味わいなどなどのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉えていることが見て取れるかを評価する。〈ワークシート〉

「技能」：創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能について学習した内容が歌唱表現に表れているかを評価する。〈演奏〉

## 3 「思考・判断・表現」の評価

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしているかどうかを評価します。

〈評価方法例〉 領域：「B 鑑賞」

・これまで鑑賞した3曲のいずれか一曲について、音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性を根拠にして、よさや美しさ、音楽表現の共通性や固有性について、自分の考えを書いているかを評価する。〈ワークシート〉

・これまで学習したことを踏まえた、その曲の魅力や音楽の特徴、音楽の背景などとの関連についての生徒の発言やつぶやきの状況、他者の発言内容に関する反応の様子を評価する。

〈観察〉 ※ワークシートの記述のみでは判断できない側面を補充。

## 4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしているかどうかという側面を評価します。

〈評価方法例〉 領域：「A 表現」（歌唱分野）

・「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や味わいに関心をもち、自分が知覚・感受したところや他者の気付きなどを基に、どのように歌うかについて考えたり他者と共に歌い試したりしようとしている様子が、本題材の学習を通じて見て取れたか。〈観察〉

・学習の全体を振り返って、自分が学んだことについて、授業での学習内容を踏まえて書いているか。〈ワークシート〉

### 【参考資料】

- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校音楽）

美術科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

(1) 効果的な学習の展開について

- 「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの中で実現していきます。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」設定のポイント

- 学習の見通しや、振り返りで自身の学びや姿容を自覚できる場面の設定。
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面の設定。
- 生徒が考える場面と教師が教える場面の設定。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」のために

- 「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせる。
- 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させる。
- 自己との対話を深めたり、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったりする。
- お互いの見方や感じ方、考えなどが交流され、新しい見方に気付いたり、価値を生み出したりする。

2 「造形的な見方・考え方」について

造形的な見方・考え方とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色彩、材料や光などの造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと」です。



3 「美術的活動」について

- 感性や想像力を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるような学習活動。
- 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深めることができるような学習活動。
- 「A表現」及び「B鑑賞」の学習に必要な資質・能力を育成する観点から〔共通事項〕が深く関わり、生徒が多様な視点から造形を豊かに捉え美感を伴いながら理解することができるような学習活動。

美術科における学習評価のポイント

1 美術科における評価の観点について

- 3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
造形への関心・意欲・態度
発想や構想の能力
創造的な技能
鑑賞の能力



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

2 「知識・技能」の評価

(1) 「知識」の評価（〔共通事項〕アの指導）

表現や鑑賞の場面において、学んだ知識を生かして、形や色彩、材料、光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるようなするなど、単に暗記することに終始するような知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが重要です。

(2) 「技能」の評価（従来の「創造的な技能」）

材料や用具などの表現方法などを身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質能力を評価する。そのため制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の創造的に表す技能を読み取ることが重要です。

3 「思考・判断・表現」の評価

- 表現において、自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫したり、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、構想を練ったりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価する。制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の発想や構想に関する資質・能力の高まりを読み取ることが重要です。

○ 鑑賞において自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価するものである。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力等」を身に付けようとしたり, 発揮しようとしたりする姿を評価する。
- 表現において、机間指導等の際に試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり、より良い表現を目指して構想や技能を、工夫改善したりしていく様子などの姿を捉えながら指導と評価を行うことが重要です。
- 鑑賞において、作品などを鑑賞し、造形的な視点を活用しながら造形的なよさや美しさなどを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしたりするなどの意欲や態度を高めることが重要です。

5 指導に配当する授業時数

- 第2学年及び第3学年の各学年においては(1)のア及びイそれぞれにおいて、描く活動とつくる活動のいずれかを選択して扱うことができることとし、2学年間を通して描く活動とつくる活動が調和的に行えるようにすること。
- 「B鑑賞」の指導については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を確保すること。

## 技術・家庭（技術分野）

### 技術・家庭（技術分野）における改訂のポイント

#### 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

技術・家庭科における「主体的な学び」とは、現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見いだし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組みむととともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組みむ態度を育む学びです。そのため、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動に取り組みむことなどが考えられます。

「対話的な学び」とは、他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする学びです。なお、技術分野では、例えば、直接、他者との協働を伴わずとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るといったことなども、対話的な学びとなります。

「深い学び」とは、生徒が生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学びです。

#### 2 「技術の見方・考え方」について

技術の見方・考え方は、「生活や社会における事象を、技術との関わりの中で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること。」とされているが、それぞれA～Dの4つの内容によって、重点の置き方が変わったり、異なった視点を用いたりしていることで、内容の特徴に応じた学習活動を検討する必要があります。技術の見方・考え方を働かせることで、より深い学びへとつながっていきます。

#### 3 「技術分野の学習過程」について

技術分野で育成することを旨とする資質・能力は、単に何かをつくるという活動ではなく、例えば、技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みを理解した上で、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行い、その解決結果や解決過程を評価・改善し、さらにこれらの経験を基に、今後の社会における技術の在り方について考えるといった学習過程を経ることで効果的に育成することができま

#### 技術分野の学習過程と、各内容の三つの要素及び項目の関係

要素	生活や社会を交える技術	技術による問題の解決	生活や社会を交える技術
<b>資質</b> (1)生活や社会を交える技術の技術 (2)材料と加工の技術 (3)社会の発展と材料と加工の技術	<b>技術の活用</b> ・技術に関する様々な法則、基礎的な技術の仕組みを理解することから、技術の見方・考え方に繋ぐ。	<b>課題の設定</b> ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、それに関する課題を設定し、解決策をどうにしようか、見いだすために解決策を協議を協議する。	<b>問題解決に向けた製作・制作・育成</b> ・課題の解決策を生活や社会の中で実践できるように計画し、製作・制作・育成を行う。
<b>知識</b> (1)生活や社会を交える技術の技術 (2)材料と加工の技術による問題解決 (3)社会の発展と材料と加工の技術	<b>過程の計画と修正</b> ・課題の解決策を生活や社会の中で実践できるように計画し、製作・制作・育成を行う。	<b>過程の計画と修正</b> ・課題の解決策を生活や社会の中で実践できるように計画し、製作・制作・育成を行う。	<b>結果の評価</b> ・解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正を行う。
<b>能力</b> (1)生活や社会を交える技術の技術 (2)材料と加工の技術による問題解決 (3)社会の発展と材料と加工の技術	<b>過程の計画と修正</b> ・課題の解決策を生活や社会の中で実践できるように計画し、製作・制作・育成を行う。	<b>過程の計画と修正</b> ・課題の解決策を生活や社会の中で実践できるように計画し、製作・制作・育成を行う。	<b>結果の評価</b> ・解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正を行う。
<b>態度・関心・意欲</b> (1)生活や社会を交える技術の技術 (2)材料と加工の技術による問題解決 (3)社会の発展と材料と加工の技術	<b>過程の計画と修正</b> ・課題の解決策を生活や社会の中で実践できるように計画し、製作・制作・育成を行う。	<b>過程の計画と修正</b> ・課題の解決策を生活や社会の中で実践できるように計画し、製作・制作・育成を行う。	<b>結果の評価</b> ・解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正を行う。

※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

また、これらの学習課程は、一方に進むものではなく、生徒の学習状況に応じて、各段階間を往來する必要があります。

**技術・家庭科（技術分野）における学習評価のポイント**

**1 技術・家庭科（技術分野）における評価の観点について**

○3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のよう  
に3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
生活や技術への関心・意欲・態度
生活を工夫し創造する能力
生活の技能
生活や技術についての知識・理解



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

**【中学校 技術・家庭科（技術分野） 評価の観点及びその趣旨】**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組みたり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

**2 「知識・技能」の評価**

○この観点は、基礎的な技術について、その仕組みの理解やそれらに係る技能の習得状況を評価するものであり、技術に関係する科学的な原理・法則とともに、技術と生活や社会、環境との関わり及び、生活等の場面でも活用できる技術の概念の理解も評価します。  
ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項Aについて、その文末を分野の観点の趣旨に基づき、「～について（を）理解している」、「～ができる技能を身に付けている」として作成します。

**3 「思考・判断・表現」の評価**

○この観点は、技術を用いて生活や社会における問題を解決するための思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものになります。技術分野の各内容は「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の三つの要素からなる学習過程を踏まえて項目が設定されていることから、各項目では、一連の学習過程における位置付けを踏まえた思考力等を評価します。  
ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項Aについて、評価の観点の趣旨及び学習過程における各項目の位置付けに基づき、その文末を「～について考えている」として作成します。

**4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価**

○この観点は具体的には、以下の点について評価します。  
①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面）  
②自らの学習の調整（その中で自らの学習を調整しようとする側面）  
③これらの学びの経験を通して涵養された、技術を工夫し創造しようとする態度  
基本的には、分野の観点の趣旨に基づき、当該項目の指導事項Aとして示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～しようとしている」として作成します。  
この観点の評価規準は、一連の学習過程で育成される資質・能力の関連に配慮し整理することが大切です。例えば、各内容における(1)で身に付ける「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力は、各内容における(2)及び内容の「D情報の技術」の(3)の「技術による問題の解決」の学習に生かされるものであるもので、各内容の(1)では「主体的に技術について考え、理解しようとする態度」について評価することが考えられます。

# 技術・家庭（家庭分野）

## 家庭分野における改訂のポイント

### 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

技術・家庭科における「**主体的な学び**」とは、現在及び将来を見据えて、生徒や社会の中から問題を見いだし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学び

「**対話的な学び**」とは、他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする学び

「**深い学び**」とは、生徒が生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学び

このような学びを通して、生活や技術に関する事理的知識が概念的知識として質的に高まったり、技能の習熟・定着が図られたりします。また、このような学びの中で「**主体的な学び**」や「**対話的な学び**」を充実させることによって、技術・家庭科が育成を目指す思考力、判断力、表現力等も豊かなものとなり、生活や技術についての課題を解決する力や、生活や技術を工夫し創造しようとする態度が育まれます。

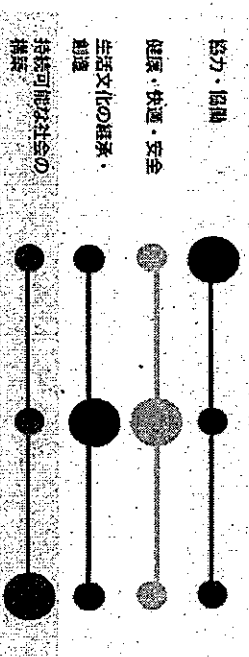
### 2 「生活の営みに係る見方・考え方」について

家庭分野が学習対象としている家族や

自立し共に生きる生活の創造

家族・家庭生活 衣食住の生活 消費生活・環境

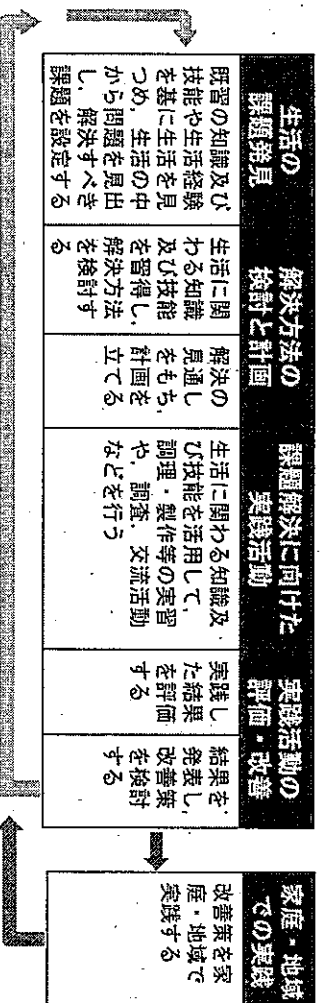
家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるように、よりよい生活を営むために工夫することを示したものです。



取り上げる内容や題材構成等により、どの視点を重視するのかが異なる

### 3 「家庭分野の学習過程」について

一連の学習過程を通して、生徒が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようになります。また、3学年間を見通して、このような学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養うことが大切です。



※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

## 家庭分野における学習評価のポイント

### 1 家庭分野における評価の観点について

○3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のよう  
に3観点に整理して示されています。

【旧】

評価の観点
生活や技術への関心・意欲・態度
生活を工夫し創造する能力
生活の技能
生活や技術についての知識・理解



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

【中学校 技術・家庭（家庭分野） 評価の観点及びその趣旨】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。</p>	<p>これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する身に付けている。</p>	<p>家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>

### 2 「知識・技能」の評価

○ 「知識・技能」については、基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を、「～について理解している」、「～について理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成します。

※「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成します。

### 3 「思考・判断・表現」の評価

○ 「思考・判断・表現」については、教科の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価することになります。

- ① 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を「～について問題を見いだして課題を設定している」
- ② 課題解決の見通しをもって計画を立てる際、生活課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について(実践に向けた計画を)考え、工夫している」
- ③ 課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」
- ④ 計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを論理的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している」

として、評価規準を設定することができます。

### 4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

○ 「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的には、当該指導項目で扱う指導事項ア及びイと教科の目標、評価の観点及びその趣旨を踏まえて作成します。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととします。

- ① 粘り強さ(知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)
  - ② 自らの学習の調整(その中で自らの学習を調整しようとする側面)
  - ③ 実践しようとする態度
- を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり(①)、振り返って改善したり(②)して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている(③)」として、評価規準を作成します。

# 保 健 体 育

## 保健体育科における改訂のポイント

### 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

保健体育科においては、例えば次の視点等を踏まえて授業改善を行うことにより、育成を目指す資質・能力を育んだり体育や保健の見方・考え方を更に豊かなものにしたりにすることにつながる大切です。

#### (1) 主体的な学びについて

運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。

#### (2) 対話的な学びについて

運動や健康についての課題の解決に向けて、生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深め、課題の解決を目指して学習に取り組む。

#### (3) 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程を通して、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、より良く解決する。

なお、これらの三つの学びの過程をそれぞれ独立して取り上げるものではなく、相互の関連を図り、保健体育科で求められる学びを一層充実させることが重要です。また、これら三つの学びの過程は、順序性や階層性を示すものではないことに留意することも大切です。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進に向けては、指導方法を工夫して必要な知識及び技能を指導しながら、子供たちの思考を深めるための発言や意見交換を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を工夫し、必要な学習環境を積極的に整備していくことが大切です。

その際、各運動領域の特性や魅力に応じた体を動かす楽しさや特性に触れる喜びを味わうことができるよう、また、健康の楽しさを実感できるよう指導方法を工夫することが大切です。

さらに、単元など内容や時間のまとまりの中で、指導内容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要です。

### 2 「保健体育科における見方・考え方」について

保健体育科の見方・考え方は下記のように考えられます。

#### (1) 体育の見方・考え方

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値と特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。」

#### (2) 保健の見方・考え方

疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。」

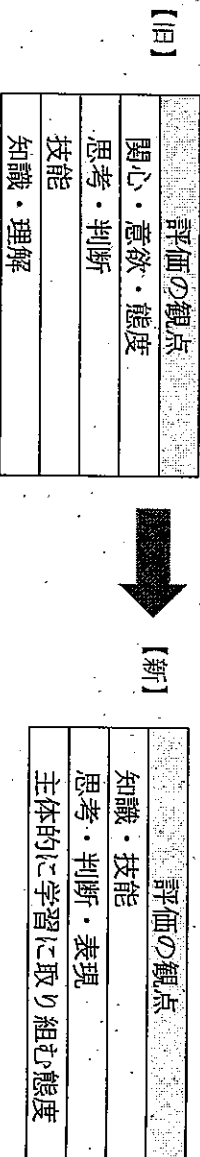
見方・考え方を働かせる学習過程を工夫することにより、保健体育科で育成を目指す資質・能力がより豊かになり、保健体育科の目標である、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成につながるようになります。



## 保健体育科における学習評価のポイント

### 1 保健体育科における評価の観点について

3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観  
点に整理して示されています。



### 2 「知識・技能」の評価

#### (1) 「知識」

内容のまとまりごとの評価規準は、学習指導要領の(1)で育成を目指す資質・能力に該当する  
指導内容について、その文末を「～について理解している。」として作成することができます。

単元の評価規準は、例示の文末を「～について言ったり書きだしたりしている。」あるいは、「～  
について学習した具体例を挙げている。」として作成することができます。

#### (2) 「技能」

内容のまとまりごとの評価規準は、学習指導要領の(1)で育成を目指す資質・能力に該当する  
各型の技能の指導内容について、その文末を「～ができる。」として作成することができます。

単元の評価規準は、例示の文末を「～ができる。」として作成することができます。

(3) 保健分野の知識・技能の単元の評価規準は、「～について言ったり、書き出したりにしている」と  
ともに、「～ができる。」として作成することができます。

### 3 「思考・判断・表現」の評価

○ 内容のまとまりごとの評価規準は、学習指導要領の(2)で育成を目指す資質・能力に該当す  
る指導内容について、その文末を「～課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えて  
いる。」として作成することができます。

○ 単元の評価規準は、例示の文末を「～している。」として作成することができます。

### 4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

○ 内容のまとまりごとの評価規準は、学習指導要領の(3)で育成を目指す資質・能力に該当する  
指導内容について、その文末を「～している。」として作成することができます。

○ 単元の評価規準は、意志や意欲を育てるという情意面の例示に対応し、「～しようとしている。」  
として作成することができます。ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つこと  
にとどまらず実践することが求められているものであることから、「～に留意している。」「～を  
確保している。」として、設定することができます。

○ 愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定していきます。

なお、指導する上で、さらに詳細な単元の評価規準が必要な場合は、2～4の単元の評価規準を具  
体化したものを作成します。

### 5 各観点の指導場面と評価機会の関係

○ 「知識・技能」の観点の「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、技能の習得、  
向上や態度の育成等に一定の学習期間が必要となること、主に観察評価によって評価を行うこと  
から、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設ける工夫をすることが考えられます。

○ 「知識・技能」の観点の「知識」及び「思考・判断・表現」の評価は、主に学習カード等に記述  
された内容から評価の材料を得ようとすることから、指導から期間を置かず評価する。さらに、  
生徒の発言等の観察評価によって得られた評価の材料を加味して評価の妥当性、信頼性を高める  
工夫をすることなどが考えられます。

## 外国語

### 外国語科における改訂のポイント

#### 1 「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善について

学習指導要領では、「目的や場面、状況などに応じて情報や自分の考え及びそれらを表現するためにどのような言語材料等を使用するとよいかについて思考、判断すること」が重要とされ、そのような営みにより、「主体的・対話的で深い学び」が実現されると明記されています。

##### 「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」の過程では、外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたって生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげることが重要である。このため、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。

##### 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」の過程においては、他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点や資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場면을計画的に設けることなどが考えられる。

##### 「深い学び」の視点

「深い学び」の過程については、言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを話したり書いたりする中で、外国語教育における「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。

中央教育審議会答申（平成28年12月）より抜粋

#### 2 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられています。

#### 3 外国語科における「言語活動」について

外国語科における「言語活動」とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」などの活動を意味します。言語材料について理解したり練習したりする活動は「指導」とされ「言語活動」とは区別されています。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用されます。練習は、言語活動を成立させるために重要ですが、練習で終わることのないように留意する必要があります。

## 外国語科における学習評価のポイント

### 1 「外国語科」の目標と「英語」の目標について

「外国語科」の目標	【教科目標】
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを旨とする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
(2) 思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(3) 学びに向かう力、人間性等	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

#### 「英語」の目標

#### 【英語】の目標（領域別目標）

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと
ア はっきりと語されれば、日常的な話題について、必要な……	ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたもの……	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて……	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて……	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて……

### 2 外国語科における観点別評価の考え方について

1に示すように、「教科目標」及び「英語」の目標＝領域別目標を踏まえ、「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準を作成します。

知識・技能	聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと
思考・判断・表現					
主体的に学習に取り組む態度					

### 3 「知識・技能」の評価

生徒が、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけているかどうかを評価する観点です。

### 4 「思考・判断・表現」の評価

生徒が、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができるかどうかを評価する観点です。またそのためには、「外国語の背景にある文化に対する理解」や、「聞き手、読み手、話し手、書き手への配慮」が必要です。

### 5 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

生徒が、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況の評価する観点です。本観点の評価場面は、基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価し、本観点のみ取り出しでの評価は行いません。

# 道徳

## 道徳科における改訂のポイント

### 1 「考え、議論する道徳」への転換

「道徳の時間」は、これまでも学校における道徳教育の「要」としての役割を果たし、成果を上げていく学校がある一方で、次のような課題も指摘されています。

- ・ 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること
- ・ 他教科に比べて軽んじられていること
- ・ 発達の段階を踏まえた内容や指導方法となっていない
- ・ 主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合いや、読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導が行われている

このような状況を踏まえ行われた「特別の教科」化は、多様な価値観の、時には対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質であるという認識に立ち、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」へと転換を図るものです。

### 2 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

道徳教育においては、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、「考え、議論する道徳」を実現することが「主体的・対話的で深い学び」を実現することになると考えられます。道徳科における学習・指導改善における工夫や留意すべき点については、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（H28.7.22）や新学習指導要領及び解説等を踏まえつつ、中央教育審議会答申（H28.12.21）において、「主体的・対話的で深い学び」の視点に沿って次のように整理（一部抜粋）されています。

「主体的な学び」の視点	「対話的な学び」の視点	「深い学び」の視点
児童生徒が問題意識を持ち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考える学習とすることや、各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に関して考えたことや感じたことを統合させ、自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。	子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通して、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすること。	道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して、様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習とすること。

【注】 道徳科における具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであるため、様々な工夫や留意点を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点に分けて考えるのではなく、これらの視点を手掛かりに、児童生徒の発達段階や特性、指導内容などに応じて適切で効果的な方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要です。

### 3 道徳科における「見方・考え方」

「考え・議論する道徳」を目指す新学習指導要領の改訂の趣旨に照らして考えると、道徳科における「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」は、道徳科の目標に示されている「様々な事象を、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方について考えること（（道徳科））」と言えます。

「見方・考え方」とは、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」のことであり、それぞれの教科等で重視される学習課程といえます。児童生徒にとっては「見方・考え方を働かせる」とは、各教科等で重視される学習活動を行うということになります。

道徳科においては、その学習活動が道徳科の目標に示されており、その活動を充実させることが、道徳科が目指す「よりよく生きるための道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）」を育てることにつながると考えられます。

## 道徳科における学習評価のポイント

### 1 評価の基本的態度

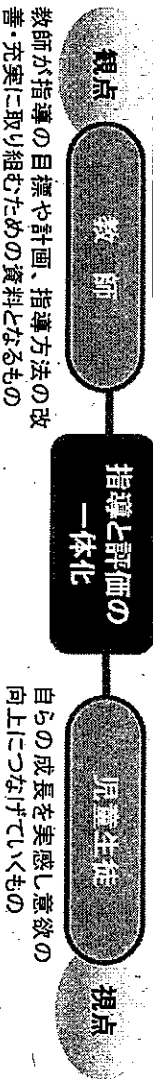
道徳科のねらいは、道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことです。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質です。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではありません。しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し評価することが求められます。

### 2 道徳科の評価の在り方

- 数値による評価ではなく、記述式とすること。
- 個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
- 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。

### 3 道徳科における評価の意義



#### 指導に生かす評価の観点とは？

**【道徳科の授業に係る評価の観点】**  
教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが大切であり、授業の評価では、改善にかなげる過程を一層重視する必要があります。

#### 【評価の観点 (例)】

- 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の(人間としての)生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- 発問は、児童(生徒)が(広い視野から)多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確に選ばれていたか。
- 児童(生徒)の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- 自分自身との関わりで、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童(生徒)の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- 特に配慮を要する児童(生徒)に適切に対応していたか。

#### 児童生徒の成長につながる評価の観点とは？

道徳科の児童生徒の評価に当たっては、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関する諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、次の点を特に重視する必要があります。

① 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。

② 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

これらの点を重視し、道徳科の学習活動に着目して評価します。

#### 【道徳科の学習状況 (学びの姿) (例)】

- ・ 道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- ・ 道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・ 道徳価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・ 授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。

## 総合的な学習の時間

### 総合的な学習の時間における改訂のポイント

#### 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

- ① 「探究的な学習の過程」をより一層重視し、質的に高めていくこと
- ② 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実生活・社会において活用できるものにする
- ③ 各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成すること

今回の学習指導要領改訂で重視される「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点は、子供の学びとして一体として実現されるものであり、それぞれ相互に影響し合うものである。それぞれのバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められる。

#### ア 「主体的な学び」の視点

学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び。課題設定と振り返りが重要

#### イ 「対話的な学び」の視点

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び  
異なる多様な他者と力を合わせて課題解決に向かうことが欠かせない

#### ウ 「深い学び」の視点

探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すこと

#### 2 「探究的な見方・考え方(総合的な学習の時間における見方・考え方)」について

##### 「探究的な見方・考え方」

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間の特徴に応じた見方・考え方

#### (1) 探究的な見方・考え方に含まれる二つの要素

各教科等における見方・考え方を総合的に働かせる

各教科等の特質に応じた見方・考え方を、探究的な学習の過程において、適宜必要に応じて総合的に活用する。  
→扱う対象や解決しようとする方向性などに応じて、生徒が意識的に活用できるようにすることが大事。

総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせる

・特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉えること  
・課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方

生徒が探究的な見方・考え方を働かせながら、横断的・総合的な学習に取り組む。



よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成することにつながる。

**総合的な学習の時間における学習評価のポイント**

**1 総合的な学習の時間における評価の観点について**

- 他教科と同様に、三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応する3観点に整理

【旧】(例)

評価の観点
よりよく問題を解決する資質や能力
学び方やものの考え方
主体的、創造的、協同的に取り組む態度
自己の生き方



【新】

評価の観点
知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

※総合的な学習の時間の目標(第1の目標)を踏まえた評価の観点の例

**2 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成**

総合的な学習の時間における「内容のまとまり」

→一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力

- ① 各学校において定めた目標(第2の1)と「評価の観点の及びその趣旨」の確認
- ② 各学校において定めた内容の記述が、観点ごとどのように整理されているかの確認
- ③ 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

内容のまとまりごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

- 「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の記載事項の文末を、下記のように記載することにより、「内容のまとまり」に対応する評価規準を作成することが可能。
- 「知識・技能」 学校において定めた目標のうち、文末を「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定することが考えられる。
- 「思考・判断・表現」 学校において定めた目標のうち、文末を「～している」として設定することが考えられる。
- 「主体的に学習に取り組む態度」 学校において定めた目標のうち、文末を「～しようとしている」として設定することが考えられる。

＜単元の目標及び単元の評価規準を作成する手順＞

- ① 「内容のまとまり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成
- ② 「内容のまとまりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成

【育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の評価規準」作成のポイント】

- 「知識・技能」

「i 概念的な知識の獲得」、「ii いつでも、滑らかに、安定して、素早く発揮することが可能な技能の獲得」、「iii 探究的な学習のよさの理解」の3つに関する評価規準を作成することが考えられる。

- 「思考・判断・表現」

「i 課題の設定」、「ii 情報の収集」、「iii 整理・分析」、「iv まとめ・表現」の課程で育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

- 「主体的に学習に取り組む態度」

今回の改訂において「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整を重視することとしている。これらは、自他を尊重する「i 自己理解・他者理解」、自ら取り組んだり力を合わせたりする「ii 主体性・協働性」、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「iii 将来展望・社会参画」などについて育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

※ 単元の評価規準を作成するに当たっては、実際の学習活動や学習場面をイメージし、資質・能力を發揮する生徒の姿を想定することが大切。

## 特別活動

### 特別活動における改訂のポイント

#### 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

特別活動の各活動及び学校行事を見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善が求められます。学習指導要領の特別活動の章には、「主体的・対話的で深い学び」を実現した生徒の姿が示されています。

- 特別活動における「主体的な学び」の実現とは

学級や学校の実態、自己の現状に即して自ら課題を見いだし、解決方法を実践したり振り返ったりしながら、生活をよりよくしようとしていくことです。

- 特別活動における「対話的な学び」の実現とは

生活上の課題を解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする話し合いの中で様々な意見に触れ、考えを広げたり多面的・多角的に考えたりすることです。

- 特別活動における「深い学び」の実現とは

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、問題の発見、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を繰り返す中で、各教科等の「見方・考え方」を総合的に生かし、知識・技能などを集団及び自己の問題の解決に活用していくことです。

#### 2 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」について

今回の改訂では、特別活動の特質に応じた見方・考え方として、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることとされました。「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる」とは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、問題を捉え、よりよい人間関係の形成、集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に結びつけることです。この中に、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点がしっかりと入っています。具体的には次のようなことが考えられます。

- 年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合おうとする見方・考え方
- 互いのよさを生かすような見方・考え方
- よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする見方・考え方
- 集団での関わりを通して、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力を養うとともに、自己の在り方生き方を考え設計しようとする見方・考え方 など

#### 3 特別活動改訂の要点

- 「人間関係形成」, 「社会参画」, 「自己実現」という3つの視点を手掛かりとしながら、資質・能力の三つの柱に沿って目標が整理されました。
- 学級活動に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」を設け、キャリア教育の視点から的小・中・高等学校のつながりが明確になりました。
- 中学校において、小学校の経験を生かして取り組むよう学級活動(1)の内容を重視する視点から、学級活動(2)(3)の項目が整理されました。



## 特別活動における学習評価のポイント

### 1 特別活動の学習評価を行うにあたっての基本的な考え方

- 特別活動においては、学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定めることとしています。
- 評価体制を確立し、学校全体で共通理解を図ります。
- 子供たちのよさや可能性を多面的・総合的に評価します。
- 評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるように工夫改善を図ります。

### 2 評価の手順

- ① 指導と評価の計画の作成：特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を作成します。
- ② 評価のための基礎資料の収集：評価に基づいて、評価のための基礎資料を収集します。
- ③ 評価の実施：収集した資料を各学校で定めた所定の手続きに従って多面的・総合的に判断し、評価を行います。
- ④ 評価体制の改善：評価結果を各学校における指導や評価体制の改善に生かします。

### 3 評価体制の確立

特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画に基づいて行います。

学級活動において

主として学級担任が事前の見通しから事後の振り返りまでの生徒の様子から、積極的によさや可能性を見とるようにします。

生徒会活動、学校行事において

評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任の手に届き、活用されるようにします。

学級担任

個々の生徒の活動状況について、学級担任と担当する教師との間で情報交換を密にします。

学級担任以外の教師

### 4 指導と評価の計画の作成

各活動・学校行事ごとの評価規程の作成

各学校で評価規程を設定する際には、学級活動(1)(2)(3)、生徒会活動、学校行事について、観点ごとに設定することが考えられます。

「目指す生徒の姿」の設定

1単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規程に即して、事前・本時・事後における「目指す生徒の姿」を、具体的に設定することが考えられます。その際、評価場面の重点化を図ることも考えられます。

### 5 多面的・総合的な評価の工夫

- 活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めます。
- 生徒のよさを多面的・総合的に評価します。
- 生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題が持てるようにする評価を進めます。

# 中学校第1学年 国語科 学習構想案

日時 令和2年〇〇月〇〇日(〇) 第〇校時

場所 〇年〇組教室

指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1 単元構想

単元名	相手に分かりやすい話の組み立てを考えて伝えよう ～人生に役立つおすすめ「ことわざ」スピーチ～ (光村図書 p115～120)		
単元の目標	<p>(1) 音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。【知識及び技能】(1)ア</p> <p>(2) 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見の関係などなどに注意して、話の構成を考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】A(1)ア</p> <p>(3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」</p>		
単元の評価規準	知識・技能	<p>①「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見の関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)ア)</p> <p>②「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を踏まえ、共通点や相違点などを踏まえ、自分の考えをまとめていく。(A(1)エ)</p>	<p>①進んで自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分に注意し、学習の見通しをもって、話の構成を考えようとしている。</p>
	思考・判断・表現	<p>単元終了時の生徒の姿</p> <p>他教科の学習においても、自分の考えを説明するとき、何について話すのかを明確にした上で、例示と結論部分に分けるなど、相手にとって分かりやすいように話を順序よく組み立てて物事を説明しようとする生徒の姿。</p> <p>単元を通じた学習課題</p> <p>単元で働かせる見方・考え方</p>	
<p>相手にとって分かりやすい話の組み立て方で、人生に役立つおすすめのことわざスピーチをしよう。</p> <p>指導計画と評価計画(6時間取扱)</p>	<p>学習活動(「問い」を設定しても可)</p> <p>○ これまでの学習を想起し、物事を分かりやすく伝えるスピーチの条件を確認するとともに、本単元の目標を確認する。 また、既知の「ことわざ」についての事例を出し合い、「ことわざ」の価値を再確認し、人生に役立つ「ことわざ」の推薦スピーチをするという学習活動の見直しをもつ。</p>	<p>分かりやすく説明するために、話題の順序、接続詞等に着目し、自分の伝えたいことの内容に合う言葉を選択することをとおして言葉への自覚を高める。</p> <p>本時4/6</p>	
過程	時間	評価の観点等 ★は記録に残り評価の場面(★は具体的評価規準)	
見通す	1	<p>【態①】(ノート)</p> <p>【思①】(ノート)</p>	
挑戦する	4	<p>★【知①】(スピーチ)</p> <p>○ はつきりした発音、抑揚や緩急などの音声の働き</p> <p>★【思①】(ノート)</p> <p>○ 人生の役に立つと考えられる理由を明確にし、具体例をいくつか挙げて、順序立てて話の構成を考えよう。</p> <p>★【思②】(ノート)</p> <p>○ 友達のスピーチの説明に対して、合いの手や聞き返しをしながら話の内容を捉えている。</p> <p>★【態①】(ノート)</p> <p>○ 進んで自分の考えを分かりやすく伝えるための具体例やその順序に注意し、学習の見通しをもって、話の構成を考えようとしている。</p> <p>★【思②】(ノート)</p> <p>○ 進んで自分の考えを分かりやすく伝えるための具体例を考えたようとしている。</p>	
振り返る	1		

2. 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等)													
中学校学習指導要領第1学年 〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 〔思考力,判断力,表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」ア, エ	教材・題材の価値												
<p>本教材は、日本の文化に根付いた味のある言葉である「ことわざ」を、意味やそれにつながる自身の体験等を説明し、人生にどのように役立てるかについてスピーチするものである。スピーチの練習場面において、相手にとって分かりやすい内容や構成になっているかについてグループで協議している学習活動の例も示されている。実生活においても同様の検討をすることにより、よりよいスピーチとなるよう活動することが考えられるため、実生活を想定したスピーチの学習をすることに適した教材である。</p> <p>本単元における系統</p>													
<p>小6年 今、私は、ほくは資料を使って、自分の考えや思いを効果的に伝える</p>	<p>中1年 話し合いで理解を深めよう お互いの体験や考えを出し合って整理する</p>												
<p>中1年 会話が弾む質問をしよう 話の内容が深まったり広がったりするような、よりよい質問をする</p>	<p>中1年 具体例を挙げて伝えよう 順序立てて話を組み立てる</p>												
<p>中2年 説得力のある提案をしよう 聞き手の立場や考えを想定して、説得力のある話を組み立てる</p>													
<p>児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)</p>													
<p>■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項</th> <th>目</th> <th>定着状況(標記できている)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉えている。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項	目	定着状況(標記できている)		音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。			自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。			必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉えている。		
項	目	定着状況(標記できている)											
	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。												
	自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。												
	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉えている。												
<p>■本単元の学習に関する意識の状況</p> <p>進んで学習の見通しをもって、話の構成を考えようとしている。</p>													
<p>■考察</p> <p>自分の考えを伝えるために、話の構成などについて自分なりに工夫しているが、話の内容を捉えたり、必要に応じて質問したりについては、不十分な状況が見られる。このため、本単元を通して、指導事項を明確にした指導が必要である。</p> <p>進んで話の構成を考えるためには、自らが話したいという意欲を持つことが重要である。相手意識や目的意識をもって取り組めるよう、単元の導入時には「何のために」「誰に」自分の考えを伝えるのかを生徒と共有することが必要である。</p>													

3. 指導に当たった際の留意点

- 人生に役立つ「ことわざ」について、自分の考えと理由を中心に学級の人々に伝えるという目的意識・相手意識を明確にすることによって、主体的に学習に取り組めるようにする。
- 単元の導入時に、これまでの学習で身に付けたことを振り返り、相手にとって分かりやすいポイント(順序, 具体例, 話し方等)を明確に示すことで、単元で身に付けるべきことについて課題意識を高めるようにする。
- 毎時間、相手にとって分かりやすいスピーチのポイントについて個人だけでなくグループでも振り返りを行い、学習の進度, 状況を生徒自身が把握できるようにし、自身の学習の調整に生かせるようにする。
- 聞き手においても、分かりやすい順序立てた話の組み立てとなっていたかを聞き方のポイントの中心とし、助言に生かせるようにする。
- 物事を分かりやすく説明する日常場面について想起させることで、本単元の学習が今後の実生活でも役立つことを実感できるようにする。

4 本時の学習  
 (1) 目標 前時までを集めた材料を基に、具体例の順序に注意し、聞き手に分かりやすく伝える効果的なスピーチの構成メモを作ることができる。  
 (2) 展開

過程 時間	学習活動 (予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 10分	<p>1 学習の目標を確認する。</p> <p>①単元の導入時に活用した教科書教材の文例(p114)を基に、事柄ごとに整理して順序よく話すことについて振り返る。</p> <p>◇単元の最初に、相槌の「ルール」や「技」などの事柄のまとめりに整理するだけで分かりやすい内容になることを学習したなあ。</p> <p>②前時で集めた材料を基に、順序よく組み立てた構成メモの例を確認し、本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>◇大まかな構成は「ことわざの意味」「具体例」「結論」だけど、具体例も順序よく組み立てていた。</p>	<p>○数名の生徒が書いた前時までの学習の振り返りの内容を基に、事柄ごとに整理することで、相手にとって分かりやすい構成になることを実感した単元導入時の場面を想起できるようにする。</p> <p>○「ことわざの意味」「具体例」「結論」というスピーチ全体の構成に加え、学級全員で具体例を事柄ごとに整理する場面を設けることで、具体例の整理や順序も、相手にとって分かりやすいスピーチにつながることに気付くようにする。</p>
展開 30分	<p>2 目標の達成に向けて活動する。</p> <p>①自身の考えを持つ。</p> <p>◇Aさんから出された体験は、「灯台下暗し」と童話「青い鳥」を結び付けたものだった。このような例は聞いている人も興味を持ってくれるだろうけど、他の「物を無くした時」の事例を先に伝えてからの方が理解してくれそうだな。</p> <p>②他者との対話により、考えを広げる。</p> <p>◇Bさんは、「青い鳥」の事例は、幸せがそばにあることに気が付きにくいという教訓が、「灯台下暗し」の意味と人生で役立つという内容を一番分かりやすくまとめられていると言っていた。私とは考えが違っていただけ、納得した。</p> <p>③自身の考えを再度まとめる。</p> <p>◇Bさんの考えを取り入れてみよう。ほかの事例は、「ほかにも、○○や○○のように」としてまとめで示すことにしよう。</p> <p>【期待される学びの姿】        よりよく内容を伝えるための話題の順序に着目し、対話をとおして、自分の伝えたい内容に合うよう事例を選択している。        ④構成メモの工夫した点を確かめ合う。        ◇「私の工夫点は、自分の伝えたい内容に一番よく合った事例を最初に示したことです。こうすることで…。」</p>	<p>○生徒自身が伝えたい内容は何かを確かめてから、具体例の順序を考えるようにすることで、構成メモの結論との整合性が図られるようにする。</p> <p>○対話については、普段の話し方で話し合うようにすることで、意見を出しやすいつまづつやりを行う。</p> <p>○「私が結論で言いたいのは○○という内容で、そのための具体例の順序を□□のように考えました。その理由は～だからです。」などの説明文例を示し、円滑に対話が進むようにする。</p> <p>【具体の評価規準】観点【思①】        ○人生の役に立つと考える理由を明確にし、具体例をいくつか挙げて、身近から間遠や間遠から身近にするなど聞き手を意識して順序立てた話の構成を考えている。(方法：ノート)</p> <p>【到達していない生徒への手立て】        ○前時までを集めた具体例の中から、良いと思うものに順位を付けることで、その一つずつと自身が伝えたいことが合うかを個別に問い、確認していく。</p> <p>○全体の場で数名の生徒の構成メモの工夫した点を紹介し、内容に合わせた具体例かどうか、分かりやすい順序となっているかを確認できるようにする。</p>
終末 10分	<p>3 まとめと振り返りをする。</p> <p>【まとめ】伝えたいことが相手に伝わるスピーチにするためには、身近から間遠にしたり、間遠から身近にしたりと、具体例の順序を工夫して組み立てることが大切。</p> <p>◇振り返ると、「例えば…」で具体例を述べる時に、無意識に伝えたいことに合う事例を選んでいったなあ。</p> <p>◇具体例を入れるだけでなく、自身が伝えたいことを伝え、聞き手にとって分かりやすくするために、内容にあった順序にすることが大切だと分かりました。</p>	<p>○スピーチの場面だけでなく、実生活の他の場面でも自分の考えを分かりやすく伝えるために、具体例を入れていたことを想起させることで、学習したことを生かそうとする態度につなげるようにする。</p> <p>○数名の生徒の振り返りの内容を紹介し、本時の目標に沿ったことを積極的に認めるようにする。</p>

【板書計画】

相手に分かりやすい話の組み立てを考えて伝えよう  
 人生に役立つための「ことわざ」スピーチ

全体の構成  
 ○ことわざの意味  
 ○具体例  
 ○結論

「ルル」や「ま」などの内容  
 「ことわざとめ」  
 順序立てた

「あて」聞き手に分かりやすく伝える効果的な  
 スピーチの構成メモを作る。

何を伝えたいのか  
 「◆」ことが人生の役に立つ  
 大事なことが役立つのか  
 大具体例を順序よく組み立てる  
 どうしてその順序がいいのかな？

Rさんの工夫  
 ○みんなが予想だにしない「蓋語」を最初に導  
 例として挙げることで、驚きをもって聞いて  
 もらえるのではないか  
 さんの工夫  
 ○自分の伝えたい内容に一番よく合った事例を  
 最初に示したことで、まずは聞いてくれる人に  
 理解してもらおう。

【まとめ】伝えたいことが相手に伝わるスピーチ  
 子にするためには、身近から関連したり、「間  
 遠から身近にしたりと、具体例の順序を工夫し  
 て組み立てることが大切。

振り返り

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

- 本単元の導入場面では、教師によるスピーチの例を動画で示し、物事を分かりやすく伝えるスピーチの条件を想起しやすいうようにする。
- 本単元の展開場面では、発音、速度、間の取り方などの話し方の工夫を確認する際に導入場面で用いた動画を再度使用する。
- 本時の導入場面では、大型テレビに教科書の例文を拡大表示し、「ことわざの意味」「具体例」「結論」という大まかな構成を確認できるようにする。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例 単元の終末では 見方 考え方を働かせて次の学習に取り組む

文部科学省作成 振り返り学習教材 国語 2 自分が住んでいる町のよさを紹介するスピーチの問題

# 中学校第3学年1組 社会科 学習構想案

期日 令和〇年〇月〇〇日(〇) 第〇校時  
場 所 3年1組教室  
指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1 単元構想

単元名	『現代の民主政治』 (教科書発行者『社会 公民的分野』p〇〇～)		
単元の目標	<p>(1) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること及び地方自治の基本的な考え方について理解することができる</p> <p>(2) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。</p> <p>(3) 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとする態度を養う。</p>		
単元の評価規準	<p>知識 技能</p> <p>① 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。</p> <p>② 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。</p> <p>③ 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。</p> <p>④ 地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。</p>	<p>思考 判断 表現</p> <p>① 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。</p>
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)			
我が国の民主政治の発展のために、積極的に政治に参加しよう (例：「有権者として議員に立候補してみよう」、「有権者として必ず投票に参加しよう」等) とする生徒			
単元を通じた課題		本単元で動かせる見方・考え方	
日本の政治の発展のためには、何が必要なのかを調査し、自分にできることを考え、話し合おう。		民主政治の課題を解決するために必要な「効率と公正」；「民主主義」、 「主権者(有権者)」などに着目して、多面的・多角的に考察する。	
指導計画と評価計画 (9時間取扱い 本時 9/9)			
過程	学習活動	<p style="text-align: center;">単元の評価規準</p> <p>★は記録に残す評価の場面での「単元の評価規準」</p>	
課題把握	2	<p>○事例から、民主政治の課題に気付く。</p> <p>○課題を解決するための、学びの見通しを立てる。</p>	<p>★【態—①】 (方法：発言、ワークシート)</p> <p>我が国の政治に関する課題について意欲的に考察しようとしている。</p> <p>【思—①】 (方法：発言、ワークシート)</p>
課題追究・課題解決	6	<p>○民主主義の考え方と運用について調べる。</p> <p>○選挙制度のあらましや課題について調べる。</p> <p>○選挙制度の意義について考察し、話し合う。</p> <p>○政党の役割について調べる。</p> <p>○新聞記事を活用して、現在の政治について判断する。</p> <p>○ここまでの学びを振り返り単元の課題を解決する。</p>	<p>【知—①】 (方法：観察、ワークシート)</p> <p>【知—②】 (方法：観察、ワークシート)</p> <p>★【思—①】 (方法：発言、ワークシート)</p> <p>選挙制度の意義について、多面的・多角的に考察し、説明している。</p> <p>【知—③】 (方法：観察、ワークシート)</p> <p>★【知—①②③④】 (方法：観察、ワークシート)</p> <p>地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務など、地方自治の基本的な考え方について理解している。</p>
新たな課題	1	<p>○自分が政治にどのように関わるか考え、話し合う。(本時)</p>	<p>★【態—①】 (方法：発言、ワークシート)</p> <p>考察したことを踏まえ、有権者として政治への関わり方を、理由を明確にして、説明しようとしている。</p>

## 2 単元における指導計画と評価計画及び系統

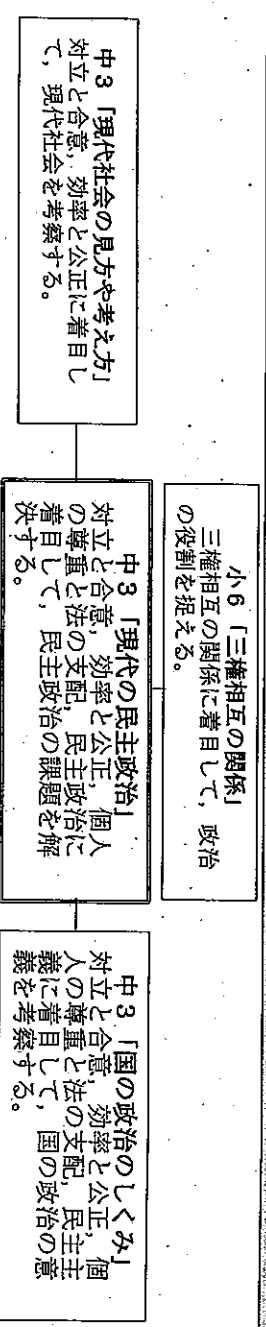
学習指導要領における該当箇所  
 学習指導要領〔公民的分野〕のC「私たちと政治」の(2)「民主政治と政治参加」を受けて設定されており、民主政治をより良く運営していくためには、どのようなことが必要かを理解することができるようにするとともに、主権者として政治に参加することの意義について考えることをねらいとしている。

### 教材等の価値

選挙権年齢が満20歳から18歳に引き下げられた現在、選挙権をはじめとする政治に参加する良識ある主権者として、主体的に政治に参加しようとすることについての自覚を養うことが大切である。そのためには、議会制民主主義の意義や多数決の原理と運用等の「知識」、民主政治の推進と、公正な世論形成や選挙など、国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し表現する等の「思考力、判断力、表現力等」を身に付けさせる必要がある。

本単元の学習を通して、生徒一人一人が政治に対する関心を高めるとともに、主権者である自覚を深め、主体的な社会への参画が大切であることについて考えることが期待できる単元である。

### 本単元における系統



■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況	調査内容					(単位:人)
	よく	まあまあ	あまり	ない		
学習上の課題の解決につながる情報を読み取ることができる。	—	—	—	—	—	
話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	—	—	—	—	—	
民主政治の仕組みを正確に説明できる。	—	—	—	—	—	

■本単元の学習に関する意識の状況	調査内容					(単位:人)
	よく	まあまあ	あまり	ない		
課題に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思えますか。	—	—	—	—	—	
あなたは実際に政治に参加したいと思えますか。	—	—	—	—	—	
日本の選挙に対するイメージ(自由記述)	<p>○国民一人一人が政治に参加できる大切な機会。          ○日本を住みやすくしてくれたい人を選ぶチャンス。          ●忙しいから選挙には行かない。●投票しても変わらない。</p>					

■考察  
 本単元を学習するに当たり、民主政治の仕組みを正確に説明できる生徒は2割、課題解決につながる情報の読み取りが出来る生徒は4割と、政治の仕組みの確実な定着と資料読み取りの技能を高める必要がある。選挙のイメージに関するアンケートでは、「日本を住みやすくしてくれる人を選ぶチャンス」など、政治に参加する意義や大切さについて述べる意見が多く見られた。しかし、実際に政治に参加するかという質問に対しては、「あまり」「ない」と答える生徒が6割を超え、「選挙に行ってもどうせ何も変わらない」と回答する生徒もいる。政治への関心も低く、課題解決に向けて意欲的な姿勢を見せられている生徒も4割である。本学級は、話し合う活動を通して自分の考えを広げたり深めたりできる生徒も多いことから、民主政治の課題を解決するために自分はどう参画するかを考え、対話し、主権者として主体的に政治に関わることの大切さを自覚させる必要がある。

## 3 指導に当たっての留意点

- 生徒の思考を深めるために、生徒同士の対話を促し、価値観の違う他者と協働して課題解決を図ることができるようにする。
- 単元を通じた課題を設定し、それを解決するために必要な情報(知識や技能)を収集し、それをもとに考察・構想(思考・判断・表現)し、単元末には、それまでの知識や技能を活用する単元の構成を図る。
- 意図的に構成したペアや班学習を取り入れ、他者の意見を参考にすることができるようにするとともに、学習の意欲を向上させることができるようにする。

4 本時の学習

- (1) 目標 これまでの学習で理解したこと，考察したことを踏まえ，有権者として，自分はどのように政治に関わるかを説明している。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (＜予想される子供の発言＞)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 7分	<p>1 学習の振り返りと学級アンケートから課題を捉え，本時のめあてをつかむ。</p> <p>◇政治への参加意欲が低いのは私たちのことだ。このままでいいのだろうか。何ができるだろうか。</p> <p><b>【学習課題】</b> 日本の政治を発展させるために，自分はどのように関わったら良いだろうか？</p> <p><b>【めあて】</b> これまで学習したことをもとに，自分は政治へどう関わるのか話し合おう。</p>	<p>○学級アンケートの結果から，日本の政治の発展には，政治への積極的な参加が大切だと分かっているのに，実際には，政治への参加意欲は低いという矛盾に気づかせ，問いを生み出し，学習課題を設定する。</p>
展開 38分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>① 自分の考えをまとめる。</p> <p>◇ 私は，有権者として，町の選挙に立候補してみたいと思います。なぜなら……。</p> <p>◇ 私は，有権者として，投票に必ず行きたいです。なぜなら……。</p> <p>◇ 私は，有権者として，どうやって政治に参加したらよいか分かりません。実際に18歳に……</p> <p>② 班で考えを伝えよう。</p> <p>◇ Aさんの意見の良さは，立候補しようとしているところです。前回，学習した○○が……。</p> <p>◇ B君の意見になるほどと思いました。そんな考えもあるんだと納得しました。</p> <p>③ 全体で話し合う。</p> <p>◇ 私は，有権者として町議会議員になりたいです。なぜなら，きちんと町のことを考える人がいないと……からです。これから私は……。</p> <p>◇ C君の意見の良さは，自分で政党を作って，公約をきちんとしたい，そのためにきちんとマスメディア……という点です。</p> <p><b>【期待される学びの姿】</b> 日本の政治の発展のために，自分は有権者としてどのように政治に参加するか，具体的に考えている姿</p> <p><b>【まとめ】</b> (案1) 私は，有権者として町の選挙に立候補してみたいと思います。なぜなら……からです。そうすればきっと……。</p> <p>(案2) 私は，有権者として選挙に必ず行きます。なぜなら，僕が行かなければ……からです。そうすればきっと……。</p>	<p>○「立候補する」や「選挙を手伝う」など有権者の視点から政治への参加方法について考えをまとめるようにする。</p> <p>○既習の「政治への参加方法」を板書しておき，活用しやすくする。</p> <p>○ペアでの教え合いを促し，考えを書けない生徒を支援する。</p> <p>○他の意見の良さ（既存の知識を活用している，参加への積極性等）に気付くようにして，自分の考えを深める。</p> <p>○政治参加の方法に関する対話を通して，政治への関わりを自分のこととして捉え，政治に対する関心を高める。</p> <p><b>【具体的評価規準】 主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>○考察したことを踏まえ，有権者として政治への関わり方を，理由を明確にして，説明しようとしている。 (方法：ノート・発表)</p> <p><b>【到達していない生徒への手立て】</b></p> <p>○自分の考えを書けない生徒には，「選挙への参加」など，とらえやすい視点に絞って考えることができるように言葉掛けしていく。</p>
終末 5分	<p>3 本時の学習を振り返り，これから学習する「国の政治」，「地方の政治」への展望を持つ。</p>	<p>○自分が「やってみよう」と思ったことが，今後の学習のどこで関連してくるのか，構想を立てて次單元へとつなげる。</p>



【板書計画】

○/○ 【現代の民主政治】

学級アンケートの結果

めあて：これまで学習したことをもとに、自分は政治にどう関わるかを考え、話し合おう。

1. 自分の考え

- 政治への参加方法
- 投票する
  - 立候補する
    - ・地方
    - ・国
  - 選挙運動を手伝う
  - 圧力団体に加わる
  - 政党をつくる
  - 政党に参加する
  - 政治に関する情報を

私は、有権者として、( A ) をしてみようと思います。なぜなら、( B ) だからです。  
私が ( A ) をすることで、

※ 「日本の政治の発展」、 「政治の課題解決」 につながるようなこと

になると思います。  
私はこれを実現するために、 ( D ) に取り組めます。

2. みんなの意見

- Kさん： Aきちんと投票に行きたい。
- B一票の重みがあるから。
- C政治家の意見を批判ばかりせず...
- Lさん： A町づくりに関わりたい。
- B地産で町がめちやくちや
- C町長と町議会議員どちらに？
- Mさん： A衆議院議員になりたい。
- B国のために、自分にできることが
- C東京とものすごく格差があるので...
- Nさん： .....
- Oさん： .....

私たちにだって、できることがある。  
政治は、他人事ではなく、自分たちのこと。

単元のまとめ：日本の政治の発展のためには、自分自身は様々な方法で政治に参加することが大切。政治は他人事ではなく、自分のことである。

【見方・考え方を働かせる学習活動(案)】

本単元の学びを生かして見方・考え方を働かせる学習活動計画

※本単元と次単元終了後、次の問題に取り組むことで、民主政治の仕組みについて理解を図る。

【課題克服プリント】

平成30年度提供 ～中学校社会(公民的分野) 「私たちと政治」～ 問題1

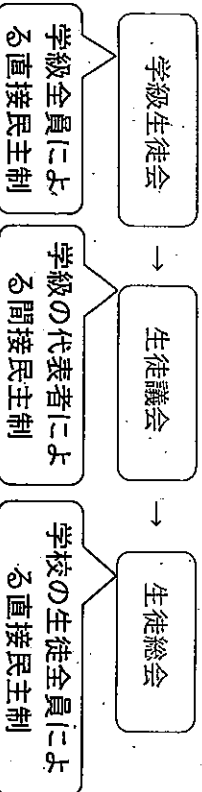
※定期考査で民主政治の推進と国民の政治参加の関連を考察できるようにする。

※「特別の教科 道徳」では、内容項目Cー15「より良い学校生活、集団生活の充実」の授業の際に、「民主主義」の見方・考え方を働かせて課題の解決を図る。

※次のような実生活の場面で、本単元で身に付けた知識・技能を活用できるようにする。

～学校生活～

○学級や学校での話し合い活動(「民主主義」と「効率・公正」)



【生徒議会の様子】

○生徒会選挙(今後の学校を支える代表者を選ぶ重要な機会であることの意味)

～社会生活～

- メディアで政治に関する情報に出会う場面(メディアリテラシーの見方)
- 政治家や各政党の政治演説を聞く場面(政治への関心と自分の意見の構築)
- 18歳を迎え、初めての選挙に参加する場面(日本の政治発展への寄与)
- 将来、政治に関わる様々な場面(有権者としての政治への参加意識)

中学校第2学年 数学科 学習構想案

期日 令和2年〇〇月〇〇日(○) 第〇校時  
場所 2年〇組教室  
指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	「連立方程式」 (発行者名「教科書名」p〇〇~〇〇)			
単元の目標	<p>「連立方程式」</p> <p>(1) 連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>(2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。</p> <p>(3) 連立二元一次方程式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。</p>			
単元の評価規準	知識・技能	<p>① 二元一次方程式とその解の意味を理解している。</p> <p>② 連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。</p> <p>③ 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。</p> <p>④ 加減法や代入法による解き方を理解している。</p> <p>⑤ 事象の中での数量やその関係に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる。</p>	<p>① 一元一次方程式と関連づけて、連立二元一次方程式を解くことができる。</p> <p>② 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 連立二元一次方程式の必要性と意味を考えようとしている。</p> <p>② 連立二元一次方程式についての学習に生かそうとしている。</p> <p>③ 連立二元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。</p>
	思考・判断・表現	<p>① 一元一次方程式と関連づけて、連立二元一次方程式を解くことができる。</p> <p>② 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。</p>	<p>① 一元一次方程式と関連づけて、連立二元一次方程式を解くことができる。</p> <p>② 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 連立二元一次方程式の必要性と意味を考えようとしている。</p> <p>② 連立二元一次方程式についての学習に生かそうとしている。</p> <p>③ 連立二元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、評価・改善しようとしている。</p>
単元終了時の生徒の姿				
生活の中で求めたい数量(変数)があるとき、変数の数に着目して数量の関係を捉え、連立方程式を見通しをもって活用し、数量を求めようとしている生徒				
単元の中心的な学習課題		本単元で働かせる見方・考え方		
2種類の食材を使って、副菜50gでカルシウムを112mgとるには、どの食材を選べばよいだろうか。		求めたい変数の数に着目し、数量の関係をどんな連立方程式に表せるか順序立てて考え、求めた解が適切か事象に照らして検討すること。		
指導計画と評価計画 (1.3時間取扱いは 本時4/1.3)				
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」	
一	1	<p>○求めたい数量が二つある問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、連立方程式の必要性を実感する。</p> <p>○二元一次方程式・連立方程式とその解の意味を知る。</p>	<p>【態①】 (ノート分析・行動観察)</p> <p>★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」</p>	
二	1	<p>○文字の係数の絶対値が等しい二つの式を比べて、一つの文字を消去する方法を考える。</p> <p>○文字の係数の絶対値が等しくない場合の連立方程式を解く。</p>	<p>【思①】 (ノート分析)</p> <p>【思②】 (ワークシート分析)</p>	
三	3	<p>○具体的な問題で、一方の式を他方の式に代入し、文字を消去する方法を考える。</p> <p>○( )を含む連立方程式、係数に小数や分数を含む連立方程式を解く。</p> <p>○<math>A=B=C</math>の形をした連立方程式を解く。また、係数に文字をおくむ連立方程式に解を代入し、その文字の値を求める。</p> <p>○連立方程式とその解き方を確認する。</p>	<p>【思①】 (ノート分析・行動観察)</p> <p>○等式の性質を利用し、加減法を用いて連立方程式を解く過程を式に表し、説明することができる。</p> <p>【知③④】 (ノート分析)</p>	
四	3	<p>○連立方程式を使って文章問題を解く手順を考える。</p> <p>○個数と代金に関する問題を、連立方程式を利用して、解決する。</p>	<p>【知③】 (ノート分析・小テスト)</p> <p>【知④】 (ノート分析・小テスト)</p> <p>★【知①②③④】 (ノート分析・小テスト)</p> <p>○基本的な学習内容を身に付けている。</p> <p>【態①②】</p>	
五	4	<p>○速さ・時間・道のりに関する問題を、連立方程式を利用して解決する。</p> <p>○割合に関する問題を、連立方程式を利用して解決する。</p>	<p>【思②】 【知⑤】 (ノート分析・ワークシート分析)</p> <p>★【思②】 (ノート分析・ワークシート分析)</p> <p>○表等をもとに連立方程式を表し、解決している。求めた解が問題に適しているかを、問題に戻って考えることができる。</p> <p>★【思②】 (ノート分析・行動観察)</p> <p>○具体的な場面で、連立方程式を活用することができる。</p> <p>【思②】 【態②③】 (ノート分析・行動観察)</p>	
六	1	<p>○単元内容の定着を確認するとともに、本単元の学びを振り返る。</p> <p>○「単元の中心的な学習課題」に取り組み。</p>	<p>★【態①②③】 (ワークシート分析・行動観察)</p> <p>○単元の学びを振り返り、今後の生活や学習に活用しようとしている。</p> <p>★【知⑤】 (小テスト)</p> <p>○連立方程式をつくることができる。</p>	

2 単元(題材)における指導計画と評価計画及び系統

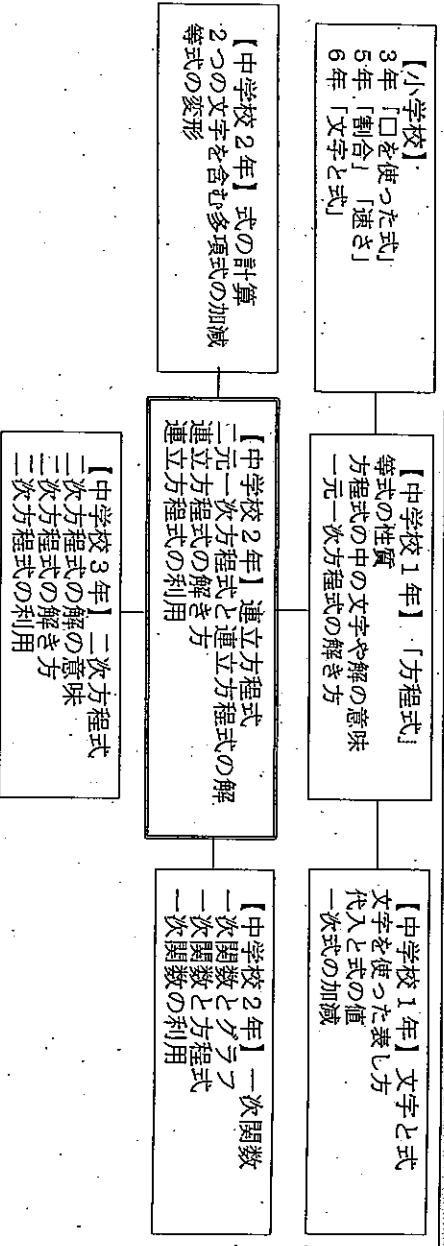
学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

中学校学習指導要領第2学年A(2) 連立二元一次方程式  
 [知識及び技能] (ア) 二元一次方程式とその解の意味を理解すること、(イ) 連立二元一次方程式の  
 必要性と意味及びその解の意味を理解すること  
 [思考力、判断力、表現力等] (ア) 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を  
 考察し表現すること、(イ) 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること

教材・題材の価値

具体的な場面において、一つの変数よりは二つの変数を用いた方が式に表しやさい場面が多く、連立二元一次方程式を活用することにより、問題解決が容易になることが多くなる。また、連立方程式の学習を通して、二つの条件を満たす解を求めるという考え方や、一次方程式に帰着させ解くことができる。日常生活や事象を数学的な見方・考え方を働かせ、連立方程式を用いて解決していくことは、内容の理解を深めるだけでなく、数学の有用性を味わうことにもつながる。

本単元における系統(横軸を当該学年での領域・つながり、縦軸を他学年での領域のつながり)



生徒の実態(単元目標につながる学びの実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	できる	%
同類項をまとめて簡単にすることができる。	○/○	—
同類項を縦にそろえて簡単にすることができる。	○/○	—
一元一次方程式を解くことができる。(2x-5=4x-1)	○/○	—

■本単元の学習に関する意識の状況(%)

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
数学の授業では、分からないことを自分で友達や先生に聞いて分かるようになって思う。	—	—	—	—
数学の授業では、学習したことをノートにしっかりとまとめることができていると思う。	—	—	—	—
数学の授業で学習したことを、次の学習や日々の生活に生かすことができていると思う。	—	—	—	—

■考察

(資質・能力に関して) 同類項を簡単にすることは概ねできているものの、同類項を縦にそろえて簡単にすることについては、特に減法において定着率が低かった。また、一元一次方程式を解くことにおいてもその方法が十分に定着していない生徒も見られた。中学校1年生で学習した計算方法を振り返ったり、前時の復習の場を設定したりするなど、既習事項を丁寧に確認していくことが必要である。

(学びに関して) 分からないことを、自分から意欲的に尋ねるなどして理解しようとしているが、今後の学習や日々の生活に生かそうとする意識は低いので、今後の学習や生活との関連が感じられるような振り返りや問題設定の工夫を行う。

3 指導に当たった際の留意点

- 単元を通して、生徒にとって身近な事象を問題として取り上げたり、既習事項との関連性が感じられる導入の工夫を行ったことで、学習に主体的に取り組めるようにする。
- 立式の段階では、個数の関係や代金の関係、時間の関係など、ある特定の量に着目して式を考えられるようにする。また、捉えた数量を表や線分図などに表し、具体的事象と式との関係を明らかにする。
- 一元一次方程式を含めた既習事項との関連を意識づけながら問題解決を図り、本時で働かせた見方・考え方を生徒自身が振り返り、次の学習に生かしていくようにする。

4 本時の学習  
 (1) 目標 文字の係数に着目し、等式の性質や加減法を用いて連立方程式を解く方法を考え表現することができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (予想される子供の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入 7分	<p>1 本時の問題をつかむ。          ①前時の学習を振り返る。  <math display="block">\begin{cases} 4X - 3Y = 11 \dots \textcircled{1} \\ 5X + 3Y = 7 \dots \textcircled{2} \end{cases}</math> <math>\textcircled{1} + \textcircled{2}</math>をして、<math>Y</math>を消去すればいいです。簡単！</p> <p>②本時の問題①をつかむ。  <math display="block">\begin{cases} X + 2Y = 4 \dots \textcircled{1} \\ 4X + 3Y = 1 \dots \textcircled{2} \end{cases}</math></p> <p>◇あれ？今までの問題と何か違うぞ。  <math>\textcircled{1} + \textcircled{2}</math>をしても、<math>\textcircled{1} - \textcircled{2}</math>をしても、どちらの文字も消去できないな。どうしよう？</p>	<p>○ICTを活用し、前時で扱った連立方程式を系統的に複数提示する。その際、「<math>\textcircled{1} + (-)\textcircled{2}</math>をして<math>X(Y)</math>を消去」とテンプレよく発言するよう促す。          ○「<math>\textcircled{1} + (-)\textcircled{2}</math>」をすれば、どちらかの文字が消去されて一次方程式になり、1年生での学びが使えることを確認する。</p> <p>○活動①による問題提示の流れの中で、本時の問題を提示する。式①から式②を足すのか引くのかで迷う生徒がいると思われるので、なぜ迷ったのかを問い、共通の課題を見出す。          ○式①から式②を足しても引いても、どちらの文字も消去できないことを確認する。生徒の反応を見て、理解状況によっては実際に計算をして確かめる。</p>
展開 38分	<p>2 問題解決に向けて活動する。  <math>\textcircled{1}</math>自分で考える。  <math>\textcircled{2}</math><math>X</math>も<math>Y</math>も、係数の絶対値がそろっていないぞ。</p> <p>③悩んでいる人の考えをグループで共有し、解決方法を話し合う。  <math>\textcircled{1}</math>の<math>X</math>だけに4をかけるのか、全体に4をかけるのか、どちらだろう？  <math>\textcircled{2}</math>の式全体に4をかけないと、式の意味が変わるよ。  <math>\textcircled{3}</math>全体で考えを出し合う。          ◇等式の性質を使って①の式全体を4倍すると、<math>X</math>の係数がそろおうから、加減法を使うと<math>Y</math>だけの一次方程式になります。</p> <p>◇係数の絶対値がそろえば、昨日の学習と同じです。</p> <p>3 問題②の解決に向けて活動する。  <math display="block">\begin{cases} 3X - 4Y = -15 \dots \textcircled{1} \\ 2X + 3Y = 7 \dots \textcircled{2} \end{cases}</math></p> <p>①自分で考え、ペアで紹介し合う。          ②全体で考えを出し合う。          ◇今度は①にも②にも何倍かしなければならぬな。  <b>【期待される学びの姿】</b>          一次方程式に帰着し、どちらかの文字を消去するために前時に学んだ加減法と関連付けながら順序よく解こうとしている。</p> <p>4 本時のまとめをし、適用問題を解く。</p>	<p>○前時の問題との違いを確認していく中で、係数、絶対値、等式の性質、消去などの数学术語を用いている生徒の発言を全体で取り上げる。          ○グループ学習では、悩んでいる人から発言することとし、その悩みを全員で解決するように促す。          ○話し合いが早く終わったらグループに対しては、他グループの悩みやつまずきを紹介する。</p> <p>○説明し合う場面では、「係数をそろえる」「等式の性質を使う」などの言葉を板書で残し、本時の見方・考え方を明らかにしていく。</p> <p>○前問と比較し、解決方法を見通す時間を設ける。          ○解決した生徒には、他の方法を考えるよう促す。(最初に<math>X</math>を消去した生徒→<math>Y</math>から消去した場合と比較)</p> <p><b>【具体の評価規準】</b> 観点：思①          ○等式の性質を利用して連立方程式を解く過程を式に表し、説明することができる。(方法：ノート・行動観察)</p> <p><b>【達していない生徒への手立て】</b>          ○どちらかの係数の絶対値をそろえるために①を何倍し、②を何倍するのか、一緒に考える。          ○生徒の声でまとめ、全体で確認する。          ○適用問題を解く時間を十分に確保し、定着を図る。</p>
終末 5分	<p>5 本時の学習を振り返る。  <math>\textcircled{1}</math><math>X</math>か<math>Y</math>の係数の絶対値をそろえれば、昨日の学習の考え方が使えました。もし、係数が小数や分数でも、今日の考えを生かせると思います。  <math>\textcircled{2}</math>友達が納得してくれる説明ができました。</p>	<p>○新たな気づき、生活や次の学習に生かすことなど振り返る視点を示す。          ○本校の資質・能力の観点でも振り返り、生徒が成長を実感できるように声かけを心がける。</p>

【板書計画】

めあて どちらの文字を消去できない連立方程式の 基本 文字の係数の絶対値をそろえて消去する際に係数の性質を利用し、加減法をひいて解く

問題1

$$\begin{cases} 3x + y = 5 \dots ① \\ x + y = 1 \dots ② \end{cases}$$

①-②

$$\begin{aligned} 3x + y &= 5 \\ -) x + y &= 1 \\ \hline 2x &= 4 \\ x &= 2 \end{aligned}$$

これを②に代入する

$$\begin{aligned} 2 + y &= 1 \\ y &= -1 \end{aligned}$$

$$Ax = 2, y = -1$$

問題2

$$\begin{cases} x + 2y = 4 \dots ① \\ 4x + 3y = 1 \dots ② \end{cases}$$

①×4-②

$$\begin{aligned} 4x + 8y &= 16 \\ -) 4x + 3y &= 1 \\ \hline 5y &= 15 \\ y &= 3 \end{aligned}$$

これを①に代入する

$$\begin{aligned} x + 2 \times 3 &= 4 \\ x + 6 &= 4 \\ x &= -2 \end{aligned}$$

$$Ax = -2, y = 3$$

問題3

$$\begin{cases} 3x - 4y = -15 \dots ① \\ 2x + 3y = 7 \dots ② \end{cases}$$

①×2-②×3

$$\begin{aligned} 6x - 8y &= -30 \\ -) 6x + 9y &= 21 \\ \hline -17y &= -51 \\ y &= 3 \end{aligned}$$

これを②に代入する

$$\begin{aligned} 2x + 3 \times 3 &= 7 \\ 2x + 9 &= 7 \\ 2x &= -2 \\ x &= -1 \end{aligned}$$

$$Ax = -1, y = 3$$

練習

①と②の何倍かしての係数をそろえて消去する

最終問題で、本時の問題を提示すること「あれっ?!」「何か違うぞ。」という思いを引き出すことができる。

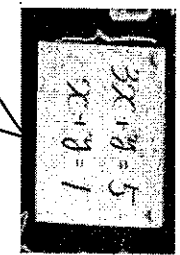
【ICT活用計画】及び【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

■電子黒板やデジタル教科書の活用

＜第4～8時における活用＞

○導入において、前時に扱った問題を電子黒板で提示し、解き方について振り返る。

(第4時の例:前時の問題を連続的に提示していき、解き方やどちらの文字を消去するのか確認する。)



前時の問題の解き方を、1問だけ黒板で確認する。

$$\begin{cases} 2x + y = 7 \dots ① \\ 5x - y = 14 \dots ② \end{cases}$$

①+②をして、yを消去

電子黒板でフラッシュ的に提示する。その際、「①+②をして、yを消去」のように発話しながら短時間で確認していく。

$$\begin{cases} 6x - y = 22 \dots ① \\ 6x + 5y = -2 \dots ② \end{cases}$$

$$\begin{cases} x + 2y = 4 \dots ① \\ 4x + 3y = 1 \dots ② \end{cases}$$

?????

○定着を図る場面でも、練習問題を電子黒板で提示し、「どこに着目し、どんな解き方をするのか」を確認し、見通しをもたせた後に、自力解決の時間を設定する。

＜第9～13時における活用＞

○デジタル教科書を活用して、問題文や表等を提示する。

■見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画

※単元の終末に、次の問題に取り組むことで、連立方程式の有用性や、連立方程式が様々な場面で使われていることについての理解を図る。

【全国学力・学習状況調査】 平成31年度 大問2

【熊本県学力・学習状況調査】 令和元年度 大問5

※「単元の中心的な学習課題」は、教科書P〇を参考にして作成した課題を提示する。(第13時で取り扱う) →

食品名	食品(可食部)100gの量	カルシウムの量
乾燥わかめ	※写真	780mg
プロセスチーズ	※写真	630mg
しらす干し	※写真	520mg
こまつな(ゆで)	※写真	150mg
牛乳	※写真	110mg

文部科学省「日本食品標準成分表 2015」

# 中学校第1学年 理科 学習構想案

日時 令和2年〇月〇〇日(〇) 第〇校時  
 場所 1年〇組教室  
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1 単元構想

単元名	「状態変化」(発行者名「教科書名」p〇〇～〇〇)		
単元の目標	(1) 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (2) 状態変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、状態変化における規則性を見いだして表現すること。 (3) 状態変化に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うこと。		
単元の評価規準	知識・技能	身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点を理解し、科学的に探究しようとする基本的な技能を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度
	思考・判断・表現	状態変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだして表現している。科学的に探究している。	状態変化に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもちたり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿、期待される姿)			
状態変化と熱、物質の融点と沸点を理解することに加え、物質の状態変化の規則性が、どのように日常生活の中で利用されているのか関連付けて考えようとする生徒		単元を通じた学習課題	本単元で働かせる見方・考え方
物質の状態変化の規則性は、日常生活の中でのように		学習活動	身の回りの物質の性質や変化に着目し、粒子のモデルと関連付けて捉えること。
過程	時間	学習活動	評価の観点等 *は記録に残す科展の場面で「具体的な本時規準」を記載
1	2	○水が氷に状態変化するときエタノールが気化しようすを観察する。 ○観察したことから各自が気付いたことや問題を見いだす。 ○物質が液体から固体、液体から気体へと状態変化すると、体積と質量は変化するのだろうか。 ○各自が見いだした問題を基に学級共通の課題を設定する。 ○物質の状態変化の規則性は、日常生活にどのように利用されているのだろうか。	★【知】(記述分析) ○状態変化で物質の体積は変化するが質量は変化しないことを理解している。 【態】(行動観察、記述分析)
2	1	○注射器による空気や水の圧縮のようすの観察や前時までの結論から各自が気付いたことや問題を見いだす。 エタノールが状態変化すると、体積が変化し質量は変わらないのはなぜだろうか。 ○物質の状態変化による変化を粒子概念で考える。 水と同じように、他の物質でも状態変化する温度はきまっているのだろうか。	★【思】(記述分析) ○物質の状態変化による規則性を、粒子モデルを用いて説明できる。 ★【知】(記述分析) ○エタノールが状態変化するときの温度がエタノールの融点と沸点を境に状態が変化する。
3	2	○エタノールが状態変化する温度を測定する。 ○複数の物質による結果と比較し、沸点や融点の測定で未知の物質を推定できることを見いだす。 様々な混合物(赤ワインやみりん)からエタノールを取り出すのはどうしたらよいか。 ○沸点の違いを利用して、みりんや赤ワインなどの混合物からエタノールを分離する。(本時) 物質の状態変化の規則性は、日常生活にどのようなように利用されているのだろうか。	★【思】(記述分析) ○混合物からエタノールを取り出すための方法を説明できる。 ★【態】(記述分析) ○状態変化と熱、物質の融点と沸点について学んだことを生かそうとしている。
4	2	○単元を通して学んだことを基に、日常生活への利用について考える。	

## 2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

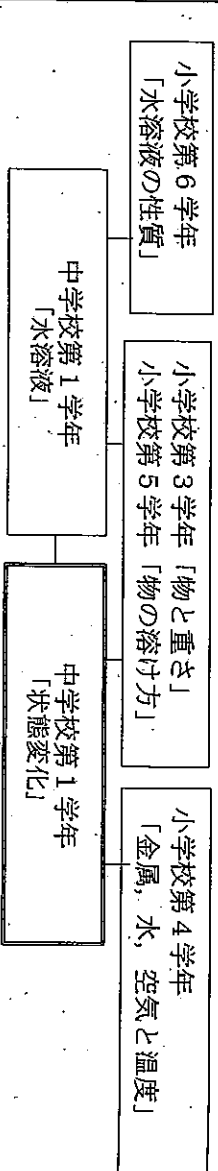
中学校学習指導要領・第1分野  
 [知識及び技能] (2)ア  
 [思考力、判断力、表現力等] (2)イ

教材・題材の価値

本教材は、授業を進める中で、粒子のモデルと関連付けて扱うことで、状態変化によって粒子の運動の様子が変化していることにも触れ、目に見えないものを実体として現象を考えられものである。また、純粋な物質では、状態が変化している間は温度が変化しないことにも気付かせ、状態変化に関する事象・現象に進んで関わらせられるものとなっている。

ここで扱う物質としては、身近なものをできるだけ取り上げることができ、物質に対する興味・関心を高められ、本単元で学んだ状態変化の規則性が、日常生活の様々な場面で生かされたり、事象に見て取れたりすることを感知せられる教材である。

本単元における系統



生徒の実態 (単元の目標につながる学びの実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
●●について理解している。	—	—	—	—
●●を、結果からまとめることができる。	—	—	—	—
●●に関して、条件制御を行うなど目的に沿った実験方法を計画できている。(以下略)	—	—	—	—

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
自分の考えを梁めたり、広げたりすることができていると思う。	—	—	—	—
課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	—	—	—	—
予想や考察を、考えた理由とともに説明することができていたと思う。	—	—	—	—

■考察

●●の理解については、概ねできているものの、観察、実験などの目的に応じて、得られた結果を適切に記録することが十分にできていない。また、自分の予想を基にして、解決の方法を計画することについては、今後も丁寧な指導が必要である。そのために…(以下略)  
 主体的・対話的で深い学びの視点から、学びの状況を見ると、課題の解決に向けて、自分から取り組むなど、主体的な姿勢がある一方で、自分の考えを深めたり、広げたりすることについては、あまりできていない。対話の場面を設定し、自分の考えと他者との考えの違いを明確にしながら、問題解決をする中で、どのように考えが変容していったかを実感する学習が必要である。(以下略)

### 3 指導に当たった際の留意点

- 生徒が単元を通して意欲的に課題解決に取り組めるように、導入時に、身近な物質である水やエタノールを用いて、固体や気体への状態変化に対する現象から、問題意識の焦点化を図り、見通しをもたせる。
- 既習事項をもとに実験方法を考えることができるように、前時の学習の振り返りの場で、フラッシュカードを用いて、既習事項の定着を図る。
- 生徒が物質の性質や変化について、質的実体的な視点で捉えて考察できるように、複数の物質を用いて物質の違いごとに複数のグループで調べることができるようにする。
- 対話の場面では、生徒が規則性を見だし科学的に探究できるように、実験結果を大切に、複数の結果から考察できるようにする。
- 生徒が、自分の学びに対する変容、成長、学習の有用感等を感じられるように、「まとめ」の時間に本時の学習で分かったことに加え、学ぶ前と後の自分の考えの違いに気付かせたり、新たに調べたいこと、友達との交流の中で学んだことなどを振り返るようにする。
- 生徒が、学習内容を生かせることを実感したり、新たな問いをもったりして学習への意欲をもち続けられるように、単元を通じた学習課題に対する自分の考えをまとめる時間を設定する。
- 本単元において、実態として○○のような状況から、○をを図る。(※生徒の実態による留意点は省略)

4 本時の学習

(1) 目標 エタノールと水では、沸点の違いがあることを利用して、混合物からエタノールを取り出したことを、複数の結果から比較して考察し、説明することができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入 5分	<p>1 課題を確認する。</p> <p>①前時に行った実験内容を振り返る。</p> <p>◇融点や沸点は物質によって決まっていたな。</p> <p>◇融点や沸点を測定することで、未知の物質を推定できたな。</p> <p>【めあて】液体の混合物から、ある成分をとり出そう。</p> <p>【学習課題】 赤ワインやみりんからエタノールをとり出すにはどうしたらよいだろうか。</p> <p>②予想を確認する。</p> <p>◇エタノールとそれ以外の物質の沸点は違う。</p> <p>◇異なる物質が混じっていても、沸点の違いを利用してとり出せるはずだ。</p> <p>◇エタノールの方が先に沸騰するはずだ。</p> <p>◇水よりもエタノールは、融点が高いから凍らせてもとり出せるのではないか。</p> <p>◇赤ワインの方が、みりんよりも含まれる量が多いから、より簡単にとり出せそうだ。</p> <p>2 課題の解決に向けて活動する</p> <p>①実験方法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ混合物を加熱する。</li> <li>・集めた液体の性質を確認する</li> </ul> <p>②グループごとに実験する。</p> <p>③他のグループとの情報交換を行う。</p> <p>④グループで考察する。</p> <p>◇1本目の方が2本目にとり出した液体の方がよりエタノールの性質を示していたよ。</p> <p>◇赤ワインでもみりんでも同じ方法で、エタノールはとり出したな。</p> <p>◇赤ワインは色がついていたけど、とり出した液体は透明だった。</p> <p>◇とり出した液体は、透明だから違う物質がとり出したことがわかるな。</p> <p>◇状態変化の温度変化グラフも徐々に上がっているのはなぜかな。</p> <p>【期待される学びの姿】 他の班の結果と比較しながら、物質の状態変化の性質を利用して、混合物からエタノールを取り出したことを自らの考えで表現しようとしている。</p> <p>3 学習のまとめ、振り返りを行う。</p> <p>【まとめ】赤ワインやみりんも、エタノールとそれ以外の物質(水)の沸点の差を利用して、とり出すことができる。</p>	<p>○目的意識をもって実験ができるように、前時に考察した内容を振り返る。</p> <p>○エタノールや水の状態変化の温度変化グラフを見せる。</p> <p>○赤ワインやみりんに含まれる成分表を示し、様々な物質が含まれていることに興味をもたせる。</p> <p>○自分たちの予想に対する解決する方法やその結果を考えさせる。</p> <p>○実証性を高められるように、同じ混合物に対する実験を複数のグループで行う。</p> <p>○エタノールの性質(においや引火性など)について押さえる。</p> <p>○総合的に考察できるように、複数の混合物での結果を調べる。</p> <p>○他グループの実験結果の必要性を高め、情報交換し合いながら考察できるように、各グループでどちらかの混合物を取り扱うようにする。</p> <p>【具体的評価規準】思 ○混合物からエタノールを取り出したことを、複数の結果から比較して考察し説明することができる。(記述分析)</p>
展開 35分	<p>◇混合物は違っても同じ方法で、エタノールをとり出すことができた。</p> <p>◇沸点の差を利用すると、液体であっても分離できる。</p> <p>◇特定の物質もこの方法でとり出せそうだ。</p> <p>◇○○さんの発言から、家庭にある☆☆も同じ方法でとり出されていると思った。</p> <p>◇今日学んだこととお酒の蒸留とつながったよ。</p>	<p>○これまでの学びが自分なりに価値づけができるように、「本時の学習で分かったこと」と「それ以外で学んだこと、もっと調べてみたいこと」などを視点に振り返りをする。</p> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○とり出すエタノールとそれ以外の物質(水)の温度変化のグラフを示しながら、最初に気体となる物質は何かを考えるよう促す。</p>
終末 10分	<p>◇混合物は違っても同じ方法で、エタノールをとり出すことができた。</p> <p>◇沸点の差を利用すると、液体であっても分離できる。</p> <p>◇特定の物質もこの方法でとり出せそうだ。</p> <p>◇○○さんの発言から、家庭にある☆☆も同じ方法でとり出されていると思った。</p> <p>◇今日学んだこととお酒の蒸留とつながったよ。</p>	<p>○これまでの学びが自分なりに価値づけができるように、「本時の学習で分かったこと」と「それ以外で学んだこと、もっと調べてみたいこと」などを視点に振り返りをする。</p>



【板書計画】

状態変化

これまでに学んだこと

- ◇融点や沸点は物質によって決まっている。
- ◇融点や沸点が分かれば、未知の物質を推定できる。



赤ワインやみりんからエタノールをとり出すにはどうしたらよいだろうか。

予想

- ◇エタノールとそれ以外の物質の沸点は違ふ。
- ◇異なる物質が混じっていても、沸点のちがいを利用してとり出せる。
- ◇加熱したら、エタノールの方が先に沸騰する。
- ◇水よりもエタノールは、融点が高いから凍らせてもとり出せるのではないか。
- ◇赤ワインの方が、みりんよりも含まれる量が大きいから、より簡単にとり出せる。

実験結果

【赤ワイン】

色	におい	燃え方	気つき
A			
B			
C			

【みりん】

色	におい	燃え方	気つき
A			
B			
C			

実験方法

- ①【赤ワイン・みりん】を加熱して、液体を集める。  
・挟付きフラスコに【赤ワイン・みりん】を約10mL入れる。  
・沸騰石を入れて、弱く加熱する。  
・1mL程度たまったら試験管を集え、3本（A—B—Cの順）集める。  
（省略）  
②集めた液体の性質を確認する。  
・色、におい、燃え方  
③気づきがあれば記録する。  
・温度など



考察

・はじめに採取したAの液体が、エタノールの性質をより強く示したことから、多く含まれていることが分かる。  
・混合物の沸騰する温度が一定でなく、徐々に上昇した。

まとめ

赤ワインやみりんも、エタノールとそれ以外の物質（水）の沸点の差を利用して、とり出すことができる。

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表 まとめ等による考えの共有の計画等

・単元を通して意欲的に課題解決に取り組めるように、導入時に、身近な物質である水やエタノールを用いて、固体や気体への状態変化に対する現象から、問題意識の焦点化を図り、見通しをもたせる。

・実験結果の共有場面で、実験した結果（燃え方）を書画カメラで撮影し、拡大して提示する。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

○身の回りの物質の性質や変化に着目し、粒子のモデルと関連付けて捉えている過去の調査問題にて定着を図る。

- 【全国学力・学習状況調査】 平成〇〇年度 大問〇
  - 【熊本県学力・学習状況調査】 令和〇年度 大問〇
  - 【課題克服プリント】 平成〇〇年度提供 大問〇
- 単元の終末では、物質の状態変化の規則性は、日常生活にどのように利用されているのか考えをまとめさせる。また、個々の考えを全体で共有することで、学んだことが日常生活と関連していることをより意識できるようにする。

### 第3学年 中学校音楽科 学習構想案

日時 令和2年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 音楽室

指導者 教諭 〇〇 〇〇

#### 1 題材構想

題材名	歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう (教材：「荒城の月」「早春賦」)		
題材の目標	(1) 「荒城の月」, 「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 (2) 「荒城の月」, 「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 (3) 「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。		
題材の記述標準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度
①「荒城の月」, 「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 ②創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体への使い分け、歌唱で表している。	①「荒城の月」, 「早春賦」のリズム、速度、働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現として思いや意図をもっている。	①「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	①「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを述べている。 ②「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 ③「荒城の月」, 「早春賦」のリズム(拍子)、速度、旋律、強弱を知覚し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。
①「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞を音読したり、歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などを学習シートに記入する。二つの曲を歌い比べながら、それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートに書く。	①「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞を音読したり、歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などを学習シートに記入する。二つの曲を歌い比べながら、それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートに書く。	①「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞を音読したり、歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などを学習シートに記入する。二つの曲を歌い比べながら、それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートに書く。	①「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞を音読したり、歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などを学習シートに記入する。二つの曲を歌い比べながら、それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートに書く。
「荒城の月」を歌ったり、CDを聴いたりして、リズム(拍子)、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚し・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。	「荒城の月」を歌ったり、CDを聴いたりして、リズム(拍子)、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚し・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。	「荒城の月」を歌ったり、CDを聴いたりして、リズム(拍子)、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚し・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。	「荒城の月」を歌ったり、CDを聴いたりして、リズム(拍子)、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚し・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。
「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム(拍子)、速度、旋律、強弱を知覚し・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。	「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム(拍子)、速度、旋律、強弱を知覚し・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。	「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム(拍子)、速度、旋律、強弱を知覚し・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。	「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム(拍子)、速度、旋律、強弱を知覚し・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。
曲にふさわしい音楽表現となるように学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などを試す。 思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 題材における学習を振り返る。	曲にふさわしい音楽表現となるように学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などを試す。 思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 題材における学習を振り返る。	曲にふさわしい音楽表現となるように学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などを試す。 思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 題材における学習を振り返る。	曲にふさわしい音楽表現となるように学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などを試す。 思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 題材における学習を振り返る。

これから出会う日本の曲についても魅力を味わい、工夫して表現しようとする生徒。

#### 題材を通じた学習課題

我が国で長く歌われている歌曲の魅力を味わおう。

#### 本題材で動かせる見方・考え方

音楽に対する感性を働かせ、歌詞、リズム、速度、旋律、強弱等とそれらの働きの視点で捉え、自己のイメージや感情などと関連付けること。

#### 指導計画と評価計画(4時間取扱い ※本時3/4)

時間	学習活動	評価の観点等 (※は評価の観点で「具体の評価標準」)
1	「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞を音読したり、歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などを学習シートに記入する。二つの曲を歌い比べながら、それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートに書く。	【能①】ワークシートの記述・観察
2	「荒城の月」を歌ったり、CDを聴いたりして、リズム(拍子)、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱を知覚し・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。	【能①】ワークシートの記述・観察 【思①】ワークシートの記述・発言
3	「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム(拍子)、速度、旋律、強弱を知覚し・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。	【知①】ワークシートの記述 【能①】ワークシートの記述・観察 【思①】ワークシートの記述・発言 【知②】演奏(歌唱)
4	曲にふさわしい音楽表現となるように学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などを試す。 思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 題材における学習を振り返る。	【知②】演奏(歌唱) 【能①】ワークシートの記述・観察 【思①】ワークシートの記述・発言 【知③】ワークシートの記述・観察

## 2 題材における系統及び生徒の実態

### 学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等)

中学校学習指導要領の第2学年及び第3学年  
 【思考力、判断力、表現力等】A表現(1)ア、 【共通事項】(1)ア  
 【知識及び技能】A表現(1)イ(ア)・ウ(ア)

#### 教材・題材の価値

歌唱共通教材「荒城の月」は人の世の栄枯盛衰を歌った曲であり、歌詞の内容、言葉の特性、短調の響き、旋律のなどに特徴を感じ取ることができる。また、「早春賦」は、春を待ちわびる気持ちを表した曲であり、拍子が生み出す雰囲気、旋律と強弱の関わりなどを感じ取り、フレーズや曲の形式を意識して、情景を想像しながら表現を工夫する学習が考えられる。二曲の対比を通して、「早春賦」に対する思いや意図がより深まっていくことが期待でき、我が国で長く歌われている歌曲に親しむことができる題材である。

#### 本題材における系統

小学校6学年 旋律の特徴を生かして表現しよう ・歌詞と曲想との関わり に気を付けて歌う。	中学校1学年 日本の歌のよさや美しさを現しよう 歌唱表現を工夫しよう ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	中学校2学年 内容の理解しよう 曲想と歌詞の関わりを工夫しよう 歌唱表現を工夫しよう ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	中学校3学年 内容の理解しよう や美しさを理解しよう 歌唱表現を工夫しよう ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。
---	---	---	--

#### 生徒の実態(題材の目標につながる学びの実態)

■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 調査内容 どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。 リズム、旋律、強弱などの音楽を形づくっている要素を知覚し、特徴を感じ取ることができる。 曲にあつた発声の仕方や身体の使い方と歌うことができる。	概ね(6割~8割程度) — — —	十分(8割以上) — — —
--	----------------------------	-------------------------

■本題材の学習に関する意識の状況 調査内容 課題解決に向けて、自分で考え、進んで取り組んでいると思う。 友達と意見や考えを交流することで、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていると思う。 音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの特徴を捉え、捉えたことと自分のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連づけて考えていると思う。	よく — — —	まあまあ — — —	あまり — — —	ない — — —
--	-------------------	---------------------	--------------------	-------------------

#### 考察

##### (資質・能力に関して)

どのように歌うかについて思いや意図をもつことはできるが、それが音楽を形づくっている要素とその働きに着目した根拠のあるものになっているかについては十分とは言えない。音楽的な見方・考え方を働かせることができる学習活動を位置付け、自分のイメージや感情との関わり、伝統や文化などの音楽の背景との関わりについても考えられるようにする。(学びに関して)

主体的・対話的で深い学びの視点から学びの状況を見ると、課題の解決に向けて、自分から取り組むなど、主体的な姿が見られ、友達との意見交流により、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。一方で、音楽を通して捉えたことと自己のイメージや生活などを関連付けて考えることについては、十分にできているとは言えない。音楽科を学ぶ意義を実感する学習の工夫が必要である。

## 3 指導に当たった際の留意点

- 教師の発問・指示や生徒の発言の際に、音楽のどの部分を示しているのかを共有できるように音楽の可視化を図る。
- 生徒が主張する理由の根拠となる音や音楽に常に戻ることを大切にしたい学習展開の工夫を行う。
- 音楽的な見方・考え方に着目した問いの工夫や学びを実感する振り返りの工夫を行う。

4 本時の学習  
 (1) 目標 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解し、歌唱表現を創意工夫する。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 13分	1 課題をつかむ ①「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 【めあて】「早春賦」の曲想を感じ取って表現を工夫しよう	○前時までの学びを振り返ったり、歌詞が表している情景や心情について話し合い、それらを思い浮かべながら「早春賦」を歌うことができるようにする。 (「問い」を生み出す手立て等) ○「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」の特徴を捉えられるようにする。
展開 30分	2 課題の解決に向けて活動する。 ①知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて交流する。 <個人→グループ> ◇曲の始めから滑らかに流れるような旋律で、希望に満ちた感じで歌いたい。 ②グループで歌い試しながら、「早春賦」にふさわしい音楽表現について考える。 <グループ> ◇6/8拍子を2拍子で感じながら、伴奏の流れに乗って歌ってみよう。 ◇旋律が上がっていくときは、春への期待が高まる感じで、スピードに乗って、徐々に強く歌ってみよう。 ③表現の工夫についてワークシートの楽譜に書き込む。(特に表現を工夫するポイントを記入する。) ④学級全体で歌い試しながら、音楽表現について共有する。	○前時までのワークシート等を振り返って「荒城の月」と対比したり、楽器(旋律、歌詞、記号など)を手掛かりにしたりするようにする。 【具体的評価規準】知① ○曲の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを書いている。 (方法：ワークシートの記述) 【到達していない生徒への手立て】 ○2曲の雰囲気の違いなどについて対話しながら、速度を変えた演奏を聴かせるなどして、雰囲気の違いが音楽を形づくっている要素の働きによって生み出されることに気付けるようにする。 ○知覚したことと感受したことの関わりについて考えたことを基に意見を交流しながら、拍子の感じ方、速度、強弱などを様々に歌い試すよう促す。 【具体的評価規準】思① ○感じ取った曲想や音楽の構造、歌詞の内容などに触れながら、どのように歌いたいかについて、自分なりの思いや意図を書いている。 (方法：ワークシートの記述・発言) 【到達していない生徒への手立て】 ○「荒城の月」との雰囲気の違いなどを基に、生徒とともに速度やリズムの位置を変えて歌うなどしながら、「早春賦」から感じ取った雰囲気におさわししい表現について対話し、思いや意図がもてるよう促す。
終末 7分	3 表現の工夫を生かし「早春賦」を歌う。 【まとめ】春の爽やかな感じを表現するために、2拍子を感じて伴奏の流れに乗って歌う。 ・春への期待の高まりを表すために、旋律が上がっていくにつれて徐々に強く歌う。等 4 学習したことを振り返る。 ◇曲の特徴を捉えて、「早春賦」におさわししい表現を工夫することで、より表現が豊かになった。	○生徒の表現の工夫を基にまとめ、それを生かして歌うよう促す。 ○振り返りの視点を示し、最初の曲の捉えからどのように変わり、表現の工夫につながったかについて自覚できるようにする。

【板書計画】

めあて

「早春賦」の曲想を感じ取って表現を工夫しよう

【学習課題】

「早春賦」の曲想に合う表現をするために、歌詞の内容や音楽の構造との関わりを踏まえて、どのような表現の工夫をすればよいだろう。

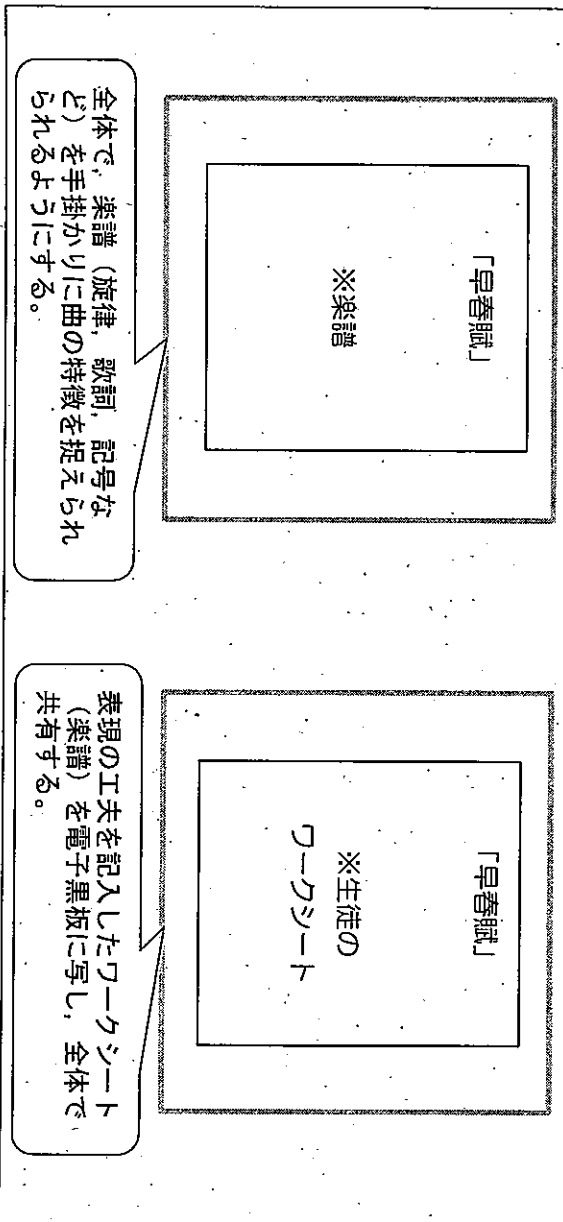
◎2曲の特徴について

	荒城の月	早春賦
歌詞	栄枯盛衰の様子	春を待ちわびる様子
拍子	4/4	6/8
速度	ゆったり	速い
旋律	緩やかに進む感じ…	上ったり下りたり
強弱	3段目に変化がある	同じ歌詞のところは強弱の変化がある

同じ歌詞を繰り返し返す旋律のところは、速度や強弱を変化させることで、期待と残念な気持ちを表していると思うので、特に強弱を生かして歌う。等

【ICT活用計画】

例 楽譜を電子黒板で提示し、表現の工夫について書き込んだ楽譜を全体で共有しながら歌唱表現ができるようにする。



【題材構成の工夫】

例 「荒城の月」と「早春賦」の2曲を対比することで、曲の理解を深め、音楽表現を追究する構成。

歌唱共通教材から2曲を扱い、2曲の対比により曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解を深め、さらに表現の工夫に生かす学習活動を設定し、日本の歌曲のよさについても迫ることができるように構成した。

# 中学校第3学年 美術科 学習構想案

日時 令和〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時  
 場所 美術室  
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1 題材構想

題材名	魅力が伝わるパッケージ～地元商店街の包装紙をつくる～（「日本文芸出版 美術2・3下」P32～33）		
題材の目標	(1) ・ 装飾や配色及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。 ・ 意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。 (2) ・ 商品を受け取る人の気持ちのイメージなどから主題を生み出し、形や色彩などが感情にもたらす効果や、分かりやすさなど美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。 ・ 構成や装飾の調和のとれた美しさを取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えを味わい、見方や感じ方を深める。 (3) ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、自身のイメージが多くの人に伝わるように、魅力的な装飾や配色などを考えることを基に表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとする。		
題材の評価規準	知識・技能 ① 形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果などを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 ② 材料や用具、表現方法の特性などから、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。	思考・判断・表現 ① 構成や装飾の目的や条件などを基に使用する者の立場、社会との関わり、機能やユーモアなどから主題を生み出し、包装紙やパッケージの機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 ② 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	主体的に学習に取り組む態度 ① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、形や色彩などが感情にもたらす効果や、機能と美しさとの調和などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。 ② 美術の創造活動の喜びを味わい、包み込む包装紙の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な見方や感じ方について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
題材終了時の生徒の姿（題材のゴールの姿 期待される姿）			
自分が表したいことに合わせて形や配色等の表現の構想を練るときに、商品を受け取る人の感情にもたらす効果などをイメージし、自分の表現方法を追求して表現しようとする生徒			
題材を通じた課題（題材の中心的な課題） 商品を受け取る人の気持ちをイメージしながら、地元商店街のオリジナル包装紙をつくる。	本題材で動かせる見方・感じ方 造形的な視点を捉え感性や創造力を働かせ、商品を受け取る人の気持ち等をイメージしながら、生徒自らが強く表したいことを表現する意味や価値をつくりだすこと。		
指導計画と評価計画（8時間取扱い、本時 2/8）			
過程	時間	学習活動（問いを設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で、「具体の評価規準」
鑑賞	1	① 包装紙の参考作品を鑑賞する活動を通して、作者の心情や意図、表現の工夫に気づき、対話を通してそのよさを味わう。	【知①】（観察）【態①】（観察） ① 造形的な視点をもとに、参考作品の工夫点に気づき、作者の心情について感じ取っている。
発想構想	2	① 商店街で販売されている商品を知り、主題を基に、形や色彩などが感情にもたらす効果や美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。	★【思①】（ワークシート・観察） ① 形や色彩の効果を生かして、構成や装飾を考え、企画書に表現している。
知識技能	4	① 決定したデザインを基に、意図に応じて創造的に表す。	★【知②】（作品・ワークシート・観察） ① イメージした色調で、リズムを考えた配置で下描きをしている。 ② 背景と同系色を使い繰り返し、色による強弱を加えるなど、工夫して着色している。
鑑賞	1	① でき上がった生徒作品を鑑賞し、それぞれがデザインした作品についての見方や感じ方を深める。	★【思②】（ワークシート・発言） ★【態②】（観察） ① 造形的なよさや工夫点について批評し合いながら鑑賞し、友達の仕事のイメージを味わっている。

## 2 題材における系統及び生徒の実態

### 学習指導要領における該当箇所（内容 指導事項等）

中学校学習指導要領「A表現」（1）イ（ア），（2）ア（ア）（イ） 「B鑑賞」（1）ア（イ）  
「共通事項」ア，イ

### 教材・題材の価値

本題材は、商品の包装紙の内容物のイメージの伝達を考慮し、独自の包装紙をデザインする学習内容である。発想や構想したことを基に、材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現する伝達を目的としたデザインを総合的に学ぶ題材となる。

本題材における系統（横軸を当該学年での多領域とのつながり 横軸を他学年での同領域のつながり）

1年「楽しく伝える文字のデザイン」 伝えたい内容を考え、文字の形とその意味を表す絵をうまく組み合わせて、絵文字をつくる。	2年「豊かなイメージで伝えよう」 本などの作品のイメージを豊かに伝える表紙をつくる。	3年「暮らしを心地よくするインテリア」 室内空間を豊かにするためのインテリア小物をつくる。
3年「私の知話」 自分の姿を見つめて考えたことをもとに、今の自分の気持ちや将来の夢を絵や立体に表す。	3年「魅力が伝わるパッケージ」 地元商店街の商品の特色や魅力を伝える包装紙のデザインを考える。	

### 生徒の実態（題材の目標につながる学びの実態）

■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況	調査内容				
	よく	まあまあ	あまり	ない	
構成美の要素（秩序）について理解することができる。	—	—	—	—	—
配色による印象や感じについて理解することができる。	—	—	—	—	—
構成美の要素（秩序）や配色を考えたりしながら、どのように表現するか考えることができる。	—	—	—	—	—
■本題材の学習に関する意識の状況					
	よく	まあまあ	あまり	ない	
自分の発想力を深めたり広げたりすることができていると思う。	—	—	—	—	—
自分の技能を高めたり広げたりすることができていると思う。	—	—	—	—	—
課題解決のために、友達の見解や考えを参考にして表すことができていると思う。	—	—	—	—	—
作品をよりよくするために、最初の段階から発想の再構成を繰り返すことができていると思う。	—	—	—	—	—
■考察 (略)					

## 3 指導に当たっての留意点

- 身近な地元商店街等の包装紙に関心をもたせるよう、その制作過程の思いを添えて参考作品を紹介する。
- 商品を取流する人、商品を受け取る人への思いを、デザインの形や色などのもつ特性やそれから受けるイメージを基に工夫して発想できるよう、日本の美意識、ピクトグラムなどの既習事項の再確認を行う。〔共通事項〕
- 発想の段階のアイデアスケッチや鑑賞の段階では、自分の言葉で〔共通事項〕をpushさせた表現意図の説明ができるよう形や色彩、材料等についてのキーワード（暖かい、冷たい、コントラスト、リズム、・・・）を黒板及び大型テレビに分かりやすく示す。
- 発想がなかなか広がらない生徒に対しては、形や色彩の掲示物を常に活用できるように掲示すると同時に、友達作品の表現されている思いを〔共通事項〕を基に学び取らせる場を、学習過程の半ばに設定する。
- 学習の流れを①店や商品の特徴をつかむ、②企画書を作成する、③企画をグループで発表し合い、決定する、④全体でプレゼンテーションをするとし、制作後は生徒が商店街を回り、オリジナル包装紙やパッケージの活用を検討していただくよう依頼する。

- 4 本時の学習  
 (1) 目標 商品を販売する人や商品を買う人の思いを基に、機能や造形的な美しさを総合的に考え、表現の構想を練り企画書に表している。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	15分	<p>1 前時の学習を振り返る。            ◇お店のイメージに合う模様がかいてあったなあ。            ◇お店のイメージに合う色だったなあ。</p> <p>2 本時の学習のめあてについて考える。</p> <p><b>【本時の目標 (めあて)】</b>            商品に込められた思いが伝わるデザインとはどんな形や色彩なのかを探り、テーマ性のある企画書を作成しよう。</p> <p><b>【学習課題】</b>            商品を販売する人や買う人の思いをイメージし、包装紙のデザインを考えよう。</p>	<p>○企画書記入のポイントを説明する際に、構成美の要素、配色、書体の印象について補足説明する。</p>
展開	25分	<p>3 企画書に商品を販売する人や買う人の思い等を基本に、包装紙のデザインを考え、アイディアスケッチをする。</p> <p>4 アイディアスケッチに、【共通事項】を基に考えた自分なりの価値を、言葉で書き加える。</p> <p>5 ペアワークの時間をとり、自分のアイディアに関して、友達から指摘や助言をもらい、企画書作成に生かす。            ◇友達の助言を自分の作品に取り入れてみよう。</p> <p><b>【期待される学びの姿】</b>            使う目的や条件などをもとに、使用する者の立場、社会との関わり、機能やユーモアなどから主題を生み出し、包み込む包装紙の機能と美しさとの調和などを多様な視点から総合的に考え、より一層、用途や機能と美しさの調和を考え、表現の構想を練っている。</p>	<p>○対話的な学びから、自分の気づかなかつたよさや表現の意図、創造的な工夫などを発見する。</p> <p><b>【具体的評価規準】 思①</b>            ○形や色彩の効果を生かして、構成や装飾を考え、企画書に表現している。            (企画書・生徒の発言)</p> <p><b>【到達していない生徒への手立て】</b>            ○イメージがもてない場合は、商品販売する人の思いを確認したり、使いやすく美しい目的と機能のあるデザインの主題について考えさせたりする。            ○デザインする内容について考えていることを話し合わせて他者の意見を参考にさせるなどして、構想しやすくする。</p>
終末	10分	<p>6 学習課題に対して学びを広めるとともに、めあてについて振り返りをする。</p> <p><b>【まとめ】</b> 商品販売する人や買う人の思いを基に、形の繰り返しや大きさの変化、また、色のもたらす感情、書体がつ印象等をイメージしながら、包装紙のデザインを考えることができた。</p> <p>◇自分のイメージに近い企画書ができた。紹介された企画書の良い点を自分のアイディアに取り入れ、さらに改善しよう。</p>	<p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の改善方法を共有する。            ○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的にを行う</p>



【板書計画】

めあて

商品に込められた思いが伝わるデザインとはどんな形や色彩なのかを探り、テーマ性のある企画書を作成しよう。

企画書

- ①お店の特徴
- ②デザインのコンセプト
- ③構成の名称
- ④配色の工夫
- ⑤ペーシングの色
- ⑥色数
- ⑦フォント(文字の形、大きさ)

構成美の名称と特徴をまとめた図、写真等

配色についてまとめた図、写真等

文字の書体及びその書体から受ける印象等をまとめた図、写真等

【ICT活用計画】

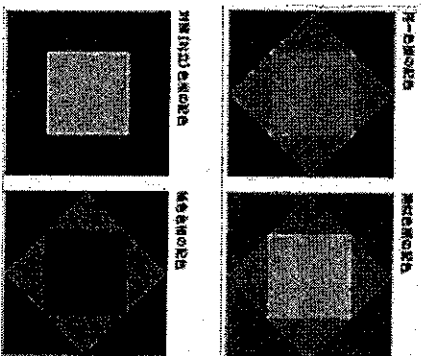
教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

企画書及び教科書や資料集等に記載している構成美の要素、配色、文字の書体を電子黒板で拡大提示し、板書の補助とする。

企画書

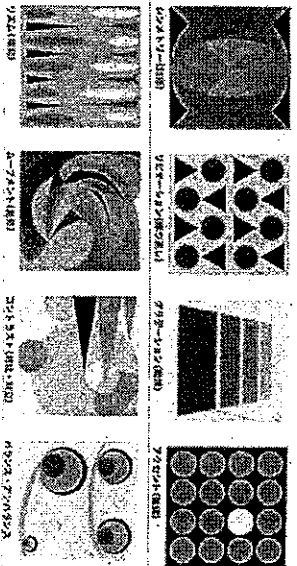
- ①お店の特徴
- ②デザインのコンセプト
- ③構成の名称
- ④配色の工夫
- ⑤ペーシングの色
- ⑥色数
- ⑦フォント(文字の形、大きさ)

画面①



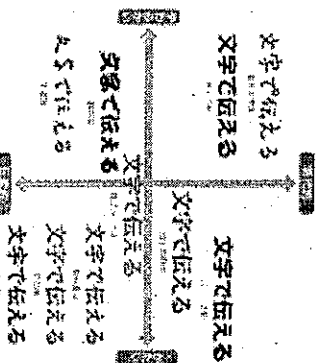
画面②

※それぞれの配色による印象や感じについて、一つずつ出し、説明する際の補助とする。



※それぞれの「構成美の要素(秩序)」について、一つずつ出し、説明する際の補助とする。

画面③



画面④

※文字の書体及びその書体から受ける印象等を説明する際の補助とする。

# 中学校第3学年 技術・家庭科 (技術分野) 学習構想案

日時 令和元年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 〇年〇組教室

指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1 題材構想

題材名	D情報の技術 「プログラムを用いた栽培管理システムを作ろう」		
題材の目標	(1) 計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 (2) 前題材で実施した栽培活動から問題を見いだし、課題を設定し、その解決のために計測・制御システムを構想して具体化し、最適なプログラムの制作やデバッグ、結果の評価、改善及び修正について考える。 (3) 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度や、自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度を育成する。		
題材の評価規準	知識・技能	①生活や社会で利用されている基礎的なプログラミングの知識と栽培の管理作業との関わりについて理解している。 ②安全で最適なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。	①栽培に関わる問題を見いだし、必要な機能をもつコンテントツツのプログラムや計測・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、具体的な解決策を構想しようとしている。 ②制作したプログラム等を評価・改善して課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよいシステムになるように、改善しようとし続ける力を身に付けている。
	思考・判断・表現	①栽培に関わる問題を見いだし、必要な機能をもつコンテントツツのプログラムや計測・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、具体的な解決策を構想しようとしている。 ②制作したプログラム等を評価・改善して課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよいシステムになるように、改善しようとし続ける力を身に付けている。	①よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取組んでいる。 ②自身の課題解決について振り返ったり、改善した工夫し創造しようとしている。
題材終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿、期待される姿)			
生活の中から問題を見いだし、自ら課題を設定し、課題解決に向けたプログラムを設計・制作し、完成したプログラムをさらに最適なものにしようとし、改善し続けようとする姿			
題材を通じた学習課題 (単元の中心的な学習課題)		本題材で働かせる見方・考え方	
よりよい管理作業を行うために、最適なプログラムを制作しよう。			
指導計画と評価計画 (8時間取扱い 本時6/8)			
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 <small>★は配課に該当評価の場面では具体的評価規準]</small>
課題の設定	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>前題材で行ったラディッシュ栽培で見いだした様々な問題について、自らの栽培経験を生かし問題を分析する。</li> <li>様々な問題に関してプログラムミソング等を用いた解決方法について考える。</li> <li>制作するプログラムに関して、イラストや文章を用いて、アルゴリズムを個人で考える。</li> <li>個人で考えたアルゴリズムをグループ内で共有し、話し合いを通して、最適なアルゴリズムになるように修正する。</li> </ul>	★【知①】 ワークシート ○センサ・アクチュエータの動きや計測・制御システムの基本的な仕組みについて理解している。 ★【思①】 観察 (チェックリスト) ワークシート ○課題の解決策となる計測・制御システムの機能や条件を構想し、大まかな動作を具体化できる。
科学的な理解に基づいた計画	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に制作したアルゴリズムを基にプログラムを制作する。</li> <li>制作したプログラムはマイコンボード上で実行し、動作の確認を行う。</li> <li>制作したプログラムをグループで共有し、最適なプログラムになるよう検討・修正する。</li> </ul>	★【知②】 制作物 (プログラム) ○安全・適切なプログラムの制作及びデバッグ等ができる。 ★【思②】 ワークシート ○問題解決とその過程を振り返り、社会からの要求や環境、経済への影響を考えて、制作したシステムがよりよいものとなるよう改善及び修正を考えることができる。
課題解決に向けた制作	4 (3/4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に制作したプログラムについて発表を行う。</li> <li>他グループの発表を聞き、自分のプログラムと比較し、多面的に評価し、変更について検討する。</li> </ul>	★【態②】 振り返りシート ○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。
成果の評価	1		

2 題材における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等)

D 情報の技術(3) 計測・制御のプログラミング

題材の価値

本題材は、生活や社会の中から見いだした生物育成の管理作業上の問題を計測・制御のプログラミングによって解決する活動を通して、情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだし課題を設定し解決する力を育成するとともに、計測・制御システムの仕組みを理解させ、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等を習得させることに適している。

本題材における系統

小学5年算数・6学年理科等 教科等におけるプログラミング教育  
・プログラミング的的思考の育成 ・問題解決能力の育成

第2学年  
理科  
生物に関する事項  
・光合成  
・生育に必要な条件等

第3学年 B 生物育成の技術(ラディツシユの栽培)  
・設定した課題を解決するために、安全・適切に、た管理作業や病気や害虫等からの防除を理解する。  
・生物の育成環境の調節等に関わる問題を見いだし課題を設定し、課題の解決策を条件を踏まえて構想し、解決策を具体化する。

第3学年 D 情報の技術 アクチュエータ等の計測・制御システムの要素等の計測・制御システム  
・センサ、コンピュータ、理解する。  
プログラムの基本的な組み立て、動作の確認、デバッグ等ができる。  
・生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、課題の解決策を条件を踏まえて構想し、試行を通じて解決策を具体化する。  
制作した課題の解決結果等を評価、改善及び修正する。

生徒の実態(単元の目標)につながる学びの実態)

■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

○植物の栽培に関する知識(光合成には酸素と水と光が必要であり、日照時間が長ければ長いほどや温度によって光合成の量が変わってくる。植物には育成に適した気温があり、その範囲内の温度であれば光合成をおこなって植物が伸長する。)に関する理解度を調査する。

○自らが考えた問題解決の方法や生活や社会ではたらくプログラムについてのアルゴリズムやプログラムを図やイラスト、文章等を使って表現することができるかを調査する。(例:信号機や自動ドアのプログラムやアルゴリズム)

■本題材の学習に関する意識の状況

	とても	少し	あまり	まったく
センサやアクチュエータが使われている製品が分かる				
センサやアクチュエータの働きを説明できる				
プログラムを思い通りに制作することができる				
デバッグすることができる				
身の回りの中の問題について解決するためのプログラムやアルゴリズムを作ったり、考えたりすることができる				
既存のプログラムやシステムから、制作者の意図やねらいについて読み取ることができる				

■考察(省略)

3 指導に当たった際の留意点(「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記)

- 「B生物育成の技術」で、生徒が気づいた栽培上の問題について、コンピュータで管理作業を制御するプログラムを制作し、「B生物育成の技術」で気づいた問題を「D情報の技術」で解決させる統合的な問題の解決を行う。
- 問題解決のためのアルゴリズムやプログラムに関しては、個人で制作する活動を大切にし、時間的・環境的に十分な配慮を行う。
- アルゴリズムの検討時には、アクティビティ図やフローチャート等の書き方を学びながら、生徒の状況に応じて、イラストや文章を用いて表現させる。
- 制作したプログラムを、常に最適なものにするために、それぞれのプログラムの良い点や改善点を紹介したり発見したりする機会を設け、自分自身で最適なものに改善できるよう、知識や考え方を養っていく。

4. 本時の学習

- (1) 目標  
 社会からの要求や環境、経済への影響を考えて、最適な自動灌水システムのプログラムを制作するための改善案及び修正案を持つことができる。
- (2) 展開

過程	時間	学習活動 (＜予想される生徒の発言＞)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 本時の学習目標(めあて)を理解する。</p> <p>【めあて】グループで決定したアルゴリズムをもとに、最適なプログラムについて考えよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題】            最適なプログラムを制作するためには、どんな点に気をつければよいか。</p> </div> <p>2 前時までのワークシートを振り返りながら課題を解決するためのアルゴリズムについてグループで確認する。</p> <p>3 最適なプログラムを制作するために、自分のアルゴリズムと他者のアルゴリズムを比較させる。</p> <p>4 前時までのワークシートを振り返りながら課題を解決するためのアルゴリズムについてグループで確認する。</p>	<p>○最適なプログラムを制作するために、自分のアルゴリズムと他者のアルゴリズムを比較させる。</p> <p>○前時までのワークシートを振り返りながら課題を解決するためのアルゴリズムについてグループで確認する。</p> <p>○完成した生徒に対しては、本当に最適なプログラムなのか確認するよう指示する。            ※最適なプログラムとは①間違いが無い、②重複や無駄がない、③構造がシンプルの三つである。</p>
展開	30分	<p>2 めあてに応じたプログラムを個人で作す。個人でプログラムを制作し、必要に応じてバッキングする。</p> <p>(1) 個人でプログラムが完成したら、最適なプログラムであるか確認する。</p> <p>3 個人で制作したプログラムをグループで共有し、最適なプログラムになるように修正する。</p> <p>(1) 個人で制作したプログラムの工夫点を共有する。</p> <p>(2) グループ内で互いのプログラムについて説明し、最適なプログラムを制作するための工夫について話し合う。</p> <p>(3) グループでプログラムを制作し、動作確認を行う。</p> <p>(4) 学習課題について気付いたことや分かったことをグループ内で発表する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【期待される学びの姿】            課題を解決するために無駄のないプログラムの制作について、最適になるように具体的な改善案について考え続けることができる。</p> </div>	<p>○互いのプログラムを評価することで、プログラムの不自然さや無駄に気づき、プログラミンの基礎的概念に対する理解を深めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【具体の評価規準】 思②            ○課題を解決するためのプログラムに対して、社会からの要求や環境面等について、よりよくなるような工夫点について、自分なりの考えを持っている。(方法：ワークシート)</p> </div> <p>【到達していない生徒への手立て】            ○題材の授業を振り返り、アルゴリズムをもとに、プログラムの基礎的な部分について考えることができるワークシートを準備する。</p>
終末	15分	<p>4 学習したことを振り返る。</p> <p>(1) 本時の課題について、各自の考えを発表する。</p> <p>◇短い時間でプログラムの間違いを見つけられること。</p> <p>◇プログラムの関値は、予測して入力すること。</p> <p>◇プログラムを効率よくすれば、環境負荷を減らすことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】最適なプログラムを制作するために、気を付けなければならない点について考え、整理することができた。</p> </div> <p>(2) 最適なプログラムになるよう、次の授業で改善したい点について考える。</p>	<p>○共有させたい考えの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関値は論理的に考える方がよい</li> <li>・ 構造がシンプルであれば、プログラムの間違いを見つけやすい。</li> <li>・ バッキングを繰り返す度、プログラムが改善される。</li> </ul> <p>○環境面や経済面の意見は考えにくいので、これらの視点について発表させることにより、生徒に新たな気づきを生じさせたい。</p> <p>○発表を聞き、自身のプログラムに生かせるような点を見つけ、最適なプログラムになるために改善できる点について考えさせる。</p>

【板書計画】

【学習課題】自動灌漑システムの最適なプログラムを制作するためには、どんな点に気をつければよいか。

○前回までのプログラムの現状について

- ・灌漑用のポンプが正常に動作しない。
- ・センサの値が反映されない。
- ・プログラムの中に無駄なブロックがある。
- ・プログラムのどここの部分が間違っているのか分からない。

◇課題についての気づきを発表しよう。

- ・プログラムに入力する数値は、思いつきではなく、それまでの結果から予測した方がよい。
- ・センサだけ、アクチュエータだけのプログラムの動作確認をした方がよい。
- ・プログラムの構造がシンプルの方が、プログラムの間違いに気づきやすい。
- ・プログラムを効率よくすれば、消費電力等が抑えられ環境負荷を減らすことができる。

○まとめ（最適なプログラムのために）

- ・最適なプログラムにするためには、短時間で間違いを見つけたことが大切である。
- ・プログラムが完成しても、更に改善できないか考えることが大切である。

【ICT活用計画】

例 教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表 まとめ等による考えの共有の計画等

電子黒板にプログラムを提示し、生徒が発表したり、教師が説明したりすることで、細かなプログラムの内容について理解させることができる。

※その他 課題解決を図る情報収集計画、検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例 単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

○学校の前の交差点に設置してある信号機のプログラムについて、安全性、社会からの要求等に配慮して、さらに良いプログラムに改善するためには、どのような点に気を付けてプログラムを制作すればよいか。

# 中学校第1学年 技術・家庭科 (家庭分野) 学習構想案

日時 令和2年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時  
 場所 1年〇組教室  
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1 題材構想

題材名	家族・家庭や地域との関わり		
題材の目標	(1) 家族の互いの立場や役割，家族関係をよりよくできること，家庭生活と地域との相互の関わり，高齢者など地域の人々と協働する必要があること，介護など高齢者との関わり方について理解する。 (2) 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり，協働する方法について問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 (3) 家族や地域の人々と協働し，よりよい生活の実現に向けて，家族・家庭や地域との関わりについて，課題解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとする。		
題材の評価規準	知識・技能 ①家族の互いの立場や役割が分かり，協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。 ②家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり，高齢者など地域の人々と協働することや介護など高齢者との関わり方について理解している。	思考・判断・表現 ①家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり，協働する方法について問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践したことを論理的に表現する力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 ①家族や地域の人々と協働し，よりよい生活の実現に向けて，家族・家庭や地域との関わりについて，課題解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。
題材終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)			
家族・家庭や地域との関わりにおいて，家族の互いの立場や役割，家庭生活と地域との相互の関わり，高齢者など地域の人々との協働に関する知識や，課題を解決する力を身に付け，家族や地域の人々との関わり方を工夫し創造しようとする生徒			
題材を通じた学習課題		本題材で働かせる見方・考え方 「協力・協働」の視点から，課題を解決する力や，家族や地域の人々との関わり方を工夫し創造しようとする。	
よりよい生活のために，家族や地域の人々と，どのように関わるとよいのだろうか。			
指導計画と評価計画 (6時間取扱) 本時 3 / (6)			
過程	時間 学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」	①家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり，家族や地域の人々と協力・協働し，よりよい家庭生活に向けて問題を発見し，課題を設定することができる。 自分と家族や地域の人々との関わりを図等に表す。 自治会長など地域の人による講話等を通して，家庭生活と地域との関わりについて話し合う。 ・家族や地域の人々との関わりについて問題点を挙げ，課題を設定する。 ★【知①】家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。 ・学習カード ★【知①】家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。
家族や地域の人々との関わり		1 よりよい生活のために，家族や地域の人々と，どのように関わるとよいのだろうか	

<p>家族関係をよりよくするには</p>	<p>2 3 (本時)</p>	<p>○家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解できるとともに、家族関係をよりよくする方法について考え、工夫することができる。</p> <p>・模擬家族の事例や物語などを活用して、ロールプレイング等を行い、家族関係をよりよくする方法について問題を見いだし、課題を設定する。視点から、家族関係をよりよくする方法を話し合う。課題の解決策をまとめる。</p>	<p>★【知②】家族の立場や役割が分かり、協力することによって、家族関係をよりよくできることについて理解している。</p> <p>・学習カード</p> <p>★【思①】家族との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・ポートフォリオ・行動観察</p> <p>★【思①】家族関係をよりよくする方法について問題を見い出して課題を設定している。</p> <p>・学習カード</p>
<p>高齢者との関わり方</p>	<p>4</p>	<p>○高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解することができるとともに、地域の人々と協働することについて話し合う。</p> <p>・体験的な活動を通して、高齢者の身体の特徴や介助の方法についてまとめる。</p>	<p>★【知③】高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。</p> <p>・学習カード ＊ペーパーナスト</p> <p>★【態②】高齢者など地域の人々との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <p>・ポートフォリオ・行動観察</p> <p>★【思①】高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見い出して課題を設定している。</p> <p>・「地域の人々との協力・協働プロジェクト」計画書</p>
<p>地域の人々との協働</p>	<p>5 6</p>	<p>○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、課題をもって「地域の人々との協力・協働プロジェクト」の実践計画を工夫することができるとともに、地域の人々との関わりについて、問題を見いだし、課題を設定する。</p> <p>・「地域の人々との協力・協働プロジェクト」の実践計画を立てる。</p> <p>・ICTを活用して、ペアやグループで地域での実践計画を発表し合う。</p> <p>・他者の意見や新たな情報により、実践計画を検討する。</p>	<p>★【思②】高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を考え、工夫している。</p> <p>・「地域の人々との協力・協働プロジェクト」計画書・行動観察</p> <p>★【思③】高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>・「地域の人々との協力・協働プロジェクト」報告書・行動観察</p> <p>★【思④】家族や地域の人々との関わりについて課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</p> <p>・「地域の人々との協力・協働プロジェクト」報告書・行動観察</p>

\*ペーパーナストについては、ある程度の内容のまとめりについて実施する。

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容・指導事項等)

「A家族・家庭生活」(3) 家族・家庭や地域との関わり

教材：題材の価値

家庭や家族の基本的な機能や家庭生活と地域との関わりを理解するとともに、これからの自分と家族について考えることを通して、「家族関係をよりよくする方法や地域の人々と関わり協働する方法を具体的に考えたり、課題を解決したりする実践的な態度を養うことに適している。

本題材における系統

第1学年  
「自分の成長と家族・家庭生活」  
・家族・家庭の基本的な機能

第1学年  
「家族・家庭や地域との関わり」  
・協力によるよりよい家族関係  
・地域の人々との協働の必要性  
・高齢者との関わり方

第3学年  
「幼児の生活と家族」  
・幼児の発達と生活の特徴  
・子供が育つ環境としての家族の役割  
・幼児にとってもとの遊びの意義  
・幼児との関わり方

第3学年  
「家族・家庭生活についての課題と実践」  
・課題解決への取組  
・家庭や地域での実践

生徒の実態 (題材の目標につながる学びの実態)

■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎：基本の定着状況

調査内容		
家庭での自分の役割(仕事)はありますか。	ある	ない
どんな役割(仕事)ですか。		

■本題材の学習に関する意識の状況

調査内容				
家族とよく話をしますか。	よく	まあまあ	あまり	ない
家族と過ごすことは楽しいですか。	とても	まあまあ	あまり楽しくない	楽しくない
高齢者と同居していますか。	している		していない	
高齢者と触れ合う機会がありますか。	よく	まあまあ	あまり	ない
中学生と高齢者の体の違いがわかりますか。	よく	まあまあ	あまり	わからない
どのような違いがありますか。				
高齢者と接するときの工夫がわかりますか。	よく	まあまあ	あまり	わからない
どのような工夫がありますか。				
地域の人と触れ合う機会がありますか。	よく	まあまあ	あまり	ない
地域の行事に参加することはありますか。	よく	まあまあ	あまり	ない
どのような行事に参加しますか。				

■考察

(資質・能力に関して) 小学校での学習や家庭分野のガイダンスにおいて、家庭における自分の役割について考えることはできているものの、さまざまな場面において、具体的な工夫ができる力を身に付け、課題を解決するためにできることを見つけ、実践に結び付ける必要がある。

(学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの視点から学びの状況を見ると、家庭で手伝いをすることはあるものの、家族の一員、地域の一員として主体的に役割を果たすことについては、あまりできておらず、題材を通して、家族や地域とよりよい関係を築くために工夫しようとする学習が必要である。高齢者との体の違いは「わかる」という生徒が多いが、どのようにに接するとよいかを具体的にイメージできていないことが伺えるため、高齢者の介助の基本を学ぶことで、「協働」につながるようにする。また、地域への行事に参加する生徒の割合があまり高くないことから、「協力・協働」の視点から家族や地域の人々との関わりを考えさせる必要がある。

### 3 指導に当たっての留意点

○ロールプレイングや話し合い活動を通し、生徒一人一人が自分の課題を持ち、家族関係をよりよくするためには、どのような方法があるのか、家族の一員としてどのようなことができるのか具体的に考えることができるようする。

○地域の活動や、行事等を調べることににより、自分や家族の生活は、地域の人々とのつながりのなかで成り立っていることに気付くことができるようにする。

○授業後は、家庭での実践を継続的に記録させ、生活において習慣化できるようにしていく。生徒のフライングには十分配慮する。



4 本時の学習  
 (1) 目標  
 家族との関わりについて問題を見いだし、課題を設定し、家族関係をよりよくする方法について考え、工夫することができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (＜予想される生徒の発言＞)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 本時の学習課題を確認する</p> <p>①前時までの学習を振り返る。          ◇これまでは、家族には役割があることや、私たちの成長や生活は、家族や家庭生活に関わる地域の人々に支えられていることについて学習したな。</p> <p>②家族関係について考えたことや気付いたことを整理する。</p> <p><b>【めあて】よりよい家族関係をつくるためにどんなことができるか考えよう。</b></p> <p><b>【学習課題】</b>          家族関係をよりよくするために、家族の一員としてどのようなことができるだろうか。</p>	<p>○なりたい家族を目指して生活する中で起きるトラブルを提示し、自分の生活を簡単に振り返る。</p>
展開 35分	<p>2 模擬家族会議を行う</p> <p>「こんな時どうしますか？」          「家族に病気で入院する人が出たら…」</p> <p>①事例の状況をつかむ。          ◇私は事例家族の中のどの立場で考えたいのか。</p> <p>②グループで話し合い、台詞を学習シートに記入し、ロールプレイングを行う。          ◇私が父の立場だったら何と言うだろうか、その時、どのような気持ちなのだろうか。</p> <p>③グループごとに発表する。</p> <p>④各班の解決策を確認する。</p> <p>3 よりよい家族関係を築いていくために中学生としてできることや心がけることを考える          ◇勉強や部活が忙しくて、家族の気持ちを考えられなかったこともあったな。</p> <p><b>【期待される学びの姿】</b>          自分の生活や事例の家族について課題を見付け、家族関係をよりよくするために、様々な視点から家族の一員としてできることを具体的に考え、次の課題に生かそうとしている。</p> <p>4 本時のまとめ、振り返りをする</p>	<p>○模擬家族の立場や役割を考えて、「協力」の視点から、家族関係をよりよくする方法を話し合う。</p> <p>○それぞれがその役になりきり、課題解決に向かうような台詞を考え、その理由を説明できるようにし、活動に取り組みやすくなる。</p> <p>○立場を変えて台詞を考え、相手の立場に立つて考えることにより考えが深められるようになる。</p> <p>○ほかのグループの発表内容を聞くことで、その内容を共有したり、違いに着目したりすることができる。</p> <p>○模擬家族の役割から離れ、中学生として自分の家族の課題を解決するために、どんなことができるのか考え、実践カードに記入させる。</p> <p><b>【具体の評価規準】</b> 思①②          ○自分の生活や事例の家族について課題を見付け、家族関係をよりよくするために、家族の一員としてできることを具体的に考えている。</p> <p><b>【到達していない生徒への手立て】</b>          ○グループ内での役割を確認したり、なぜその台詞を記入したのかを確認したりして、具体的にできることを考えるように促す。</p> <p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の解決方法等を共有する。</p>
終末 5分	<p><b>【まとめ】家族関係をよりよくする方法について考え、家族の課題の解決策を工夫することができた。</b></p>	<p>○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的にを行う。</p>

【板書計画】

めあて よりよい家族関係をつくるためにどんなことができるか考えよう	
模擬家族会議のテーマ	
各班の課題と解決法 1班： 2班：	家族関係をよりよくするための解決策

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画 ICTを活用した発表 まどめ等による考えの共有の計画等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 班でロールプレイをする際、個々で考えた台詞をタブレット上で共有、検討させる。</li> <li>○ 高齢者との関わり方に関する体験をする際（疑似体験や歩行の介助の練習など）、タブレットで体験の様子を撮影し、それをもとに介助する側、される側、気を付けることなどを話し合う。</li> <li>○ 全体で班ごとに発表をする際、実践の状況がわかる資料や、タブレット上で検討した改善策を電子黒板で示しながら説明し、全体で共有する。</li> </ul>

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

題材の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組み
例1 ※本題材の終末でたてた「地域の人々との協力・協働プロジェクト」の実践計画を生かして、評価・改善するなどして「家族・家庭生活についての課題と実践」に取り組ませることなども考えられる。
例2 ※本題材で働かせた見方・考え方を生かして、「B衣食住の生活」の「(6)住居の機能と安全な住まい方」における自然災害への備えとの関連を図り、災害時の避難所において、中学生として地域の人々の居心地をよくするためにできることについてまどめさせる活動なども考えられる。
例3 ※本題材における高齢者の身体の特徴や幼児の発達との関連を図り、「B衣食住の生活」の「(6)住居の機能と安全な住まい方」における幼児や高齢者の家庭内の事故の防ぎ方について考えることができるようにする。

# 中学校第1学年 保健体育科 学習構想案

日時 令和〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 〇〇中学校運動場

指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1. 単元構想

単元名	球技 ゴール型 サッカー	
単元の 目標	<p>(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p>	
	知識・技能	思考・判断・表現
	<p>【知識】</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>【技能】</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えていく。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けていく。</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けていく。</p>
<p>単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)</p>		
<p>仲間と協力して学習する中で、サッカー(球技)に関する理解を深め、ゴール前での攻防を展開して楽しさや喜びを味わい、日常生活でも球技をはじめスポーツに多様な関わり方をする生徒</p>		
単元を通じた学習課題 (単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方
<p>ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しむ。</p>		<p>サッカー(球技)の勝敗を競う楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目して、ボールを操作しながらゴール前での攻防をする、ポイントや仲間の出来栄を見る、補助をしたり、仲間に助言したりして支える、サッカーの特性や名称、ポイント等を知る、といった多様な関わり方と関連付けること。</p>

指導計画と評価計画 (1.0時間取扱い 本時4/1.0)			評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規程」
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	
1	1	○オリエンテーション サッカーの特性 学習の流れ, 内容, 準備や片付けの確認 グループビンゴ, ボール操作のスキルアップ	★【知①】 (学習カード) ○サッカーには, 集団対集団で攻防を展開し, 勝敗を競う楽しさや喜びを味わえるなどの特性があることを書き出している。
2	2	○ボールを持っているときの動きを高める ① スキルアップ練習・ボール操作 ② シュート・パス・トラップ ③ シミュレートゲーム	★【態②】 (観察) ○自分や友達の体調や練習場所の安全を確認しながら練習している。 【知②】 (学習カード)
3	5	○ボールを持っているときとボールを持たないときの攻防の仕方を高める ① スキルアップ練習 ② 課題の確認と解決の練習 ボールを持っているときの操作とボールを持たないときの空間に走りこむなどの動き (2対1・3対2) ③ グリッドでの簡易ゲーム (1時間1試合ずつの交流戦)	★【態①】 (観察) (学習カード) ○練習をする中で仲間と動き方を確認したり助言したりして, 仲間の学習を援助しようとしている。 ★【知②】 (学習カード) ○サッカーでの技術の名称とそれらを身に付けるためのポイントを具体的に書いています。 ★【技①】 (観察) ○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることが出来る。 ★【思①】 (観察) (学習カード) ○提示された動きを参考に, 仲間と練習した内容を比較しながら動きを確認している。 ★【技②】 (観察) ○得点しやすい空間にいる仲間を見つけ, パスを出すことができる。 ★【思③】 (観察) (学習カード) ○仲間と話し合う場面で, 提示された参加の仕方に当てはめ, チームへの関わり方を見付けている。
4	2	○単元のまとめ (リーグ戦) ゴール前での攻防を展開して勝敗を競う楽しさや喜びを味わう ① ゲームの行い方の確認 ② チーム練習 ③ リーズ戦 ④ まとめ	★【思②】 (観察) (学習カード) ○準備・片付けや審判の担当の時に, 分担した役割に応じた活動の仕方を見つけている。 【総合的な評価】 ※単元の進行に伴ってあらわれる生徒の学習状況の変化を1.0時間目に最終確認する。

## 2 単元における系統及び児童の実態

### 学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

中学校学習指導要領 体育分野 第1学年及び第2学年 E 球技

球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技術や仲間と関連した動きでゲームを展開すること。  
ア エール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってエール前での攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 球技に積極的に取り組みむとともに、フェアなプレイを守るうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに合わせたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

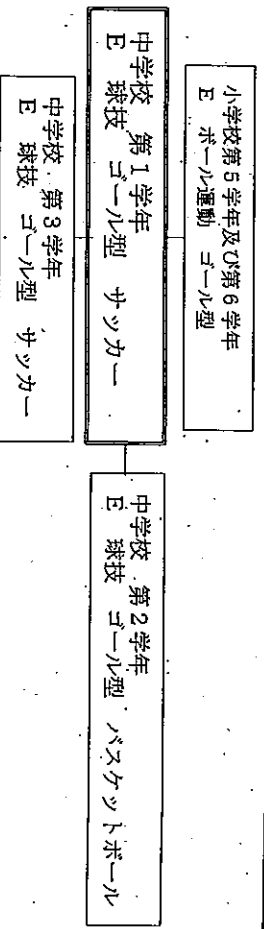
### 運動の価値

球技(ゴール型)は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団知集団で勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることを狙いとした学習に取り組んでいる。

本単元では、これらの学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。

### 本単元における系統



### 児童の実態(単元の目標につながる学習の実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調 査 内 容	概ね6～8割	十分8割～
① 近くにいるフリーの見方にパスを出すことができる。		
② 相手にとられない位置でドリブルをすることができる。		
③ ボール保持者と自分の間に守備者が入らないように移動することができる。		
④ 得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどを行うことができる。		
⑤ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。		

■本単元の学習に関する意識の状況

調 査 内 容	概ね6～8割	十分8割～
① 保健体育の授業で、意欲的に学習に取り組もうとしているか。		
② 課題を解決するために仲間と協力して考えながら解決しようとしているか。		
③ 考えたことを話し合いで仲間に伝えたり、アドバイスをしたりしているか。		

### ■考察

(資質・能力に関して) 技能の状況に関しては、習熟に大きな差があり、ボールを持つときの動きを高める時間を十分に確保する学習が必要である。体育の授業に意欲的に取り組む生徒は多く、自己やチームの課題を考えながら工夫して練習をする生徒も増えてきた。しかし、自分の考えを仲間に活発に伝えたりする場面が少なく、アドバイスをすることについても消極的な生徒が多い。

(学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの視点から、学びの状況を見ると、意欲的に粘り強く活動をしようとする生徒は多い。仲間と考えを交流させたり、アドバイスをしたりすることに課題があることから、課題の解決の場面を工夫するとともに、考えを交流させるように単元計画の工夫が必要である。

- 3 指導に当たった際の留意点(「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記)
  - 単元終了時の生徒の姿や単元を通じた学習課題を共有して学習を進めることで生徒の主体的な学習につなげる。
  - 毎時間スキルアップ練習の時間をとることににより、ボール所持の基礎的技術の習熟を図る。
  - 2対1, 3対2で場面を設定した課題の練習を行うことにより、空間に走りこむなどの動きを高められるようにする。
  - その際、タブレットを活用して視覚的に動きを認識させることにより仲間との話し合いを活発化させる。
  - アドバイスの言葉や仲間にかける言葉を掲示し共有することで、アドバイスをかけやすいようにする。
  - 授業の途中や振り返りの場面で、良い動きをしていたグループの動画を紹介する時間を設けるようにする。

4 本時の学習

- (1) 目標  
 エール方向に守備者がいない位置でシュートができる。  
 (2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入	12分	<p>1 課題をつかむ                      (予想される生徒の発言)</p> <p>①健康観察                      ②前時の学習の確認と今日の学習の流れを確認する。                      ③スキルアップ練習                      ○ボールタッチ ○ドリブル                      ○パス練習 ○シュート</p> <p>【めあて】 エール方向に守備者がいない状況でシュートをするための動きを身に付けよう。</p> <p>【学習課題】                      2対1の状況で、ゴール方向に守備者がいない状況でシュートをするためにはどのような動きをしたらいいか、グループで考え、みんなができるようになるう。</p>	<p>○健康状態を十分把握する。                      ○単元全体の学習課題を確認し、ボール操作とゴール前での連携した動きについて学習することを確認する。                      ○コツを考えながら取り組ませる。                      ○リーダーや技術が高い生徒がグループ全体に関わりながら練習するように促す。</p> <p>○2対1の場面に焦点化し、ホワイトボード(全体用、各グループ用)を用意し考えさせる。                      ○ボール保持者は、今回はパスをするよう場面を制限する。                      ○する人(2対1で攻める人、守る人)、見る人(観察・タダレットで撮影)、支える(教えあう)といった関わり方を考えて活動するよう促す。</p> <p>○ホワイトボードで考えられる動き方を確認し練習に取り組む。                      ○動画で実際の動きを視覚的に確認する。                      ○組ってパスすることが難しい生徒は手を使って練習できるようにする。                      ○動画とホワイトボードを使ってよい動きと自分の動きを比べて高める。                      ○①で練習したことを生かしながらゲームに取り組む。</p> <p>【具体の評価規準】【技①】                      エール方向に守備者がいない位置でシュートができる。(観察)</p> <p>【到達していない生徒への手立て】                      ○できている生徒と一緒に実際の動きを行い確認する。                      ○動き出す状況の判断を動画で確認する。</p>
展開	30分	<p>② グリッドでの簡易ゲーム                      3人対3人のゲーム                      1班A対2班A 1班B対2班B</p> <p>◇練習の成果でシュートができた。                      ◇シュートは失敗したけど、動くことはできた。                      【期待される学びの姿】                      仲間と一緒に練習したり、互いに動画で確認したりする中で、グループみんなで意見を出し合いながら高めあい、それぞれがエール方向に守備者がいないところでパスを受けシュートをしようとする姿</p> <p>3 めあてに対する振り返りをする。                      ①今日の学習をまとめ、発表する。</p> <p>【まとめ】 エール方向に守備者がいないところでシュートができる位置に移動するとよい。</p>	<p>○ホワイトボードでうまくいった動きを振り返らせる。                      ○よい動きや効果的な学習ができていた班に発表させる。</p>
終末	8分	<p>②学習の振り返り                      ③整理運動・片づけ</p>	<p>○全体のホワイトボードで例を示し全体で確認する。                      ○生徒の体調を確認し、安全に留意させる。</p>

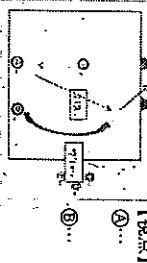
## 5 板書計画

### 球技 ゴール型 サッカー

単元全体を通した学習課題：ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しむ

めあて：ゴール方向に守備者がいない状況でシュートをするための動きを身に付けよう。

2対1の練習 動画を取りながら協力しよう！  
 試合そう 前半3人→後半3人→動画チェック  
 生かそう 前半3人→後半3人 (各3分)



【視点】

交流戦  
 1  
 2  
 3  
 4

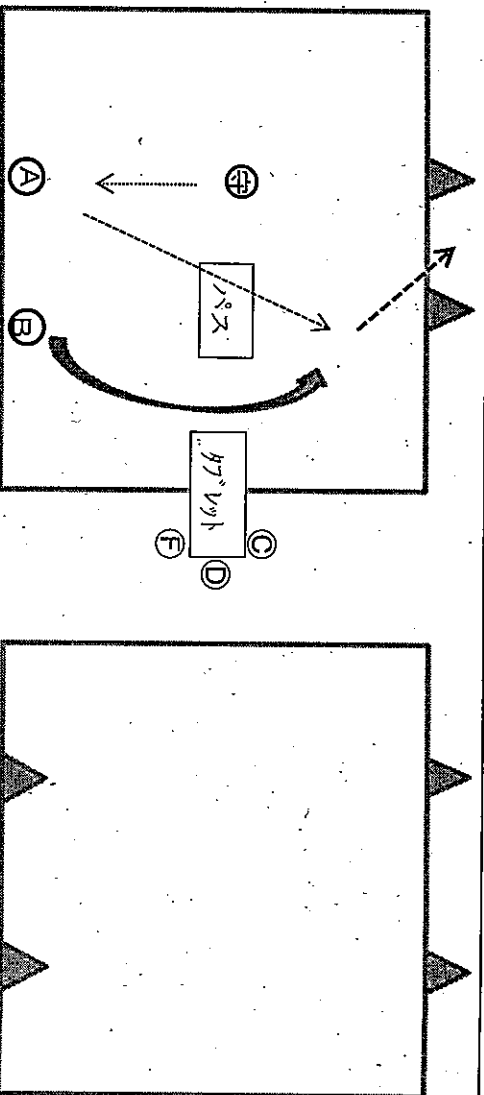
今日の対戦  
 (○) YAMAZA GAKKA  
 (△) ( ) ( )  
 (□) BRIS ( ) ( )

【学習の流れ】  
 1 めあて・学習内容の確認  
 2 準備運動・スキルアップ練習  
 3 2対1の練習 (グループで)  
 4 前・後半3分 互いに撮影  
 5 3人対3人ゲーム  
 6 学習のまとめ  
 7 整理運動・片付け

スキルアップメニュー  
 1 ボールタッチ  
 2 ドリブル  
 3 パス&ゴール  
 4 シュート

アドバイス言葉  
 1  
 2  
 3

## 6 場の設定



※ 2対1の練習の場として複数のグリッドを準備する。

## 7 ICTの活用計画

例：教師による課題の提示，ICTを活用して動きの確認，まとめ等の考えの共有等

例1 課題解決に向けて活動に入る段階で，課題を解決するための動きをイメージできるように動画を提示する。

例2 グループでお互いに，タブレットで撮影し，動きを確認しながら技能の習得に役立てる。

例3 よい動きができたり，手本となるような学習の進め方ができたりしたグループをまとめで紹介し次時につなげる。

## 8 見方・考え方を働かせて，終末や次時以降の学習に生かす計画

例1 グリッドでの簡易ゲームや終末に行うリーグ戦で，ボール操作やゴール前での攻防を展開して楽しむ。

例2 第2学年での球技・ゴール型の学習では，本単元で学んだゴール前での連携した動きをさらに高めるために，自己やチームの課題に応じた練習方法を選び，練習場面での良い取組などを仲間に伝えたりして学習に取り組む。

中学校第2学年 外国語科 学習構想案

日時 令和2年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時  
 場所 2年〇組教室  
 指導者 教諭 〇〇 〇〇  
 ALT 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	Unit 2 A Trip to the U.K. (New Horizon English Course 2 P.18～)		
単元の目標	(1) be going to+動詞, show+A+B, call+ A+B などを用いて, 事実や自分の考え, 気持ちなどを伝え合うことができる。【知識及び技能】 (2) 週末や夏休みの予定などをALITに伝えるために, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 伝え合うことができる。【思考力, 判断力, 表現力等】 (3) 相手に配慮しながら, 英語を用いて週末や夏休みの予定などについて伝え合おうとする。【学びに向かう力, 人間性等】		
	知識・技能	「話すこと〔やり取り〕」J.(4) ・ be going to+動詞, show+A+B, call+A+B を用いた文の構造を理解している。 ・ 週末や夏休みの予定などについて, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, be going to+動詞, show+A+B, call+ A+B などの簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	「話すこと〔やり取り〕」 (4) ・ ALITに自分の予定を伝えるために, 週末や夏休みの予定などを, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりしている。
単元の評価規準	単元的に学習に取り組む態度 「話すこと〔やり取り〕」 (4) ・ ALITに自分の予定を伝えるために, 週末や夏休みの予定などを, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりしている。		
単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿 期待される姿)			
お互いのことをよく知るために, 週末や夏休みの予定などについて, 相手に配慮しながら, 予定や事実, 自分の考えなどを整理し伝えたり, 相手からの質問に答えたりして伝え合っている生徒。			
単元を通して学習課題 (単元の中心的な学習課題)			
「日本の中学生の夏休み」をよく知ってもらうために, ALITの先生と「夏休みの予定」について伝え合おう。		ALITの背景にある文化や興味・関心に配慮しながら, 夏休みの予定などについて, 内容や表現を工夫すること。	
指導計画と評価計画 (1)0時間取扱い 本時8/10)			
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」を記載
一	1	○単元の目標を理解し, 自己目標を設定する。 ○主人公の予定を読み取り, 説明する。 ○週末などの予定を伝え合い, 相手からの質問に答える。	【知】 【思】 (ワークシート・行動観察)
二	1	○対話を引用して, 入国審査の質問と答え方を練習し, やり取りをする。 ○夏休みの予定についてやり取りをする。	【知】 (ワークシート・行動観察)
三	2	○英文から, ロンドンソンの名所の名前や特徴を理解する。 ○call+A+Bの文を使って, ものや人物について伝え合う。 ○日本の夏の行事についてやり取りをする。	【知】 【思】 (ワークシート・行動観察)



四	2	○光太と絵美の訪れた場所について情報や感想を理解する。 ○夏休みの宿題についてやり取りをする。	【思】 (ワークシート・行動観察)
五	1	○搭乗案内や機内放送を聞き取る。 ○AL Tの夏休みの予定について聞き取り,わからないところは質問する。	★【知】 (ワークシート) be going to+動詞, show+A+B, call+ A+Bなどを用いた文の構造を理解している。
六	2 1/2 本時	○夏休みの予定をAL Tや友達に伝え,相手からの質問に答える。 ○自己目標の達成状況を振り返り,次の課題を明確にする。	★【思】 (行動観察) AL Tに, 夏休みの予定などを伝えるために, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いて伝えたり相手からの質問に答えたりしている。
後日	1	○パフオーマンステスト	★【知】 (パフオーマンステスト) 自分の週末の予定などについて, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, be going to+動詞, show+A+B, call+ A+B などの簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりしている。 ★【思】 (パフオーマンステスト) AL Tに自分の週末の予定を伝えるために, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりしている。 ★【態】 (パフオーマンステスト) AL Tに自分の週末の予定を伝えるために, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりしている。

## 2 単元における系統及び生徒の実態

中学校学習指導要領 2内容		学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)	
<p>【知識及び技能】</p> <p>(1) 英語の特徴やきまりに関する事項</p> <p>エ 文, 文構造及び文法事項</p> <p>(4) 文構造 o(a) 主語+動詞+間接目的語+名詞 (代名詞) d(a) 主語+動詞+目的語+名詞 (代名詞)</p> <p>(4) 文法事項 e 動詞の時制及び相など</p> <p>【思考力, 判断力, 表現力等】</p> <p>(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し, 英語で表現したり, 伝え合ったりすることに関する事項</p> <p>ウ 日常的な話題や社会的な話題について, 伝える内容を整理し, 英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え, 気持ちなどを伝え合うこと。</p> <p>(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項</p> <p>①言語活動に関する事項</p> <p>エ 話すこと [やり取り]</p> <p>(1) 日常的な話題について, 伝えようとする内容を整理し, 自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。</p>			
教材・題材の価値			
<p>本題材は, 主人公の光太と姉の絵美がヨーロッパにイギリスを訪問する内容である。本題材を通して, 自分たちの予定を伝えることや, 入国審査の場面について学ぶことができる。また, 光太がビデオカメラで観光地や人気のある映画のロケ地を撮影し説明している場面は, イギリス訪問の疑似体験ができ, 題材を通して生徒の外国に対する興味や関心を高め, 異文化理解につなげることができる。</p> <p>旅行の予定を紹介する場面では, be going to+動詞を使って予定についてやり取りをしたり, 予定について尋ねたりする。また, 入国審査の場面では show+A+B を使って依頼したり, 観光地では call+A+B を使ったものや人の呼び方を伝えたりすることを, それぞれ具体的な場面で学習する。題材を通して既習表現も含めて使用することで, 学びながら表現の幅を広げることができる。</p>			

本単元における系統	
(言語活動) We Can! 2 6年 Unit 9 Junior High School Life. 中学校生活・部活動 について伝え合う。	1年 Unit 8 イギリスの本 おすすめの本について発表す る。 1年 Presentation 2 一日の生活 一日の生活について友だちと 伝え合う。
2年 Unit 2 A Trip to the U.K. 休暇や週末の予定について、伝 え合う。	3年 Unit 3 Fair Trade Event これまでの経験について伝 え合う。
2年 Presentation 1 将来の夢 将来の夢について発表する。	3年 Presentation 3 中学校生活 中学校生活について発表す る。
2年 Presentation 3 好きなこと・もの 好きなこと・ものについて伝え 合う。	

生徒の実態

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
be 動詞を正しく使用できる。	—	—	—	—
自己紹介を3文以上で書くことができる。	—	—	—	—
イギリスについての知識を持っている。	—	—	—	—

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
情報を整理しながら文をまとめることができると思う。	—	—	—	—
知っている英語の表現を使って、簡単なやり取りができていていると思う。	—	—	—	—
初めて学習する言葉や表現を、使ってみようとしている。	—	—	—	—

■考察 (資質・能力に関して) これまで学習してきた be 動詞や一般動詞、人称代名詞 (目的格) については、大半の生徒が正しく使用することができる。また、自己紹介については、多くの生徒が目標の3文以上で書くことができる。新出の言語材料に対しては、十分に慣れ親しませ、自信を持って表現できるようにする必要がある。(学びに関して) 英語で話したり、既習事項を使って会話を続けようとしたりする態度が育ってきているが、まだ自信を持って言えない生徒もいる。活動を工夫したり、ペア活動等で意欲を高めたりして、自信をつけさせ、全体で発表する場を設ける必要がある。

3 指導に当たった際の留意点

- 単元のモデルを生徒と共有する際に、ALTの思いや状況を具体的に示すことで、学習への見通しを持たせ、意欲を高める。
- 帯活動では、既習の WHQuestion や small talk を中心に行い、繰り返し学習ができるよう工夫する。
- ALTの出身国や夏休みの過ごし方などを紹介しながら、異文化への理解を深めさせるとともに目的や場面、状況などを明確に設定し、目的意識や相手意識を持たせて言語活動を行う。
- 学習内容の理解を深めたり、コミュニケーションを円滑に進めたりするために、ICTを効果的に活用する。
- ペア活動からグループ活動へ、更に全体と学習形態を工夫したり相手を替えてやり取りをしたりすることで、生徒が自信を持って活動できるようにする。
- 言語活動の途中で行う中間指導では、内容面・言語面の両面について、モデルを示しながら具体的に指導する。
- 相手を交代する等して、授業や単元の中で繰り返し繰り返し言語活動を行う。

4 本時の学習

- (1) 目標 「日本の中学生の夏休み」を知ってもらうために、ALTと夏休みの予定を伝え合い、質問したり、答えたりすることができる。
- (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	<p>1 Warming-up</p> <p>① Greeting</p> <p>② Small Talk</p> <p>③ Review</p> <p>2 めあて・活動の流れの確認</p> <p>① ALTと教師のデモンストレーションを通して、本時の学習の予想を立て、めあてを確認する。</p> <p>【Today's Goal】 「日本の中学生の夏休み」をよく知ってもらうために、ミス先生と「夏休みの予定」について伝え合おう。</p>	<p>○基本的な挨拶やALTからの質問で授業を開始し英語学習への意欲を高める。</p> <p>○Small Talkでは本時のトピックについてペアで活動する。</p>
展開	30分	<p>②活動の流れの確認</p> <p>◇夏休みについて、ALTの先生にどのように伝えようかな。ALTの先生はどんな質問をするかな。</p> <p>3 Activity1</p> <p>①夏休みの予定をペアで伝え合う。ペアで夏休みの予定を伝え合う。更に知りたいところは質問し、質問されたものには答える。</p> <p>②英語表現などについて疑問点やよかった点を出し合う。</p> <p>③数回ペアをかえて対話をする。</p> <p>◇○○さんの夏休みは楽しそうだな。誰と行くのか聞いてみよう。</p> <p>◇○○さんのように習った表現も使ってみよう。</p> <p>4 Activity2</p> <p>①ALTと実際にやり取りを行う。</p> <p>②ALTが集めた友達の情報全体で共有し、思いや考えを伝え合う。</p> <p>【期待される学びの姿】 ALTに、既習表現なども使い、伝え合おうとしている。</p>	<p>○必要に応じて大まかな活動の流れや主要な点を書いたメモを用いてもよいこととする。</p> <p>○ペアで考える時間等、全体で考える時間を設け、課題を解決していく。</p> <p>○中間指導では、内容や表現についてbe going to+動詞や既習表現等を使って会話をしているペアを紹介し、ポイントを全体で確認する。</p> <p>【異体の評価規準】「話すこと(やり取り)」(4) 【思】(行動観察) ★ALTに、夏休みの予定などを伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</p> <p>【到達していない生徒への手立て】</p> <p>○机間支援を通して、効果的な既習表現などを全体で共有・確認していく。</p> <p>○モデルを示したり、キーワードを補足したりして、好事例を紹介して活動を支援する。</p> <p>○ペア活動を行うことで、生徒同士で教え合い活動を行う。</p> <p>○机間支援を行い、助言する。</p> <p>○ターゲットセンテンスを確認する。</p>
終末	10分	<p>5 学習のまとめと振り返り、次時の確認</p> <p>【まとめ】 予定について伝え合う時は、be going to +動詞 などの表現を使用し、相手との違いを考 えながら語をする。</p> <p>①自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p> <p>◇be going to+動詞の形を使って、これらの予定を伝えることができた。</p> <p>◇友達との夏休みの予定やその思いを知ることができて楽しかった。</p> <p>◇ALTが知りたい情報を伝えた時、喜んでもらえたらうれしかった。</p>	<p>○「夏休みの予定」についてALTにいろいろな表現を使って伝え合うことができたか、振り返る時間を設定する。</p> <p>○指導者から、活動に対する気付きを述べる。</p> <p>○次時に向けての確認をする。</p>

【板書計画】

Unit 2 A Trip to the U.K.

July second  
Friday sunny

Goal of Unit2

「日本の中学生の夏休み」をよく知ってもらうために、ALTの先生と「夏休みの予定」について伝え合おう。

Today's Goal

「日本の中学生の夏休み」をよく知ってもらうために、スミス先生と「夏休みの予定」について伝え合おう。

“Japanese students' summer vacation”

Trip

○○

Sports

Today's point

(Activity 1)

I'm going to ~

I'm going to show you a picture.

We call this “Yukata”.

show + 人 + 物

call+物 (人) +呼び方

写真（夏休みに  
行く予定の場所）など

<Questions>What / Where / How / Which / Who ...

Today's Menu

①Warming up

②Introduction

③Activity 1

④Activity 2

まとめ

予定について伝え合う時は, be going to +動詞 などの表現を使用し, 相手との違いを考えながら話をする。

【ICT活用計画】

例) 教師による教材提示の計画, ICTを活用した発表, まとめ等による考えの共有の計画等

・電子黒板  
デジタル教科書・資料動画の提示

# 【同じ内容項目をまとめる例】

## 中学校第2学年 道徳科 学習構想案

日時 令和2年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時  
 場所 〇年〇組教室  
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

### 1 学習構想

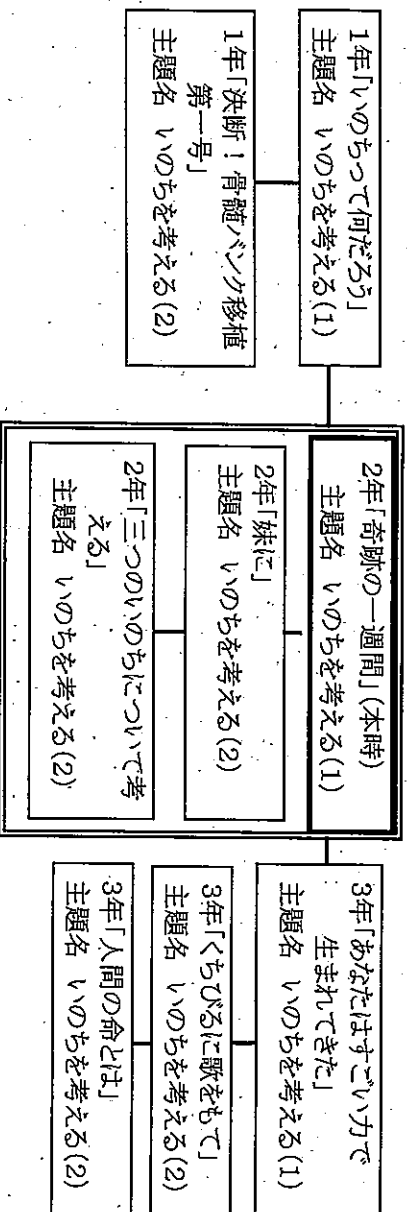
<b>主題名</b>	いのちを考える (内容項目D—(19):生命の尊さ) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	
ねらい と教材	(1)ねらい ①北村さんとの出会いから「私」が考える「命」について話し合うことを通して、かけがえのない生命をいとおしみ、限りある生命をかがやかせて生きていこうとする心情を育てる。 ②妹の誕生に対する「私」や「私の家族」の思いを通して、生命のつながりや関わり合いを考え、かけがえのない自他の生命を大切にしていこうとする心情を育てる。 ③「三つのいのち」について互いに意見を述べ合うことを通して、いのちの「有限性・連続性・偶然性」について考え、生命の尊さを深く理解し、かけがえのない生命を大切にしていこうとする態度を育てる。 (2)教材名 ①「奇跡の一週間」 ②「妹に」 ③「三つのいのちについて考える」 出典「新しい道徳2(東京書籍)」	
評価の 視点	評価の視点1 (本時①「奇跡の一週間」) ○限りある生命をかがやかせて生きていくことの尊さについて、多面的・多角的に考え、発言したり話し合ったりしている。	評価の視点2 (本時①「奇跡の一週間」) ○かけがえのない生命をいとおむむことについて授業全体を通して考えたことを、自分自身の経験と重ね合わせながら発言したり書いたりしている。
目指す生徒の姿		
生命の有限性を意識し、自らの命を輝かせて生きることへの尊さを自覚し、自他の生命を尊重しようとする生徒		
課題:①「限りある命をかがやかせて生きるとは」 ②「生命を支えるつながりを考えよう」 ③「三つのいのちについて意見交流しよう」	主題に迫る学習課題	本主題で働かせる見方・考え方 限りある生命をかがやかせて生きていくことの尊さについて、広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えること。
内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導		
各教科等	道徳科	日常生活
保健体育科 (授業者の教科) ルールを守り、安全に気を付けながら、互いの頑張りを認めながら協力し、自分の力をよりよく発揮する。	2年「奇跡の一週間」(本時) 主題名 いのちを考える(1) 2年「妹に」 主題名 いのちを考える(2) 2年「三つのいのちについて考える」 主題名 いのちを考える(2)	
各教科の学習活動 自分の苦手などころに向き合 って努力し、一生懸命に取り 組む自分や友達を大事にする ことができる。	キヤリア教育「基礎的・汎用的能力の育成」 自己理解・自己管理能力、課題対応能力を育成する。 挨拶運動、ボランティア活動、掃除など 自分の弱さに負けず、自分を奮い立たせ、正しいことを勇氣をもって行動する。	

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所

中学校学習指導要領「特別の教科 道徳」内容項目  
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 19 生命の尊さ  
生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

本主題における系統（横軸は当該学年でのつながり、縦軸は他学年でのつながり）



生徒の実態

■学習するにあたっての学級及び生徒の様子  
明るく元気な学級であるが、一方で、人間関係で悩んでいたり、家庭環境で様々な思いを抱えていたりする生徒がいる。学習に関しては意欲的に取り組む生徒が多いが、個人差は大きい。短学活など班活動を多く取り入れており、班における繋がりは深い。

■学習に関する意識の状況 本主題に関わる生徒の実態（アンケート38人調査）

質問事項	とくに◎	まあまあ○	あまり△	ない×
① 普段から命について考えることはありますか。	4人	25人	7人	2人
② 命は大事なものだと思いますか。	30人	8人	0人	0人
③ 「命には限りがある」と感じたことはありませんか。	12人	17人	4人	5人
④ 最近の事件や災害、戦争をどう思いますか。 【その他】つらい、どうしたらなくなるのか、悲しい、 どうして起きるのか、危機感、心配、平和って何？	かわいそ う	自分じゃなく てよかった	無関心	その他
	10人	5人	0人	23人

■考察

アンケートの結果から7割以上の生徒が命について考えることがあると答えており、もちろんすべての生徒が命を大切なものと捉えている。ただ、命の有限性については、約24%の生徒が有限性について感じるものが少ない（「あまり」「ない」としている。理由として、自分自身が元気であることや身近に命の有限性を感じる機会が少ないと答えており、近年の生活様式の変化や自然や人間との関わり希薄さを表している。生命について、連続性や有限性だけでなく、自分が今ここにいることの不思議（偶然性）、社会的関係性や自然界における他の生命との関係性などの側面からより多面的・多角的に捉え、考えさせ、生命の尊さを理解できるようになり、かけがえのない生命を尊重することについてより深く学ぶことができるようにしたいと考える。

教材の価値

- ① 本教材「奇跡の一週間」は、ホスピスで働く「私」と残された生命を全うしようとする末期がん患者の生き方に関する内容である。死を目前にした北村さんの生き方を通して、「私」は別れの悲しさと出会いのうれしさを語っている。死を目前にしても頑張りが続く北村さんのひたむきさを考えることを通して、生命の輝きについて深く考えることができる教材である。
- ② 本教材「妹に」は、妹の誕生に対する「私」や「私の家族」の思いを綴った生徒作文である。生命のつながりや関わり合いを考え、かけがえのない自他の生命の大切さを深く考えることができる教材である。
- ③ 本教材「三つのいのちについて考える」は、「三つのいのち」について互いに意見を述べ合うことを通して、いのちの「有限性・連続性・偶然性」について考え、生命の尊さを深く理解し、かけがえのない生命を大切にしようとする考えを交流する教材である。

### 3 指導に当たっての留意点

- 特別の教科化になる以前の道徳の時間では、主題やねらいの設定が不十分な、単なる生活体験の話合いの指導や読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導、望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始する指導が課題として指摘されていた。今回の学習指導要領改訂では「発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図るものである。」とされている。
- 本校では、研究主題を「考え、議論する道徳科授業の創造」と設定した。「考え、議論する道徳」を、道徳性を養うという目的を達成するために行う学習活動と定義し、道徳科の授業の質的転換を、本校からスタートしたいと考えた。研究に取り組みにあたり、授業の質的転換の柱として、「発問設定の工夫」、「話し合い活動の工夫」、「励まし、伸ばす評価の充実」、「合理的配慮の視点」の4つに重点を置いた。

(1) 発問設定の工夫	<p>○ 事前アンケートの結果から、「命」は大切だとは分かっているが、その有限性を感じた経験がない生徒が2割を超えていることに気づかせ、「限りある生命をかがやかせて生きるとは」という課題をもたせ、教材や友達への考えや経験から、問題意識をもって学び続ける発問を設定する。</p> <p>○ 主人公の思いや心情の変化を理解するために、「心情円盤」を提示して視覚的に考えの裏容が捉えられるようにする。</p>
(2) 話し合い活動の充実	<p>○ 話し合いの時間を十分に確保するために、事前に教材文を各自で読んでおく場を設けておき、教材の内容を理解して学習できるようにする。</p> <p>○ まずは自己内対話の時間を保障し、共感的な反応やお返しを班活動の中で位置付けることで、友達の多様な考えに触れるようにする。</p> <p>○ 多様な感じ方や考え方を生かして主題に迫るために、班活動でホワイトボード(又は付箋)を活用して話し合うようにする。</p>
(3) 励まし、伸ばす評価の工夫	<p>○ 展開後段で、自分自身を振り返って学習シートに書く活動を通して、授業全体を通して考えたことを綴る時間を設け、自分自身との関わりの中で深めるようにする。</p>
(4) 合理的配慮の視点	<p>○ 文章を読むことに苦手意識をもつ生徒や、文章理解に時間のかかる生徒には教材を範読しておく。</p>

4 本時の学習

(1) ねらい

北村さんとの出会いから「私」が考える「命」について話し合うことを通して、かけがえのない生命をいとおしみ、限りある生命をかがやかせて生きていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (＜予想される生徒の発言＞)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 アンケートの結果をもとに考える。 ○「命」に関するアンケートの結果を見て感じたことを発表しよう。 ◇「命」について考えることはない。◇意識しない。 2 「ホスピス」について考える。 ○ホスピスを知っていますか。ホスピスの患者さんは、どんな人だと思いますか。 ◇かわいそうな人 ◇癌の人 ◇もうすぐ死ぬ人</p> <p style="text-align: center;"><b>課題：限りある命を輝かせて生きるとは</b></p>	<p>・アンケート結果をもとに、命は大切だと思っ ているが、日頃意識していないことに気が かせたい。 ・「ホスピスにいる人は死を待つだけなの か？」と投げかけることで、本時の学習課 題とつなぎたい。</p>
展開 35分	<p>3 教材を読み、話し合う。</p> <p>(1) 「私」が北村さんに絵を頼んだことを後悔した時と、本職のイラストレーターのように注文を付けた時の気持ちの変化を考える。 ○「私」が北村さんに挿絵のお断りをしたことを後悔し、真剣に注文をつけたのはどうしてだろう。 ◇こんなに体力が落ちているのに。 ◇新しい作品を作るのは無理だ。 ◇新しい作品をたくさん作る北村さんは真剣だ。 ◇北村さんの思いに真剣に応えたい。 ◇懸命に生きる北村さんの姿勢に心打たれた。 (2) 「私」が北村さんの生き方から受け止めた思いについて考える。 ◎「私」が、北村さんとの出会いから受け止めた「かけがえのないもの」とは何だったのだろう。 ◇かわいそうな人じゃなかった。 ◇出会えてよかった。 ◇生きることのすばらしさを学んだ。 ◇やっぱり命は尊い。 ◇大きな間違いに気づかされた。 ◇最期の最期まで輝いていた。 ◇言葉にできない「べらい」の感謝。</p> <p style="text-align: center;">【期待される学びの姿】</p> <p>班での話し合いの中で、積極的に共感的な反応や返しを行い、さらに多面的・多角的な考えに出会う場として、「どうしてそう思ったの？」と返しができ、自分の納得解を見出している。</p> <p>4 自分を振り返り、これからの生き方につなげて考える。 ○限りある命をかがやかせて生きることがあなたは、どう思いますか。 5 ゲストティーチャーの話を聞き、今の思いを綴る。 ○これからの自分は、どんな自分でありたいか考えよう。また、感じたことをまとめよう。</p>	<p>・中心発問につなげる伏線として、「大きな間違い」という言葉を、範読しながら提示する。 ・「私」が同情的な気持ちで北村さんを見ていたことに気付かせたい。 ・絵を描く北村さんの笑顔の写真を提示し、思いを共有させたい。 ・「私」の気持ちの変化が分かる構造的な板書にする。</p> <p>・ハート型の付箋に考えを書く自己内対話の時間を保障し、共感的な反応やお返しを班活動の中で位置付けることで、友達の様々な考えに触れるようにする。</p> <p>・特に自分の考えと異なる友達の考えには「どうしてそう思ったの？」と返すように指示し、班での交流を深めたい。(個人→班→全体)</p> <p>・このような生き方は、北村さんだからできたのではないかとゆさぶること、自己の生き方についての考えを深めるようにする。</p>
終末 10分		<p>・ゲストティーチャーの話を聞き、さらに心を温めるようにする。 ・かけがえのない生命をいとおしむことについて授業全体を通して考えたことを、自分自身の経験と重ねながら、ワークシートに書くようにする。</p>

【評価の視点1】 限りある生命をかがやかせて生きていくことの尊さについて、多面的・多角的に考え、発言したり話し合ったりしている。(方法：発言・ワークシート)

【評価の視点2】 かけがえのない生命をいとおしむことについて授業全体を通して考えたことを、自分自身の経験と重ね合わせながら発言したり書いたりしている。(方法：発言・ワークシート)



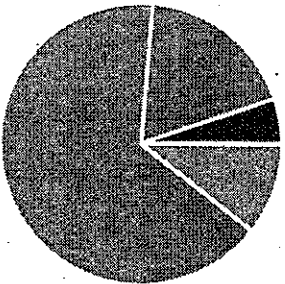
【板書計画】

【ICT活用計画】

アンケートの結果を電子黒板に提示 (円グラフなどにして)

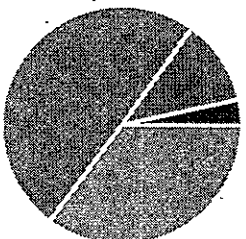
2年O組 アンケート	とくに◎	まあまあ○	あまり△	ない×
① 普段から命について考えることはありますか。	4人	25人	7人	2人
② 命は大事なものだと思いますか。	30人	8人	0人	0人
③ 「命には限りがある」と感じましたありますか。	12人	17人	4人	5人
④ 最近の事件や災害、戦争をどう思いますか。 【その他】つらい、どうしたらなくなるのか、悲しい、 どうして起きるのか、危機感、心配、平和って何?	かわいいそう う	自分じゃなく てよかった	無関心	その他
	10人	5人	0人	23人

命について考える



■ とくに ◎ ■ まあまあ ○ ■ あまり △ ■ ない ×

命には限りがある



■ とくに◎ ■ まあまあ○ ■ あまり△ ■ ない×

# 中学校第2学年 総合的な学習の時間 学習構想案

日時：令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時  
 場所：2年教室  
 指導者：教諭 〇〇 〇〇

## 1 単元構想

単元名	地域の活性化につながる企画を発信しよう			
単元の目標	自分たちが住む地域のまちづくりやそれに携わる人々について調べ、考える活動を通して、 (1) 地域の特徴やまちづくりに関わる人々の思いに気づき、 (2) 地域のよさや課題、自分たちとの関わりについて考えるところと、 (3) 地域のためにできることを考え行動しようとする。			
単元の 評価 基準	知識・技能	①地域のまちづくりのための様々な取組とそれに関わる人々の思いがあることを理解している。 ②地域のよさや人々の思いをつかむために、目的に応じて情報を収集したりインタビューをしたりしている。 ③自分たちの関わりが地域の活性化につながることを理解し、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①地域のまちづくりについて、資源を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域のよさや課題を明らかにしている。 ②地域の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択し多様な方法で収集している。 ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④地域の活性化につながる取組について、調査結果や企画内容を、グラフや図、写真等を使って効果的に表現している。	①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で探究的な活動に取り組みうとしている。 ②地域のまちづくりについて調べる活動体験を通して、他者の考えを生かしながら、協働して問題解決に取り組みうとしている。 ③地域の活性化のために自分たちができることを企画し、実行することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。
	思考・判断・表現	①地域のまちづくりについて、資源を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域のよさや課題を明らかにしている。 ②地域の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択し多様な方法で収集している。 ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④地域の活性化につながる取組について、調査結果や企画内容を、グラフや図、写真等を使って効果的に表現している。	①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で探究的な活動に取り組みうとしている。 ②地域のまちづくりについて調べる活動体験を通して、他者の考えを生かしながら、協働して問題解決に取り組みうとしている。 ③地域の活性化のために自分たちができることを企画し、実行することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。	
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿、期待される姿） 地域の特徴やまちづくりに携わる人々の思いに気づき、地域のよさや課題、自分たちとの関わりについて考えるところと、地域のためにできることを考え行動しようとする生徒				
単元を通じた学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方		
地域のまちづくりについて調べ、地域の活性化につながる企画を考え、実行しよう。		地域のまちづくりに関する取組や人々の思いを多面的に捉え、地域に自分ができるように関わっていくのか、自己の取組や生き方について考えること。		
指導計画と評価計画（全70時間取扱いは、本時/小単元②1.3/2.5）				
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は配課に残す評価の場面で「具体的評価規準」	
一次	4	1 【課題の設定】 ・地域の現状について予想し、友達と考えを交流する。 ・課題として挙げた中から、関心のある内容を取り上げ、具体的に調べる計画を立てる。	★【思①】(ワークシート・発言・行動観察) ・地域のまちづくりに関する取組や、携わる人々の思いから、地域のよさや課題を明らかにしている。 【知①】(ワークシート・行動観察)	
二次	8	2 【情報の収集】 ・グループでの調査内容に応じて、市役所や観光物産館などのまちづくりに携わる人々にインタビューを行う。 ・調べたことから分かったことをまとめる。	★【知②】(発言・行動観察) ・課題となることが聞き取れる質問をしている。 ★【思②】(発言・行動観察) ・インタビューの対象や場所など、多様な方法で収集している。 【態①】(ワークシート・発言・行動観察)	
三次	8	3 【整理・分析】 ・まちづくりに携わる人々の思いや願いを踏まえ、地域の活性化につながる企画を考える。 (本時)	★【態③】(ワークシート・発言・行動観察) ・地域の活性化のために自分たちができることを企画し、実行することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。	

	企画を通して自分達が伝えたいことを考え、企画を練る。	【思③】(ワークシート・発言) 【根②】(ワークシート・発言・行動観察)
四次	4 【まとめ・表現】 ・企画内容をまとめ、市役所の方に向けてプレゼンテーションを行う。 5 【整理・分析】 ・市役所の方や他のグループの意見・アドバイスを等もとに、企画を練り直す。	★【知③】(プレゼン・発言・行動観察) ・地域の活性化につながる取組について、調査結果や企画内容を、グラフや図、写真等を使って効果的に表現している。 【思③】(発言・行動観察)

## 2 単元における系統及び生徒の実態

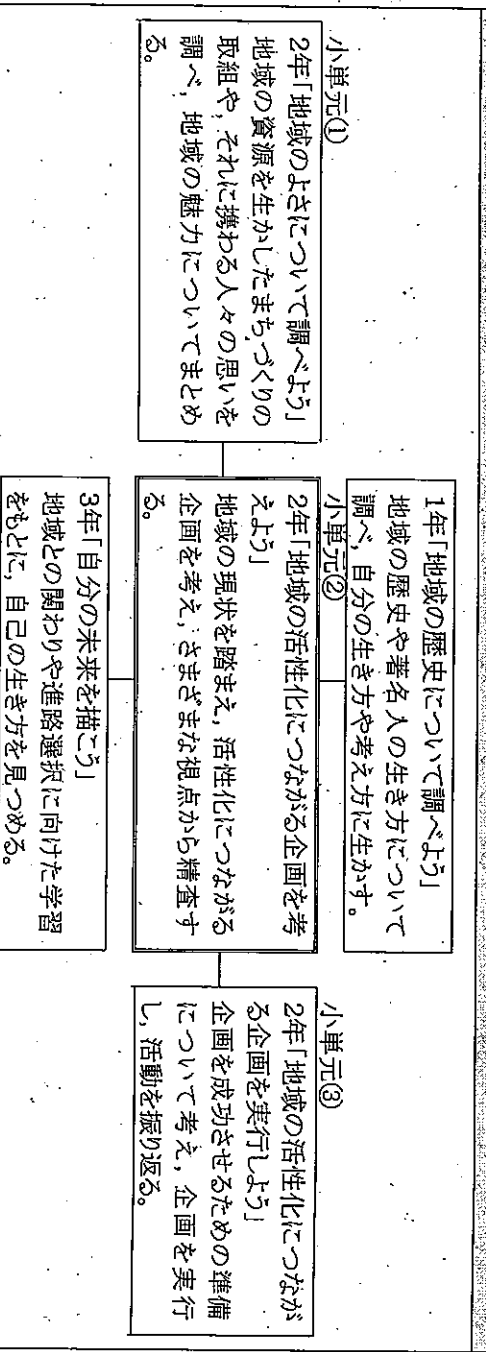
### 学習指導要領における該当箇所 (内容 指導事項等)

中学校学習指導要領第1の目標を受け設定された本校の目標「……」をもとに、探究課題「……」と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定し、単元を構成している。

### 教材・題材の価値

本教材は、地域の取組や関係する人々の思いをもとに地域のまちづくりについて調べ、地域のよさに気づいたり課題の解決方法を考えたりするとともに、自分たちがどのように地域に関わっていくのか、企画・実行することに適している。

### 本単元における系統



### 生徒の実態 (単元の目標につながる学びの実態)

#### ■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	よく	まあまあ	ない
地域の歴史や著名人を知っていますか。	○人	○人	○人
調べた情報を、整理・分析して、表現することができますか。	○人	○人	○人
よりよい社会生活のために、自分の行動について考えることができますか。	○人	○人	○人

#### ■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	よく	まあまあ	ない
地域のよさや課題について、知っていますか。	○人	○人	○人
まちづくりに関わる人々の取組や思いについて、知っていますか。	○人	○人	○人
今までに、地域の活性化のために取り組んだ(ている)ことはありますか。	○人	○人	○人

#### ■考察

(資質・能力に関して) 地域の歴史等についての知識はあるが、その知識を自己の行動につなげて考える生徒は少ない。自らの行動が社会貢献につながる意識がもてるよう、自分たちで企画・実行することのよさを実感する必要がある。(学びに関して) 地域のよさや課題について知ってはいるものの、具体性や多様性に欠けている。自ら行動を起こしている生徒も少ないことから、まちづくりにして様々な情報を集め、課題意識をもつことができるような学習が必要である。

## 3 指導に当たっての留意点

- 外部人材の活用の際に際して、本単元で育成する資質・能力等について、事前に講師と共有しておくようにする。
- 協働的な学習の充実のため、思考ツールを積極的に活用する。
- 他者の発言や作品のよさに気づき、学ぼうとする態度を育てる。

4 本時の学習

- (1) 目標 地域の活性化につながる企画の立案を通して、まちづくりに関わる人々の思いや願いを踏まえ、地域の活性化につながる企画にするための留意点について考えようとしている。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入	5分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>①単元のゴールを確認し、本時の学習課題を確認する。</p> <p>◇これまで、地域のまちづくりについて調べてきた。地域の活性化につながる企画を考えて、実行しよう。</p> <p>◇自分たちに、どんなことができるだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【めあて】 調査をもとに、地域の活性化につながる企画の条件を考えよう。</div> <p>②企画を立てる視点について問いをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【学習課題】 地域の活性化につながる企画にするためには、どんなことに留意する必要があるだろうか。</div>	<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○単元のゴールを確かめ、単元計画から本時のめあてを設定する。</p> <p>○実効性のある企画にするための視点について問う。</p>
展開	35分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①企画する際の留意点について、グループで話し合う。</p> <p>◇自分たちがやりたいという思いがないと実行できないので、まずはやりたいことを決めるといよ。</p> <p>◇準備期間を考えて内容を考える必要があるよね。</p> <p>◇地域の方に納得してもらえそうな企画にしないといけないと思う。</p> <p>◇実際に地域の役に立つものでないと、活性化につながらないよ。</p> <p>◇誰に聞いてもらうとよいのかな。</p> <p>◇発表するのもいいけれど、聞いてもらえる人が限られるので、新聞にして配布したらどうだろう。</p> <p>②グループで話し合ったことを全体で発表し、企画の際の留意点について、考えをまとめる。</p> <p>◇いろいろな意見が出たけれど、「内容」に関する留意点と、「方法」に関する留意点がありそうだぞ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【期待される学びの姿】 他者の意見を取り入れながら、相手の思いや地域のおさを伝えられるような企画にするために、意欲的に話し合っている。</div>	<p>○これまで学校行事や委員会活動等で、自分たちが企画し、実行してきたことを振り返ることができるようにする。</p> <p>○具体的な場面を想像して考えられるように、企画実行までの期日や考えられる形態等、生徒の創意工夫の範囲以外の部分については、先に示しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【具体の評価規準】 態③ 地域の活性化のために自分たちができることを企画し、積極的に社会に参画しようとしている。 (方法:ワークシート・発言・行動観察)</div> <p>&lt;到達していない生徒への手立て&gt;</p> <p>○まちづくりに携わる人々の思いや、調査を通して自分が感じたことを振り返らせ、伝えたいという思いを強くもてるようにする。</p> <p>○友達の意見を聞いてよいと思った視点について発表を促す。</p>
終末	10分	<p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【まとめ】 地域の活性化につながる企画にするために、自分たちが感じた地域のよさや伝えたいことを含め、まちづくりに関わる人々の思いも伝えるようにする。また、伝える方法についても検討していく必要がある。</div> <p>◇今日考えたことに留意して、企画を考えていこう。</p> <p>◇日頃の行事や委員会活動にも、この学習が生かせそうだ。</p>	<p>○めあてや課題と照らし行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。</p> <p>○本時の学びの成果や課題とその要因、課題の改善方法等を共有する。</p> <p>○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的にを行う。</p>

【板書計画】

【めあて】

調査をもとに、地域の活性化につながる企画を考えよう。

学習課題

目的が達成できる企画にするためには、どんなことに留意する必要があるだろうか。

○各グループで考えた意見

・自分たちの思いをしっかりとつ。

・準備期間等を考えて、無理のない計画にする。

・地域の方に納得してもらえる内容にする。

.....

企画実施の概要

期日：○月○日(○)午後

※当日の準備も含めて3時間程度

実施可能な場所：学校内, 商店街, 市役所前

- ・体育祭や文化祭では...
- ・委員会活動では...

【まとめ】

地域の活性化につながる企画にするためには、自分たちが感じた地域のよさや伝えたいことだけでなく、まちづくりに関わる人々の思いも伝えられるよう進めていく必要がある。

【ICT活用計画】

例 教師による教材提示の計画 ICT を活用した発表 まとめ等による考えの共有の計画等

- 実物投影機器を使って、グループで記入したワークシートを全体提示する。
- 学校行事や委員会活動等で、自分たちで企画・実行している姿の写真や動画を示し、本時の学習に生かすことができるようにする。
- 場合に応じて、インタビューをした方々の写真を提示し、まちづくりに携わる人々の強い思いについて、想起することができるようになる。

※ 総合的な学習の時間の特質を鑑み、必要に応じて、「全体計画」、「年間指導計画」、「単元計画」を、学習構想案の資料として添付することが考えられます。

## 中学校第2学年 特別活動 学習構想案

期 日 令和〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時  
場 所 〇年〇組教室  
指導者 教諭 〇〇 〇〇

### 1. 単元構想

単元名	題材名「学校生活で今できること」		
内容のまとまりの目標	<p>○ 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けるようにする。</p> <p>○ 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見いだし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くことができるようにする。</p> <p>○ 将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>		
単元の評価規準	<p>① 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。</p> <p>② 職場体験の一連の活動を通して、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方を実現を図るために、必要な知識及び技能を身につけている。</p>	<p>① 自分らしい生き方の実現に向けて、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだし、職場体験の一連の活動を通して、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。</p>	<p>① 職場体験の一連の活動を通して、将来の生き方を見通したり、これまでの生活や学習を振り返ったりしようとしている。</p> <p>② 職場体験の一連の活動を通して、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。</p>
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
現在及び将来の自己の課題を発見し改善して、よりよい生き方を追求していこうとする生徒			
単元を通じた課題		本単元で動かせる見方・考え方	
「なりたいたい3年生」に向けて、職場体験活動での学びをもとに学校生活で今できることを考え、実践していこう。			
指導計画と評価計画(一連の活動と評価)			
時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」	
○月○日 学校行事 (始業式後)	○ 学校教育目標やキャリア教育目標、学年目標から1年間の個人の目標を設定し、キャリア・パスポートに記入する。	【態①】(キャリア・パスポート, 観察) 【知①】(キャリア・パスポート, 観察)	
○月○日 学校活動	○ 前回立てた1年間の目標から、1学期の目標を設定し、キャリア・パスポートに記入する。	★【態①】(キャリア・パスポート, 観察) ○ 1学期の目標と職場体験を関連付けようとしている。	
○月○日 学校行事	○ 職業適性検査を受け、自分の特性及び職業と適性の関係を知る。	★【知②】(シート, 観察) ○ 検査の結果を参考にして、自分の適性や興味を理解している。	
○月○日 学校行事	○ 自分の適性や興味、働く意義を確認し、根拠を持って職場体験活動の体験先を選択する。	★【思②】(キャリア・パスポート, 観察)	
○月○日 学校活動 (本時)	○ 職場体験活動での学びをまとめ、「社会で必要な力」を身に付けるために学校生活で今できることを考える。	★【態②】(キャリア・パスポートに表現している。 【知②】(キャリア・パスポート, 観察) ○ 職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。	
(定期的に)帰りの会	○ 目標を意識した生活を送ることができているか定期的に振り返りをする。		

## 2 単元における系統及び生徒の実態

### 学習指導要領における該当箇所

中学校学習指導要領〔学級活動〕内容(3)イ  
「社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。」

### 単元の価値

本単元は、勤労観・職業観を育み、集団や社会の形成者として、社会生活におけるルールやマナー、必要とされる能力について考え、日常生活や自己の在り方を主体的に改善しようとしたり、将来を思い描き、自分とふさわしい生き方を主体的に考え、選択しようとしたりすることができるようになるものである。そこで、職場体験活動をきっかけに将来に目を向けさせ、社会生活を送る際に求められる能力について考えさせたい。これらの能力を身に付けけることは、今の学校生活での学びと深く関わっていることに気付かせ、自分の生活を見つめ直すことが、将来の社会生活につながっていることに気付かせたいと考える。

### 本単元における系統

1学期 ○なぜ、人は働くのだろう。	2学期 ○ 職場体験活動に向けて ○ 学校生活で今できること	3学期 ○ 卒業後に学ぶ道 ○ 将来の設計と進路計画 ○ 進級への心構え
----------------------	--------------------------------------	---

### 生徒の実態(内容のまとまりの目標につながる学びの実態)

■学力(資質・能力)に関する実態	調査内容	とれている	している	あまりしていない	していない
	学校生活で友達と協力することができていますか。	○名	○名	○名	○名
	人の話をしっかりと聞くことができていますか。	○名	○名	○名	○名
	授業に対して積極的に取り組むことができますか。	○名	○名	○名	○名
	話し合い活動では積極的に自分の意見を言うことができますか。	○名	○名	○名	○名

■本単元の学習に関する意識の状況	調査内容	とれている	している	あまりしていない	していない
	将来のことを真剣に考えていますか。	○名	○名	○名	○名
	将来のために何か努力していますか。	○名	○名	○名	○名
	将来なりたい職業がありますか。	○名	○名	○名	○名
	職場体験活動後、仕事への関心が高まりましたか。	○名	○名	○名	○名

### ■考察

(資質・能力に関して) 学校生活では、互いに協力したり互いの話をしっかりと聞くことができているが、話し合い活動などで、自分の意見を持ちたり説明したりすることを苦手とする生徒が、○%ほどいる。これは、自分の考えや意見をまとめ、自分の言葉で表現することを苦手としていると考えられる。(学びに関して) 将来のことを考えている生徒は○%ほどであるが、その将来に向けて何か努力をしている生徒は○%ほどである。努力をしていない理由に「具体的に何をしてよいのかわからない。」「将来の職業を迷っている。あるいは、まだ決まっていないので何をしたらよいのかわからない。」など具体的な活動に気付いていない生徒が多い。これは、今の学校生活が将来の仕事と深く関わっていることに気付かない生徒が多いと考えられる。

## 3 指導に当たっての留意点

- 仕事の大変さばかりでなく、やりがいや喜びなどにも気付けるよう、社会人からのビデオレターを活用する。
- 日常生活を主体的に改善していく大切さの実感や今後の取組の意思決定につながるため、職場体験活動での学びと社会で必要とされる力との関連及び職場体験活動での学びと学校生活との関連を図るため、社会人基礎力の「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を提示する。
- 自分の意見を表現することへの抵抗感を軽減するため、小集団である班の中で意見交換を行う。
- 協同的・参加的・体験的な学習の推進のために、班での話し合いでは、互いに意見を出し合う場を確保し、互いの意見を認め合う雰囲気づくりをする。また、役割分担をしながら班での意見をまとめ、発表し、学びの共有化を図っていく。

4 本時の学習

- (1) 目標 勤労観・職業観を育み、社会におけるルールやマナー、必要とされる能力について考えるところにも、日常生活や自己の在り方を主体的に改善するために、職場体験での学びを生かした学校生活について表現できるようにする。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図 内容 方法等)
導入 5分	<p>1 職場体験活動を振り返る。</p> <p>◇職場体験活動は大変なところもあったけど、職場の方に喜んでもらった。</p> <p>◇仕事への関心が高まった。</p> <p>◇あいさつや準備を褒められて、授業や前活動と同じだということを学んだ。</p> <p>◇コミュニケーションの大切さを学んだ。</p> <p><b>【めあて】</b> 将来、仕事をするために、今できることは何かを考えよう。</p> <p>2. 社会で必要とされる力を知る。</p>	<p>○職場体験活動で頑張っている様子の写真を提示したり、職場体験活動のしおりやキャリア・パスポートを読み返させたりして、職場体験活動での学びを想起させることで、本題材に対する問題意識を高める。</p>
展開 35分	<p>3 職場体験で学んだことと社会で必要とされる力との関わりについて考える。</p> <p>◇職場の方から言われる前に仕事の準備や後片付けができたことは「主体性」とつながる。</p> <p>◇職場の方と意見を交わしながら商品開発のアイデアを出したことは、「傾聴力」や「創造力」と関係している。</p> <p>◇職場の方の仕事の様子を見て、今自分にできることを考えて動いたことは「状況把握力」とつながる。</p> <p>4 職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるか考える。</p> <p>◇あいさつは毎日気持ちよく学校生活を送ることに、準備を大切にすることは授業の準備や予習に生かされる。</p> <p>◇人と意見を交わす大切さを知ったことは、授業での積極的な話し合いに生かされる。</p> <p>5 これからの学校生活で自分が取り組んでいくことを意思決定し、記録する。</p> <p><b>【期待される学びの姿】</b> 職場体験活動で学んだことを生かすという視点で、今後の学校生活で取り組んでいくことについて具体的に表現している。</p>	<p>○社会人からのビデオレターにより、働くことのすばらしさ、喜びや大変さとともに、社会で必要とされる力について提示することで、学習することの意義を伝える。</p> <p>○「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力『社会人基礎力』（経済産業省）」として、「前に踏み出す力（アクシオン）」、「考え抜く力（シンキング）」、「チームで働く力（チームワーク）」を提示する。</p> <p>○グループで話し合わせることで、自分一人では気付かない関連性についても見出すことができるようにする。</p> <p>○多様性を認め、共感的に受け止める。</p> <p>○机間指導しながら、自己理解、社会マナーやルール、進路決定や将来設計、役割等の視点からコメントする。</p> <p>○自分の現状を振り返り、将来のなりたい自分に近づぐために、それぞれの具体的な行動を記入するよう伝える。</p> <p>○到達していない生徒への手立て】 ○職場体験活動で学んだことを確認した後、その学びが生かせるような場面について数例提示することで生徒がイメージしやすいようにする。</p>
終末 10分	<p>6 互いの決意文に応援メッセージを送る。</p> <p>7 感想を書く。</p>	<p><b>【具体的評価規準】</b> 思② ○職場体験活動で学んだことを自己と関わらせながらキャリア・パスポートに表現している。(方法：キャリア・パスポート、視察) ○相手を応援するようなメッセージを記入するよう伝える。</p>



職場体験活動を振り返って

※職場体験活動で頑張っている様子の写真	※職場体験活動で頑張っている様子の写真
※職場体験活動で頑張っている様子の写真	※職場体験活動で頑張っている様子の写真

- ・職場の方に喜んでもらった
- ・仕事への関心が高まった
- ・あいさつや準備～授業や部活動と同じと思った
- ・コミュニケーションの大切さを学んだ

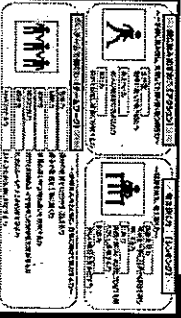
将来、仕事をするために、今できることは何かを考えよう

●●さんからのメッセージ



※ビデオカメラで撮られた「働くことの手はらしき」、「喜び」や「大変さ」とともに「社会が必要とされる力」について振り返る

社会で必要とされる力



職場体験活動で学んだこと

- ・職場の方から言われる前に行動 ⇒ 主体性
- ・周りを見て、今できることを考えた ⇒ 状況把握力

学んだことがどんな場面で生かせるか？

- ・あいさつ ⇒ 気持ちのよい毎日の生活
- ・準備の大切さ ⇒ 授業の準備、学習
- ・人と意見を交わす大切さ ⇒ 話し合いへの積極的な参加

決意文を書こう

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画

- ・授業の流れに沿って、電子黒板に学習活動の内容を表示し、視覚的に理解できるようにする。
- ・導入において、職場体験活動で頑張っている様子の写真や動画を提示し、職場体験活動での学びを想起させることで、本題材に対する問題意識を高める。
- ・「社会人基礎力」について知る場面では、「3つの能力・12の能力要素」それぞれのカに関する説明を表示する。
- ・社会人からのビデオレターでは、「働くことのすばらしさ」、「喜び」や「大変さ」、「社会で必要とされる力」に触れる場面においてテロップ等を入力することで、「勤労観・職業観」（自分の役割と生きがい、働く目的と意義等）の形成に必要な視点の意識付けを図る。

**第4学年 国語科 学習構想案**  
 日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時  
 場所 4年教室  
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう (ごんぎつね) C読むこと		
単元の目標	(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知識及び技能] (1)オ (2) 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像することができる。[思考力、判断力、表現力等] C (1)エ (3) 文章を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつことができる。[思考力、判断力、表現力等] C (1)オ (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]		
単元の評価規準	知識・技能	①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて、具体的に想像している。(C (1)エ) ②文章を読んで理解したことを基にいて、感想や考えをもっている。(C (1)オ)
	思考・判断・表現	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを話し合おうとしている。	
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
物語を読んで、感じたことや考えたことを伝え合い、言葉のもつよさに気付くとともに、新美南吉の作品を幅広く読書をしようとしている児童		本単元で働かせる見方 考え方	
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す言葉に着目して、言葉がもつよさに気付くこと。	
場面ごとに、ごんの日記を書くことで、ごんの気持ちの変化を読み取り、考えたことを話し合おう。			
指導計画と評価計画(1.2時間取扱いは、本時6/1.2)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記載に残す評面の場面や「具体的評価規準」
1	2	○ 題名やリード文から物語を想像し、これまでの物語で学習したことを振り返り、場面ごとにごんの日記を書くという学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○ 登場人物に焦点を当てて読み、初発の感想を書く。	【知①】(ワークシート) ★【思①】(ワークシート) ○ 場面の様子や登場人物の言動、様子などを表す語句について着目している。
2	7	○ いたずらばかりするごんの日記を書く。記を書く。兵十のおつかあめの葬式を見たごんの日記を書く。 ○ つぐないを始めたごんの日記を書く。 ○ 栗や松茸を持って行ったときの、ごんの日記を書く。 ○ 兵十と加助の後をついて行くごんの日記を書く。 ○ 兵十と加助の話をこっそりと聞いたごんの日記を書く。(本時) ○ 兵十に奪たれてしまったごんの日記を書く。	★【知①】(ノート) ○ 登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ★【思①】(ノート) ○ ごんと兵十の様子や行動、気持ちについて具体的に想像している。 ○ 文章を読んで理解したことを基にいて、記述した内容を結び付けて、自分の感想や考えを述べている。 ★【態①】(ワークシート) ○ や兵十の気持ちの変化について場面の移り変わりや結び付けて、具体的に想像しようとしている。
3	3	○ 「ごんぎつね」を読んだ感想を改めて書き、グループで交流する。 ○ 初発の感想と単元末に改めて書いた感想を比べながら、物語を読んだことに基づいて感じたことや考えたことを文章にまとめめる。	★【態①】(ノート・発言) ○ 進んで、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを話し合おうとしている。 ★【思②】(ノート) ○ 文章を読んで理解したことを基にいて、既習した内容を結び付けて、自分の感想や考えを記述している。

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
小学校学習指導要領第3学年及び第4学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C読むこと」	
教材・題材の価値	
本教材は、どんや兵十の心情の変化が美しい情景描写を背景に描かれており、ドラマチックな場面の展開によって読者である子供たちを魅了する作品である。また、人物の気持ちや行動を表す表現に着目しながら、物語を読み味わう楽しさを感じることが適している。	
本単元における系統	
4年「一つの花」 場面の移り変わりに着目し、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を捉える	3年「サーカスのライオン」 場面の移り変わりに着目し、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を捉える
4年「ごんぎつね」 場面の移り変わりに着目し、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を捉える	4年「アラカナスの木」 場面の移り変わりに着目し、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を捉える
5年「大造じいさんとがん」 情景描写に着目し、登場人物の心情を捉える	
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)	
■本単元を学習するに当たって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 ○ あらすじが分かる ・ 主題に迫ることのできた記述があり、大まかなあらすじが分かる ( ) 名 ・ 大まかなあらすじが分かる ( ) 名 ・ あらすじというには、不十分 ( ) 名 ・ 書けない(できない) ( ) 名 ○ 景色や場面の様子がきれいに描かれている文章が分かる ( ) 名 ・ きれいな景色や場面の様子に線が引ける ( ) 名 ・ 違う場所に線を引く、引けない ( ) 名 ■本単元の学習に関する意識の状況 ○ 「一つの花」を読んだとき、登場人物の気持ちを想像することができましたか。 ( ) 名 ・ よくできた ( ) 名 ・ 少しできた ( ) 名 ・ あまりできなかった ( ) 名 ・ できなかった ( ) 名 ○ 自分の知らないところで、誰かが自分のために何かをしてくれたり、あなたはどう思いますか。(自由記述) ・ うれしい ( ) 名 ・ 優しい人だなと思う ( ) 名 ・ 自分も何かしてあげたいと思う ( ) 名 ○ 自分は相手のために一生懸命何かをしているのに、それに気付いてもらえなかつたら、あなたはどう思いますか。(自由記述) ・ がっかり、悲しい ( ) 名 ・ 気付いてほしい ( ) 名 ・ かまわない ( ) 名 ・ もうしたくない ( ) 名 ■考察 (資質・能力に関して) 内容の大体を捉えることは概ねできてきているものの、場面の移り変わりと結び付けて、気持ちの変化を想像することができていることをはじめ、場面の移り変わりに着目して、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を捉えることについては、今後とも重ねて指導が必要である。 (学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの視点から、学びの状況を見ると、対話や交流を好む傾向はあるものの、対話や交流を通して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いたり、自分の考えがどのように変化したかを実感したりする学習がさらに必要である。	

### 3 指導に当たっての留意点

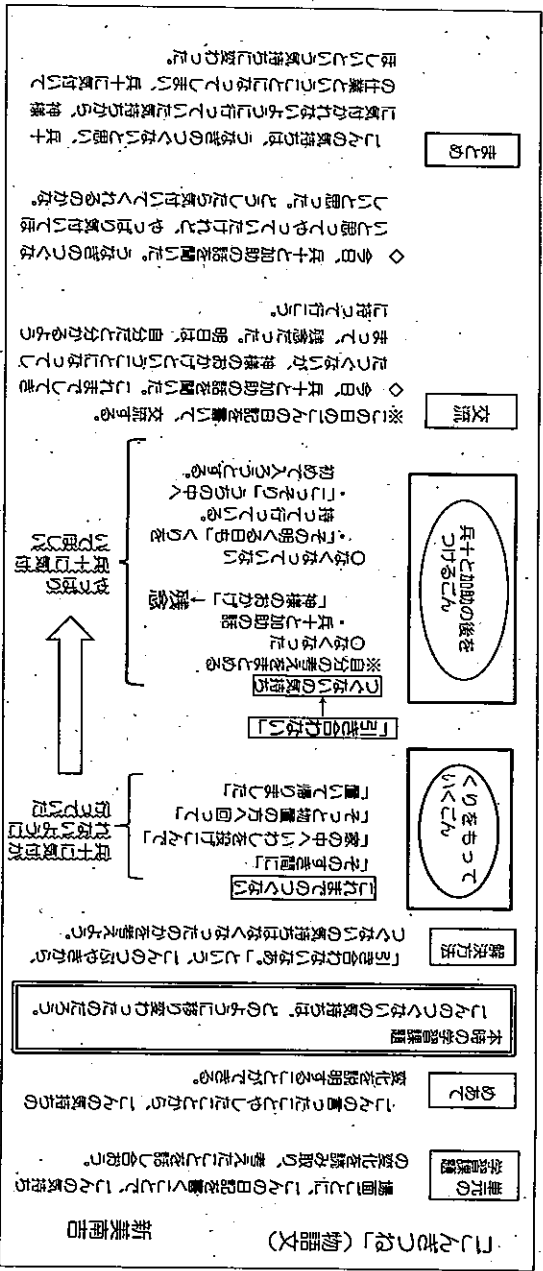
- 既習教材である「一つの花」の学習で経験した、中心となる人物の変化を振り返る活動を通して、最初と最後のごんの変化に目を向け、「どこで変わったのか?」「変わったきっかけは?」といった課題意識をもつようにする。
- 移り変わる場面ごとに、登場人物の視点で日記を書く活動を通して、登場人物の気持ちの変化に気付くことができるようにする。
- 単元末に、学習後の感想を交流する活動を設定することで、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができるようにする。
- 相手の気持ちを推し量り、自分のことのように考え、他人を思いやる心を育てる題材。(道徳)

- 4 本時の学習  
 (1) 目標 第5の場面(兵十と加助の話をこそそりと聞いているごん)において、ごんの言動に着目し、気付かれないうようにつぐないたいという気持ちから、これまでできてきたつぐないは自分がやったことだと気付いてほしいという気持ちに変わったごんの気持ちの移り変わりを読むことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>①前時で書いた、兵十と加助の後をついで行くごんの日記を読み、ごんの気持ち想起する。          ◇ごんは、自分のつぐないについて、兵十がどのように思っているのか知りたがっていたなあ。</p> <p>【めあて】 ごんの言ったことやしたことから、ごんの気持ちの変化を説明することができる。</p> <p>②ごんの「引き合わないなあ。」の言葉について問いをもつ。          ◇つぐないの気持ちは、なくなったのかなあ。</p> <p>【学習課題】          ごんのつぐないの気持ちは、どのように移り変わったのだろうか。</p>	<p>○単元のゴールを確かめ、単元計画からめあてを設定する。</p> <p>○ごんの「つまらないなあ。」や「引き合わないなあ。」の言葉に着目し、つぐないの気持ちはなくなったのかを問う。</p> <p>○「そのすぎ間に」「家の中へいわしを投げこんで」「そつと物置の方へ回って」「置いて帰りました」など、これまでのつぐないは兵十に気付かれないうように行っていたことについて、近隣の児童同士で確認する。</p>
展開	30分	<p>2 課題解決に向けて活動する。</p> <p>①自分の考えをもつ。          ◇「引き合わない」と言っているから、つぐないの気持ちはなくなったと思う。          ◇第6の場面では、「その明くる日も」くりを繰り返して行っているから、つぐないの気持ちはなくなっていないと思う。          ◇第6の場面では、「こそそり」だけで、うちの中へ入っていることから、自分だと気づいてくれるまで持つて行こうと思っっていると思う。</p> <p>②この日のごんの日記を書く。          ◇今日、兵十と加助の話を聞いた。これまでしてきたつぐないが、神様のおかげということになってしまっって、残念だった。明日は、自分だと分かるように持つて行こう。          ◇今日、兵十と加助の話を聞いた。うなぎのつぐないと思っってやっっていたけれど、やっぱり気付いてほしいと思っった。どうしたら気付いてくれるのかな。</p> <p>【期待される学びの姿】          ごんの言動に着目し、気付かれないうようにつぐないたいという気持ちから、これまでしてきたつぐないは自分がやったことだと気づいてほしいという気持ちに変わったごんの心構を想像している。</p> <p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。</p>	<p>○ごんが言った「引き合わない」に着目し、「つぐないの気持ちはなくなったか、それともなくなっていないか。」について協議する。</p> <p>○「引き合わない」と言った後のごんの行動について確かめることを促し、個別に考えを確かめていく。</p> <p>○この日のごんの日記を交流すること、          「神様のおかげ」に対して、「残念だ」「やっぱり気付いてほしい」「気づいてもらえるようにもつと頑張ろう」といったごんの言葉に着目して、気持ちの移り変わりに気付くように、コーデイネートしていく。</p> <p>【身体の評価規準】思①          ○ごんの言動から、ごんの気持ちの移り変わりを捉えている。(方法：ノート・発言)</p> <p>【到達していない児童への手立て】          ○これまでのつぐないの様子から、兵十に気付かれないうように行っていたことを確かめ、第6の場面のつぐないの様子と比べながら、個別に考えを確かめていく。</p> <p>○めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。</p>
終末	10分	<p>◇ごんのつぐないの気持ちが変わったことが分かった。そのきっかけとなったのは、兵十と加助の話だった。場面の移り変わりは、気持ちの変化と関係があるんだなあ。</p> <p>【まとめ】ごんの気持ちは、うなぎのつぐないとはいえず、兵十に気付かれないうように行っていた気持ちから、神様の仕業ということになってしまい、兵十に気付いてほしいという気持ちに変わった。</p>	<p>○本時の学びの成果や課題と、その要因、課題の改善方法を共有する。</p> <p>○自らの学びを調整したり、新たな問いを設定したりするなど、振り返りを具体的に挙げる。</p>

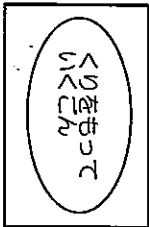
【板書計画】



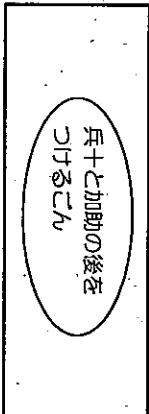
【ICT活用計画】

例 教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

デジタル教科書にある挿絵を電子黒板で拡大掲示し、課題に迫る読み取りのイメージを共有する。



【掲示①】  
本時の「山場の場面」を共有できるように、この挿絵を拡大掲示する。



【掲示②】  
本時の課題解決のキーワードとなる「引き合わない」について、この挿絵を拡大掲示する。共有できるように、この挿絵を拡大掲示する。

※単元をとおした課題である「場面ごとに、こんの日記を書くことで、こんの気持ちの変化を読み取り、考えたことを話し合おう。」において、場面ごとのこんの日記をタブレットで書いて保存しておき、全体共有の場において、前時まで書いて書いた日記も含めて、瞬時に電子黒板に拡大掲示して、共有化を図ることができる。

※その他 課題解決を図る情報収集計画、検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組み

※本単元で働かせた見方・考え方を生かして、新美南吉の他の作品を読み、感想を書く。

# 中学校第2学年 社会科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時  
 場所 2年教室  
 指導者 教諭 ○〇 ○〇

## 1 単元構想

単元名	第4章 近世の日本 2節 「江戸幕府の成立と鎖国」 (東京書籍)		
単元の目標	(1) 我が国の近世の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に調べ、時代の特色を踏まえて理解できるようにする。 (2) 近世の歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互に関連せらるるを基に議論したりする力を養う。 (3) 近世の歴史に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		
単元の評価規準	<b>知識・技能</b> ①江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を知り、幕府と藩による支配が確立していることとを理解している。	<b>思考・判断・表現</b> ①統一政権の諸政策の目的、社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けられるなど多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> ①近世の日本について、見通しをもつて学習に取り組みながら、課題を振り返りながら学習している。 ②学習を振り返るが、次回の学習へつなげている。
単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)			
江戸幕府は、大名を統制し幕藩体制を確立したこと、鎖国政策により情報や外交を独占したこと、身分制度など民衆の支配体制よこととを確実に理解し、他の時代との共通点や相違点をもとに、近世の時代の特色を自分の言葉で表現しようとする生徒			
単元を通じた学習課題		本単元で動かせる見方・考え方	
どのようにして(なぜ)、江戸幕府は長い間、政治の権力を維持できたのだろうか？			
指導計画と評価計画 (4時間取扱い、本時3/4)			
過程	学習活動	評価の観点等	
課題把握	①単元を通じた学習課題に対する答えを予想し、解決のための見通しをもつ。 ②「江戸幕府はどのようなようにして、大名を統制したのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 ③「江戸幕府は、どのようにして人々を支配したのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をノートにまとめる。	★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」 ★【態①】(発言) ○単元を通じた学習課題に対する答えを予想し、近世の日本について、見通しをもつて学習に取り組みようとしている。 【知①】(ノート)	
課題追究・課題解決	①「幕府の対外政策は、どのように変化していったのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をノートにまとめる。(本時) ※外交、キリヤ入下教への対応の変化から、幕府による支配がどのように進んだか考察する。 ②「江戸時代の本は、世界とどのように結びついていったのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	★【思①】(ノート) ○統一政権の諸政策の目的、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 【思②】(ノート) 【知①】(ノート) ★【態①】(発言) ○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ★【態②】(発言、観察) ○自己の学習について振り返り、調整しようとするとともに、次の学習へつなげられている。	
課題追究・課題解決	①「江戸時代の本は、世界とどのように結びついていったのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	★【態①】(発言) ○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ★【態②】(発言、観察) ○自己の学習について振り返り、調整しようとするとともに、次の学習へつなげられている。	
課題追究・課題解決	①「江戸時代の本は、世界とどのように結びついていったのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	★【態①】(発言) ○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ★【態②】(発言、観察) ○自己の学習について振り返り、調整しようとするとともに、次の学習へつなげられている。	

## 2 単元における系統及び生徒の実態

(3) のアの(イ)の「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」については、課題を追究したり解決したりする活動を通して、江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。

### 教材・題材の価値

本教材は、支配体制が確立していく過程を、諸外国、大名、農民との関係や「鎖国」の影響など多角的・多面的に考察するのに適している。加えて、天草屋原の乱など郷土に関連する事象も取り上げることになるため、生徒の学習意欲を喚起することができる。

### 本単元における系統

小学校6年「幕府の政治と人々の暮らし」  
政治のしくみや外国との関係、人々の暮らしについて  
資料から読み取ることができる。

中学校1年「中世の日本」  
武家社会の発展を、東アジア世界との関わりを踏まえ、武家社会の発展を理解することができる。

中学校2年「近世の日本」  
世界の動きや時代の特色を関連させ、近世社会の成立と変化を多面的・多角的に考察できる。

中学校2年「近代の日本と世界」  
近代国家の形成過程を、欧米との関係から捉えることができる。

中学校3年「現代社会と私たちの生活」  
現代社会の特色を、近世・近代の特色と比較し捉えることができる。

### 生徒の実態（単元の目標につながる学習の実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（R年） (％)

調査内容	概ね(6割～8割程度)	十分(8割以上)			
ヨーロッパ人來航の背景や影響(鉄砲、キリスト教)を捉えている。					
織田・豊臣による具体的な統一政策(刀狩、検地)の把握。					
武将や豪商の存在が存在し、影響力を高めた。					
■本単元の学習に関する意識の状況					(％)
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない	
教科書の挿絵等に着目し、自分の考えを整理することができた。					
資料や他者の意見を聞き、自分の意見を練り直すことができた。					
学んだことと関連付けて、自分の考えをまとめることができた。					

### ■考察

小学校の学習では、興味が高い内容の1つであり、江戸幕府の成立過程も理解できている。前単元の織田・豊臣に関する内容も概ね理解できている。

しかし、断片的な事象として捉えている生徒も多く、世界情勢やそれまでの歴史を踏まえ系統的に捉えきれない生徒は少ない。

そのため、これまでの学習を振り返りながら、多角的・多面的に考察し、意見交換を行う機会を持ち、学習を展開することで、解決を図り学習内容をより深く理解させたい。

## 3 指導に当たっての留意点

- 資料をもとに幕藩体制や身分制度について知り、幕府が大名に藩の政治に責任を負わせたことや、農民が幕府や藩の経済を支えていたことなどに気付かせる。
- 江戸時代の幕藩体制の地図や鎖国時代の地図から、統治の特徴を読み取るスキルや参勤交代や農村の生活の図版などから、当時の社会の状況をイメージするスキルを高める。
- 幕藩体制に関する語彙を使って地図や図版等の資料から読み取ったことを表現するなど、説明に必要な語句の理解と説明するための文章表現の力を高める。
- 本単元には直接的に身分差別に対する認識、理解を深めるべき内容がある。誤った認識をさせないよう十分に配慮したい。

4 本時の学習

(1) 目標

○江戸幕府は、外交や貿易の政策をどのようにして変化させたのか、自分の言葉で表現することができる。

○天草・島原一揆の前後関係を踏まえ、幕府がキリスト教を禁教とした理由を説明することができる。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、内容、方法等)
導入 10分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>①これまでの貿易の学習を振り返る。 ◇南蛮貿易では、南蛮人(ポルトガル人やスペイン人)が貿易の相手だったな。キリスト教の布教で、信仰も広まったな。</p> <p>②予想を出し合う。 ◇船(朱印船)は、どこに行くのだろうか。 ◇どうして、日本町がつくられたのだろうか。 ◇日本町は、今もあるのだろうか。</p> <p>【学習課題】東南アジアにどうして日本町が栄え、そして衰退したのだろうか。</p> <p>【めあて】江戸幕府は、外国との関係や貿易をどのように変化させたのか説明できる。</p>	<p>○多角的な思考につながるように、前時に学習した内容を振り返る。</p> <p>○朱印船貿易がどんな貿易であるかをつかむために、日本町の形成と衰退に興味をもたせる。</p> <p>○東南アジアに日本町が形成され、栄えたことを軸に、朱印船貿易がどのような貿易だったかを捉えやすくする。</p> <p>○栄えていた日本町が衰退した要因を問うことと、その要因を推測しながら国内の出来事を捉えらるようにする。</p> <p>○崎津天主堂の写真を提示し、幕府をゆるがす事象に熊本も関係していることを示し、関心を高めるようにする。</p> <p>【具体の評価規準】思考・判断・表現 ○禁教や貿易の変化を、歴史的な背景を踏まえまとめていく。 (方法：ノート・発言)</p>
展開 30分	<p>②日本ではどのようなことが起こっていたかをつかむ。</p> <p>◇貿易がうまくいかなくなったかもしれない。 ◇日本町が衰退したのは、外国から攻撃をうけたからかもしれない。 ◇ヨーロッパの国々。特にスペインやポルトガルとの貿易を行うことで、キリスト教が急増した。 ◇外国人と一緒に幕府を攻撃するかもしれない。 ◇外交方針が大きく変化したことをつかむ。</p> <p>③迫害に苦しんだ人たちは、一揆を起こしたんだ。 ◇外国との関係を、幕府だけがもてるようにしたんだ。</p> <p>【期待される学びの姿】 支那を強めるには、経済的な支えが必要であることとを捉えるとともに、既習の事柄が、あつちを振り返り、民衆が団結することとを恐れていたことを捉えることができる。</p> <p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対して振り返りをする。</p>	<p>【到達していない生徒への手立て】 ○他者がまとめたものを、一部紹介し、自らの考えと比較させることで、考えを整理させていく。</p> <p>○めあてや課題と照らし合わせて、学習内容をまとめる。</p>
終末 10分	<p>【まとめ】江戸幕府は、貿易の利益を優先して朱印船貿易を停止し日本町は衰退していった。その後の貿易や外交は幕府が独占した。</p> <p>◇幕府は国をまとめるためには、外国との関係を大きく転換し、大名や民衆を抑えたんだな。 ◇他にもどんなことをしたのか、調べてみたいな。</p>	<p>○キーワードとして「鎖国」を提示することで、学びを振り返り、次時の学習の見通しをもたせる。</p>



【板書計画】

【めあて】江戸幕府は、外国との関係や貿易をどのように変化させたのか説明できる。

- 1 貿易の変化  
南蛮貿易(ポルトガル・スペイン)  
↓  
朱印船貿易(朱印船で東南アジアへ)

【学習課題】東南アジアにどうして日本町が栄え、そして衰退したのだろう。

- ② 日本町  
○競争相手はいないのか? → 「銀」の産出  
ポルトガルとの競争 → 日本町の形成  
現地で商品を買集める  
政策の変化 → 貿易による利益を重視(キリスト教の拡大)  
↓ 禁教令(キリスト教の一向一揆化を警戒)  
↓ 出入国の禁止  
○日本町はどうなったか?  
1637年 島原・天草一揆

- 2 活躍する朱印船  
(1) 朱印状(=許可状)  
↑誰が許可  
徳川家:外国との貿易を独占  
(2) 東南アジアでの貿易  
① 貿易品 香料と生糸  
○日本では作れないのか?  
作付制限

ポルトガル船の来航を禁止・貿易相手国の制限

【まとめ】江戸幕府は、貿易の利益を優先して朱印船貿易を行っていたが、外国からの侵略をおそれ、キリスト教の禁止が徹底され、朱印船貿易を停止し日本町は衰退していった。その後の貿易や外交は幕府が独占した。

【ICT活用計画】

例: 教師による教材提示の計画, ICTを活用した発表, まとめ等による考えの共有の計画等

- 1-②提示 朱印船絵図  
2-①提示 朱印船貿易の主要航路と日本町図  
気候区分図  
大航海時代地図  
※提示した図を利用し日本町が栄えた理由を考察する。  
2-③提示 崎津天主堂写真  
島原・天草一揆絵図等  
※提示した図を利用し日本町が衰退した理由を考察する。

※その他 課題解決を図る情報収集計画、検証結果やベンチャーメンズの記録計画など(シーンに応じて活用計画を立てる)

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例: 単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

※本単元終了後、次の問題に取り組みことで、日本と外国との貿易の歴史について理解を図る。

【熊本県学力学習状況調査】

平成25年度 大問3

※定期考査では、前単元と本単元の学びを通して、日本の対外関係が東アジア中心から欧州を含むものに  
移り変わったことを考察できるようにする。

併せて、地理的分野「世界の気候区分」とも関連させて考察できるようにする。

## 第6学年 算数科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
 場所 6年〇組教室  
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

### 1 単元構想

単元名	つり合いのとれた図形を調べよう			
単元の目標	(1) 対称な図形の特徴を調べながら、その性質を理解することができる。 (2) 対称な図形の性質を見いだしたり、その性質を基に既習の図形を捉え直したりすることができる。 (3) 対称な図形の性質を基に、身の回りの事象や図形を考察しようとしている。			
単元の評価規準	知識・技能	対称な図形について理解している。	思考・判断・表現	図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりしているとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしている。
	主体的に学習に取り組む態度	対称な図形について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討し強くなり、教員のよき学習生活や学習に活用しようとしている。		
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿 期待される姿)				
図形の性質を基に既習の図形を捉え直したり、日常生活に生かしたりする児童				
単元を通した学習課題 (単元の中心的な学習課題)		本単元で動かせる見方・考え方		
見いだした性質から、さらに性質を探ろうとすること。 見いだした性質を活用し、問題を解決すること。		対称な図形の性質に着目して、図形の性質を見いだしたり、既習の図形を捉え直したりすること。		
指導計画と評価計画 (8時間取扱い 本時3/8)				
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 <small>★は記録に残す評価の場面です(具体の評価規準)</small>	
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリエンテーション トヨタ・スズキ車のエンブレムや野球球団のマーク等身の回りの図形を見て、感じたことや気付いたことを挙げる。 友達を感じたことや気付いたことから、これらのマークのつくりの特徴を予想する。</li> <li>○ 線対称・点対称の図形について、対応する辺の長さや角の大きさを調べる。 自分が選んだ身の回りの図形を、定規や分度器等をもとに調べる(個人・ペア・同じ図形を選んだグループ)。 線対称における対称の軸、点対称における対称の中心を知り、さらに性質を探ろうとする。(本時)</li> <li>○ 対称の軸、対称の中心までの長さについて調べる(個人・ペア・同じ図形を選んだグループ)。線対称・点対称な図形の性質を活用して、さまざまな問題を解決する。 対応する辺・角の大きさ 対称の軸・対称の中心までの距離 対称の軸・対称の中心の求め方</li> <li>○ 方眼紙上の図形の作成 今まで学んできた三角形・四角形等を、線対称・点対称の観点から調べ、図形を整理する。</li> <li>○ 世界で一つだけのオリジナルマークをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★【態】(ワークシート) 協働して図形を調べている。また、他の図形を選んだ児童・グループに対して、自分たちが得た特徴や情報を提供している。</li> <li>★【知】(ワークシート) 自分が選んだ図形や他者から得た情報を基に、図形の性質を見いだしている。</li> <li>★【思】(ワークシート) 線対称・点対称な図形の性質を理解する。</li> <li>★【思】(ワークシート) 既習の三角形・四角形等が、線対称や点対称な図形であることを理解する(等閑台形でない台形、直角三角形、円の観点も)。</li> </ul>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 方眼紙に、定規・分度器・コンパスを使い、つり合いのとれたマークをかく。</li> <li>○ 自分がつくったマークを紹介する。説明しながら、工夫した点や気に入っている箇所等を説明しながら、オリジナルマークをかんばんに紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★【思】(方眼紙) 線対称または点対称の性質をもとに図形(一部でも可)をかいている。</li> <li>★【思】(発表記録) 線対称または点対称の性質について触れながら、点・角・線・気に入っている点を記述させておく。</li> </ul>	
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 線対称・点対称な図形の性質を活用して、さまざまな問題を解決する。 対応する辺・角の大きさ 対称の軸・対称の中心までの距離 対称の軸・対称の中心の求め方</li> <li>○ 方眼紙上の図形の作成 今まで学んできた三角形・四角形等を、線対称・点対称の観点から調べ、図形を整理する。</li> <li>○ 世界で一つだけのオリジナルマークをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★【思】(方眼紙) 線対称または点対称の性質をもとに図形(一部でも可)をかいている。</li> <li>★【思】(発表記録) 線対称または点対称の性質について触れながら、点・角・線・気に入っている点を記述させておく。</li> </ul>	

## 2 単元における系統及び児童の実態

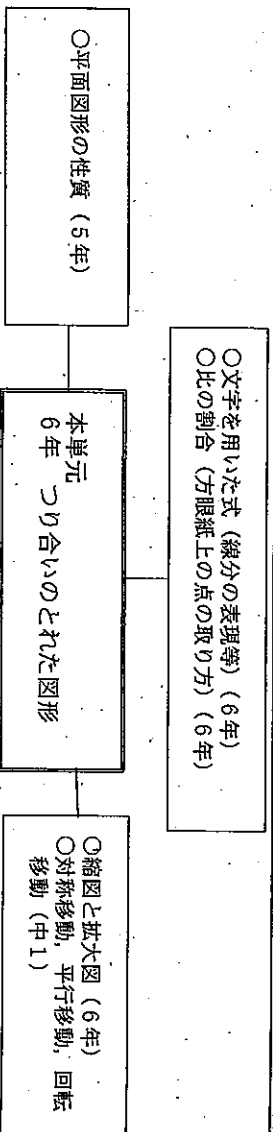
学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
 ○対称な図形について理解すること  
 ○図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりすることともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。

教材・題材の価値

既習の図形を対称な図形の観点から捉え直すことにより、より多面的な見方で図形を捉えることができる。また、縮図や拡大図、対称移動や平行移動、回転移動を考察するうえで、基礎となる教材である。

本単元における系統



児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)

- 本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況
  - 定規やコンパスで線分の長さを測る技能、分度器で角の大きさを測る技能
  - 線分の長さの表し方及び等しい式の理解 ( $AB=CD$ 等)
  - 正方形、長方形、二等辺三角形の性質及び図形を対称の軸で折り曲げたとき重なることの理解
  - 方眼紙上で与えられた線分(斜めの線)と、まったく同じ線分をかく技能
  - 合同な図形についての知識・理解

### ■本単元の学習に関する意識の状況

- 定規やコンパス、分度器を使い調べる作業について、興味が高いと考える。
- 線対称について、二等辺三角形を折り重ねたりする具体的な操作をしているため、考察は安易であると考えられる。
- 点対称については、回転を伴うため、見方が難しく、視覚的に捉えさせる手立てが必要だと考える。

### ■考察

- 観察や構成、作図等の活動を通して、均整のとれた美しさ、安定さ等を実感すると考える。様々な活動を通して、図形への理解を深め、図形に対する感覚を豊かにしていくと考える。

## 3 指導に当たった際の留意点

- 身の回りの図形(マーク)から、自分が調べたいものを選択させることで、調査意欲を高める。
- 定規・分度器を使って調べたり、折り曲げや回転等をさせたり、数学的活動を数多く取り入れる。
- 理解が難しい図形の回転移動等については、電子黒板を使い、視覚的に捉えさせる。
- 様々な形態の問題を解決させることで、対称図の性質の理解を深める。
- つり合いのとれた図形が優位である意識をもたないよう指導する。
- 調べ学習の際、選択した図形の難易度の差だけで、他人を見ないよう指導する。

## 4 本時の学習

### (1) 目標

対称の軸及び対称の中心を知り、それらと各頂点との関係を調べ、理解することができる。  
 用語：線対称な図形、対称の軸、点対称な図形、対称の中心

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入	8分	<p>1 前時の学習事項を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対応する辺、角、点</li> <li>・自分たちが調べた性質</li> </ul> <p>2 新たな用語を知り、なぜそのような言葉が使われるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線対称な図形、対称の軸</li> <li>・点対称な図形、対称の中心</li> </ul>	<p>○シンジナルな図を使い、時間をかけず、確認を行う。長さや角については、数値を与えての確認も行う。</p> <p>○実際に折り曲げたり、回転させたりさせる。その後、電子黒板を使い、図形の移動の様子を観察させる。</p> <p>○なぜそのような用語となっているのかを連想させ、新たな関係性を予想させる。</p>
		<p><b>【めあて】 対称の軸や対称の中心との関係を探よう。</b></p>	
	3分	<p>3 自分が選択している図形を使って、対称の軸・対称の中心との関係を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個で調べる（7分間）</li> <li>・ペアや同じ図形を選んだグループ等</li> </ul> <p><b>【期待される学びの姿】</b></p> <p>協働して図形を調べている。また、他の図形を選んだ児童・グループに対して、自分たちが得た特徴を情報提供している。</p> <p>自分が見つけた性質や他者からの情報提供をもとに、さらに性質を見出そうとしている。</p>	<p>○調べ学習中、線対称についての折り曲げ、点対称における回転の動画を流しておく。</p> <p>○自分が選んだ図形において関係性を見つけた児童については、他の図形でも同様のことがいえるか調べさせる。</p> <p>○関係を見いだせずにいる児童には、ヒントカード（シンジナルな図形における関係性）を与える。</p> <p>○実際に調べる視点・箇所を提示する。</p>
展開	3分	<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが調べた性質を、用語を使ってノートに整理する。</li> <li>※軸・中心までの距離</li> <li>※対応する点同士の線が軸・中心と交わる角度</li> </ul> <p>5 性質を活用して、問題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・星形の図形、Zの図形</li> <li>※長さが等しい線分を探す</li> <li>※交点の角の大きさを求める</li> <li>※対応する点を探す</li> <li>※対称の軸となり得る軸を全部探す</li> <li>※対称の中心を求める</li> </ul>	<p>○調べて分かった特徴はメモをさせ、まとめ、整理に活用させる。</p> <p><b>【具体の評価規準】 観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○軸・中心までの距離、交点における角度についての性質を記載している。(ノート)</li> <li>○性質を活用し、問題を解決している。(ワークシート)</li> </ul> <p><b>【到達していない児童への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教師が用意したまとめ整理シートを配付する。</li> </ul>
終末	5分	<p>6 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルワークを作成する際に、最も大切な性質は何か、考えながら、振り返りを行う。</li> </ul>	<p>○実物大の「星形の図形、Zの図形」を提示し、実際に定規や分度器で測らせる。</p> <p>○個で考えさせた後、自由に交流させる【教え合い】。</p> <p>○本単元のゴールは、オリジナルのワークを作成することを再確認する。</p> <p>○今まで学習した図形で、線対称・点対称の性質をもった図形はなかったか、思い起こさせる。</p>

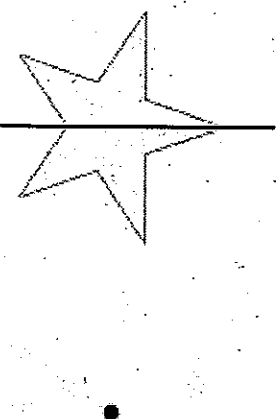
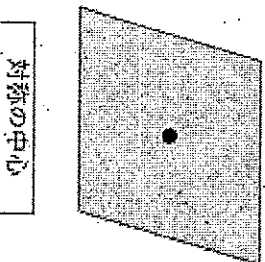
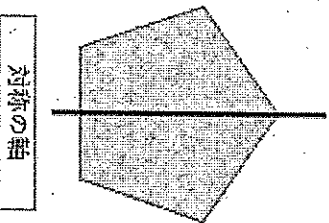
【板書計画】

【めあて】  
対称の軸や対称の中心との関係を調べよう

- 対応する（上下左右）の辺の長さが等しい。
- 対応する（上下左右）の角の大きさが等しい。
- 上下左右の頂点の数が等しい。

【気づき（まとめ）】  
○対応する頂点から対称の軸、対称の中心までの長さが等しい。  
○対応する頂点同士を線で結ぶと、対称の軸、対称の中心と直角に交わる。

線対称・点対称の図形ならば、本当にそうなる？



【ICT活用計画】

- 導入時，電子黒板を使い，図形を折り曲げたり，回転させたりする様子を観察させる。  
また，調べ学習時，性質を見いだすヒントとして，この動画を流しておく。
- 終末時，オリエンテーションで使ったトヨタやスズキ車のエンブレム，野球球団のマーク等を電子黒板で提示し，オリジナルマークづくりへの意欲を高揚させる。

【見方・考え方を働かせて解く問題】

- 単元終了時や家庭学習で次の問題に取り組むことで，線対称・点対称な図形の性質について，理解を深めたり，問題解決に活用したりする資質・能力を高める。

(熊本県学力調査)

- 平成28年度 大問6
- 平成27年度 大問8
- 平成26年度 大問5

# 中学校第2学年 理科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 〇年〇組教室

指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1 単元構想

単元名	動物の体のつくりと働き		
単元の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>(1) 動物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生命を維持する働き、刺激と反応について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。</p> <p>(2) 動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現することができる。</p> <p>(3) 動物の体のつくりと働きに関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	<p>動物の体のつくりと働きに着目しながら、生命を維持する働き、刺激と反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究し、研究している。</p>
単元の評価規準	<p>単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿、期待される姿)</p> <p>動物が生命を維持するための体のつくりや働きについての学びを通して、その緻密さや生命の神秘について感じ、生命を尊重し、自分の体の仕組みについて振り返ろうとする生徒。</p>		
単元を通じた学習課題 (単元中心的な学習課題)		本単元で動かせる見方・考え方	
動物が生命を維持するために、どのような体のつくりや働きになっているのだろうか。		動物の体のつくりの共通性と多様性に気づき、動物の体のつくりと働きを関連付けて捉える。	
指導計画と評価計画 (118時間取扱いは 本時2/18)			
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 <small>★は記録に残す評価の場面(具体的評価規準)</small>
1	2	<p>「私たち動物が生命を維持するために、絶対に必要な活動を3つ挙げよ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の細胞の呼吸や植物の体のつくりと働きについての学習内容を思い出す。</li> <li>前時の概念図をもとに、動物が生命維持に必要な主な器官について確認しながら、単元の学習計画を立てる。(本時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【態】 (記述分析) <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒトの体の模式図に生命維持に必要な器官等の概念図を表現しようとしている。</li> </ul> </li> <li>【態】 (記述分析、行動分析) <ul style="list-style-type: none"> <li>動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、既習内容と疑問点を整理し見通しをもって捉えていくようとしている。</li> </ul> </li> <li>【思】 (記述分析) <ul style="list-style-type: none"> <li>唾液がデンプンを他の糖に変える働きを確かめる方法を考えることができる。</li> </ul> </li> <li>【知】 (行動観察) (記述分析) <ul style="list-style-type: none"> <li>顕微鏡等を正しく扱って観察し、スケッチや文章で正しく記録している。</li> </ul> </li> <li>【思】 (記述分析)</li> <li>【思】 (記述分析)</li> <li>【思】 (記述分析)</li> <li>【知】 (発言分析) (ペーパーテスト)</li> </ul>
2	8	<p>「動物は、どのようにして食物から必要な養分を取り入れているのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デンプンに対する唾液の働きを調べる実験方法を考える。</li> <li>「動物は、いつも食物にありつけるとは限らない。その場合、どのような器官が必要となるだろうか。」</li> </ul> <p>「酸素が細胞に届くまでの仕組みはどのようなになっているのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肺に空気を取り入れる仕組みについて模型を使い考える。</li> <li>メダカの毛細血管とその中を流れる血液を調べる。</li> </ul> <p>「血液はどのような仕組みで流れているのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心臓の役割とそのつくりについて理解する。</li> <li>体内でできた不要物の排出について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思】 (行動分析・発言分析) <ul style="list-style-type: none"> <li>肺への空気の入りを模型の横隔膜等の動きと関連付けて思考している。</li> </ul> </li> <li>【知】 (行動分析：記述分析) <ul style="list-style-type: none"> <li>顕微鏡等を正しく扱って観察し、スケッチや文章で正しく記録している。</li> </ul> </li> <li>【思】 (記述分析)</li> <li>【思】 (記述分析)</li> <li>【思】 (記述分析)</li> <li>【知】 (発言分析) (ペーパーテスト)</li> </ul>

3	6	<p>「動物は、食物を得るために植物と体のつくりが異なり、発達している器官は、何か。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 獲物を得るために、外界の刺激に反応する感覚器官、神経系、運動器官について、各班でテーマを決め調べろ。</li> <li>○ ジグソー法を用い互いに発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★【態】（行動分析・記述分析） <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題を設定し、自ら調べ友達から情報を得て粘り強くまとめようとしている。</li> <li>・【知】（行動分析）</li> <li>・【思】（記述分析）（発言分析）</li> <li>★【知】（記述分析、行動分析）</li> <li>○ 運動器官、感覚器官、神経系のつくりと仕組みについて理解している。</li> </ul> </li> <li>★【思】（記述分析）</li> <li>○ 体のつくりと働きについて関係性を見いだし表現している。</li> <li>★【知】（記述分析・行動分析）</li> <li>○ ヒトの体の模式図に器官の様子を表現し、体のつくりと働きを関連付け体系的に理解している。（記述分析）</li> <li>★【態】（記述分析）</li> <li>○ 学習前後で自己の姿容や自己の体について振り返ろうとしている。</li> </ul>
4	2	<p>「動物が生命を維持するために体のつくりや働きをそれぞれが役割を明らかにした説明をしよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の学習後のヒトの体の模式図をそれぞれの働きとつながりを捉えて作成し、説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★【態】（行動分析・記述分析）</li> <li>○ 課題を設定し、自ら調べ友達から情報を得て粘り強くまとめようとしている。</li> <li>・【知】（行動分析）</li> <li>・【思】（記述分析）（発言分析）</li> <li>★【知】（記述分析、行動分析）</li> <li>○ 運動器官、感覚器官、神経系のつくりと仕組みについて理解している。</li> <li>★【思】（記述分析）</li> <li>○ 体のつくりと働きについて関係性を見いだし表現している。</li> <li>★【知】（記述分析・行動分析）</li> <li>○ ヒトの体の模式図に器官の様子を表現し、体のつくりと働きを関連付け体系的に理解している。（記述分析）</li> <li>★【態】（記述分析）</li> <li>○ 学習前後で自己の姿容や自己の体について振り返ろうとしている。</li> </ul>

## 2 単元における系統及び児童の実態

中学校学習指導要領 第2分野 [知識及び技能] (3) ア(ウ) , [思考力, 判断力, 表現力等] (3) イ		学習指導要領における該当箇所(内容 指導事項等) 教材 題材の価値			
本単元は、動物の消化、呼吸及び血液循環や外界の刺激に対する反応についての観察や実験などを通して、動物の体のつくりの多様性と共通性に気付かせるとともに、動物の体のつくりと働きを関連付けて理解させることが主なねらいである。その際、消化、呼吸、血液循環、排出に関わる器官やそれらが組み合わさっている器官系、更に感覚器官、神経系及び運動器官などが働くことよって、動物の生命活動を維持していることに気付かせることが重要である。また、動物の体のつくりと働きを総合的に理解することを通して、生命の神秘さを感じ生命を尊重する態度を育成できる内容である。					
本単元における系統					
小学校第3学年 「身の回りの生物」	第4学年 「人の体のつくりと運動」	中学校第1学年 「生物の観察と分類の仕方」 「生物の体の共通点と相違点」	第6学年 「植物の養分と水の通り道」		
[生物の構造と機能]					
中学校第2学年 「生物と細胞」	中学校第2学年 「動物の体のつくりと働き」	中学校第2学年 「植物の体のつくりと働き」			
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)					
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況					
調査内容		よく	まあまあ	あまり	ない
体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出される。		—	—	—	—
食べ物には、体内で消化、吸収、排出される。		—	—	—	—
生物の体が細胞できており、植物と動物の特徴がある。		—	—	—	—
■本単元の学習に関する意識の状況					
調査内容		よく	まあまあ	あまり	ない
ヒトの体のつくりと働きについて不思議に感じることがある。		—	—	—	—
課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいると思う。		—	—	—	—
学んだことを関係付けて、説明することができていると思う。		—	—	—	—
■考察 小学校での学習内容や前章の「生物と細胞」、植物の体のつくりと働き」の理解については、概ねできている。しかし、自分の予想を基にして、解決の方法を計画することについては、今後も丁寧な指導が必要である。また、学習した内容を総合的に捉え、関係付けて説明できるまでには多くの生徒が達していない。そのため、断片的な知識にとどまり、個々の知識が生物の生命の営み全体につなげて考えることができていない。課題解決に向け、主体的に単元の見直しをもてるよう学習計画をつくり、課題を解決していく中で、知識の体系化を図る学習が必要である。					

### 3 指導に当たっての留意点(「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記)

- 生徒が単元の学習の前で、自己の姿容に気付くよう単元の初めと終わりに同じヒトの体の模式図に概念を記入する取り組みを行う。また、単元を通じた学習課題に対する自分の考えをまとめる時間を設定する。
- 生徒が単元を通して主体的に課題解決に取り組めるように、導入では、動物が生命を維持するために必要な活動を問うことから体のつくりと働きを総合的に捉え、学習計画づくりを行うようにする。

- 生徒が動物の体のつくりと働きを多様性と共通性の視点で捉えることができるように、複数の動物や自分の体との比較を指摘しながら考察を行うようにする。
  - 生徒が自分で選んだ課題について、調べたり、レポートにまとめたりし、友達に互いに発表し合える場を設定する。
- 4 本時の学習
- (1) 目標 動物が生命を維持するために必要な体のつくりと働きについて、既習事項と疑問点を明らかにしていく単元の学習計画を作成することを通して見通しをもち、それぞれが関連した体系的な捉えをしていくようにする。

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (○予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 5分	<p>1 単元の課題を確認する。</p> <p>①前時に行ったヒトの体の模式図に記入した概念図を振り返る。</p> <p>◇自分の体の中でのつくりや働きだけど、あまり詳しく知らなかったな。</p> <p>【学習課題】動物が生命維持をするために、どのような体のつくりや働きになっているのかについて、どのような体のつくりや働きになっているのかを明らかにしていく学習計画を作ろう。</p> <p>【めあて】 動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、それぞれがつながりを明らかにしていく学習計画を作ろう。</p>	<p>○呼吸と消化（食べること）は、生きるため必要なエネルギーを生み出すための働きであることを押さえる。（細胞の呼吸）</p> <p>○動物が生命維持のために必要な働きを自分や植物の活動と関連付けて考えるように促す。また、1つ1つの器官が役割をもち、互いに調和しながら生命を維持している視点を与え、課題意識をもたせる。</p> <p>○「○○（器官）は、□□の働きを行うために必要である。」等、根拠を示して説明するようにさせる。</p> <p>○各器官等の体のつくりと働きがどのようなつながりをもっているのかについて視点を与える。</p> <p>○班内での疑問点、詳しく知りたい点を明らかにするようにさせる。</p> <p>○全体で発表する際は、1つの班の発表から各班の考えを出し合い、つなぎまとめしていくようにする。</p> <p>【具体的評価規準】【総】 ○動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、既習内容と疑問点を整理しながら、見通しをもって体系的に捉えていくこととしている。（方法：ノート・発言）</p> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○体のつくりと働きについて、分かっていることを整理させ、その他に生命維持のために必要な活動の場面を示し、関連付けて考えられるようにする。</p>
展開 35分	<p>2 課題解決に向けて活動する。</p> <p>①班内でヒトの模式図に記入した概念図を互いに説明する。</p> <p>◇呼吸と消化はみんなに共通しているな。</p> <p>◇心臓の働きが、いまひとつ詳しく分からないな。</p> <p>◇消化と心臓の働きって関係あるのかな。</p> <p>②班内でヒトの模式図の概念図を作成する。</p> <p>③全体で他の班との情報交流を行う。</p> <p>◇腎臓、肝臓ってどんな働きをしているのだろう。</p> <p>◇獲物を捕らえる牙も必要だな。</p> <p>④学級全体で、既習内容とこれからの学習で課題を解決していく内容を確認する。</p> <p>【期待される学びの姿】 生命を維持する体のつくりと働きについて、自分で考え友達と意見を交流する中で既習内容の整理ができ、これから単元の課題を解決していくことで体系的に捉えようとする姿に変容している。</p>	
終末 10分	<p>3 課題を解決していく順序（学習計画）を確認する。</p> <p>【まとめ】動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、それぞれのつながりが明らかになる学習計画ができた。</p> <p>◇単元が終了したときには、動物が生命を維持するために、どのような体のつくりや働きとなっっているのかを詳しく説明できるようにする。</p>	<p>○生徒自身が単元を見直し、単元終了時の自分の成長した姿をイメージし、意欲をもって課題解決に取り組めるように本時を振り返る。</p>



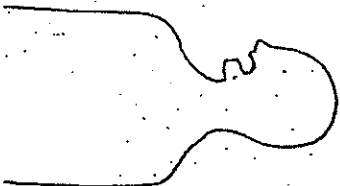
【板書計画】

単元課題 動物が生命を維持するために、どのような体のつくりや働きになっているのだろうか

動物が生命維持のために必要な体のつくりと働きについて、それぞれのつながりを明らかにしていく学習計画を作ろう

単元の学習計画表

1	消化について	
2	呼吸について	
3	心臓について	
4		
5		



- ①班内で互いに説明
- ②班の概念図をつくる
- ③全体発表による交流
- ④単元の学習計画をつくる

【ICT活用計画】

例 教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

- ・デジタル教科書にある写真、図、表等を電子黒板で拡大提示し、共有する。
- ・模式図に記入した概念図を電子黒板で拡大提示し、共有する。
- ・メダカの毛細血管の顕微鏡観察の様子を電子黒板で拡大提示し共有したり、血液の循環の様子を循環経路と心臓のモデル動画で示したりする。
- ・運動器官、感覚器官、神経系について、タブレットPCを活用し、調べ学習を行う。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例 単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

○動物の体のつくりの共通性と多様性に気付き、動物の体につくりと働きを関連付けて捉えている過去の調査問題にて定着を図る。

【全国学力・学習状況調査】 平成○○○年度 大問○

【熊本県学力調査】 平成○○○年度 大問○

【課題克服プリント】 平成○○○年度提供 大問○

○単元の終末では、学習を通して学んだことを自分の体の仕組みと日常の働きと関連付けて、振り返りができるようにする。

# 第5学年 外国語科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時  
 場所 5年教室  
 指導者 教諭 ○〇 ○〇

## 1 単元構想

単元名	Unit 4 He can bake bread well. (p.38-45)		
単元の目標	(1) 自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。また、文字には音があることに気付く。	(2) 自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて話すことができる。	(3) 他者に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことを紹介し合おうとする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	【聞くこと】 〈知識〉I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~. などについて理解している。 〈技能〉身近な人のできることなどについて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。 【話すこと（発表）】 〈知識〉I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~. などについて理解している。 〈技能〉紹介したい人のできることなどについて、具体的な情報を話す技能を身に付けている。	【聞くこと】 友達を紹介したい人について知るために、その人のできることやできないことを聞き取っている。 【話すこと（発表）】 自分や紹介したい人のことをよく知ってもらうために、自分や紹介したい人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて考えや気持ちを含めて話している。	【聞くこと】 友達を紹介したい人について知るために、その人のできることやできないことを聞き取るようとして話している。 【話すこと（発表）】 自分や紹介したい人のことをよく知ってもらうために、自分や紹介したい人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。

### 単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿 期待される姿）

自分や第三者のできることやできないことについて、自分の考えや気持ちも含めて、他者に配慮しながら、聞いたり、話したりする児童

### 単元を通じた学習課題（単元のための学習課題）

本単元で動かせる見方・考え方

紹介したい人のできることやできないことをインタビューする  
 などとして調べ、発表し合おう。

紹介したい人についてよく伝わるように、他者に配慮しながら、その人のできることやできないことなどについて工夫して発表すること。

### 指導計画と評価計画（8時間取扱） 本時 4 / 8

#### 評価の観点等

★は記録に及ぶ評価の場面で「具体的評価基準」

過程	学習活動	評価の観点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元のゴールを知り、動作を表す語や「できる」「できない」という表現が分かる。</li> <li>○ あることができるか答えたりするかについて尋ねたり答えたりする。</li> <li>○ He/Sheを書き写すことができる。</li> </ul>	<p>【聞くこと】</p> <p>&lt;知識・技能&gt; (行動観察、振り返りカード)</p> <p>★&lt;知識・技能&gt; (行動観察、振り返りカード)                      〈知識〉I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~. などについて理解している。                      〈技能〉身近な人のできることなどについて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。                      【話すこと（発表）】</p> <p>★&lt;知識・技能&gt; (行動観察、振り返りカード)                      〈知識〉I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~. などについて理解している。</p> <p>〈技能〉紹介したい人のできることなどについて、具体的な情報を話す技能を身に付けている。</p>
3 本時 3 / 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 紹介したい人にインタビューするなどして調べることを考える。</li> <li>○ 紹介カードを作り、グループでインタビューしながら、発表の練習をする。（毎回相手を変える）</li> <li>○ 発表会をする。</li> </ul>	<p>【聞くこと】</p> <p>★&lt;思・判・表&gt; (行動観察、振り返りカード)                      友達を紹介したい人について知るために、その人のできることやできないことを聞き取っている。                      ★&lt;主体的に取り組む態度&gt; (行動観察、振り返りカード)                      友達を紹介したい人について知るために、その人のできることやできないことを聞き取るようとしている。</p> <p>【話すこと（発表）】</p> <p>★&lt;思・判・表&gt; (行動観察、振り返りカード)                      自分や紹介したい人のことをよく知ってもらうために、自分や紹介したい人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて考えや気持ちを含めて話している。                      ★&lt;主体的に取り組む態度&gt; (行動観察、振り返りカード)                      自分や紹介したい人のことをよく知ってもらうために、自分や紹介したい人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。</p>

四	1	○世界の町で働く人々について知る。職業や家族を表す語から、英語と日本語の違いについて考える。 P44, 45.	[聞くこと] ＜思・判・表＞(行動観察, 振り回りカード) ＜主体的に取り組む態度＞(行動観察, 振り回りカード)
---	---	--	---

## 2 単元における系統及び児童の実態

### 学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)

#### [知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

Ⅰ 文及び文構造

(ア) 文 e 代名詞のうち、I, you, he, she などの基本的なものを含むもの

[思考力, 判断力, 表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに關する事項

ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

ア 聞くこと

(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を聞き取る活動。

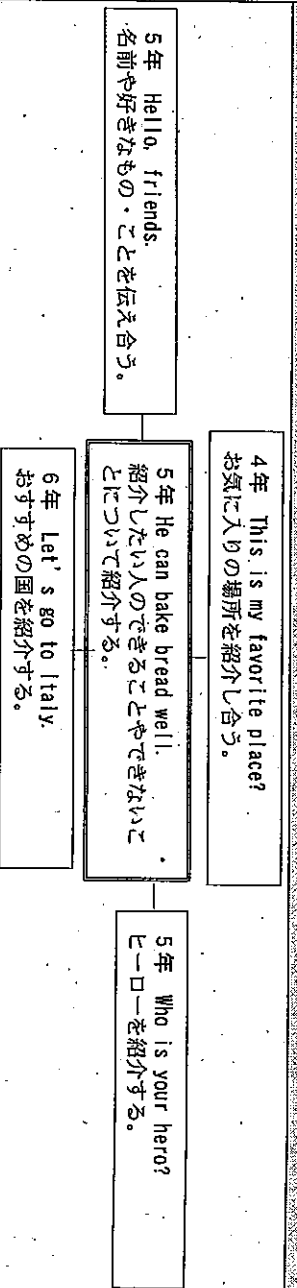
Ⅱ 話すこと (発表)

(イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。

#### 教材・題材の価値

本単元は、できることやできないことを発表することを通して、自分自身を見つめたり、お互いの良さを知り、理解を深め合ったりすることに適している。また、児童が興味を持って取り組むことができる言語活動を工夫することで、他者と思いを伝え合う楽しさを実感させ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が期待できる。

#### 本単元における系統



#### 児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	概ね(6割~8割程度)	十分(8割以上)
I like を使って、自分の好きなこと・ものを伝えることができる技能		
スポーツを表す英語を聞いて理解することができる技能		
スポーツを表す英語を言うことができる技能		
アルファベットを4線上に書くことができる技能		
■本単元の学習に関する意識の状況		
外国語の学習は楽しい。	概ね(6割~8割程度)	十分(8割以上)
外国語の授業で学習する内容は分かる。		
他者に配慮し、伝わるように工夫している。		
相手の話に反応を返しながら聞いている。		

#### ■考察

意識調査を見ると、外国語科の授業に楽しんで参加している児童がほとんどである。しかし、4年生までの外国語活動の授業に比べると、学習内容に対して難しさを感じている児童も5人いる。知っている英語を使い、伝えるための工夫をすることや相手の話に反応を返しながら聞くことに対しては、約半数の児童が苦手意識を感じている。

## 3 指導に当たっての留意点

○単元のゴールを「『私の○○(A)』発表会をしよう」と設定し、児童と共有することで、児童の意欲を喚起し、学習の見通しをもたせる。

○紹介したい人は、大切な人や尊敬する人等から児童が自分で決め、発表によってお互いの未知な部分を知り合う必然性をもたせることと、主体的な学習活動につながるようにする。

○学習活動では、ペアやグループ、全体など様々な学習形態を工夫したり、相手を褒めて複数回発表したりすることで、いろいろな友達への考えや工夫を知り、いろいろな視点からのアドバイスをもらえるようにする。

○中間評価を行い、良いやり取りを取り上げたり、困り感を共有し改善策を全体で考えさせたりすることで、後半の学習活動を充実させる。

○Small talk 等でA.L.T に友達や家族、故郷や行ったことのある国について話してもらうことで、他国の文化を理解し、興味をもてるようにする。

4 本時の学習

- (1) 目標  
友達のことについて、インタビュールした情報を基に、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入	5分	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 Small Talk を聞く。</p> <p><b>【めあて】「誰でしょうクイズ」で、友達のことやできないことについて紹介しよう。</b></p> <p>3 ボインディングゲームをする。</p> <p>4 デモンストレーションを見る。                      ◇ALTの先生が紹介した人は誰かなあ。                      ◇ジェスチャーを付けてくれたので、何ができるのかできないかが分かりやすかったなあ。                      ◇先生は、can や can't をはつきり言っているから分かりやすい。</p>	<p>○明るく挨拶をかわし、明るい雰囲気始める。</p> <p>○写真等を用いて話し、児童が推測しながら話の大体を捉えることができるようにする。</p>
展開	30分	<p>5 必要な表現について練習する。                      I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~.</p> <p>6 「誰でしょうクイズ」をする。                      ①4人グループでクイズを出し合う。                      ◇○○さんは、そんなことができるなんてすごいなあ。                      ◇○○さんは、□□が苦手だなんて初めて知ってたなあ。                      ②グループをかえてもう一度クイズを出し合う。                      ◇クラスの友達のことをいろいろと知ることができて楽しかったなあ。</p> <p><b>【期待される学びの姿】</b>                      何をどのように工夫して語せばしつかり伝わるか考え、聞き手の反応をうかがいながら、友達のことやできることやできないことを話している。</p>	<p>○デモンストレーションを見て、クイズに入る前にもう一度練習しておきたい表現はないか児童に尋ねながら必要な表現の練習を行う。</p> <p>○友達にしつかり伝えるためにはどんなことに気を付ければよいか確認する。</p> <p>○グループで教え合ったり相談したりしながら協力してクイズを進めることを確認する。</p> <p>○中間評価を行い、良いやり取りを取り上げたり、困り感を共有し改善策を全体で考えさせたりすることで、後半の学習活動を充実させる。</p>
終末	10分	<p>7 学習の振り返りをする。                      ◇これまで学習した表現を使ってクイズが出せたぞ。伝えた部分をはつきり言うこともできたから、友達もよく聞いて答えてくれた。                      ◇友達のことをいろいろと知ることができて楽しかった。またやりたいなあ。</p>	<p><b>【到達していない児童への手立て】</b>                      ○児童が出題したクイズをいくつか紹介しながら、できることやできないことを表す表現を確認させる。</p> <p>○本時の学習で気付いたことや分かっていたことなどについて振り返らせる。</p> <p>○本時の活動の様子から良かった点を紹介し、次時への意欲をもたせる。</p>

**【具体の評価規準】 観点**  
 【話すこと(発表)】  
 〈知識〉I/You/He/She can ~, Can you ~?, Who is ~?, This is ~, などについて理解している。  
 〈技能〉紹介したい人のできることなどについて、具体的な情報を話す技能を身に付けている。

【板書計画】

Unit 4 He can bake bread well.

September, 10<sup>th</sup>, Friday, sunny

【Today's Menu】

- 1 Greeting
- 2 Small Talk
- 3 Game
- 4 Activity
- 5 Reflection

Today' Goal 「誰でしょうクイズ」で、友達のことやできないことについて紹介しよう。

(ゲームに使うイラスト)

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「誰でしょうクイズ」の進め方

He / She can ~

【ICT活用計画】

電子黒板 (デジタル教科書, 写真等の提示)

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

本單元で働かせた見方・考え方を生かして, 自分のこと等についてのスピーチをする。

# 第4学年 体育科 学習構想案

日時 令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 〇年〇組教室

指導者 教諭 〇〇 〇〇

## 1 単元構想

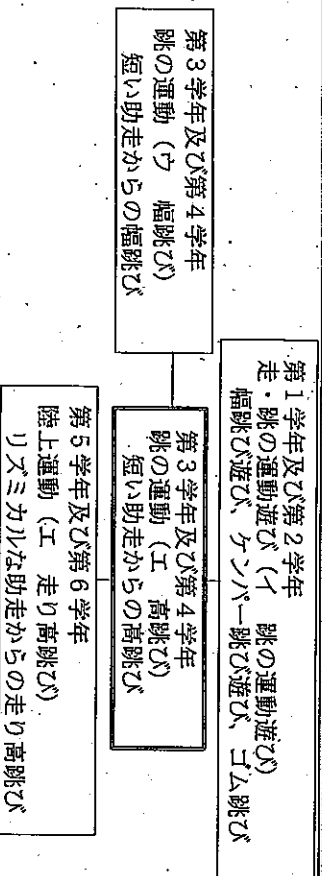
単元名	走って、踏み切って、ふわっとジャンプ(走・跳の運動「高跳び」)			
単元の目標	(1) 高跳びの行い方を知るとともに、短い助走から強く踏み切り、高く跳ぶことができるようになる。 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。			
単元の評価基準	知識・技能	① 高跳びの行い方を理解している。 ② 3～5歩程度の短い助走から踏み切り足を決めて上方に強く踏み切ることができる。 ③ 高く跳ぶために振り上げ足を高く振り上げることができる。 ④ 膝を柔らかく曲げて足から着地することができる。	① 自分の課題を見付け、その課題を解決するための活動を選んでいく。 ② 活動後に、運動の動きのポイントや友達の動きのよさを学習カードに記入したり、振り返りの時間に友達に伝えたりしている。	① ふわっと高く跳ぶ運動に進んで取り組もうとしている。 ② きまりを守り誰とでも仲よく動かし合おうとしている。 ③ 使用する用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④ 互いの動きを見合ったり動きのよさや課題を伝え合ったりしようとしている。 ⑤ 運動する場の安全を確かめようとしている。
	思考・判断・表現	① 自分の課題を見付け、その課題を解決するための活動を選んでいく。 ② 活動後に、運動の動きのポイントや友達の動きのよさを学習カードに記入したり、振り返りの時間に友達に伝えたりしている。		
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)				
短い助走で高く跳ぶ楽しさや喜びを感じ、進んで運動に取り組んだり、学んだことを、その他の運動に生かしたりする児童				
単元を通じた学習課題(単元の中の学習課題)	単元を通して学習課題(「問い」を設定しても可)	本単元で動かせる見方・考え方	評価の観点等 <small>*は記録に残す評価の場面で具体的な評価項目</small>	
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	評価の観点等	
1	1	○ オリエンテーション ・学習内容・チーム・安全・約束の確認 ・場の準備・片付けの確認 ・準備運動・スリッチオンタイム等を行う	★【 <b>態③</b> 】(観察) 自分の役割を理解し、友達と一緒に準備や片付けをしようとしている。	
2	3	○ 高跳びの行い方や動きのポイントを見付け運動を行う。 ・安全な着地の仕方を考え、その動きを行う。 ・短い助走から踏み切りまでの仕方を考え、その動きを行う。 ・踏み切った後の振り上げ脚の動きを考え、その動きを行う。(本時)	★【 <b>態⑤</b> 】(観察) 【 <b>知①④</b> 】(学習カード・観察) 【 <b>態②</b> 】(観察) ★【 <b>知①②</b> 】(学習カード・観察) ○ 助走から踏み切りの動きが分かり、1, 2, 3バウンドと踏み切り足を決めて力強く踏み切ることができる。 ★【 <b>知③</b> 】(観察・学習カード) ○ 踏み切った後の振り上げ足の動きが分かり、かかとお尻より高く上げて跳ぶことができる。 ★【 <b>思①</b> 】(学習カード) ○ 「助走」「踏み切り」「振り上げ足」「着地」の中から自分の課題を見付け、その課題を解決するための活動(場)を選んでいる。	
3	3	準備運動 スリッチオンタイム 場の準備	★【 <b>態④</b> 】(観察) ★【 <b>思②</b> 】(観察・学習カード) ○ 友達の動きで気付いたことを伝えたり学習カードに記入して発表したりしている。 ★【 <b>態①</b> 】(観察・学習カード) ○ 高跳び運動に進んで取り組もうとしている。	

## 2 単元における系統及び児童の実態

小学校学習指導要領第3学年及び第4学年 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう、人間性等】	学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)
運動の楽しさや喜びに触れ、高跳びの行い方を知るとともに、短い助走から強く踏み切り高く跳ぶこと。 自己の課題を見付け、動きを身に付けるための活動を選択すること。 友達の上い動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えること。 運動に楽しんで取り組む、きまりを守ったり、でも仲良く運動したり、友達のことを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。	教材 題材の価値

体を巧みに操作しながら調子よく跳ぶ心地よさや、仲間と競い合う楽しさを味わうことのできる運動である。

### 本単元における系統



### 児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況			
調査内容	概ね(6割～8割程度)	十分(8割以上)	
運動の行い方を工夫するとともに、考えを友達に伝えることができる。			
膝を柔らかく曲げて、足から着地することができる。			
助走を付けて片足ですっかり地面をけって上方に跳ぶことができる。			
友達のことを認めたり安全に気を付けたりすることができる。			
■本単元の学習に関する意識の状況			
調査内容	概ね(6割～8割程度)	十分(8割以上)	
運動の行い方を工夫するとともに、考えを友達に伝えることができる。			
自分に合った課題を見付けたり、課題解決のための活動を選んだりすることができる。			
友達のよい動きを見付けたり考えを伝えたりできていると思う。			
友達のよい動きを見付けたり考えを伝えたりできていると思う。			

#### ■考察

(資質・能力に関して) 幅跳びの学習経験から、短い助走や着地はできる児童が多いが、踏み切って高く跳ぶ経験は少ないので、楽しみながら経験を重ねたり、自分の伸びを実感できるような場・指導を工夫したりする必要はある。(学びに関して) 運動に意欲的に取り組み児童は多いが、友達の上い動きを見付け伝え合ったり、工夫して課題を解決したりすることについては今一歩である。課題解決場面の設定や対話が活性化するような手立てを行う必要がある。

### 3 指導に当たつての留意点

- 単元前半では、助走、踏み切り、振り上げ足、着地の4つの動きに絞ってこつやポイントを見付け、動きにつながるようにする。また、単元後半では、課題解決ができるような4つの場(「助走」「踏み切り」「振り上げ足」「着地」)を準備し、自分の課題に応じて場を選び活動できるようにする。
- 「わかる・できる」につながるために、あらかじめ動きの視点を与えたり、動きのこつやポイントを発見ボードに掲示したりするなどして、児童がめあてを考えることができるようにしていく。
- 主運動に意欲的に取り組むことができるよう、学習の始めは、誰にでもでき、動きにつながるような易しい運動を行う「スイングオンプライム」を位置付ける。
- 学習の終末では、これまでの学び生かし高跳びを楽しむことができるように、簡単なルールを決めて高跳びゲーム(ふわつとゲーム)をする。初めの高跳びの記録をもとに得点化をすることで、自分の伸びを実感できるようにする。
- 学習の前半には、一斉の指導場面を設定し、お互いの動きのよさを見合うことで、技能ポイントを共有化し、動きをしつかり獲得できるようにする。その際、児童が気付いたことや発見したことをもとに、イメーჯしやすい言葉にするとともに、発見ボードに掲示することで、児童同士の積極的な声かけやアドバイスを生かしていく。
- 授業の終わりに、できるようなこと、わかったこと、発見したこと、友達の前振りやよさなどを学習カードへ記入し伝え合う「きらきらタイム」を設定する。
- 運動経験の不足や苦手意識により、運動自体に不安を抱え積極的に運動に取り組めない児童や、用具に当たるのが怖いと感じている児童が数名いる。単元初めに安全面の指導を行うとともに、児童が安全に楽しく運動できるように、場や教具の工夫をしたり、個別の支援・声かけ、友達との関わり合いの活性化を行ったりする。

4 本時の学習

(1) 目標

本時の目標：踏み切った後、振り上げ足を高く上げて跳ぶと高く跳ぶることが分かり、その動きができる。

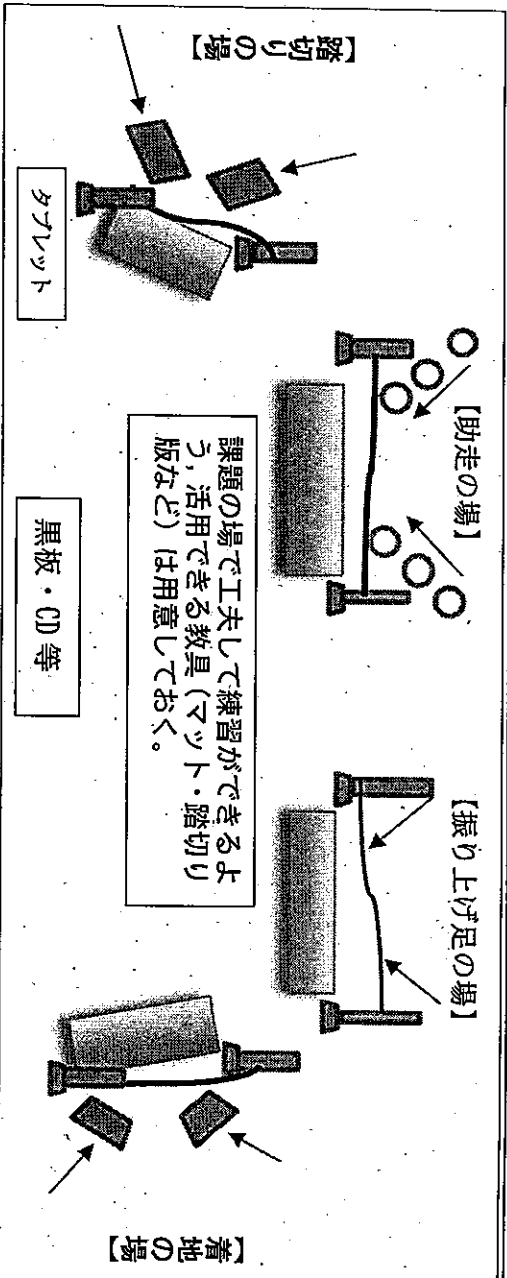
(知識・技能)

(2) 展開

過程 時間	学習活動 (予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的、意図、内容、方法等)
導入 7分	<p>1 課題をつかむ</p> <p>①約束を確認し、場づくりをする。 ◇友達と協力して場づくりをしよう。 ②準備運動・スィッチオンタイムをする。</p> <p>【めあて】3歩助走から踏み切って、ふわっと高く跳ぶことができるようになる。</p> <p>③もっとふわっと高く跳ぶことができるための間いをもつ。</p> <p>【学習課題】 どんなこつを使って運動すると、もっとふわっと高く跳ぶことができるだろうか。</p> <p>◇今日も、もっと高く跳ぶための新しいこつを見付けろ。</p> <p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①これまで見付けたこつや、新しいこつを考えながら班でふわっと高くとぶための練習をする。</p> <p>◇今まで学んだこつを使って練習をしよう。 ②友達の動きのよさや、高く跳ぶための新しいこつを見付け伝え合ったりする。 ◇○○さんは、踏み切った足を高く上げていく。 ◇かかとをお尻より高くあげると、ゴムより高く跳べる。 ③新しく見付けたこつを使って運動したり、友達にアドバイスをしたりする。 ◇「かかとあげ」のこつを使って運動しよう。 【期待される学びの姿】 かかとがお尻より高く上がっているか 友達と伝え合いながら運動している。</p>	<p>○全員で分担し、協力して素早く行えるようにするとともに、場の安全を確認する。 ○スィッチオンタイムでは、誰でもできる簡単な主運動につながる運動を行うとともに、児童の緊張をほぐし楽しい雰囲気になるように努める。</p> <p>○めあてを確認させ本時の学習への意識化を図る。</p> <p>○これまで見付けたこつを振り返り、もっと高く跳ぶためのこつはないか問う。 ○これまで見付けたこつ以外に高く跳ぶためのひみつはないか考えたり友達の動きから見付けたりすることを確認する。</p> <p>○高く跳ぶためのこつを伝えたり、新しいこつを考えたりしながら練習をすることを確認する。</p> <p>○活動の途中で、よい動きをしている児童を紹介し、一斉の直接的指導(ポイント指導)を行う。その際、どの動きを見るとよいか、視点を与えるようにする。 ○技能のポイントは、児童の気付きをもとに引き出し、イメーシしやすい言葉にすることで、動きにつながるようにする。 ○具体的な子どもの姿で見取りを行い、その達成状況に応じて積極的に指導を行う。</p> <p>【具体的評価規準】観点③ ○踏み切った後の振り上げ足の動きがわかり、かかとを、お尻より高く上げて跳ぶことができる。 (方法；観察、学習カード)</p>
展開 30分	<p>④初めの記録をもとに「ふわっとゲーム」をする。(一人3回測定) ◇今日の目標は○○だ。練習した成果がでるといいな。</p>	<p>【到達していない児童への手立て】 ○動きのポイントを具体的に伝えながら動きが身に付くようにする。 ○ルールや役割分担を確認し、協力しながら行うことができるよう指導する。 ○記録を得点化し、それぞれの児童が活躍の機会を与えられるようにする。</p>
終 未 8分	<p>3 めあてに対する振り返りをする。</p> <p>①「きらきらタイム」で本時の振り返りをする。 ◇○○さんが、かかとをお尻より高く上げるこつを使ったら、跳べなかつた高さが跳べるようになったってすごいと思った。</p> <p>【まどめ】振り上げ足のかかとを、お尻より高く上げて跳ぶと、これまでよりも高く跳ぶことができることがわかった。</p> <p>②整理運動、場の片付けをする。 ◇チームで協力して片付けよう。</p>	<p>○学習カードをもとに振り返りをする。 ○互いのよかったこと、頑張ったことなどを認め合う場を設定するとともに、児童の気付きや伸びについて、教師も賞賛する等し、次時の意欲を高める。</p> <p>○協力して安全に行われているか観察し、必要に応じて指導する。</p>



【単元後半の場 (課題選択) の (例)】 ○ (ケンステツパ) ■ (踏切版) ▨ (跳び箱) ~ (ゴム)



【板書計画 (例)】

【めあて】 【単元計画表】

【課題】  
見つけたことを使ってみよう  
ゴムにひっかかってしまう

【まとめ】  
踏切った後、振り上げ足をおしりより高く上げると高く跳ぶことができた。

【発見ボード】

【ゲームの進め方】

【ルール】

【ICT活用計画】

例 教師による教材提示の計画、ICTを活用した授業、まとめ等による考えの共有の計画等

例1 【単元前半での活用】

振り上げ足がどこまで上がっているか見てみよう

写真や動画を提示する

児童を集め、動きのこつやポイントを共有化する場合に、事前に撮っておいた写真や動画を見せて、一人一人に考えさせる。

例2 【単元後半での活用】

児童が自分の課題を「助走」「踏切り」「振り上げ足」「着地」の中から選ぶために、練習の時の動きをタブレットで撮影し、おっかけ再生で自分の動きをペアの友達と確認し、自分の課題を見付ける。

例3 【単元後半での活用】

「助走」「踏切り」「振り上げ足」「着地」のそれぞれの課題の場にタブレットを置き、自分の動きをタブレットで撮影し、おっかけ再生でペアの友達と確認する。お互いにアドバイスをし合い、動きが身に付くようにする。

【見方・考え方を働かせて終末や次々以降の学習に生かす計画】

例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組み

例1：学んだことを生かしたり、自分たちでルールを工夫したりしながら、日常的にゴム跳び遊び等をして楽しむ。

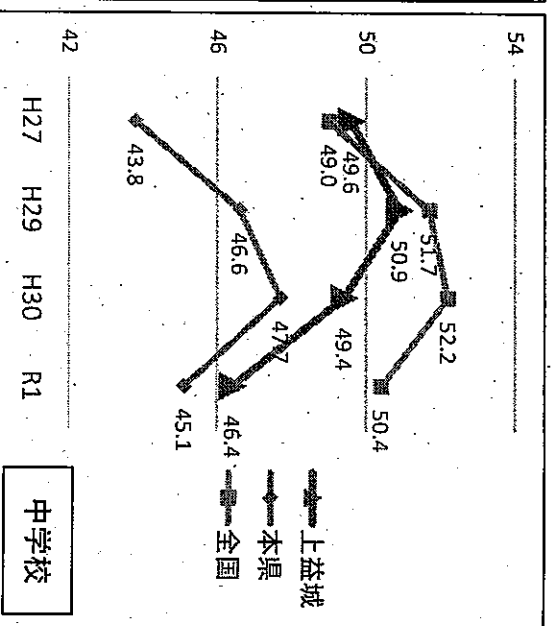
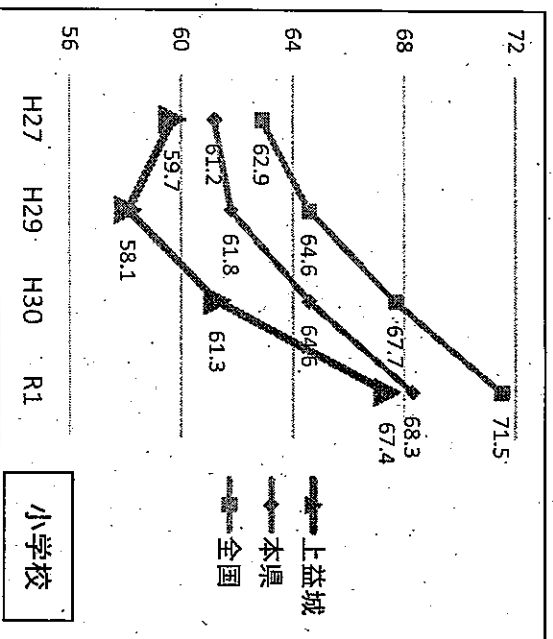
例2：他の領域での学習で、見付けたこつやポイントを使ってアドバイスをしたり、友達の動きのよさや変化に気付いたことを伝えたりする。

## 【熊本の学び】の推進に向けて【学習習慣形成の取組】

これまでの全国学力・学習状況調査や熊本県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果から、本県及び上益城管内の課題として、「家で自分で計画を立てて勉強すること」や読書習慣があげられます。熊本の学びの理念である「能動的に学び続ける力」の育成に不可欠なものです。そのためには、まず、学校で共通理解を図り、家庭と連携して学習習慣の素地となる環境を整えていくことが大切です。

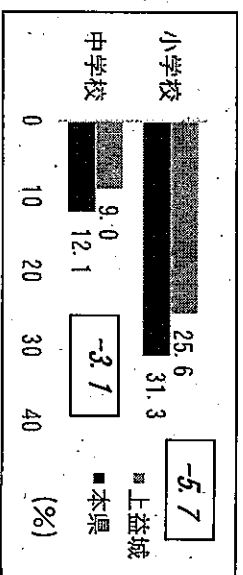
### (1) 上益城管内の学習習慣形成の現状

家で自分で計画を立てて勉強していますか。 「当てはまる+どちらかと言えば、当てはまる」

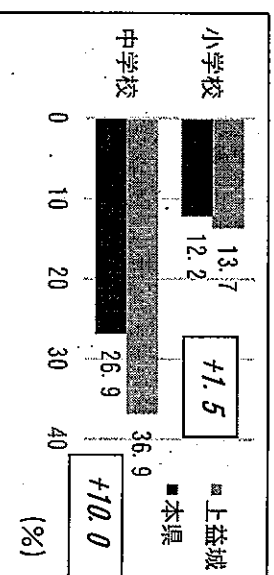


全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果 (H27年度～R元年度) より

1か月(1週間)に何冊くらい本を読みますか。  
(マンガや雑誌は除きます)  
※小学3、4年生は1週間  
「20冊以上(10冊より多い)+10冊以上  
(10冊くらい)」



1か月(1週間)に何冊くらい本を読みますか。  
(マンガや雑誌は除きます)  
※小学3、4年生は1週間  
「まったく読まない」



令和元年度熊本県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果より

(2) 木山中学校区の取組

「児童生徒が落ち着いた環境の中で学習に取り組み、」そのために、小学校から中学校の9年間を系統的・段階的に位置付け、学習環境の整備、日常生活や学習規律、家庭学習の手立ての研究がなされました。

木山中学校区の木山中学校、津森小学校、益城中央小学校の3校（以下、「3校」）では、家庭学習の手立てについて、右の2点を共通実践事項として取組が進められました。

- 【3校共通実践事項】**
- ①家庭学習の充実
  - ②読書活動・ノーマディアの推進

1点目の家庭学習の充実では、自学ノートの作成について、工夫がなされています。小学校中高学年においては、授業のまとめや振り返りを家庭学習につなげることで、中学校では、小学校高学年の取組に加え、予習につなげることで意識されています。

**【授業との関連した自学ノートの作成】**

その日の授業で習った、社会科食料生産に関わる内容との関連が図られています。



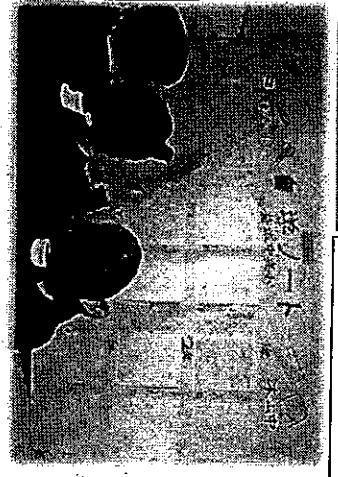
津森小学校  
5年児童の  
ノート

中学生の  
ノートでは

ホームワークボードを活用し、授業の予習・復習に適した内容を、生徒の家庭学習の選択肢として示します。それを基に自学ノートの作成にあたります。

**【3校で自学ノートの交流】**

工夫された自学ノートは、3校で掲示されました。互いに見合い、書き方やまとめ方の工夫の共有がなされました。



2点目の読書活動・ノーマディアデーの取組です。益城町では、幼・保等、小、中連携推進の取組の1つとして、ノーマディアデーが進められてきました。木山中校区の3校では、0のつく日を重点日として、各家庭でノーマディアに取り組みとともに、読書活動の推進が図られています。

**【読書活動・ノーマディアデーの推進】**

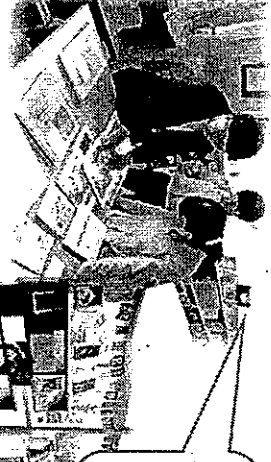


津森小学校  
毎日15分間「あさどく」の時間が設定されています。  
00のつく日は、カードを活用しメディア視聴時間、読書時間、家庭学習時間を記録します。



益城中央小学校  
図書委員会を中心に、様々なジャンルの本を読み、スタンプをためるという読書スタンプラリーを実施しています。

学年	月	読書時間	読書量	読書感想文	読書感想文	読書感想文	読書感想文	読書感想文	読書感想文
1年	1	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	2	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	3	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	4	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	5	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	6	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	7	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	8	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	9	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	10	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	11	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	12	15分	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊	1冊
1年	合計	180分	18冊	18冊	18冊	18冊	18冊	18冊	18冊



木山中学校  
肥後っ子いきいき読書アドバイザ事業を活用し、親子みやすい図書室設営が図られています。

### (3) 蘇陽中学校区の取組

蘇陽中学校区では、保護者と連携を深めながら、9年間を見据えた学習習慣づくりに努めておられます。主に、「学習環境の整備」「山都町学習ルールの徹底」「リーダービデーの実施」「家庭学習についての共通理解(手引き)」の4つの視点から取組がなされています。

#### 【家庭学習がんばりカード】

家庭学習がんばりカード

山都町立蘇陽中学校

学年: 4年 学期: 1学期

氏名: 〇〇〇 〇〇〇

家庭学習の理想プラン

曜日	10時	11時	12時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時
学	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
宿	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
読	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
算	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
英	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
理	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
社	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
道	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
体	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
美	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
音	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
活	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由

保護者からの欄

〇、できなかつたら×をつける  
・学年のめあての時間以上できたら◎をつける

#### 【家庭学習の手引き】

山都町立蘇陽中学校小・中学校

家庭学習のてびき【概要版】

家庭学習で力をつける！

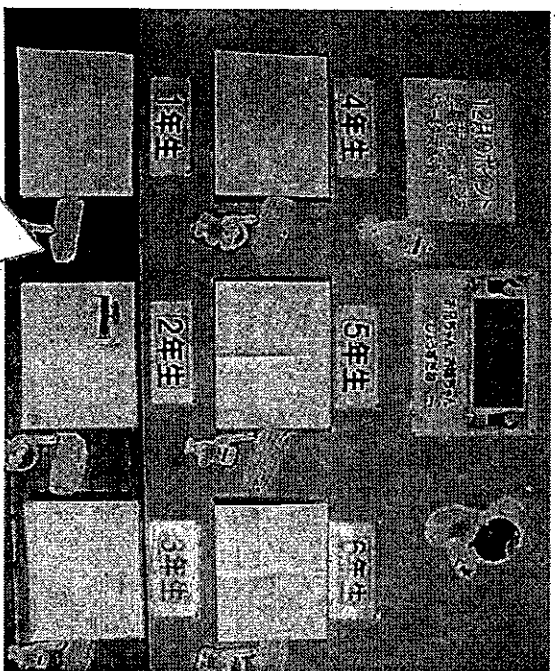
【力をつける家庭学習のきまり】

1. 学習の目標・計画を立てる。
2. 学習の進捗を確認し、必要に応じて調整を行う。
3. 学習の成果を振り返り、反省する。
4. 学習の成果を保護者に報告する。

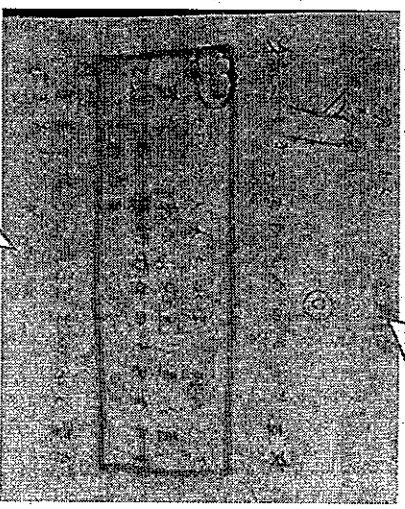
保護者からの欄

教室に掲示  
・家庭学習がんばりカードにも貼り付け

#### 【自主学習ノートのコーナー】



・月ごとに、自主学習の仕方のポイントを設定  
・ポイントをしっかり押さえて学習している児童のノートを掲示



自分で観察し調べたことをまとめている  
本日の学習のめあて、考察の結論、感想まで記載している

# 令和3年度(2021年度)教育諸計画等の作成に関するチェックリスト

※ 下線・太字：新規または付加

関係項目	チェック項目	チェック
1 教育課程全般	学習指導要領の趣旨に即した教育課程の編成	
	育成を目指す資質・能力の明確化と5者共有 (R1みどりかわ参照)	
	カリキュラム・マネジメントに基づく教科等横断的な教育課程編成の実施	
	各教科等の年間指導計画の作成 (中学校)	
	効果的な学力向上検証改善サイクルの確立	
(参照)* 熊本の学び 推進プラン冊子	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた「学びの保障」について (参照) 文科省令和2年7月17日通知「学習活動の重点化に係る留意事項について(第2報)」 (参照) 文科省令和2年8月13日通知「令和2年度から令和4年度までの間における学習指導要領の特例を定める告示について」	
2 校内研究・研修	研修方法の更なる工夫改善	
	県及び全国学力・学習状況調査の結果等の活用	
	県及び全国学力・学習状況調査の過去問題等の活用	
3 道徳教育	主題配列一覧の作成 (「『熊本の心』3つ程度」「地震関連教材」2つ)の位置付け	
	全体計画別業の作成・見直し	
	道徳科の時間の研究授業の実施	
	「熊本の心」を活用した道徳科の時間の全学級の授業公開 「『命を大切に作る心』を育む指導プログラム」の見直し	
4 総合的な学習の時間	全体計画及び年間指導計画の再整備 (R1みどりかわ参照)	
	探究課題とその解決をおして育成を目指す資質・能力の設定 (R1みどりかわ参照)	
	移行期間終了前の評価規準の作成 (R1みどりかわ参照)	
(参照)* 推進プラン冊子		
5 特別活動	小学校：全ての学年で学級活動(1)～(3)の内容の実施	
	中学校：全ての学年で学級活動(1)～(3)の内容の実施 話し合い活動の充実	
6 人権教育	「第三次とりまとめ」及び「人権教育推進資料」の活用	
	「重点的な取組に関する点検・評価項目」を参考にした学校評価項目への位置付け、見直し	
	「差別事象発生に関する対応マニュアル」の見直し	
	人権教育を通じて育てたい資質・能力の3つの側面(知識的・価値的・技能的側面)からの位置付け	
7 特別支援教育	児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成	
	個別の教育支援計画の作成 ※「合理的配慮」の記載	
	個別の指導計画・自立活動目標設定シートの作成	
	幼・保等、小、中、高の引継ぎ(個別の支援計画、指導計画等)	
8 生徒指導	「子どもの居場所づくり推進テーブル」に示された4つの視点からの取組の明記	
	学校いじめ防止基本方針の見直しと学校評価項目への位置付け	
	心のアンケート・学校独自アンケート実施後の全児童生徒への教育相談の実施	
	不登校に関する「個別指導記録(不登校支援シート等)」の活用・引継ぎ	

関係項目	チェック項目	チェック
9 環境教育	学校版環境ISO(実態に応じた数値目標の設定と継続的な記録、目標達成に向けた取組の見直し。)	
	水俣病資料館と連携した「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の取組(連絡票の活用と「目指す具体的な子どもの姿」の実現に向けた取組、事前・事後指導の計画的な取組。)(小学校)	
10 就学前教育	園と連携したスタートカリキュラムの見直しと活用(小学校)	
	各町版連携カリキュラムに基づく具体策の実施	
11 キャリア教育	「基礎的・汎用的能力」を踏まえた全体・年間指導計画の見直し	
	(参照)* 推進プラン冊子 「キャリア・パスポート」の例示資料集を参考に作成・実施	
12 国際理解教育	外国語(活動)等に関する校内研修の実施(小学校)	
	「KUMAMOTO English Standard」の活用(中学校)	
13 情報教育	ICT環境整備とICTを活用した学習活動の位置付け	
	情報モラル教育の位置付け	
	プログラミング教育の位置付け	
14 学校図書館	読書活動の時間確保	
	推薦図書・必読書リストの作成	
	学校図書館図書標準達成に向けた計画的な図書整備	
15 食育	食に関する指導の全体計画①②の作成及び見直し (参照:「食に関する指導の手引き」(H31文科省)等)	
16 健康教育 (1) 学校保健	アレルギー疾患への緊急時の組織的対応と研修(実践的な研修等)の年間計画への位置付け(年1回以上)	
	学校保健委員会の年間計画への位置付け(年2回以上)と活性化(課題解決のための協議)	
	フッ化物洗口の年間計画への位置付けと実施計画の見直し	
	(2) 学校体育 体力向上へ向けての学校総体としての取組の明確化(数値目標の設定等)	
(3) 学校給食 衛生管理体制の徹底と充実		
(4) 学校安全	危険等発生時対処要領(学校防災マニュアル)の見直し	
	学校防災年間計画の作成及び見直し	
	学校安全計画の見直し(新たな危機事象への対応を含む)	
17 性に関する指導	指導内容の見直し(教科等への位置付けを含む)	
18 部活動	方針等に基づく適正で魅力ある部活動の計画(中学校)	

